

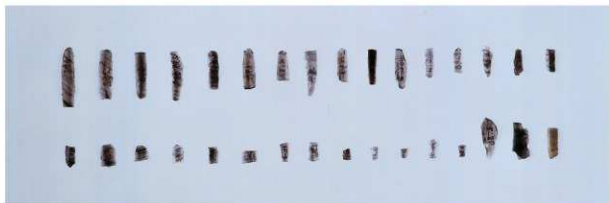
千歳市

祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡

一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査

平成18年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



祝梅川上田遺跡 ブロック2出土の石器群（上段：細石刃、下段：両面調整石器ほか）（縮尺任意）



祝梅川上田遺跡 Ⅲ層出土の鉄製品類

例 言

1. 本書は北海道開発局札幌開発建設部が行う一般国道337号新千歳空港関連工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成18年度に実施した千歳市祝梅川上田遺跡と梅川2遺跡の1冊目の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査は第1調査部第4調査課が担当した。
3. 本書の執筆、編集は、皆川洋一と山田和史が分担した。
4. 遺物の整理は皆川洋一と山田和史が担当した。
5. 写真撮影は菊池慈人が担当した。
6. 鉄製品の保存処理は第1調査部第1調査課田口尚が担当した。
7. 石器の石材鑑定は第1調査部第1調査課花岡正光の指導で山田和史が行った。
8. 遺物・記録類は報告書作成後、北海道立埋蔵文化財センターが保管する。
9. 調査にあたっては下記の諸機関、各氏からご指導、協力をいただいた（順不同、敬称略）。

北海道教育委員会 千歳市教育委員会 恵庭市教育委員会

渡辺重建工業株式会社 株式会社トラスト技研

北海道教育委員会 長沼孝、田中哲郎、藤原秀樹

千歳市教育委員会 田村俊之、豊田宏良、松田淳子

厚真町教育委員会 乾 哲也、奈良智法、小野哲也

釧路市教育委員会 石川 朗

旭川市教育委員会 瀬川拓郎

札幌大学 木村英明

今金町教育委員会 寺崎康史

帯広市教育委員会 山原敏朗

北海道大学大学院 赤井文人

記号等の説明

記号等の説明

1. 文及び図表中では、次の略号を使用した。
U：Ⅲ層の遺構 L：V・VI層の遺構 P：土壌 TP：T ビット A：灰集中 R：道路跡
S：集石 H：建物跡 SP：柱穴 F：焼土 FC：フレイク・チップ集中
2. 実測図の縮尺は、原則として次の通りであり、すべてにスケールを付けている。
遺構 1：40 復元土器 1：3 土器拓本（拓影図） 1：2 金属製品 1：2
剥片 1：2 磨製 1：2 礫石器 1：3
3. 遺構図中の方位は真北を、レベルは標高（単位 m）を示す。
4. 遺構の規模については、次の要領で示した。尚、一部破壊されているために推定の困難なものなどは、現存長を（ ）で示した。
「確認面での長軸×短軸／床面（壙底面）での長軸×短軸／確認面からの最大深・最大厚 m」
5. 土層の標記で基本土層はローマ数字、遺構の覆土についてはアラビア数字で表した。
6. 土層の記述には下記の記号、略称を用いた場合がある。
樽前 a 降下軽石堆積物：T-a 白頭山一苦小牧火山灰：B-Tm
樽前 c 降下火砕堆積物：T-a-c 樽前 d 降下火砕堆積物：T-a-d
恵庭 a 降下軽石堆積物：En-a
恵庭 a 降下軽石堆積物起源のローム層：En-L
恵庭 a 降下軽石堆積物のうち未風化の軽石礫：En-P
7. 土層説明には『新版標準土色1997年版』を引用した。
8. 土層説明には以下の記号を使用した部分がある。
A+B：A と B が等量混じる。 A>B：主体の A に少量の B が混入する。
A>>B：主体の A に微量の B が混入する。
9. 石器・石製品等の大きさは「最大長×最大幅×最大厚cm／重さg」の順で記してある。
破損しているものについてはその数値を（ ）で囲ってある。
石器は原則として機能部にこだわらず長軸を長さ、短軸を幅、厚さは最大値を採用した。

目次

例言

記号などの説明

目次

表目次

図版目次

写真目次

I 調査の概要	1
1 調査要綱	1
2 調査体制	1
3 調査の経緯	1
4 調査区の設定	1
5 調査の概要	3
6 基本土層	4
7 調査と整理の方法	7
8 遺物の分類	7
II 祝梅川上田遺跡	11
1 III層調査	13
a 道路跡	13
b 建物跡	17
c 柱穴	40
d 土壌	52
e 集石	52
f 灰集中	55
g 焼土	59
2 V・VI層調査	63
a 土壌	65
b 焼土	65
3 遺物	68
a 鉄製品	68
b 土器	73
c 石器	79
d 石製品	87
e 遺物分布	88
4 旧石器時代の遺跡 (VII層調査)	95
a 調査概要	95
b ブロック1の調査	102
c ブロック2の調査	104
d ブロック外出土の石器	114

e ブロック1、2の石器群について	114
5 資料一覧	123
III 梅川2遺跡	149
1 III層調査	151
a 建物跡	151
b 柱穴	153
c 焼土	155
d 集石	155
2 V・VI層調査	156
a 道路跡	156
b 土壌	156
c Tピット	161
d フレイク・チップ集中	161
e 焼土	161
3 遺物	171
a 土器	171
b 石器	175
c 遺物分布	185
4 資料一覧	189
IV 分析	197
1 放射性炭素年代測定	197
2 祝梅川上田・梅川2遺跡出土炭化材の樹種同定	209
3 祝梅川上田遺跡の「VI層」上部に産出する礫について	219

写真図版

報告書抄録

目 次

図Ⅰ-1	遺跡の位置	2
図Ⅰ-2	調査範囲と周辺の地形	5
図Ⅰ-3	調査区の設定と基本土層模式図	6

(祝梅川上田遺跡)

図Ⅱ-1	Ⅲ層遺構配置図(地形はⅣ層上面)	11
図Ⅱ-2	UR-1	14
図Ⅱ-3	UH-1	15
図Ⅱ-4	UH-1・HSP・HA-1	18
図Ⅱ-5	UH-2	19
図Ⅱ-6	UH-2の柱穴	21
図Ⅱ-7	UH-3	22
図Ⅱ-8	UH-3遺物	23
図Ⅱ-9	UH-4・5	25
図Ⅱ-10	UH-4・5の柱穴	27
図Ⅱ-11	UH-4・5の遺物	28
図Ⅱ-12	UH-6	30
図Ⅱ-13	UH-7	31
図Ⅱ-14	UH-7の柱穴と土塚、UH-8	34
図Ⅱ-15	UH-9、UH-10の柱穴と炉	36
図Ⅱ-16	UH-10	37
図Ⅱ-17	UH-11	38
図Ⅱ-18	UH-12	39
図Ⅱ-19	USP(1)	41
図Ⅱ-20	USP(2)	42
図Ⅱ-21	USP(3)	43
図Ⅱ-22	USP(4)	44
図Ⅱ-23	USP(5)	45
図Ⅱ-24	USP(6)	46
図Ⅱ-25	USP(7)	47
図Ⅱ-26	USP(8)	48
図Ⅱ-27	USP(9)	49
図Ⅱ-28	USP(10)	50
図Ⅱ-29	USP(11)	51
図Ⅱ-30	UP・US(1)	53
図Ⅱ-31	US(2)・UA	54
図Ⅱ-32	USの遺物(1)	55
図Ⅱ-33	USの遺物(2)	56
図Ⅱ-34	USの遺物(3)	57
図Ⅱ-35	焼土(1)	60
図Ⅱ-36	焼土(2)	61
図Ⅱ-37	V~Ⅵ層遺構配置図 (地形はV層上面)	63
図Ⅱ-38	土塚・焼土(1)	66
図Ⅱ-39	焼土(2)	69
図Ⅱ-40	鉄製品分布図	68
図Ⅱ-41	鉄製品(1)	69
図Ⅱ-42	鉄製品(2)	70
図Ⅱ-43	鉄製品(3)	71
図Ⅱ-44	鉄製品(4)	72
図Ⅱ-45	土器(1)	74
図Ⅱ-46	土器(2)	75
図Ⅱ-47	土器(3)	76
図Ⅱ-48	土器(4)	77
図Ⅱ-49	土器(5)	78
図Ⅱ-50	Ⅲ層遺構の石器	81
図Ⅱ-51	Ⅲ層の石器	82
図Ⅱ-52	V・Ⅵ層の石器(1)	83
図Ⅱ-53	V・Ⅵ層の石器(2)	84
図Ⅱ-54	V・Ⅵ層の石器(3)	85
図Ⅱ-55	遺物分布図(1)	88

図Ⅱ-56	遺物分布図(2)	89
図Ⅱ-57	遺物分布図(3)	90
図Ⅱ-58	遺物分布図(4)	91
図Ⅱ-59	遺物分布図(5)	92
図Ⅱ-60	遺物分布図(6)	93
図Ⅱ-61	遺物分布図(7)	94
図Ⅱ-62	ブロック位置図	95
図Ⅱ-63	ブロック1の調査範囲と土層	99
図Ⅱ-64	ブロック1の掲載石器(1)	100
図Ⅱ-65	ブロック1の掲載石器(2)	101
図Ⅱ-66	ブロック1遺物分布図(1)	102
図Ⅱ-67	ブロック1遺物分布図(2)	103
図Ⅱ-68	ブロック2調査範囲	104
図Ⅱ-69	ブロック2の掲載石器(1)	106
図Ⅱ-70	ブロック2の掲載石器(2)	107
図Ⅱ-71	ブロック2の掲載石器(3)	108
図Ⅱ-72	ブロック2の掲載石器(4)	111
図Ⅱ-73	ブロック2の掲載石器(5)	112
図Ⅱ-74	ブロック2の掲載石器(6)	113
図Ⅱ-75	ブロック2遺物分布図(1)	117
図Ⅱ-76	ブロック2遺物分布図(2)	118
図Ⅱ-77	ブロック2遺物分布図(3)	119
図Ⅱ-78	ブロック2遺物分布図(4)	120
図Ⅱ-79	ブロック2遺物分布図(5)	121
図Ⅱ-80	ブロック2遺物分布図(6)と ブロック外出土の石器	122

(梅川2遺跡)

図Ⅲ-1	遺構配置図(地形はV層上面)	149
図Ⅲ-2	UH-1	151
図Ⅲ-3	UH-2	152
図Ⅲ-4	USP・US・UF	154
図Ⅲ-5	US-1	155
図Ⅲ-6	LR-1	157
図Ⅲ-7	LP	159
図Ⅲ-8	TP	160
図Ⅲ-9	LFC(1)	162
図Ⅲ-10	LFC(2)	163
図Ⅲ-11	焼土(1)	164
図Ⅲ-12	焼土(2)	165
図Ⅲ-13	焼土(3)	166
図Ⅲ-14	焼土(4)	167
図Ⅲ-15	焼土(5)	168
図Ⅲ-16	焼土(6)	169
図Ⅲ-17	焼土(7)	170
図Ⅲ-18	土器(1)	171
図Ⅲ-19	土器(2)	172
図Ⅲ-20	土器(3)	173
図Ⅲ-21	土器(4)	174
図Ⅲ-22	土器(1)	177
図Ⅲ-23	土器(2)	178
図Ⅲ-24	土器(3)	179
図Ⅲ-25	土器(4)	180
図Ⅲ-26	遺物分布図(1)	182
図Ⅲ-27	遺物分布図(2)	183
図Ⅲ-28	遺物分布図(3)	184
図Ⅲ-29	遺物分布図(4)	185
図Ⅲ-30	遺物分布図(5)	186
図Ⅲ-31	遺物分布図(6)	187
図Ⅲ-32	遺物分布図(7)	188

表 目 次

表 I-1	祝梅川上田遺跡出土遺物一覧	9
表 I-2	梅川 2 遺跡出土遺物一覧	10

(祝梅川上田)

表 II-1	Ⅲ層の建物跡一覧	123
表 II-2	Ⅲ層の建物跡柱穴一覧	123
表 II-3	Ⅲ層の柱穴一覧	124
表 II-4	Ⅲ層の土壌一覧	132
表 II-5	Ⅲ層の集石一覧	132
表 II-6	Ⅲ層の灰集中一覧	132
表 II-7	Ⅲ層の焼土一覧	132
表 II-8	V・VI層の土壌一覧	133
表 II-9	V・VI層の焼土一覧	133
表 II-10	写真掲載遺物一覧	134
表 II-11	金属製品掲載一覧	137
表 II-12	掲載土器一覧	138
表 II-13	Ⅲ層遺構出土石器掲載一覧	139
表 II-14	V層遺構出土石器掲載一覧	139
表 II-15	Ⅲ層包含層出土石器掲載一覧	139
表 II-16	V・VI層包含層出土石器掲載一覧	140
表 II-17	ブロック別出土遺物集計	141
表 II-18	ブロック別石器石材集計	141
表 II-19	ブロック 1 掲載石器一覧	142
表 II-20	ブロック 1 接合資料一覧	143
表 II-21	ブロック 2 掲載石器一覧	143
表 II-22	ブロック 2 接合資料一覧	145
表 II-23	ブロック外掲載石器一覧	147

(梅川 2)

表 III-1	Ⅲ層の建物跡一覧	189
表 III-2	UH の柱穴一覧	189
表 III-3	Ⅲ層の建物跡の柱穴一覧	189
表 III-4	Ⅲ層の集石一覧	189
表 III-5	Ⅲ層の焼土一覧	189
表 III-6	V・VI層の土壌一覧	189
表 III-7	V・VI層の T ビット一覧	189
表 III-8	V・VI層のフレイク・チップ一覧	190
表 III-9	V・VI層の焼土一覧	190
表 III-10	写真掲載遺物一覧	192
表 III-11	掲載土器一覧	192
表 III-12	Ⅲ層遺構出土石器掲載一覧	193
表 III-13	V層遺構出土石器掲載一覧	193
表 III-14	Ⅲ層包含層出土石器掲載一覧	193
表 III-15	V・VI層包含層出土石器掲載一覧	194

(IV 分析)

表 IV-1	測定試料及び処理	199
表 IV-2	放射性炭素年代測定及び暦年校正の結果	200
表 IV-3	祝梅川上田・梅川 2 遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧	212

図版目次

(祝梅川上田)	
図版Ⅱ-1	調査状況 1 作業風景 S→ 2 基本土層 (G-74) E→
図版Ⅱ-2	Ⅲ層の調査 (1) 1 Ⅲ層上面 遺構確認状況 (N・O-59)
図版Ⅱ-3	2 UR-1 S→ Ⅲ層の調査 (2) 1 UH-1 E→ 2 UH-1 HA-1 セクション S→
図版Ⅱ-4	Ⅲ層の調査 (3) 1 UH-1 HSP-35 セクション E→ 2 UH-2 HF-1・2 セクション S→ 3 UH-2 柱穴群検出状況 SE→ 4 UA-1 検出状況 SW→ 5 UA-1 セクション S→
図版Ⅱ-5	Ⅲ層の調査 (4) 1 UH-3 検出状況 SE→ 2 UH-3 集石 S→
図版Ⅱ-6	Ⅲ層の調査 (5) 1 UH-5 遺物出土状況 SE→ 2 UH-4 HF-1 検出状況 SW→
図版Ⅱ-7	Ⅲ層の調査 (6) 1 UH-6 完掘 E→ 2 UH-7 全景 N→
図版Ⅱ-8	Ⅲ層の調査 (7) 1 UH-9 完掘 E→ 2 UH-10 全景 E→
図版Ⅱ-9	Ⅲ層の調査 (8) 1 UH-11 HSP-8 セクション (T-77) N→ 2 UH-10 HF-1・2 セクション NE→ 3 UH-11 完掘 E→ 4 USP-3 E→ 5 USP-407 完掘 E→
図版Ⅱ-10	Ⅲ層の調査 (9) 1 UP-1 完掘 W→ 2 UP-3 完掘 S→ 3 UA-3 検出状況 S→ 4 UA-3 セクション S→ 5 UA-2 検出状況 SW→ 6 UF-3 検出状況 SW→
図版Ⅱ-11	Ⅲ層の調査 (10) 1 UF-5 検出状況 SE→ 2 UF-6 検出状況 SW→ 3 UF-12 検出状況 SW→ 4 US-2 検出状況 SW→ 5 UF-2 検出状況 SW→ 6 Ⅲ層 刀子出土状況 (T-77) S→ 7 Ⅲ層 刀子出土状況 W→ 8 Ⅲ層 刀子出土状況 (N-59) SE→
図版Ⅱ-12	Ⅲ層の調査 (11) 1 US-1 遺物出土状況 (S・T-70) W→ 2 Ⅲ層 鉄製品出土状況 (L-76) S→ 3 Ⅲ層 鉄鍋出土状況 (H-58) S→ 4 樫文土器出土状況 (K-77) S→ 5 Ⅲ層 V 群 c 類土器出土状況 (I-58) S→
図版Ⅱ-13	V・VI層の調査 (1) 1 V層 上面全景 S→ 2 V層 遺物出土状況 (I・J-62・63) S→
図版Ⅱ-14	V・VI層の調査 (2) 1 LP-2 遺物出土状況 SE→ 2 V層 玉 (橄欖岩製) 出土状況 (H-74) NW→ 3 V層 I 群 b-4 類土器出土状況 (R-67) E→ 4 V層 北筒式土器出土状況 (P-55) E→ 5 V層 黒曜石製つまみ付ナイフ出土状況 (I-64) N→
図版Ⅱ-15	旧石器の調査: ブロック 1 (1) 1 遺物出土状況 (G・H-75) SE→ 2 遺物出土状況 (G・H・I-75) S→
図版Ⅱ-16	旧石器の調査: ブロック 1 (2) 1 V層 細石刃出土状況 (H-75) E→ 2 V層 掻器出土状況 (I-75) E→ 3 V層 細石刃核断片出土状況 (I-75) E→ 4 VI層 彫器出土状況 (H-75) E→ 5 V層 彫器出土状況 (H-77) W→ 6 V層 掻器、石刃出土状況 (H・I-75) SE→ 7 VI層 細石刃出土状況 (H-76) S→ 8 VI層 掻器出土状況 (I-76) E→
図版Ⅱ-17	旧石器の調査: ブロック 1 (3) 1 V層 掻器出土状況 (I-75) E→ 2 VI層 遺物出土状況 (G・H・I-75) NW→ 3 全景 E→ 4 VI層 遺物出土状況 (H76-77) SE→ 5 LP-1 セクション 1 S→
図版Ⅱ-18	旧石器の調査: ブロック 2 (1) 1 VI層 遺物出土状況 E→ 2 VI層 両面調整石器剥片出土状況 (L-57) N→
図版Ⅱ-19	旧石器の調査: ブロック 2 (2) 1 VI層 両面調整石器出土状況 (L-57) S→ 2 V層 掻器出土状況 (M-56) E→ 3 V層 掻器出土状況 (K-57) E→ 4 VI層 彫器出土状況 (K-57) S→ 5 VI層 両面調整石器出土状況 (L-57) E→ 6 V層 掻器出土状況 (I-56) E→ 7 VI層 彫器出土状況 2 (L-57) S→ 8 VI層 彫器出土状況 3 (L-57) S→
図版Ⅱ-20	旧石器の調査: ブロック 2 (3) 1 VI層 遺物出土状況 (K・L-57) W→ 2 VI層 彫器剥片出土状況 (L-57) E→ 3 VI層 細石刃出土状況 (K-57) S→ 4 VI層 磨製石斧調整剥片出土状況 (M-56) W→ 5 完掘状況 W→
図版Ⅱ-21	金属製品 (1)
図版Ⅱ-22	金属製品 (2)
図版Ⅱ-23	金属製品 (3)
図版Ⅱ-24	X 線写真 (1)
図版Ⅱ-25	X 線写真 (2)
図版Ⅱ-26	X 線写真 (3)
図版Ⅱ-27	土器 (1)
図版Ⅱ-28	土器 (2)
図版Ⅱ-29	土器 (3)
図版Ⅱ-30	土器 (4)
図版Ⅱ-31	石器 (1)
図版Ⅱ-32	石器 (2)
図版Ⅱ-33	石器 (3)
図版Ⅱ-34	ブロック 1 出土石器
図版Ⅱ-35	ブロック 2 出土石器
図版Ⅱ-36	ブロック 2 接合資料 (1)
図版Ⅱ-37	ブロック 2 接合資料 (2)
図版Ⅱ-38	ブロック 2 接合資料 (3)
(梅川 2)	
図版Ⅲ-1	調査状況 1 Ta-c 除去終了 N→ 2 B 区メインセクション W→
図版Ⅲ-2	Ⅲ層の調査 (1) 1 UH-1 全景 E→ 2 UH-2 全景 W→
図版Ⅲ-3	Ⅲ層 (2) と V・VI層の調査 (1) 1 UH-1 HSP-1 セクション E→ 2 UH-2 HSP セクション E→

- 3 LP-4、LF-61セクション N→
 4 LP-4セクション E→
 5 LP-4完掘 N→
 図版Ⅲ-4 V・VI層の調査(2)
 1 TP-1完掘 S→
 2 TP-1セクション SE→
 3 TP-2完掘 S→
 4 TP-2セクション(M-6) NE→
 5 TP-1SP-1 S→
 6 A区K-4 トレンチ石器出土状況
 N→
 図版Ⅲ-5 V・VI層の調査(3)
 1 LP-2セクション W→
 2 LF-1・2(P-14) S→
 3 V層 焼土検出状況(P-16) S→
 4 V層 土器出土状況(P-16) S→
 5 V層 土器出土状況(P-16) S→
 6 V層 土器出土状況(Q・R-10)
 E→
 7 V層 土器出土状況(P-16) S→
 8 V層 石輸出土状況(O-6) E→
 図版Ⅲ-6 V・VI層の調査(4)
 1 LR-1全景 SW→
 2 A区V層 作業風景 W→
 図版Ⅲ-7 調査状況
 1 A区北壁セクション S→
 2 A区低湿部調査状況 N→
 図版Ⅲ-8 土器(1)
 図版Ⅲ-9 土器(2)
 図版Ⅲ-10 土器(3)
 図版Ⅲ-11 土器(1)
 図版Ⅲ-12 土器(2)

I 調査の概要

1 調査要項

事業名：一般国道337号新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター

遺跡名・所在地・調査面積：

遺跡名	道教委登録番号	所在地	調査面積
祝梅川上田遺跡	A-03-50	千歳市祝梅617、619	9,100㎡
梅川2遺跡	A-03-57	千歳市祝梅487、491	7,625㎡

調査期間：平成18年5月8日～平成18年10月31日（現地調査）

2 調査体制

第1調査部長 千葉 英一

第4調査課長 鈴木 信

発掘担当者 主査 皆川 洋一

嘱託 山田 和史

3 調査の経緯

この調査の原因は、北海道開発局札幌開発建設部による地域高規格道路「道央圏連絡道路」計画の一環で一般国道337号線の建設工事に伴うものである。

この道路は新千歳空港を起点に北海道横断自動車道千歳東IC、北海道縦貫自動車道江別東IC、重要港湾石狩湾新港、北海道横断自動車道銭函ICを結ぶ延長約80kmの4車線で、完成後は千歳市、長沼町、南幌町、江別市、当別町、札幌市、石狩市、小樽市を連結する道央都市圏の新しい交通・物流ルートとなる。事業は6区間に分けられており、本調査は新千歳空港と北海道横断自動車道千歳東ICを結ぶ9.2km区間の「新千歳空港関連」事業に伴うものである。

当センターでは、「新千歳空港関連」事業に伴う埋蔵文化財発掘調査を平成9年度から実施しており、この年の柏台1遺跡を皮切りにチブニー1・2遺跡、オルイカ1・2遺跡、キウス5・9遺跡などの調査を行っているが、梅川地区における調査は今回が初である。なお、千歳市教育委員会による発掘調査が既に周辺で数次に渡って実施されており、縄文時代からアイヌ文化期の遺構・遺物が検出されている。

4 調査区の設定

調査区の設定に関しては、隣接する祝梅川上田遺跡と梅川2遺跡にかかる共通のものとした。札幌開発部の作製した一般国道337号新千歳空港関連工事の用地平面図を使用し、その工事設計の中央線上に設けられたSTA5,400とSTA5,500のポイントを結んだラインを基軸線に2遺跡を網羅するグリッドを設置している。グリッドは横ラインに英字を縦ラインに数字を各あてている。先の基軸線はMラインに重なるように設け、縦ラインはMライン上のSTA5,400地点と直行する縦ラインを25ラインとし、それらを基準に5×5mのメッシュを全面に設定した。

各グリッドの呼称は横ラインと縦ラインの交点名をあてている。例えばMラインと25ラインの交点名は「M-25」となりこれがその右下に位置するグリッドの名称となる（図I-2）。

基軸線に用いたSTA5,400とSTA5,500のポイント座標値（世界測地系）は以下の通りである。



図 I-1 遺跡の位置

STA5,400	X=-128903.321	Y=-45563.466
STA5,500	X=-128806.954	Y=-45536.795

5 調査の概要

祝梅川上田遺跡

祝梅川上田遺跡は千歳市の市街地から東へ2.5kmほど行った、祝梅川を経て千歳川に流入する梅川右岸の平坦な低位段丘上（標高15～16m程）に立地し、同時に調査した梅川2遺跡は100m程離れて位置している。

現況は耕作地で掘削がⅢ～Ⅳ層に達しており、Ⅲ層包含層の約7割に影響が及んでいた。今回は遺構確認を中心とした発掘調査を実施した。当センターにおいて梅川周辺の調査報告は今年度が初となる。なお、千歳市教育委員会による発掘調査が既に周辺で数次に渡って実施されており、縄文時代からアイヌ文化期の遺構・遺物が検出されている。

遺跡の基本土層はⅠ～Ⅷ層に分けられ、主な包含層はⅢ層（アイヌ文化期、擦文文化期、続縄文期、縄文晩期）とⅤ～Ⅶ層（縄文早～晩期、旧石器）である。調査区内の現況は耕地で、調査面積の約6割のⅠ～Ⅳ層に耕作が及んでいた。火山灰は樽前a降下軽石（「Ta-a」：Ⅱ層）、樽前c降下軽石（「Ta-c」：Ⅳ層）が確認されている。また、Ⅵ層中には樽前d1降下軽石（「Ta-d1」）らしきものが検出されている（Ⅳ章3節：花岡）。

遺構と遺物

遺構は、Ⅲ層から住居11軒（UH-1～12）、土壌3基（UP-1～3）、集石4カ所（US-1～4）、灰集中4カ所（UA-1～4）、焼土11カ所（UF-1～7、11～14）、小柱穴552基（USP-1～552）、遺跡1カ所（UR-1）が、Ⅴ～Ⅶ層から土壌2基（LP-1・2）、焼土62カ所（LF-1～62）、旧石器の石器ブロック2カ所（ブロック1・2）が検出されている。Ⅲ層の遺構はほぼ調査区の全域で検出されており、大半はアイヌ文化期のものと考えられる。12件の住居以外に小柱穴（USP）も多いことから、これらも住居ないし他の構築物である可能性が高い。他にも、所謂「灰送り」がなされた痕跡と考えられる灰集中や、魚骨や動物遺体が含まれる焼土、灰集中なども見られることから、これらは恐らくこの時期の集落を構成するものと考えられる。

遺物は11,814点が出土した。内訳は、鉄製品類28点、土器2,635点、石器類2,726点（縄文以降）、旧石器類6,423点である。土器は縄文早～晩期、続縄文、擦文土器など、石器は石鏃、ポイント、石鎌、つまみ付ナイフ、つまみ付石器、籠状石器、スクレイパー、異形石器、Rフレイク、Uフレイク、フレイク、チップ、石核、擦切石斧、石斧、たたき石、断面三角形のすり石、石冠、すり石、石鏃、砥石、台石・石皿、棒状礫、礫器、礫などがある。土器、石器で比較的多かったのは縄文早・中期と擦文文化期のものである。また、縄文中期と考えられる玉が2点出土している。鉄製品類は鉄鍋、鉞、刀子、マレック、角釘、古銭（永楽通宝）などで、ほとんどがアイヌ文化期のものである。

旧石器時代の遺物は、ブロック1、2ともに細石刃石器群が主体をなすが、ブロックごとに石器群の内容が異なる。ブロック1では細石刃、細石刃核削片、搔器、彫器、石刃などが出土しており、細石刃核削片には両面調整母型から剥離されたものと、片面調整母型から剥離されたものの2種類の形態がみられる。ブロック2では細石刃、細石刃核削片、両面調整石器、搔器、彫器、石刃、削器、搔器の刃部再生剥片、彫器削片、磨製石斧の調整剥片などが出土している。細石刃と細石刃核削片の形態は、ブロック1が「湧別技法」と「峠下技法」、ブロック2が「忍路子技法」による細石刃生産技術の特徴に類似する。恵庭a降下軽石（「En-a」：Ⅶ層）より上位のⅤ～Ⅶ層で出土していることが

ら、後期旧石器時代後半期に位置付けられる。

分析は「炭素年代測定」と「炭化樹種同定」、「火山灰分析」を依頼した。これらはIV章に掲載した。また、「黒曜石原産地同定」と「動植物遺存体の同定」も実施したが、これらは次年度以降に報告する。

梅川2遺跡 (A-03-57)

梅川2遺跡は、千歳市の市街地から東へ2.5kmほど行った、祝梅川を経て千歳川に流入する梅川右岸に位置している。調査区は道路をはさんだ南側緩斜面（標高11~12m）のA区と北側の低位段丘上平坦部（標高15m程）のB区とに分かれた2カ所である。現況はA区が斜面とそれに続く低湿度部で、調査はポンプアップしながらのものとなった。B区は耕作地で、一部にⅢ~Ⅵ層に達する攪乱が見られた。同時に調査した祝梅川上田遺跡とは100m程離れて隣接する。今回は遺構確認を中心とした発掘調査を実施した。当センターにおいて梅川周辺の調査報告は今年度が初となる。

現況は耕作地で攪乱がⅢ~Ⅳ層に達しており、Ⅲ層包含層の約7割に影響が及んでいた。

遺跡の基本土層はⅠ~Ⅶ層に分けられ、主な包含層はⅢ層（アイヌ文化期、擦文文化期、続縄文期、縄文晩期）とⅤ~Ⅶ層（縄文早~晩期）である。火山灰は樽前a降下軽石（「Ta-a」；Ⅱ層）、樽前c降下軽石（「Ta-c」；Ⅳ層）が確認されている。また、Ⅵ層中には樽前d降下軽石（Ta-d）らしきものが検出されている（Ⅵ章3節花岡）。

遺構と遺物

遺構は、Ⅲ層から住居2軒（UH-1・2）、小柱穴；11基（USP-1~6、16~21）が、Ⅴ~Ⅵ層から土壇；5基（LP-1・2・6~8）、Tピット；2基（TP-1・2）、集石；1カ所（US-1）、焼土；116カ所（LF-1~116）、フレイク・チップ集中；6カ所（LFC-1~6）、道跡1カ所（LR-1）が検出されている。UH-1・2はアイヌ文化期のもので、こちらの柱穴は掘り込みを伴う。LR-1は縄文後期の可能性がある。

遺物は、土器2,172点、石器類9,122点が出土している。土器は縄文早~晩期、続縄文、擦文土器など、石器は石鏃、ポイント、石錐、つまみ付ナイフ、スクレイパー、Rフレイク、Uフレイク、フレイク、チップ、石斧、たたき石、断面三角形のすり石、北海道式石冠、すり石、石鋸、砥石、台石・石皿、礫器、礫石製品などがある。土器、石器で比較的多かったのは縄文前・晩期のものである。

6 基本土層

土層は、基本的に過年度のキウス遺跡群の調査で使われた土層区分を踏襲している。今回新たな知見として、Ta-dの検出があった。層をなしてはいないもの、少なくとも量のTa-dがⅥ~Ⅶ層に混入していた（Ⅳ章3節花岡）。

I層：表土。

Ⅱ層：樽前a降下軽石（Ta-a）。1739年に噴火した樽前山を起源とする降下軽石層。堆積するテフラの断面にはいくつかのフォールユニットが観察される。層厚は約30cm

Ⅲ層：「第Ⅰ黒色土層（IB）」に相当する黒色の腐食土層。層厚は約20cm。縄文時代晩期後葉、続縄文時代、擦文文化期、アイヌ文化期の遺構・遺物が包含されている。

Ⅳ層：樽前c降下軽石（Ta-c）。BC.2,300年頃に噴火した樽前山を起源とする降下軽石層。層厚は約10cm。

Ⅴ層：「第Ⅱ黒色土層（ⅡB）」に相当する黒色の腐食土層。層厚は約20cm。縄文時代早期~縄文時代晩期後葉の遺構・遺物が包含されている。

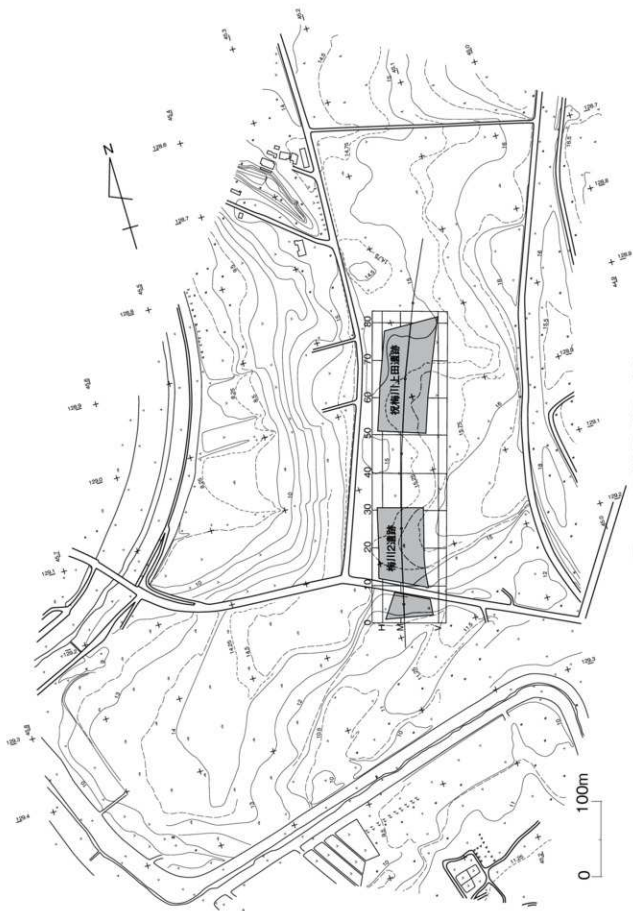


図 I-2 調査範囲と周辺の地形

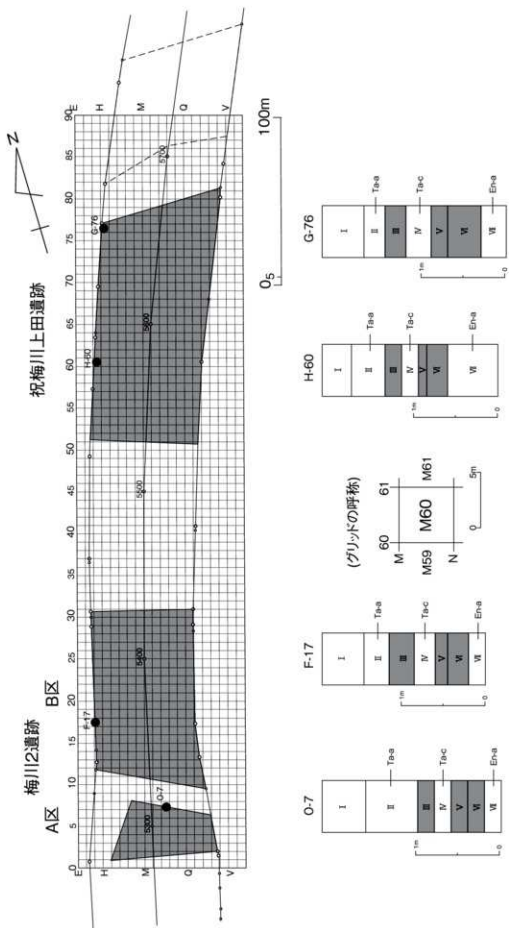


図 I-3 調査区の設定と基本土層模式図

Ⅵ層：暗褐色を呈する粘土質の腐食土層。Ⅴ層～Ⅶ層の漸移層。層厚は約10cm。縄文時代早期の遺構・遺物、後期旧石器を包含する。土層上位に T a-d を含む。

Ⅶ層：忠庭 a 降下軽石堆積物 (En-a) の風化ローム層 (En-L)。橙色を呈する。層厚は約30cm。後期旧石器を包含する

Ⅷ層：忠庭 a 降下軽石堆積物 (En-a) のバミスの堆積層 (En-P)。層厚は約2 m。

7 調査と整理の方法

調査と整理に関しては二遺跡とも基本的に過年度の千歳市キウス遺跡群を参考に実施した。

重機によるⅠ・Ⅱ層除去の後、基本的にはグリッドメッシュに従って通常調査と遺構確認調査を実施した。通常調査は遺跡内における遺構・遺物の濃淡を見て調査部分を限定して実施した。遺物は、グリッド単位で各層位ごとに取上げを行っている。また、遺構などの遺物で重要性が高いと判断されたものには必要に応じて調査、記録したのちに取り上げている。それらの遺物の一次整理、及びブローテーション作業は現地で行った。微細遺物に関しては、人力による選別作業も行っている。

二次整理に関しては、11月以降に江別市の整理作業所において行っている。土器は、接合・復元を試みた後、必要と判断されたものを実測図や拓影図を作成し、写真撮影などで記録した。石器等は、成品を中心に抽出し実測図の作成と写真撮影を行っている。鉄製品は保存処理を行ったのち実測図を作成し写真の撮影を行った。

8 遺物の分類

(土器)

Ⅰ群 縄文時代早期に属するもの。

- a 類 貝殻腹縁瓦痕文、条痕文のある土器群。
- b 類 縄文、捺糸文、絡糸条痕文、貼付文などの施される土器群。
- b-1 類 東釧路Ⅱ・Ⅲ式に相当するもの。
- b-2 類 コッタロ式に相当するもの。
- b-3 類 中茶路式に相当するもの。
- b-4 類 東釧路Ⅳ式に相当するもの。

Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの。

- a 類 縄文の施された丸底、尖底を特色とする土器群。
- a-1 類 網文式に相当するもの。
- a-2 類 春日町式、中野式など、縄文の施された尖底を特色とするもの。
- b 類 円筒土器下層式、植苗式に相当するもの。

Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの。

- a 類 円筒土器上層式に相当するもの。
- b 類 天神山式、柏木川式、北筒式、煉瓦台式に相当するもの。

Ⅳ群 縄文時代後期に属するもの。

- a 類 余市式、入江式に相当するもの。
- b 類 船泊上層式、手稲式、鯉間式、エリモ B 式に相当するもの。
- c 類 堂林式、三ッ谷式、御殿山式に相当するもの。

Ⅴ群 縄文時代晩期に属するもの。

I 調査の概要

- a類 大洞B式、上ノ国式に相当するものと、それに並行する在地の土器群。
- b類 大洞C式、大洞C'式に相当するものと、それに並行する在地の土器群。
- c類 大洞A式、大洞A'式に相当するものと、それに並行する在地の土器群。

VI群 縄縄文時代に属するもの。

VII群 擦文文化期に属するもの。

VIII群 中世の陶磁器。

(石器・石製品・金属製品・その他)

石器は券種別の大分類にとどめ、一券種における記号による細分はおこなっていない。今年度報告分について、剥片石器は石槍、石鏃、石錐、つまみ付ナイフ、つまみ付石器、スクレイパー類などがあり、礫石器には石斧、たたき石、すり石、砥石、台石・石皿などがある。この他に石核、フレイク類(Rフレイク (retouched flake)、Uフレイク (utilized flake)、フレイク・チップ)などがある。

石製品には玉がある。金属製品には古銭(永楽通宝)、鉄鍋、刀子、鉞、マレック、角釘などがある。その他には、炭化物、動物・植物の遺存体などがある。

(旧石器時代の石器の分類)

尖頭器 両面調整により器体が尖頭状に加工された石器。

細石刃 長幅比が2:1以上で、両側縁がほぼ平行し、背面に側縁と平行する稜を持つ剥片を連続的に剥離する「細石刃技法」によって剥離された剥片。

細石刃核削片 細石刃核母型から剥離された打面形成剥片で、背面に細石刃核母型調整時の稜を持つ「一次削片」と背面に先行する削片剥離面を持つ「二次削片」に細分される。

両面調整石器 平面が不整楕円形、断面が凸レンズ状となるように両面が調整された石器。細石刃核の母型と考えられる。

石刃 長幅比が2:1以上で、両側縁がほぼ平行し、背面に側縁と平行する稜を持つ剥片を連続的に剥離する「石刃技法」によって剥離された剥片。

搔器 剥片もしくは石刃を素材とし、素材短軸の縁辺に対して、長さが1/2以上の連続する剥離痕によって刃部が作出された石器。

削器 剥片もしくは石刃を素材とし、素材長軸の縁辺に対して、長さが1/2以上の連続する剥離痕によって刃部が作出された石器。

刃部再生剥片 主に搔器や削器などの刃部を再生もしくは調整した際に生じる剥片。

影器 剥片もしくは石刃を素材とし、素材の一端に槌状剥離を施し、影刀面が作出された石器。

影器削片 影器の影刀面を作出する際に槌状剥離で生じる剥片。

加工痕ある剥片 縁辺の長さに対して1/2以下の剥離痕が連続する剥片。

微細剥離痕ある剥片 縁辺に微細な剥離痕が連続する剥片。

磨製石斧調整剥片 磨製石斧から剥離された剥片で、背面に石斧の研磨調整が残る。なお、研磨調整はみられないが、同一母岩と考えられる緑色泥岩製の剥片もこれに含めた。

縦長剥片 長幅比が2:1以上あるもので、「石刃」に含まれない剥片。

剥片 剥離によって目的に剥離された石片。打点の残るものは「剥片」に含めた。

砕片 剥離によって偶発的に生じる石片。

礫片 石器の石材に利用されていない自然石で、全体形状がわからないもの。

礫 石器の石材に利用されていない自然石で、全体形状がわかるもの。

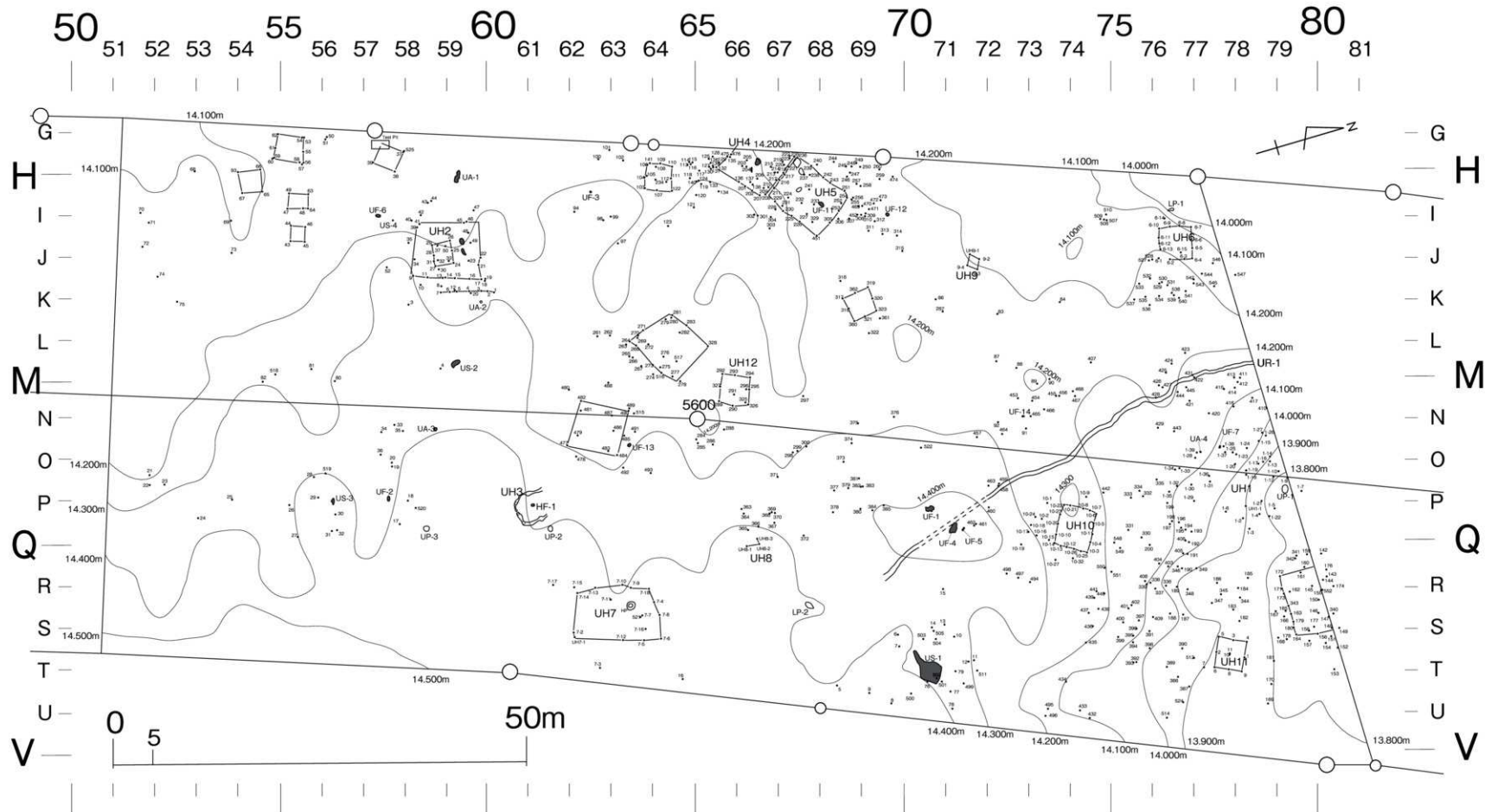


圖 II - 1 Ⅲ層遺構配置圖 (地形はⅣ層上面)

Ⅱ 祝梅川上田遺跡

主な包含層はⅢ層（アイヌ文化期、擦文文化期、統縄文期、縄文晩期）とⅤ～Ⅵ層（縄文早～晩期、旧石器）である。調査区内の現況は耕地で、調査面積の約6割のⅠ～Ⅳ層に耕作が及んでいた。火山灰は樽前 a 降下軽石（「Ta-a」：Ⅱ層）、樽前 c 降下軽石（「Ta-c」：Ⅳ層）が確認されている。また、Ⅴ層中には樽前 d 1 降下軽石（Ta-d 1）と考えられる火山灰が検出されている（Ⅳ章3節、花岡）。

1 Ⅲ層の調査

遺構は住居11軒（UH-1～11）、土塋3基（UP-1～3）、集石4カ所（US-1～4）、灰集中4カ所（UA-1～4）、焼土14カ所（UF-1～14）、小柱穴525基（USP-1～525）、道跡1カ所（UR-1）が検出された。

11件の住居以外に小柱穴（USP）も多数検出されており、これらも住居ないし他の建物跡である可能性が高い。他にも、所謂「灰送り」がなされた痕跡と考えられる灰集中や、魚骨や動物遺体が含まれる焼土、灰集中なども見られる。時期は大半がアイヌ文化期で一部擦文文化期の可能性のものも含まれている。アイヌ文化期と考えられる遺構はほぼ調査区の全域で検出されており、恐らくこの時期の集落を構成するものと考えられる。なお、墓は皆無であったことから、集落の居住区であった可能性が高い。時期は、Ta-a 降下の1739年以前になる。また、各遺構から出土した炭化物8件の年代測定を行った結果、BP901～311の結果を得ている（Ⅳ章1節 PLD-6849～6856）。

道内でのアイヌ文化期の集落の調査例はまだ少ないものの、千歳周辺では過去に千歳市末広遺跡、同ユカンボシ2遺跡、恵庭市カリンバ3遺跡などが調査されており比較的多い地域と言えよう。

a 道路跡

道路跡1カ所（UR-1）が検出された。

UR-1（図Ⅱ-2・45、表Ⅱ-12、図版Ⅱ-2・12）

位置：L-77・78、M-75・76・77、N-74・75、O-71・72・73・74、P-70・71、Q-69・70

標高：14.2～14.7m

規模：53.0×0.70m

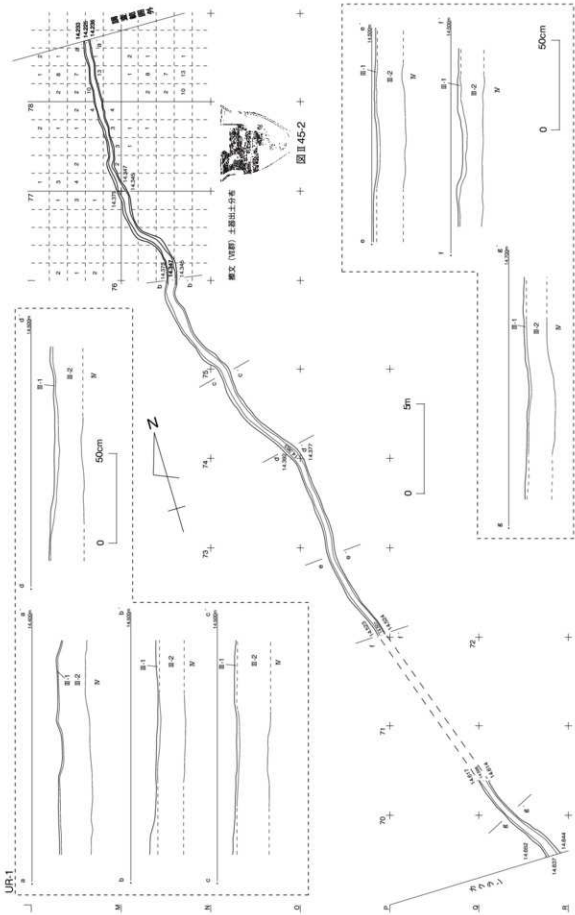
長軸方向：N-12°-W

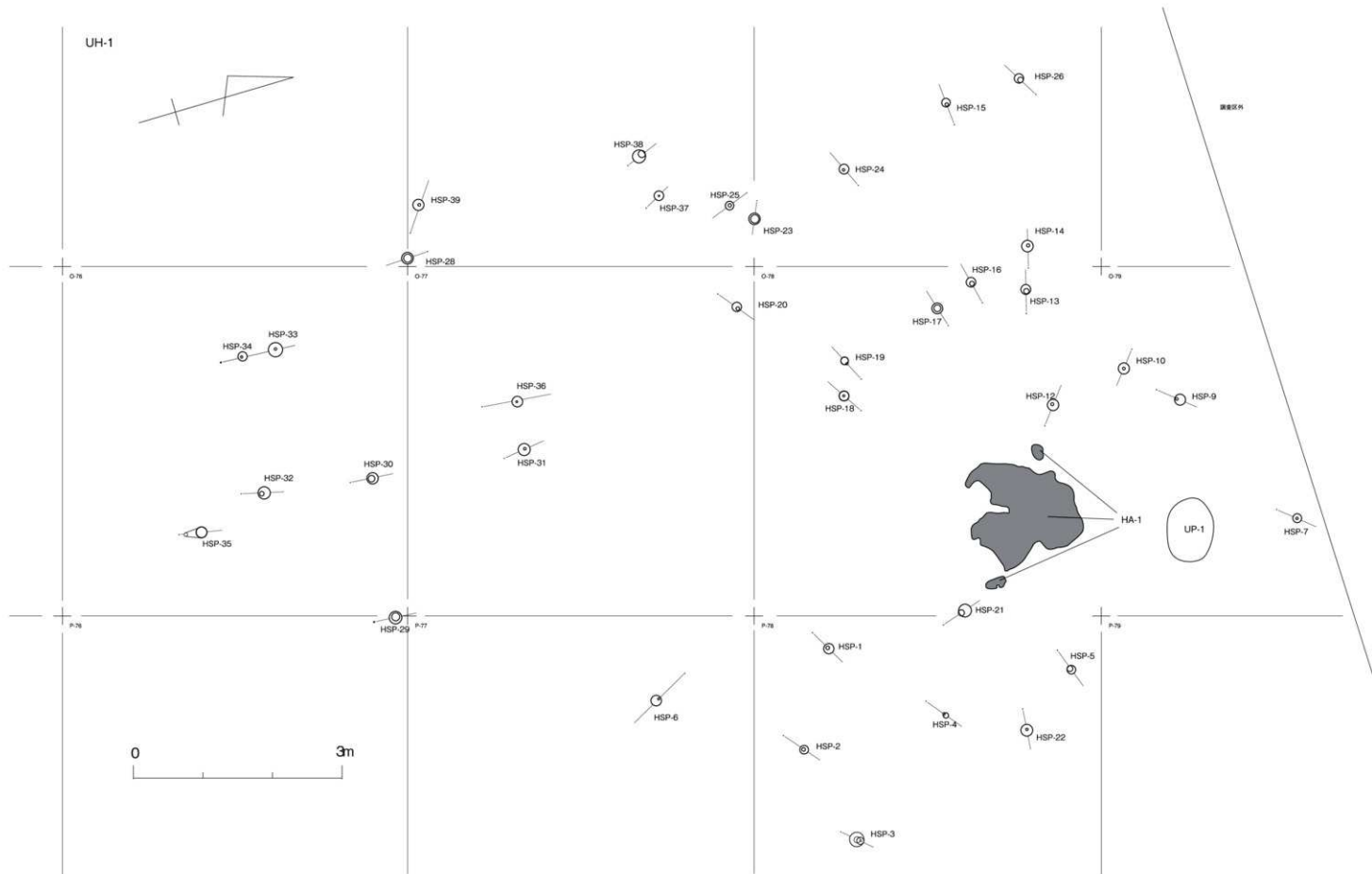
確認・調査：樽前 a 降下火山灰除去後、L-77・78、M-76・77のⅢ層上面で擦文文化期の土器片がまとまって出土した。この土器片の分布の間に、L-78のⅢ層上面で溝状の浅い窪みが確認された。当初L-77付近で溝状の窪みの輪郭が不鮮明だったことから、「周溝状遺構」として調査していたが、溝は道跡の南北方向に延びることが確認された。溝の短軸に5m間隔でトレンチを設定し、断面を観察したところ、堀込みは確認されず、Ⅲ層の黒色土がわずかに窪んでいることが確認された。黒色土は堅密度の異なる2枚の層に分層され、Ⅲ-1層はしまりが軟らかく、Ⅲ-2層はⅢ-1層よりしまる。このことから、溝はⅢ-2層上面で何らかの填圧を受けて窪んだものと考えられ、これを「道跡」と認定した。なお、「道跡」が延びるP-70・71にはUF-1・4・5が位置し、このうちUF-5に伴って擦文土器が出土している。L-77・78、M-76・77周辺でも擦文土器が出土していることから、「道跡」は擦文文化期に形成されたと考えられる。

出土遺物：周辺の包含層から擦文土器、礫片、礫が出土している。

時期：擦文文化期

（山田和史）





図Ⅱ-3 UH-1

b 建物跡

柱穴の配置などから平地式の住居あるいは構築物と考えられるもので、12件(UH-1~12)が検出されている。UH-2~6、10、11の柱穴の配置内に炉跡と考えられる焼土が検出されておりこれらは住居と考えられる。それ以外は規模が小さいことから、倉や熊檻、納屋、祭壇、便所など住居に付属する建築物の可能性が高い。これらの柱は、後述の柱穴(USP)も含めて大方「打ち込み」で、また所謂「外ふんばり」といわれるような明瞭な傾きをもつ形態のもの認められなかった。各建物跡は軸が異なるものがあるためアイヌ文化期の中でも僅かに時期が異なるものもあると考えられる。また、十分以上の柱穴をもつものも在ることから、建物の拡張や改築、あるいは重複の可能性もある。多数の柱穴が見つまっていることからUH-1~12以外の建物もあると考えられる。

UH-2・4・5からは多くの鉄製品が出土しておりその種類も豊富である。集落おける何らかの差異を示しているのかもしれない。

UH-1 (図Ⅱ-3・4・50、表Ⅱ-1・15、図版Ⅱ-3・4・31)

位置：N-77・78、O-77~79、P-77・78 標高：14.0~14.2m

規模：不明 長軸方向：不明

確認・調査：樽前a降下軽石層(Ⅱ層)除去後にⅢ層上面で灰の集中する範囲がみられた。「住居跡」の可能性を考慮して、灰集中の全体形状を出し、周辺のグリッドをⅣ層上面まで掘り下げたところ、灰集中の周囲で柱穴が確認された。灰集中の長軸にトレンチを設け土層を観察したが、灰集中は灰層のみで形成され、焼土が伴わないことから、「屋内炉」ではないことが確認された。柱穴の配列も規則性がみられないことから「住居跡」とする根拠に乏しいが、周囲の調査区に比べて柱穴の検出数が多いことから、灰集中に関わる何らかの「建物跡」もしくは「構列」のような構築物があったと推定される。

付属施設：灰集中1基(HA-1)、柱穴33基(HSP1~5・7・9・10・12~26・28~32・34・35・37・38)を確認した。

[HA-1] 位置：O-78 規模：2.20×1.32×0.13m

平面形状が不整形で、灰層のみからなる。1層の層界は明瞭であるが、2層の下面は波状で黒色土が混ざる。1・2層ともに自然遺物、炭化材が多く含まれる。

出土遺物：灰のまわりから礫4点、灰層上面から礫1点、灰層上面から灰層中にかけて魚骨、カワシジユガイの殻皮などが出土した。

[HSP-1~5・7・9・10・12~26・28~32・34・35・37・38]

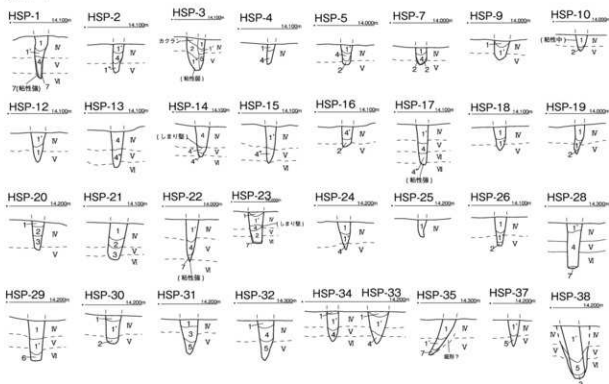
位置：N-77・78、O-77~79、P-77・78

灰集中周囲で検出された柱穴は33基を数える。すべてⅣ層上面で確認した。柱穴断面の先端は1・3・7・9・10・12・15・18・19・22・24・31・32・34・33・35・37が尖形、そのうち2・4・7・9・31・32は柱穴先端部が面取りされている。5・13・17・21・30は丸形、14・16・23・25・26・28・29・38は角形を呈す。1・7・23・28では柱穴先端部に堅密になった黒色土やⅣ層の軽石の薄い覆土の堆積がみられた。これは杭の「打ち込み」時に杭先端に付着した土が填圧を受けたものと考えられる。3・35・38は堀り形が残る。柱穴は直径8cm~22cm、確認面からの柱穴の長さは16cm~47cmまでのものがある。

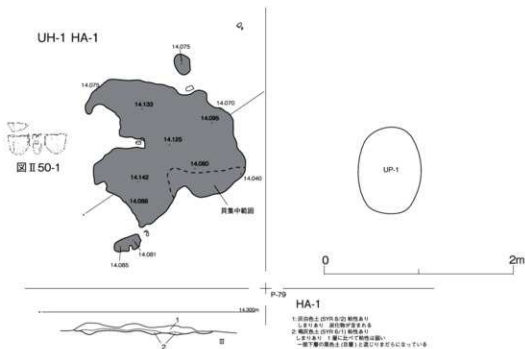
出土遺物：HA-1出土物のほか、包含層から被熱礫が散漫な状態で出土した。また、鉄製品1点が出土した。

時期：灰集中出土の自然遺物、遺構の構成から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。

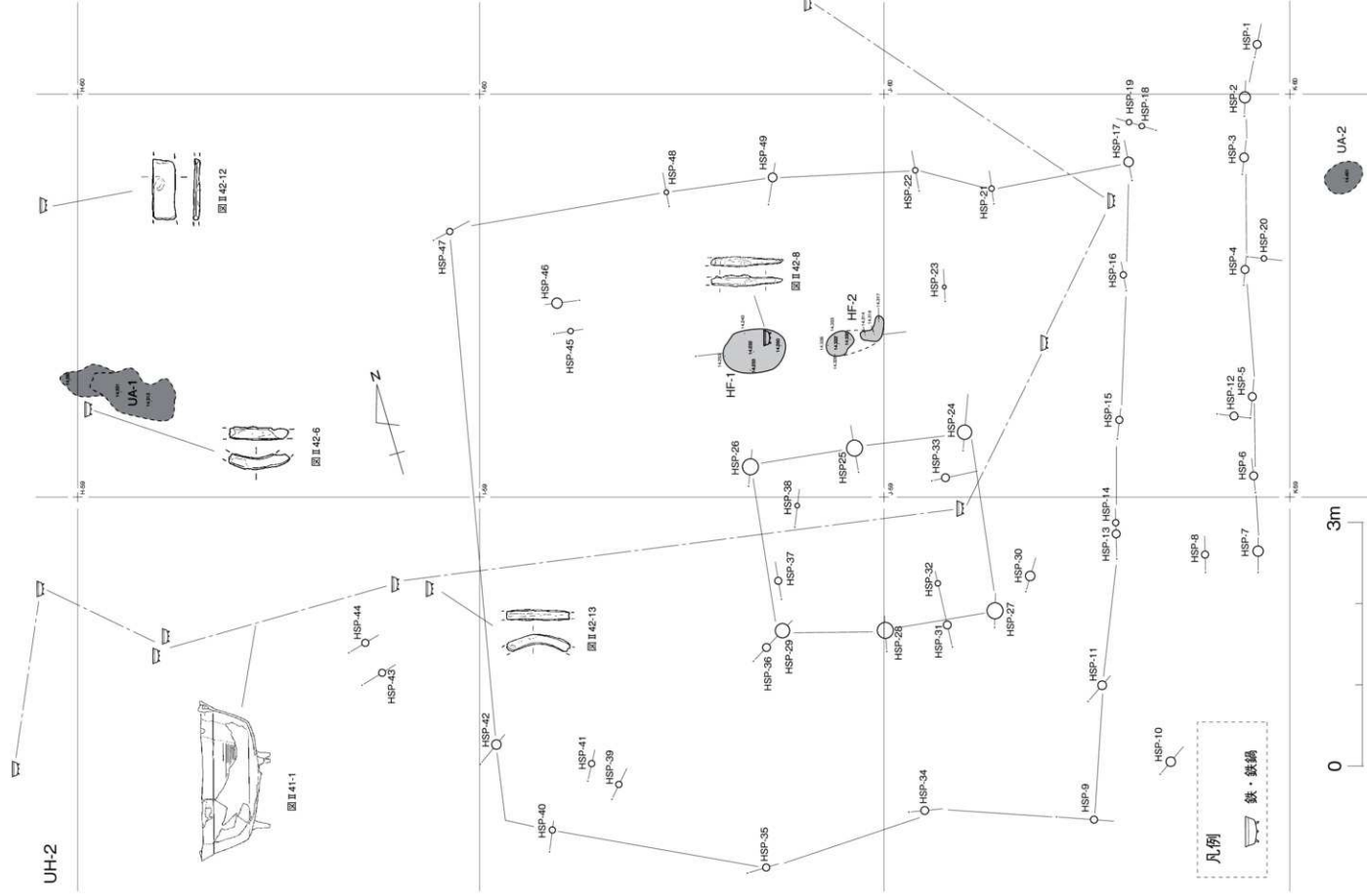
UH-1



- 1 黒色土 (10YR2/1) 礫土 転性なし しまり少 Ⅱ>Ⅲ φ1-5mmの Tac (P) がまばらに混ざる
 - 1' 黒色土 (10YR2/1) 礫土 転性なし しまり少 Ⅱ>Ⅲ φ1-5mmの Tac (P) が全体に混ざる
 - 1'' 黒色一薄褐色土 (10YR2/1-2/2) 礫壤土 転性中 しまり少 Ⅱ>Ⅲ φ1mm以下の Tac (P) が全体に混ざる
 - 2 褐色〜にがい黄褐色土 (10YR4/4-4/3) 礫土 転性なし しまり弱 Ⅲ層主体
 - 3 黄褐色一褐色土 (10YR3/4-4/4) 礫土 転性なし しまり弱 Ⅲ>Ⅱ
 - 3' 黄褐色一褐色土 (10YR2/3-4/4) 礫土 転性弱 しまり中 Ⅱ+Ⅲ
 - 4 暗褐色土 (10YR2/2) 礫土 転性強 しまり少 Ⅱ>Ⅲ
 - 4' 黒色土 (10YR2/1) 礫壤土 転性中 しまり中 V>Ⅱ>Ⅲ
 - 5 黒色土 (10YR2/1) 礫土 転性強 しまり少 V>Ⅲ φ1mmの Tac (P) がまばらに混ざる
 - 5' 黒色土 (10YR2/1) 礫土 転性強 しまり強 V>Ⅲ φ1-5mmの Tac (P) が混ざる
 - 5'' 黄褐色土 (10YR2/2) 礫土 転性なし しまり中 Ⅲ+Ⅳ
 - 6 暗褐色土 (10YR3/3) 礫土 転性強 しまり少 V>Ⅲ>Ⅳ φ1mmの Tac (P) が混ざる
 - 6' 暗褐色土 (10YR3/3) 礫土 転性中 しまり中 Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ
 - 6'' 黄褐色土 (10YR2/2) 礫土 転性中 しまり少 V+Ⅳ
 - 7 黒色土 (10YR2/1) 礫壤土 転性なし しまりすこぶる混 V>Ⅲ>Ⅳ φ1-5mmの Tac (P) が混ざる
 - 7' 黄褐色土 (10YR2/1) 礫壤土 転性なし しまり弱混 V層主体
 - 7'' 黄褐色土 (10YR2/3) 礫壤土 転性強 しまり強 V>Ⅲ+Ⅳ φ1-5mmの Tac (P) が全体に混ざる
 - 8 暗褐色一褐色 (10YR3/4-4/4) 礫土 転性中 しまり中 Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ
 - 8' 暗褐色一褐色 (10YR3/4-4/4) 礫土 転性強 しまり中 Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ
 - 8'' 暗褐色土 (10YR3/4-4/4) 礫土 転性強 しまり中 Ⅲ>Ⅳ>Ⅴ
- ※数字下に「」があるのは、「しまり強」のもの



図Ⅱ-4 UH-1・HSP・HA-1



図Ⅱ-5 UH-2

(山田和史)

UH-2 (図Ⅱ-5・6・40・41、表Ⅱ-1・2、図版Ⅱ-4)

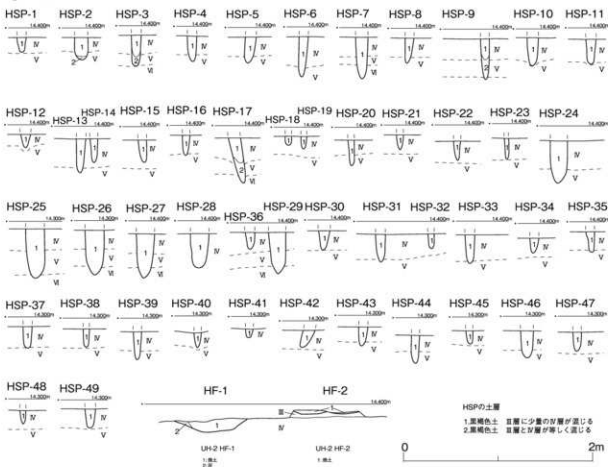
位置：H-58・59、I-58・59、J-58・59 規模：21.0×20.5m 長軸方向：N-78°-W

特徴 平面形が長方形を呈すると考えられる建物跡である。確認面はⅣ層上面で、屋内からは炉跡と考えられる HF-1・2と6本柱で構成される構築物が検出されている。東側外壁の近くには直線的な柱列が検出されており、扉あるいは「ヌササン」のようなものが在ったのかもしれない。灰集中 UA-2もそれに近接して見つかり、更に西側にも UA-1は検出されている。周辺から見つかった灰集中2カ所は、配置から見て UH-2と関連する可能性が高い。

外郭を構成する柱穴列の西側は攪乱で失われている。長軸はほぼ東西方向と推定され、南側には入り口部を推定される柱穴が分布するが配置は明瞭ではない。全てⅢ層中からの打ち込みで、所謂「外ふんばり」といわれるような明瞭な傾きをもつものも認められない。

HF-1・2は建築物平面形の北側にややよった位置で並んで検出されており、これは同じく屋内で検出された6本柱で構成される構築物を優先させた配置と考えられる。HF-1はⅣ層中に浅く楕円形に掘られた凹みに焼土と少量の灰が入ったもので、焼土・灰中には魚類などの遺存体が含まれており、すぐ際には角釘が見つかっている。HF-2の平面形は攪乱を受けて明瞭ではない。掘り込みを伴わず、HF-1と比べて明らかに高い位置にある。また、焼土中には遺存体が含まれていなかった。このような特徴の違いは、炉の構造が新旧を示しているのかもしれない。

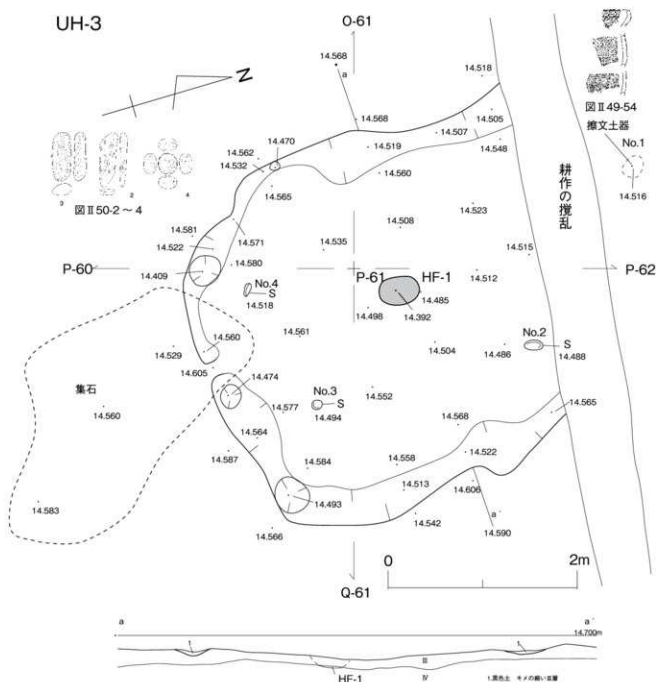
UH-2



図Ⅱ-6 UH-2の柱穴

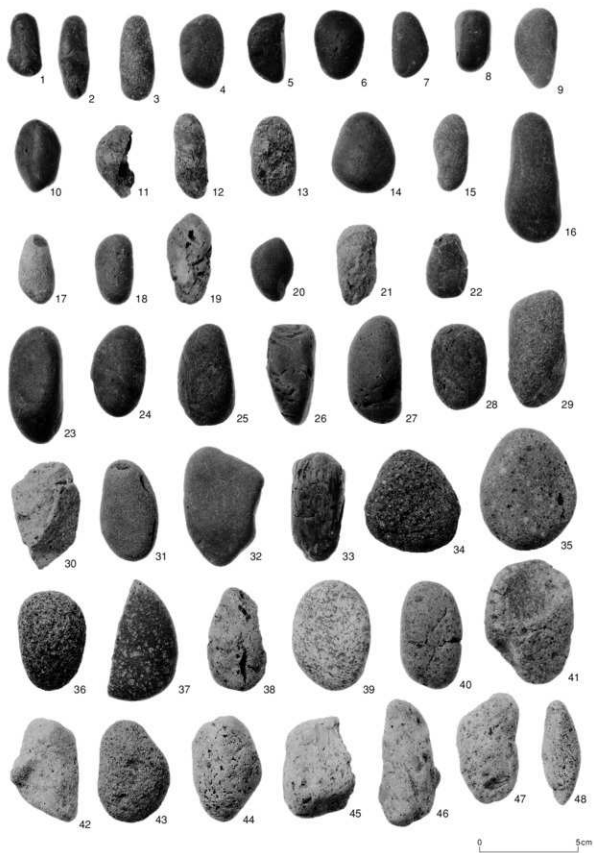
6本柱で構成される構築物（HSP-24～29）は、屋内の中央部付近から見つかっており、各柱穴の規模は他と比較して格段に大きい。これらから、上屋の重量を支える役割が推定されるが、そのような構造を有する建築物の類例が少ないため屋内施設の可能性も残る。

UH-2の東側で見つかったUA-2は極めて近接しており、UH-2に付属するものとして良いだろう。付近に位置する柱穴のうちHSP-1～3は、柱穴の間隔がやや短く断面も他と比べて異質である。UA-2とセットで考えるべきかもしれない。西側で見つかったUA-1も含めて東西を軸に並ぶ傾向があり関連が窺われる。UH-2の南側には図II-19にあるような比較的小形の建物群がまとまって存在する。これらは「ブー」や「熊檻」の可能性はある。



図II 49-54
推文土器

図II-7 UH-3



図II-8 UH-3遺物(集石)

遺物 鉄鍋(図Ⅱ-41-1)と角釘(図Ⅱ-42-8)が出土している。鉄鍋は破片11点が出土し接合したもので、内訳はUH-4から3点、その西側に位置するUA-1付近から6点、約50m離れたUH-4の炉跡周辺から2点が出土した。鉄鍋は「送り」のために破壊されたと考えられ、本来的には出土点数の多かったUA-1に伴う可能性が高い。一度、UA-1で送られた破片が、再利用のためUH-2とUH-4に運びこまれた可能性がある。これ以外は、すり石と礫器が出土している。

時期 遺物と柱穴の配置からアイヌ文化期と考えられる。(皆川洋一)

UH-3 (図Ⅱ-7・8・40・41、表Ⅱ-1・2、図版Ⅱ-1・5)

位置 : O-60・61.P-60・61 **規模** : 4.0×(3.8) m **長軸方向** : N-86°-E

特徴 Ⅲ層上面で検出した小形の建物跡と考えられる遺構である。浅く幅の一定しない溝が巡るもので、耕作による攪乱で北側が欠失している。平面形はやや丸みを帯びた方形を呈すると推定され、Ⅲ層上面から1~2cm下と考えられる床面からは、炉跡と考えられる焼土(HF-1)と集石、礫石器などが見つかっている。南側にある溝内には平面が円形の浅い凹みが4カ所あり、これらは柱の端部が位置していた痕跡の可能性がある。

HF-1は巡らされた溝のほぼ中央に位置し、検出面が床より低いことから掘り込みを伴っていたと考えられる。焼土は熱による赤化が弱いもので被熱時間も短かった可能性がある。集石は溝の内側から外側(南側)にかけて低い密度で出土していたが、本来は一カ所に集中してあったと思われる。恐らく「ピツ」であろう(図Ⅱ-8)。

遺物 すり石、礫器などが出土している。礫石器はHF-1の周囲の図示した2~4(図Ⅱ-50-2~4)の位置で検出されている。なお、1の位置からは擦文土器(図Ⅱ-48-55)が出土している。

時期 周囲の状況からアイヌ文化期と考えられる。なお、擦文文化期の可能性も僅かに残る。(皆川)

UH-4 (図Ⅱ-8・11・22~25・27、表Ⅱ-1・3、図版Ⅱ-6)

位置 : G-65~67.H-65~67 **規模** : 6.9×5.9m **長軸方向** : N-49°-E

特徴 平面形が長方形を呈すると考えられる建物跡で、UH-4と並んで検出された。確認面はⅣ層上面で、上層は耕作による攪乱を受けており更に約1/3が範囲外にある。炉跡と考えられる焼土と、それを囲むような比較的直線的な配置を持つ柱穴列の存在から建物跡とした。

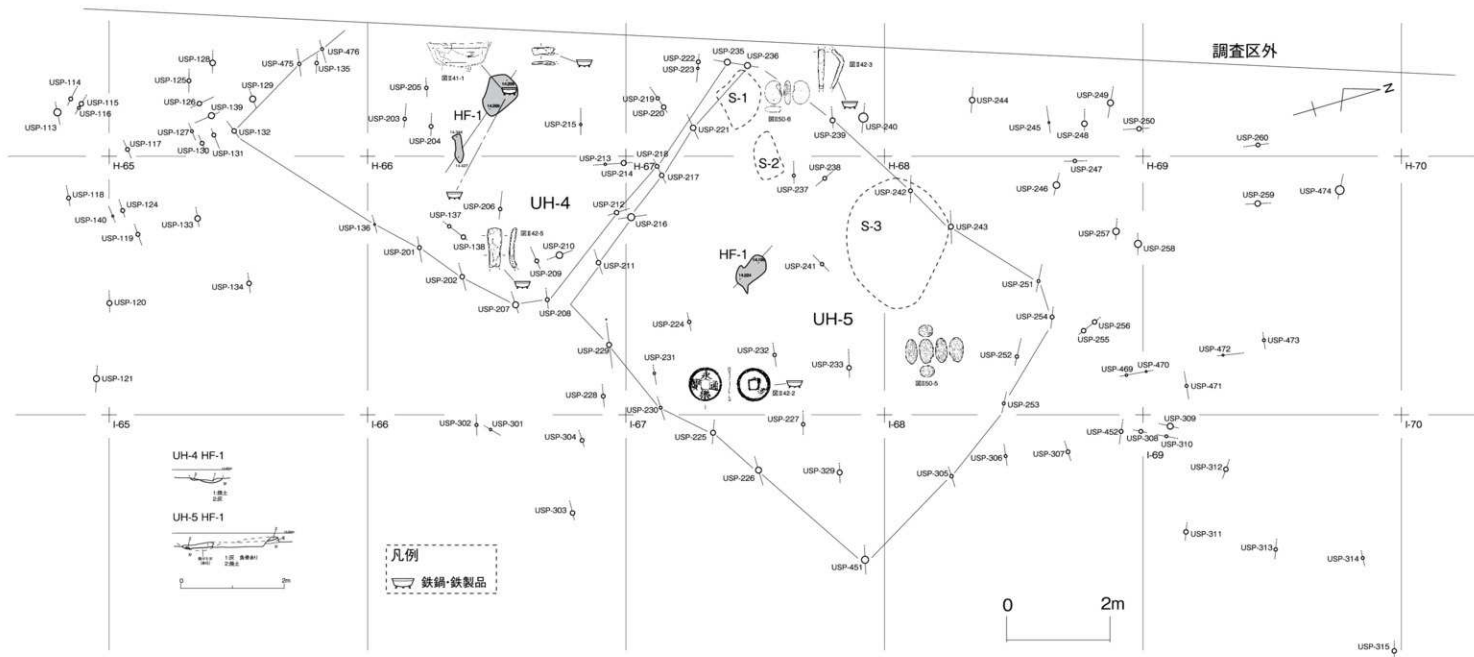
長軸は南西-北東方向と推定される。全てⅢ層中からの「打ち込み」で、所謂「外ふんばり」といわれるような明瞭な傾きをもつもの認められない。

屋内からは、炉跡と考えられる焼土(HF-1)が検出されているが攪乱のため元の形状をとどめておらず、掘り込みを伴う部分だけが残されていた。恐らく本来は南東-北西を長軸とするものだったと思われる。なお、焼土内からは微細な骨類が確認されている。

内外に無数の柱穴が在るため輪郭は確定的なものではなく、さらに攪乱のため柱穴が欠失した可能性もある。また必要以上の本数が認められるため、建て替えや建て増し、あるいはUH-5以外の建物との重複も考える必要がある。

遺物 鉄鍋(図Ⅱ-41-1)、板状鉄製品(図Ⅱ-42-4)、加工鉄製品(図Ⅱ-42-5)、棒状礫(ピツ)などが出土している。鉄鍋の破片2点がUH-2のものと同接している。鉄鍋は「送り」のために破壊されたと考えられ、本来的には出土点数の多かったUA-1に伴う可能性が高い。一度、UA-1で送られた破片が、再利用のためUH-2とUH-4に運びこまれた可能性がある。

時期 アイヌ文化期と考えられる。(皆川洋一)



図Ⅱ-9 UH-4・5

UH-4・5



図Ⅱ-10 UH-4・5の柱穴



図II-11 UH-4・5の遺物

UH-5 (図Ⅱ-8・11・22~25・27、表Ⅱ-1・3、図版Ⅱ-6)

位置：G-67、H-66~68、I-67・68 規模：7.9×6.0m 長軸方向：N-49°-E

特徴 平面形が長方形を呈すると考えられる建物跡で、UH-5と並んで検出された。確認面はⅣ層上面で、上層は耕作による攪乱が見られた。調査時に、炉跡と考えられる焼土と、それを囲む比較的直線的な配置を持つ柱穴列の存在から建物跡とした。長軸は南西-北東方向と推定される。入り口部は南東側と推定されるも明瞭ではない。全てⅢ層中からの「打ち込み」で、所謂「外ふんばり」といわれるような明瞭な傾きをもつもの認められない。

屋内からは、炉跡と考えられる焼土(HF-1)と集石3カ所(S-1~3)が検出されている。HF-1も攪乱のため元の形状をとどめておらず、掘り込みを伴う部分だけが残されていた。痕跡などから恐らく本来は北東側に広がっていたと思われる。内外に無数の柱穴が在るため輪郭は確定的なものではない。攪乱のため、外郭を構成する柱穴列は失われているものもあると考えられ、また必要以上の本数が認められるため、建て替えや建て増し、あるいは重複も考える必要がある。

遺物 古銭(永楽通宝：図Ⅱ-42-2)、礫器、棒状礫などが見つかっている。

時期 アイヌ文化期と考えられる。

(皆川洋一)

UH-6 (図Ⅱ-12、表Ⅱ-1、図版Ⅱ-7)

位置：I-76・77、J-76・77 標高：14.1~14.2m

規模：3.90×3.80m 長軸方向：N-16.5°-E

確認・調査 樽前a降下軽石層(Ⅱ層)除去後にⅢ層で焼土を確認した。包含層をⅣ層上面まで掘り下げたところ、焼土のまわりで柱穴が確認された。柱穴は断面形状、覆土の堆積に近似するものがみられ、これらが焼土を中心に方形に配列する。このことから、焼土と柱穴は「炉跡」を伴う「平地式住居跡」であると判断される。1辺は4~5本の柱穴で構成され、辺の長さは南北方向で4.0m、東西方向で3.7mである。

付属施設 焼土1基(HF-1)、柱穴15基(HSP-1~15)を確認した。

[HF-1] 位置：I-78

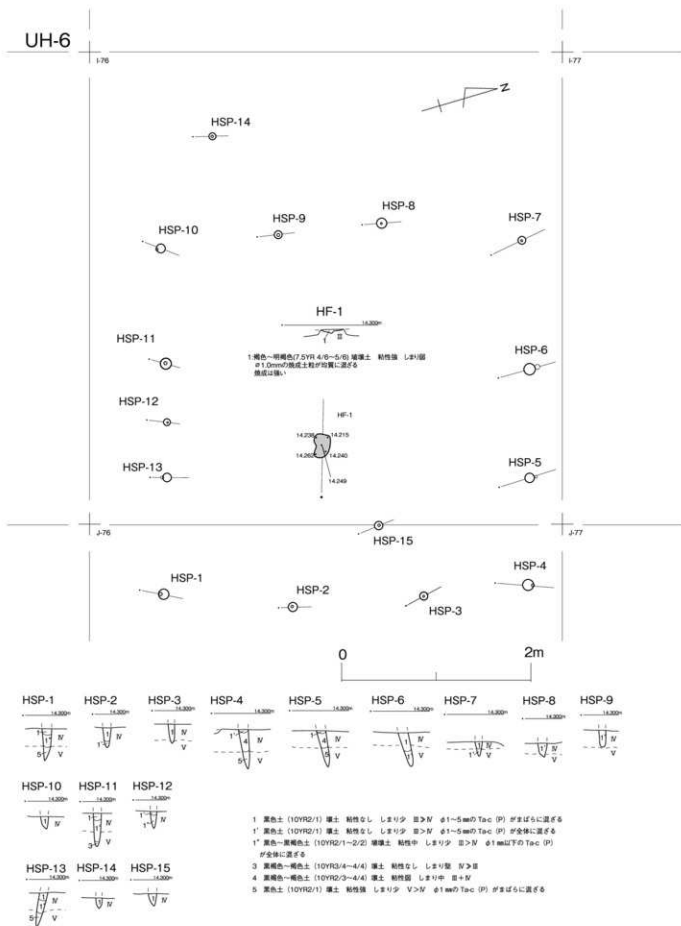
Ⅲ層で確認した。「地床炉」で、「住居跡」の中央より東に位置する。平面は不整形円形で、断面は厚みが均一でない。下面は波状である。

[HSP-1~15] 位置：I-78

Ⅳ層上面で確認した。1~13は四辺形の配列をなすことから「主体部」を構成する柱と考えられる。HF-1の長軸に平行して配列する1~10と4~7の柱穴は内側への傾斜がみられる。15は「住居跡」の内側、14は「住居跡」の外側に位置することから、付属的な柱穴と考えられる。柱穴の断面形状は9のみ丸形、ほかは尖形。いずれも「打ち込み」によると理解される。柱穴は直径6cm~11cm、確認面からの柱穴の長さは11cm~38cmまでのものがある。

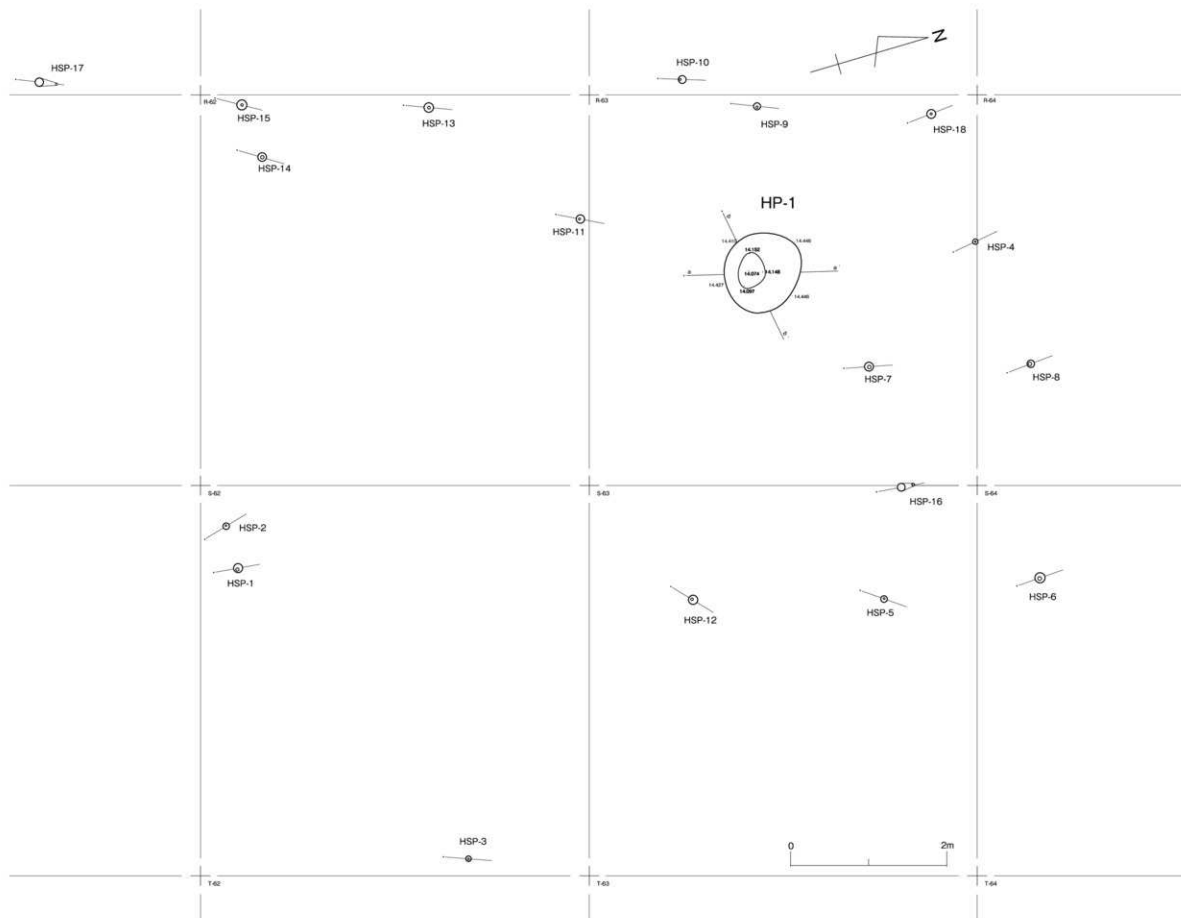
時期 遺構の構築面、構成の特徴から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(山田和史)

UH-6



図II-12 UH-6

UH-7



図Ⅱ-13 UH-7

UH-7 (図Ⅱ-13・14・50、表Ⅱ-1・15、図版Ⅱ-7・31)

位置：Q-61・63、R-62~64、S-62~64 標高：14.4~14.5m

規模：8.60×6.10m 長軸方向：N-17°-E

確認・調査：Ⅳ層上面で土壌1基とその周囲に柱穴が確認された。柱穴はUH-1と同様に規則的に配列するものではないが、土壌に関わる何らかの「建物跡」や「櫛列」などの構築物があった可能性を考慮して、UH-7として調査した。

付属施設：土壌1基 (HP-1)、柱穴18基 (HSP-1~18) を確認した。

[HP-1] 位置：R-63

Ⅳ層上面で確認した。壙口、壙底ともに平面形状は不整形円形を呈す。壙底は平坦でⅥ層中にあり、壙口に向かって緩やかに開きながら立ち上がる。覆土は、1・2・5・6層に層の混成がみられること、坑底に対し比較的水平的な堆積がみられることから埋め戻しと考えられ、3・4層は壙壁に沿って崩落した堆積を示すことから、自然流入土と考えられる。土壌の性格は不明である。

[HSP-1~18] 位置：Q-61・63、R-62~64、S-62~64

Ⅳ層上面で確認した。先端形状は2・3・4・9・10・11・17が尖形、1・7・8が角形、5・6・12・13・14・15・16・18が丸形である。6・12・17では、打ち込み時の填圧がみられる。柱穴は直径7cm~17cm、確認面からの柱穴の長さは14cm~59cmまでのものがある。

出土遺物：HSP-7の1層で礫1点が出土した。

時期：遺構の構築面、構成の特徴から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(山田和史)

UH-8 (図Ⅱ-14、表Ⅱ-1)

位置：P-66、Q-66 標高：14.3~14.5m

規模：1.40×0.70 長軸方向：N-6.5°-E

確認・調査：Ⅳ層上面で規則的な配列の柱穴を確認した。柱穴の確認は3基に止まったが、柱穴の断面形状、覆土の堆積状況が近似することから、4本組の柱からなる方形の「建物跡」と考えられる。柱間距離は南北方向で1.4m、東西方向で0.7mである。

付属施設：柱穴3基 (HSP-1~3)

[HSP-1~3] 位置：P-66、Q-66

Ⅳ層上面で確認した。先端形状は1~3ともに尖形で、1・2では覆土に「打ち込み」時の填圧がみられる。柱穴は直径10cm~11cmまでで、確認面からの柱穴の長さは18cm~38cmまでのものがある。

時期：遺構の構築面、構成の特徴から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(山田和史)

UH-9 (図Ⅱ-15、表Ⅱ-1、図版Ⅱ-8)

位置：J-71 標高：14.2~14.3m

規模：1.5×1.3m 長軸方向：N-59.5°-W

確認・調査：Ⅳ層上面で規則的な配列の柱穴を確認した。柱穴の断面形状、覆土の堆積状況が近似することから、4本組の柱からなる方形の「建物跡」と考えられる。

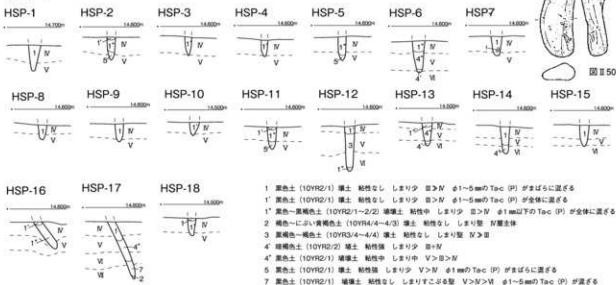
付属施設：柱穴4基 (HSP-1~4)

[HSP-1~4] 位置：J-71

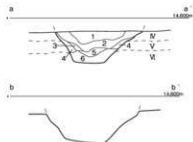
Ⅳ層上面で確認した。先端形状は1~4ともに尖形で、2・4は先端が面取りされている。柱穴は直径9cm~10cmまでで、確認面からの柱穴の長さは18cm~30cmまでである。

時期：遺構の構築面、構成の特徴から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(山田和史)

UH-7



UH-7 HP-1



UH-8

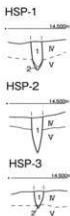
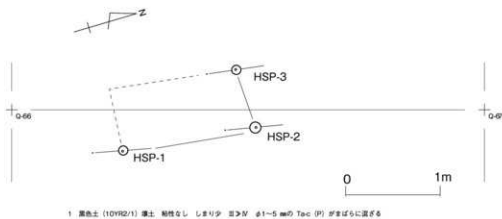


図 II-14 UH-7 の柱穴と土壌・UH-8

UH-10 (図Ⅱ-15・16、表Ⅱ-1、図版Ⅱ-8)

位置：O-74、P-72・73・74、Q-72・73・74 標高：14.1~14.3m

規模：5.10×4.30m 長軸方向：N-58.5-W

確認・調査：Ⅲ層中で焼土2基が確認された。周囲をⅣ層上面まで掘り下げたところ、焼土のまわりで柱穴が確認された。柱穴は断面形状、覆土の堆積に近似するものがみられ、これらが焼土を中心に方形に配列する。また、これらの柱穴の南側にも規則的な配列をなす柱穴が確認された。このことから、焼土と柱穴は「炉跡」を伴う「平地式住居跡」であると判断される。1辺は5~6本の柱穴で構成され、辺の長さは約3.8~4.0mである。柱間距離は長軸方向で1.1~1.2m、短軸方向で0.7~0.8mである。

付属施設：焼土2基(HF-1・2)、柱穴28基(HSP-1~27・32)を確認した。

[HF-1・2] 位置：P-74

Ⅲ層中で確認した。HF-2は「主体部」の中央、HF-1はHF-2に隣接する形で中央より東側に位置する。いずれも「地床炉」で、HF-1・2は下面にわずかなレベル差が存在するが、両者の層界は明瞭である。「住居」内には2か所の「炉」が配置されていたと判断される。HF-1・2ともに平面は不整な長円形、断面はレンズ状で、HF-2の下面は波状である。

[HSP-HSP-1~27・32] 位置：O-74、P-72・73・74、Q-72・73・74

Ⅳ層上面で確認した。3~8・10・15・20~23は方形の配列をなすことから「主体部」を構成する柱と考えられ、東西軸で対向する3~6・11と10・15・20・22・23の柱穴は内側への傾斜がみられるものがある。9・27・32は単独で「主体部」の外側に位置することから、付属的な柱穴と考えられる。1・2・16~19は、「主体部」の東西軸の柱穴に平行して規則的に配列することから「主体部」に接続する「出入り口」の可能性もあるが、従来の調査例では「出入り口」は西側に位置することから、これらは「櫛列」等の付属施設と判断される。柱穴の断面形状は1・3・8・10・11・13・14・19・20・23・25・27・32が尖形、2・5・6・7・9・18・24・26が角形、4・12・15・17・21・22が丸形である。いずれも「打ち込み」による。柱穴は直径7cm~17cmまでで、確認面からの柱穴の長さは12cm~55cmまでである。

時期：遺構の構築面、構成の特徴から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。(山田和史)

UH-11 (図Ⅱ-17・40・42、表Ⅱ-1・11、図版Ⅱ-9・21)

位置：S-77・78、T-77・78 標高：13.9~14.0m

規模：3.60×3.30m 長軸方向：N-65°-W

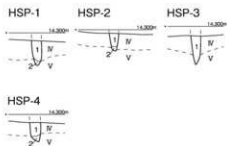
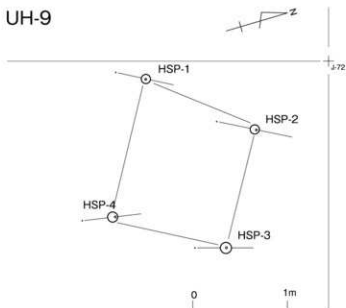
確認・調査：Ⅲ層中で焼土1基、骨片集中1か所、炭化物の集中する範囲1か所が確認された。同一面で、鉄製品や礫が出土しており、焼土、骨片集中にトレンチを設け調査した後、周囲をⅣ層上面まで掘り下げたところ、焼土、骨片集中のまわりで柱穴が確認された。柱穴は断面形状、覆土の堆積に近似するものがみられ、これらが焼土と骨片集中を中心に方形に配列する。このことから、「炉跡」を伴う「平地式住居跡」であると判断される。1辺は3基の柱穴で構成され、中央には切り合い関係のある2基の柱穴が確認された。辺の長さは約3.3~3.7mである。柱間距離は南北方向で1.8m、東西方向で2.0mである。

付属施設：焼土1基(HF-1)、骨片集中1か所(骨片集中-1)、炭化物集中1か所

[HF-1]

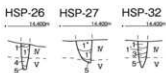
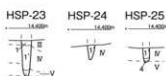
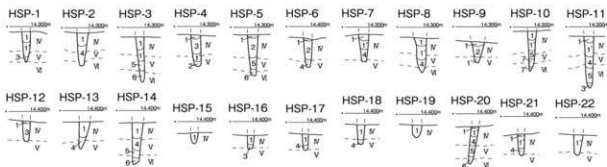
位置：S-77

UH-9



- 1 黒色土 (10YR2/1) 礫土 粘性なし しまり少 Ⅱ>Ⅲ
φ1~5mmの Tac (P) がまばらに混ざる
- 2 褐色~いり黄褐色土 (10YR4/4~4/3) 礫土 粘性なし
しまり堅 互層土体

UH-10



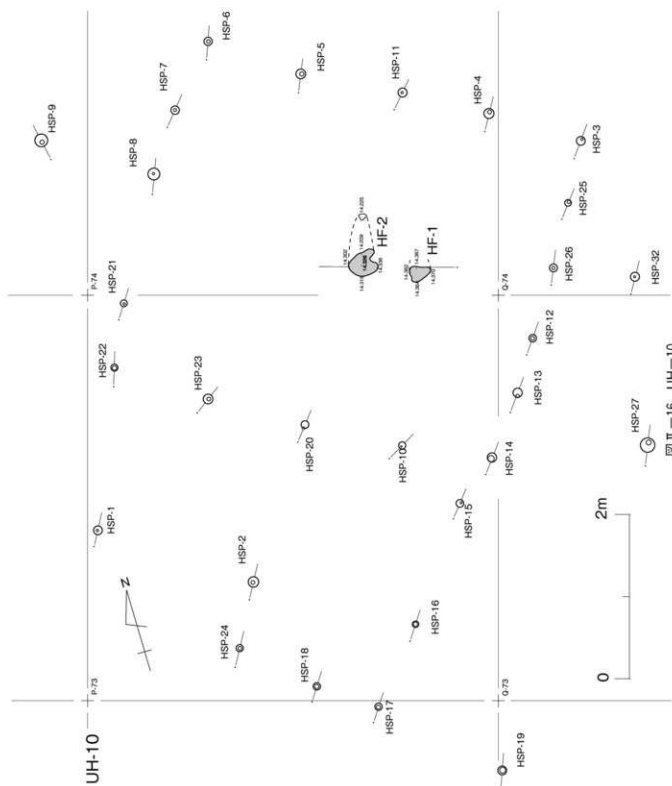
- 1 黒色土 (10YR2/1) 礫土 粘性なし しまり少 Ⅱ>Ⅲ φ1~5mmの Tac (P) がまばらに混ざる
- 1' 黒色土 (10YR2/1) 礫土 粘性なし しまり少 Ⅱ>Ⅲ φ1~5mmの Tac (P) が全体に混ざる
- 1'' 黒色~黄褐色土 (10YR2/1~2/2) 礫礫土 粘性中 しまり少 Ⅱ>Ⅲ φ1mm以下の Tac (P) が全体に混ざる
- 2 褐色~いり黄褐色土 (10YR4/4~4/3) 礫土 粘性なし しまり堅 互層土体
- 3 黄褐色~褐色土 (10YR3/4~4/4) 礫土 粘性なし しまり堅 Ⅱ>Ⅲ
- 4 黄褐色~褐色土 (10YR3/3~4/4) 礫土 粘性弱 しまり中 Ⅱ+Ⅲ
- 4' 黄褐色土 (10YR2/2) 礫土 粘性強 しまり少 Ⅱ+Ⅲ
- 4'' 黒色土 (10YR2/1) 礫礫土 粘性中 しまり中 Ⅱ>Ⅲ>Ⅳ
- 5 黒色土 (10YR2/1) 礫土 粘性強 しまり少 Ⅱ>Ⅲ φ1mmの Tac (P) がまばらに混ざる
- 5' 黒色土 (10YR2/1) 礫土 粘性弱 しまり堅 Ⅱ>Ⅲ φ1~5mmの Tac (P) が混ざる
- 5'' 黄褐色土 (10YR2/2) 礫土 粘性なし しまり中 Ⅱ+Ⅲ
- 6 黄褐色土 (10YR3/3) 礫土 粘性強 しまり少 Ⅱ>Ⅲ>Ⅳ φ1mmの Tac (P) が混ざる
- 6' 黄褐色土 (10YR3/3) 礫土 粘性中 しまり中 Ⅱ>Ⅲ>Ⅳ
- 6'' 黄褐色土 (10YR2/2) 礫土 粘性中 しまり少 Ⅲ+Ⅳ
- 7 黒色土 (10YR2/1) 礫礫土 粘性なし しまり少こぼる Ⅱ>Ⅲ>Ⅳ φ1~5mmの Tac (P) が混ざる
- 7' 黒色土 (10YR2/1) 礫礫土 粘性なし しまり堅 Ⅲ層土体
- 7'' 黄褐色土 (10YR2/3) 礫礫土 粘性強 しまり堅 Ⅱ>Ⅲ>Ⅳ φ1~5mmの Tac (P) が全体に混ざる
- 8 黄褐色~褐色土 (10YR3/4~4/4) 礫土 粘性中 しまり中 Ⅱ>Ⅲ>Ⅳ
- 8' 黄褐色~褐色土 (10YR3/4~4/4) 礫土 粘性強 しまり中 Ⅱ>Ⅲ>Ⅳ



UH-10 HF-1・2

- 1 黄褐色~褐色土 (7.5YR 3/3~4/4) 礫礫土 粘性中 しまり中堅 φ1.0~5.0mmの焼成土粒を均等に含む
- 2 褐色~明褐色土 (7.5YR 4/4~5/6) 礫土 粘性弱 しまり堅 φ1.0mmの焼成土粒をわずかに含む
焼成は均一である

図二一五 UH-9、UH-10の柱穴と炉



図Ⅱ-16 UH-10

UH-11

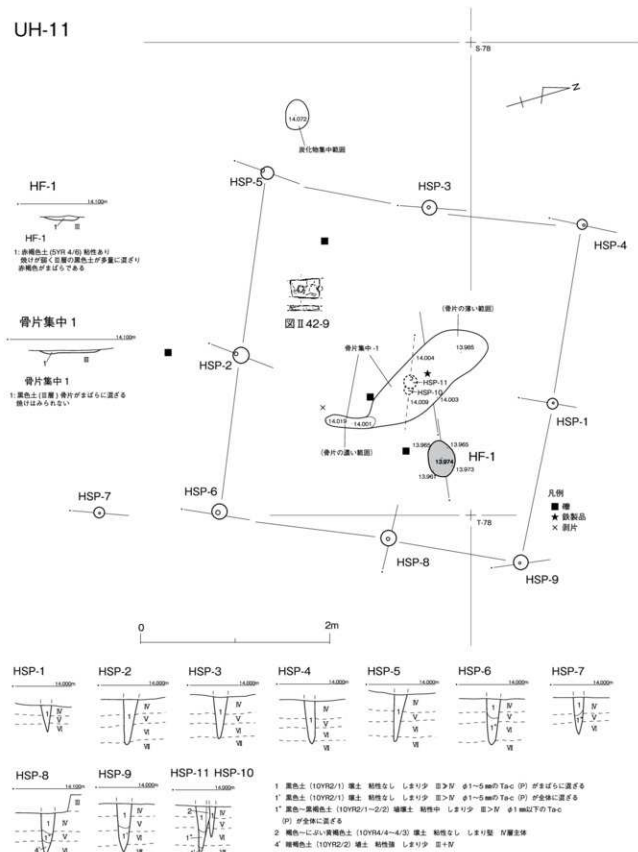


図 II-17 UH-11

Ⅲ層中で確認した。「地床炉」で、「住居跡」の北東側の隅に位置する。層界は明瞭だが、黒色土を含む部分があり、焼成は弱い。平面は楕円形、断面はレンズ状を呈す。

[骨片集中-1]

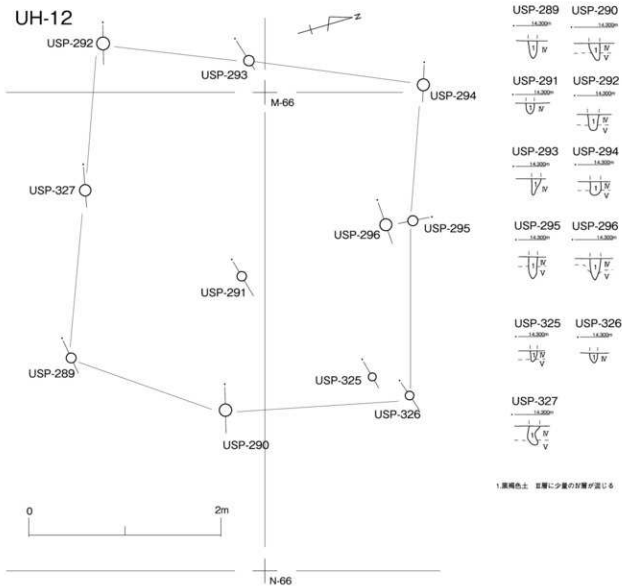
位置：S-77・78

Ⅲ層中で確認した。「住居跡」の中央に位置し、「骨片の濃い範囲」と「骨片の薄い範囲」の2か所に分けられ、「骨片の薄い範囲」はHSP-10・11に重複する。「骨片の薄い範囲」の層界は不明瞭で黒色土が層の主体をなすことから、風塵等の作用で「骨片の濃い範囲」のものが二次的に広がり形成されたと考えられるが、HSP-10・11との前後関係は不明である。「住居跡」内に位置することから、UH-11の付属施設と判断した。

出土遺物：1層上面で鉄製品1点が出土した。

[HSP-1~11]

位置：S-77・78、T-77・78



図Ⅱ-18 UH-12

IV層上面で確認した。方形の配列をなす1～6・8・9と、中央に位置する10・11は、「主体部」を構成する柱と考えられる。10と11には切り合い関係がみられ、覆土の特徴が類似することから、10が打ち込まれた後、11に打ち直しが行われたと考えられる。7は単独で「住居跡」の外側に位置することから、付属的な柱穴と考えられる。以上のことから、確認された柱穴は11基あるが、「主体部」は9本組みで構成される。先端形状はすべて尖形で、「打ち込み」によるものである。柱穴は直径7cm～16cmまでで、確認面からの柱穴の長さは18cm～52cmまでである。

出土遺物：骨片集中-1の出土遺物のほか、III層から礫4点、剥片1点が出土した。

時期：遺構の構築面、構成の特徴から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。（山田和史）

UH-12（図Ⅱ-18、表Ⅱ-1・2）

位置：L-65・66、M-65・66 **規模：**3.7×3.4m **長軸方向：**N-70°-W

特徴 平面形が正方形に近い建物跡である。確認面はIV層上面である。上層は耕作による攪乱が見られた長軸は南西-北東方向と推定される。入り口部は南東側と推定されるも明瞭ではない。全てIII層中からの「打ち込み」で、所謂「外ふんばり」といわれるような明瞭な傾きをもつのも認められない。屋内には炉跡の痕跡が無く、柱穴が3カ所（USP-291、296、325）見ついている。南側の攪乱を受けた部分には柱穴群の纏まり2カ所と焼土（UF-13）が検出されており、これらは各住居のような大形の建物跡の可能性が高い。UH-12はこれらに付属する倉庫のようなものと考えられる。

遺物 なし。

時期 アイヌ文化期と考えられる。

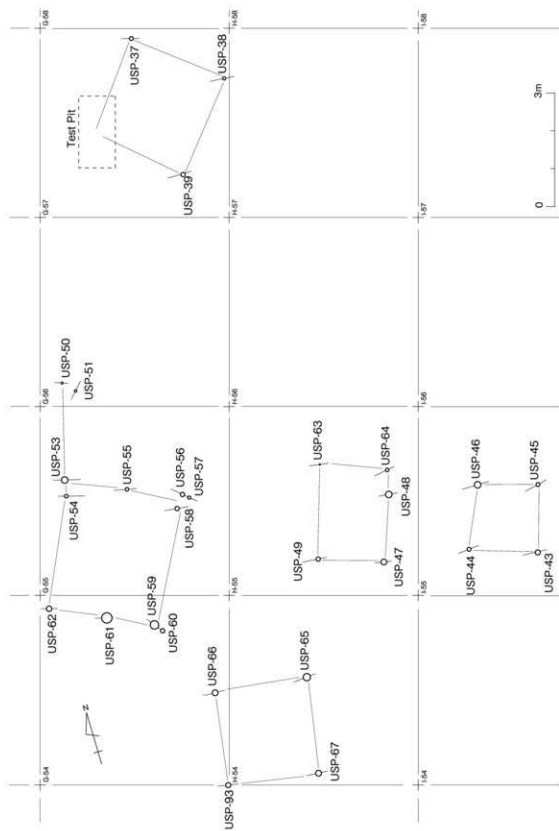
（替川洋一）

c 柱穴（図Ⅱ-19～29）

遺跡の全域から552基（USP-1～552）の柱穴が検出されている。現場で検出された建物跡のような遺構番号を付されていないものの、これらも建て増しや重複、攪乱などによる消失で明瞭な配置が確認されていないが、基本的にはその多くもアイヌ文化期の建物跡類と考えられる。

図Ⅱ-19に示したのは4本柱を中心とした建物跡群と考えられるものである。小形で炉跡の線なものに伴わず、鉄製品や棒状礫、動植物の遺存体遺、炭化物などの遺物類もほとんど出土していない。また、建て増しや重複も無いように思われる。以上のことから、これらは倉庫あるいは倉（プー）のような家屋に付属する施設の可能性があると考えられる。中でも中央上段に位置するUSP-53～62で構成されるやや大形の建物跡には、柱に他とは異なる特徴を有す。例えばUSP-53に近接してUSP-54が、USP-58に近接してUSP-56・57のように、この建物の四方の各柱穴には近接して1～2本の柱穴が配置される様子が認められる。近接する柱穴は補強や改築のためなどの可能性も高いが、「校倉」に用いられた柱跡（ペウレップセツとイクシベ）の可能性はないだろうか？アイヌの建築物において校倉が用いられるものには「熊檻（ヘベルッセ）」が多いことから「熊檻」の可能性も出てくる。これらはUH-2の周辺南側に位置しており、状況から見てUH-2とセットになる可能性がある。

図Ⅱ-19もセットの可能性のある大小の建物跡群である。大形の建物跡には改築あるいは重複と考えられる柱穴が配置されるが、小形のものにはそれが比較的少ないように見える。



Ⅱ-19 USP (1)

II 祝梅川上田遺跡

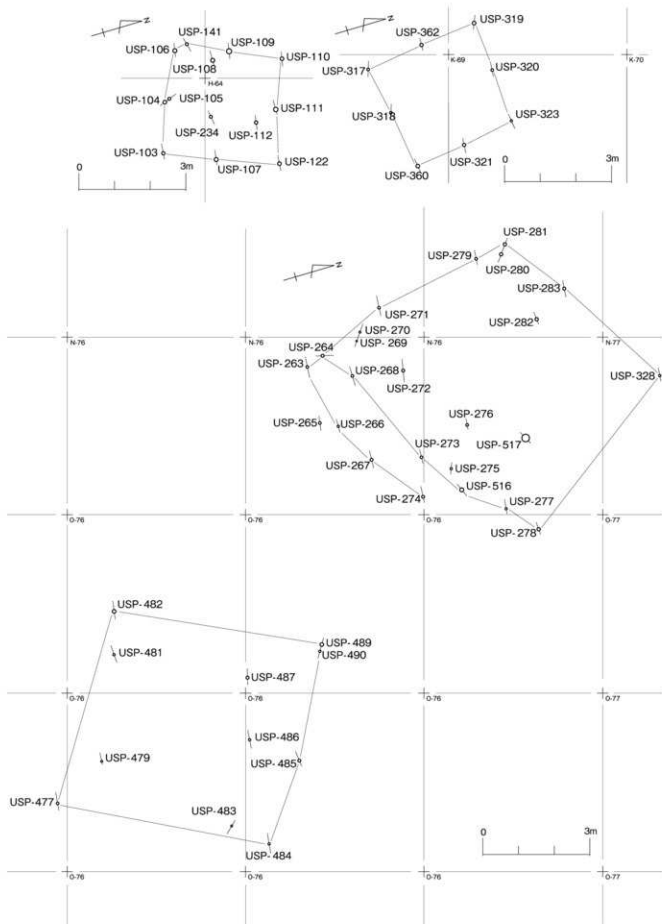
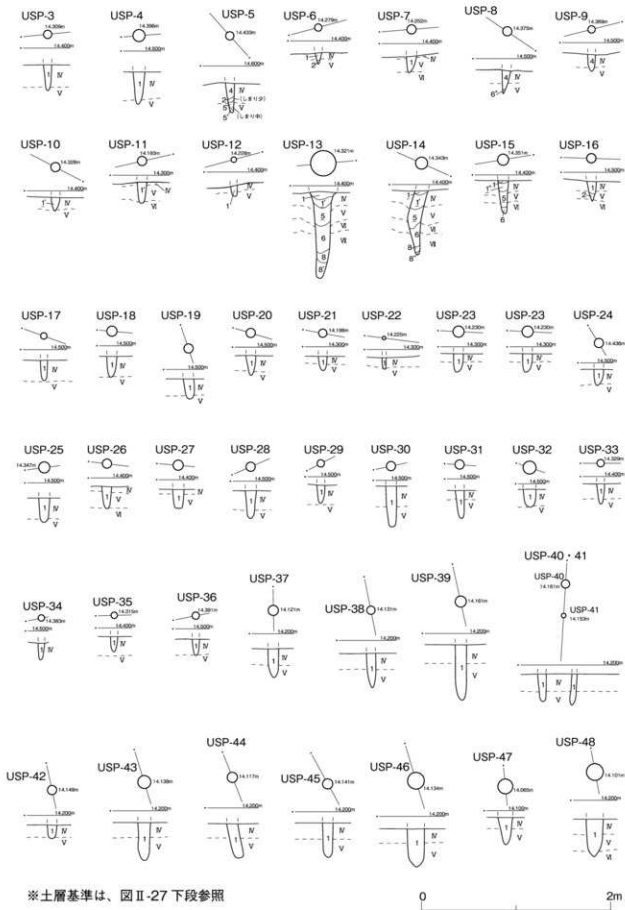
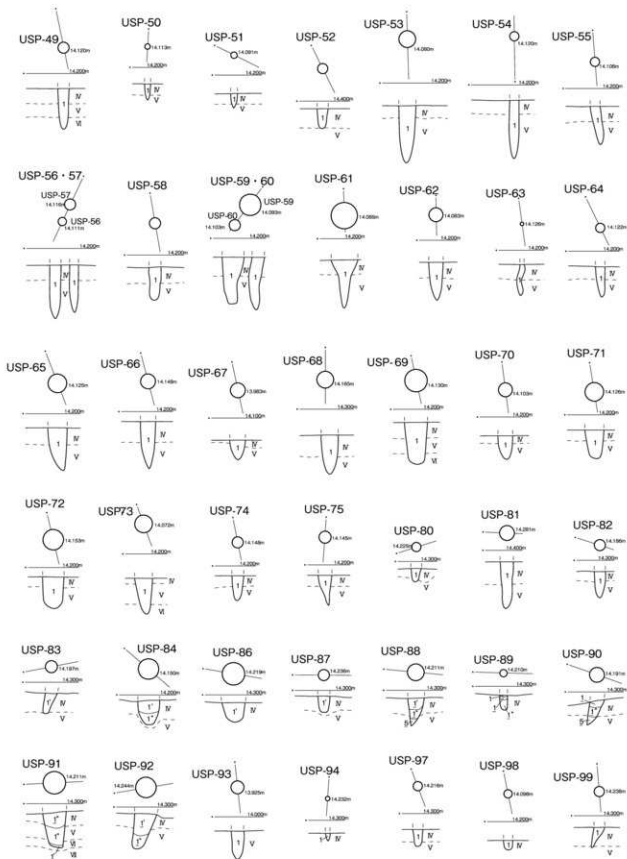


図 II-20 USP (2)



図Ⅱ-21 USP (3)

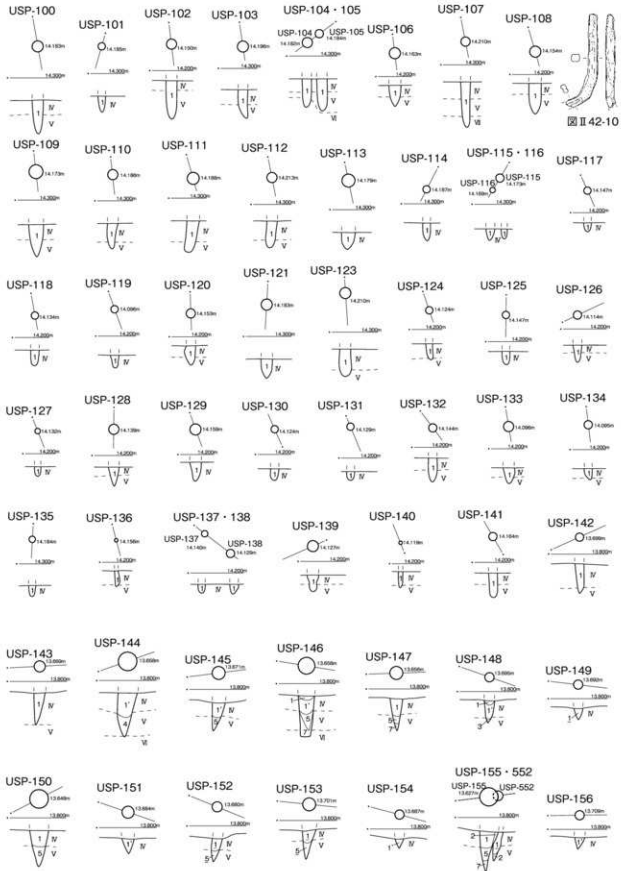
II 祝梅川上田遺跡



※土層基準は、図II-27下段参照

0 2m

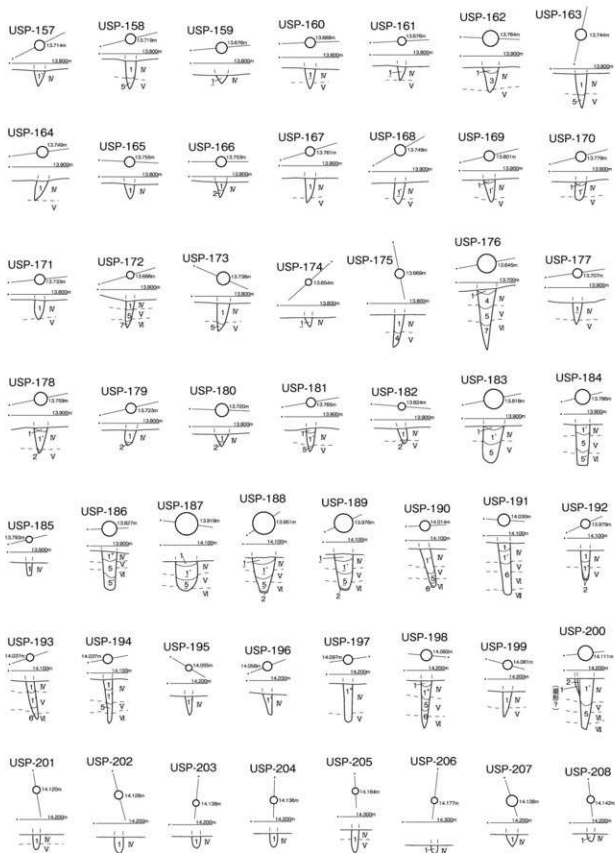
図II-22 USP(4)



※土層基準は、図Ⅱ-27 下段参照

図Ⅱ-23 USP (5)

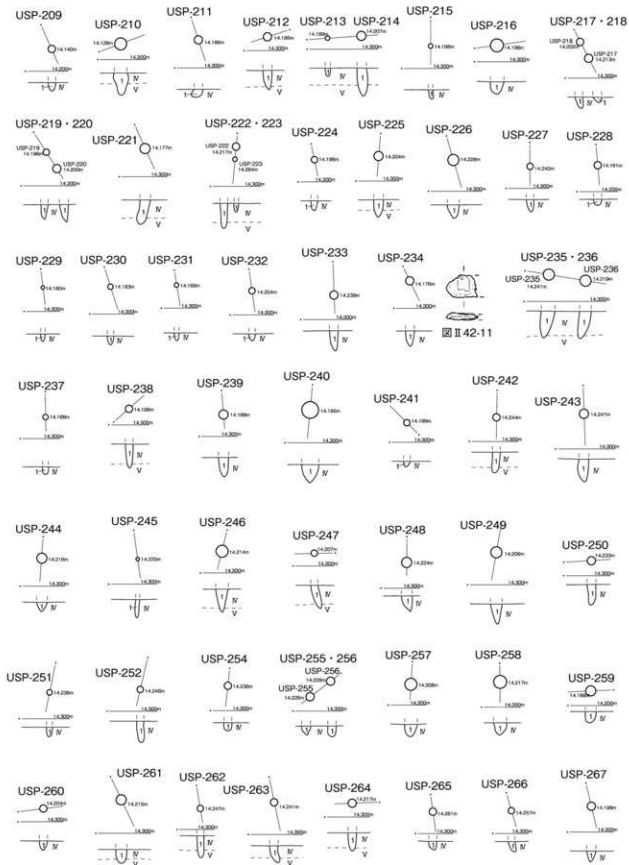
II 祝梅川上田遺跡



※土層基準は、図Ⅱ-27 下段参照

0 2m

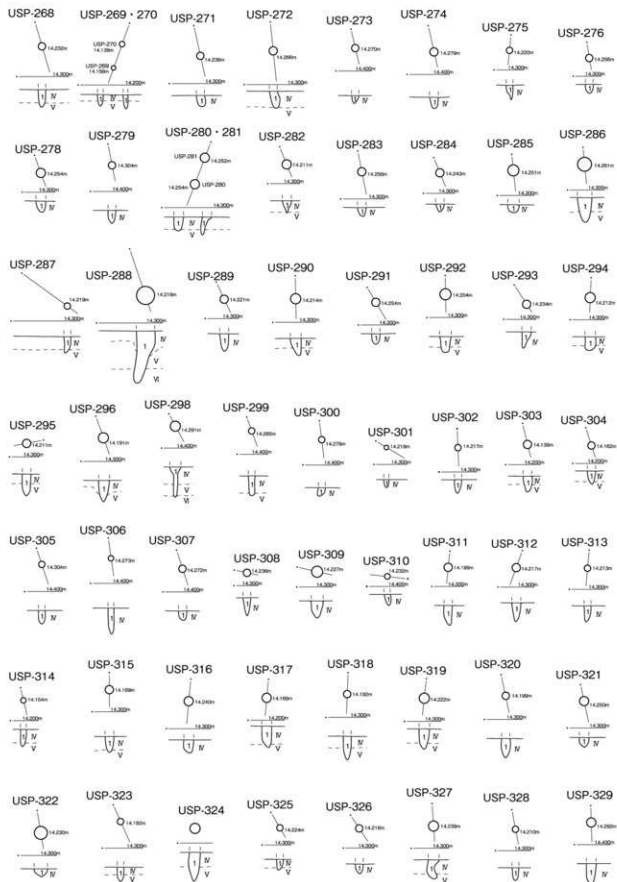
図Ⅱ-24 USP (6)



※土層基準は、図Ⅱ-27 下段参照

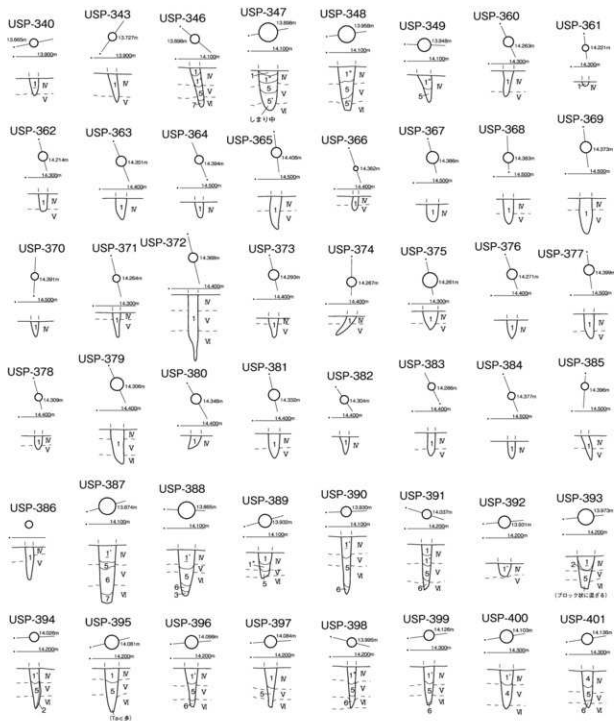
図Ⅱ-25 USP (7)

II 祝梅川上田遺跡



※土層基準は、図Ⅱ-27 下段参照

図Ⅱ-26 USP (8)

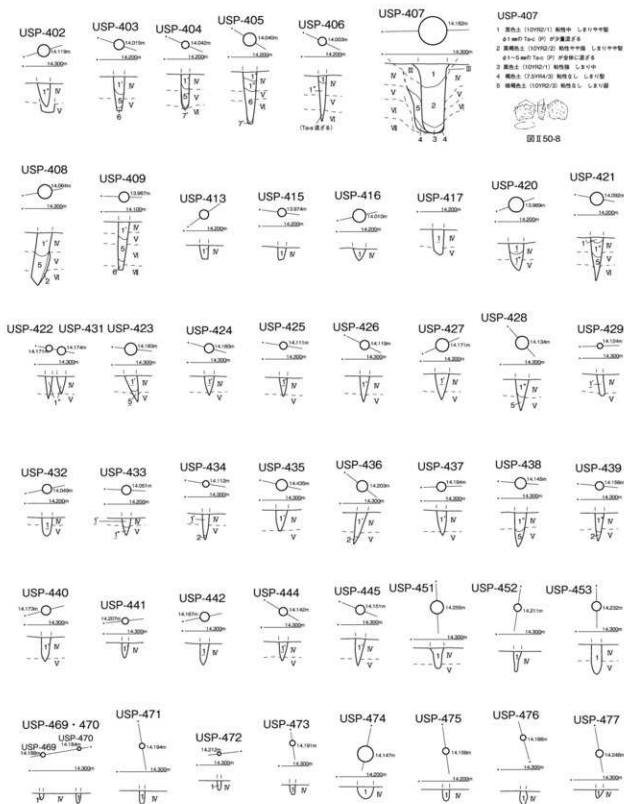


- 1 黒色土 (10YR2/1) 壤土 粘性なし しまり少 目>N φ1-5mmの Tac (P) がまばらに混ざる
 - 1' 黒色土 (10YR2/1) 壤土 粘性なし しまり少 目>N φ1-5mmの Tac (P) が全体に混ざる
 - 1'' 黒色〜黄褐色土 (10YR2/1-2/2) 壤土 粘性中 しまり少 目>N φ1mm以下の Tac (P) が全体に混ざる
 - 2 褐色〜灰白色土 (10YR4-4/2) 壤土 粘性なし しまり多 厚層主軸
 - 3 黄褐色〜褐色土 (10YR3/4-4/4) 壤土 粘性なし しまり多 厚層主軸
 - 4 黄褐色〜褐色土 (10YR3/3-4/4) 壤土 粘性中 しまり少 目>N
 - 4' 暗褐色土 (10YR2/2) 壤土 粘性中 しまり少 目>N
 - 5 黒色土 (10YR2/1) 壤土 粘性中 しまり少 V>N φ1mmの Tac (P) がまばらに混ざる
 - 5' 黒色土 (10YR2/1) 壤土 粘性中 しまり多 N>V φ1-5mmの Tac (P) が混ざる
 - 5'' 黄褐色土 (10YR2/2) 壤土 粘性なし しまり中 N>V φ1mmの Tac (P) が混ざる
 - 6 暗褐色土 (10YR3/3) 壤土 粘性中 しまり中 V>N>VI φ1mmの Tac (P) が混ざる
 - 6' 暗褐色土 (10YR3/2) 壤土 粘性中 しまり中 N>V>VI
 - 6'' 黄褐色土 (10YR3/2) 壤土 粘性中 しまり少 V+VI
 - 7 黒色土 (10YR2/1) 壤土 粘性なし しまり少 目>N φ1-5mmの Tac (P) が混ざる
 - A 黒色土 (10YR2/1) 壤土 粘性なし しまり多 厚層主軸
 - ア 黄褐色土 (10YR2/3) 壤土 粘性中 しまり多 V>N>VI φ1-5mmの Tac (P) が全体に混ざる
 - B 暗褐色〜褐色土 (10YR3/4-4/4) 壤土 粘性中 しまり中 目>N>VI
 - β 暗褐色〜褐色土 (10YR3/4-4/4) 壤土 粘性中 しまり中 目>N>VI
- ※数字下に「」があるのは、「しまり量」のもの



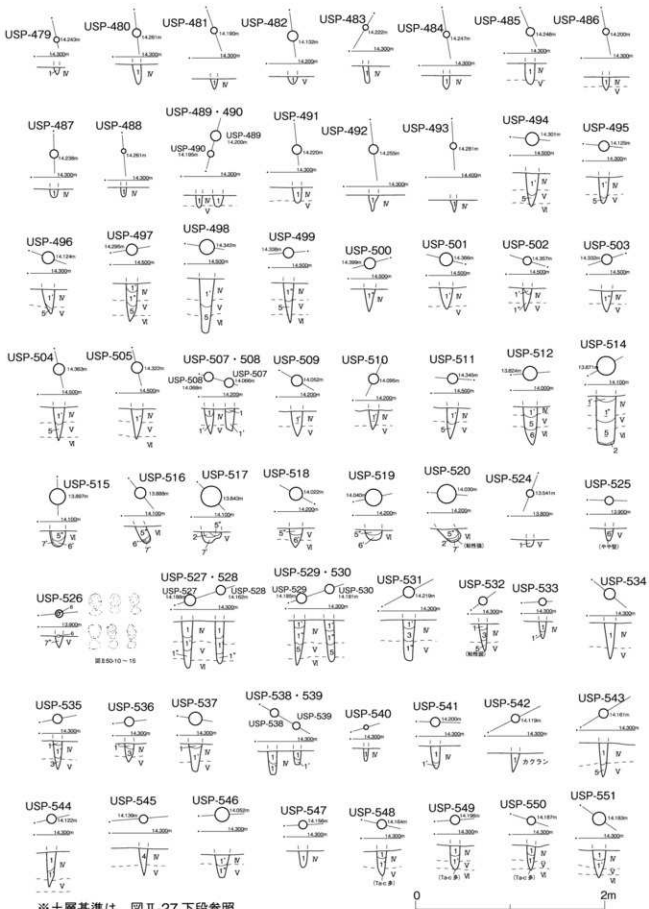
図Ⅱ-27 USP (9)

II 祝梅川上田遺跡



※USP-407以外の土層基準は、図II-27下段参照

図II-28 USP (10)



※土層基準は、図Ⅱ-27下段参照

図Ⅱ-29 USP (11)

d 土壌 (図Ⅱ-19~29)

土壌3基 (UP-1~3) が検出された。

UP-1 (図Ⅱ-30、表Ⅱ-4、図版Ⅱ-10)

位置：O-79 標高：13.3~13.8m

規模：0.92×0.67×0.44m 長軸方向：N-69°-W

確認・調査：Ⅳ層上面で楕円形の黒色土の落ち込みを確認した。短軸方向で半裁し、覆土が自然層と不整合であること、その落ち込みの形状に沿って覆土が堆積すること、覆土にⅢ層~Ⅳ層が混成することから、土壌と認定した。平面形状は楕円形を呈す。壙底は皿状で、わずかに傾斜し、壙口に向かって緩やかに立ち上がる。覆土は埋め戻しと考えられる。

性格：埋め戻しが行われていることから「土壌墓」の可能性はある。

時期：樽前c火山灰降下以降~樽前a火山灰降下以前。

(山田和史)

UP-2 (図Ⅱ-30、表Ⅱ-4)

位置：P-61 規模：0.70×0.58/0.30m 長軸方向：N-79°-W

特徴 平面が円形を呈すると考えられる土壌である。Ⅲ層中から掘り込まれたもので確認面はⅣ層上面である。底面は丸みを帯びており、壁はまっすぐに立ち上がっている。覆土は埋戻された可能性がある。遺物は出土していない。そう遠くない周囲には焼土、集石、柱穴などが位置しており、UP-2も含めてこれらは建物跡である可能性がある。性格は不明である。

遺物 なし。

時期 周囲の遺構などからアイヌ文化期の可能性がある。

(皆川洋一)

UP-3 (図Ⅱ-18、表Ⅱ-4、図版10)

位置：P-58 規模：0.68×0.68/0.38m 長軸方向：N-44°-E

特徴 平面が円形を呈すると考えられる土壌である。Ⅲ層中から掘り込まれたもので確認面はⅣ層上面である。底面は丸みを帯びており、壁はまっすぐに立ち上がっている。覆土は埋戻された可能性がある。遺物は出土していない。そう遠くない周囲には焼土、集石、柱穴などが位置しており、UP-2も含めてこれらは建物跡である可能性がある。性格は不明である。

遺物 なし。

時期 周囲の遺構などからアイヌ文化期の可能性がある。

(皆川洋一)

e 集石 (図Ⅱ-30~34、表Ⅱ-5・10)

集石4カ所 (US-1~4) が検出された。

US-1 (図Ⅱ-30・32・42、表Ⅱ-5・10、図版Ⅱ-12・21)

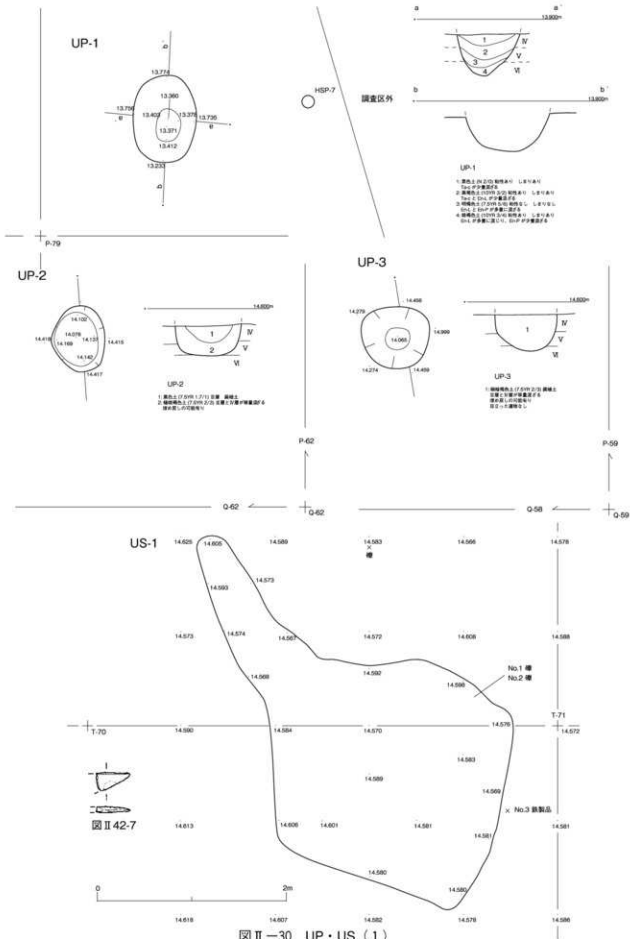
位置：S-70、T-70 標高：14.5~14.6m

規模：4.74×2.70m 長軸方向：N-72°-E

確認・調査：樽前c降下軽石層除去後、Ⅲ層上面で礫片が集中して出土する範囲が確認されたことから、「集石」として調査した。5cmの深度で2回掘り下げを行い、遺物は掘り下げた回数ごとに取り上げた。図中の標高値は遺物取り上げ後の標高値である。出土した礫片の多くは被熱しており、分布は散漫であるが、出土範囲内で接合することから、同一時期に形成されたものと考えられる。

出土遺物：Ⅲ層から礫105点 (礫片含む)、「集石」の範囲に接して鉄製品1点が出土した。

1 Ⅲ層の調査



II 祝梅川上田遺跡

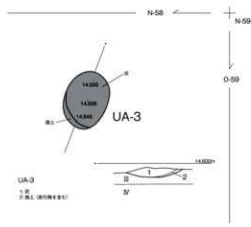
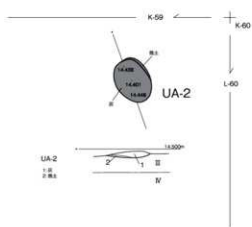
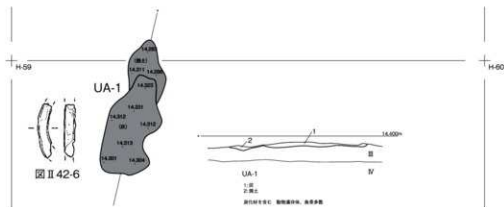
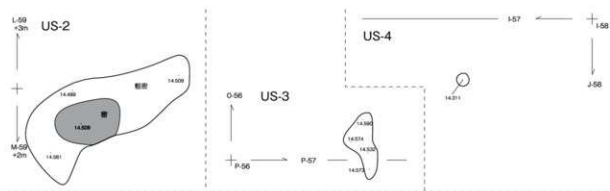


圖 II-31 US (2) · UA

時期：出土層位から1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。

(山田和史)

US-2 (図Ⅱ-31.33、表Ⅱ-5・10、図版11)

位置：L-59 規模：1.94×0.74m 長軸方向：N-20°-W

特徴 III層中に確認した棒状礫で構成された集石である。攪乱の影響を受けておらずほぼ原位置で見つかり、各礫は中央部分で密に、周辺では粗密に分布している。周辺には柱穴が少ないため、簡単な上屋内かあるいは元来外に存在したものと考えられる。「ピット」と考えられる。

遺物 棒状礫。

時期 周囲の状況と棒状礫からアイヌ文化期の可能性がある。(皆川洋一)

US-3 (図Ⅱ-31、表Ⅱ-5・10)

位置：O-56、P-56 規模：0.7×0.31m 長軸方向：N-78°-W

特徴 III層中に確認した棒状礫で構成される集石である。攪乱の影響を受けているがほぼ原位置と思われる。周辺には柱穴や焼土が検出されているため、建物跡に伴う可能性がある。「ピット」と考えられる。

遺物 棒状礫。

時期 周囲の状況と棒状礫からアイヌ文化期の可能性がある。(皆川洋一)

US-4 (図Ⅱ-31.34、表Ⅱ-5・10)

位置：I-57 規模：0.13×0.12m 長軸方向：N-52°-E

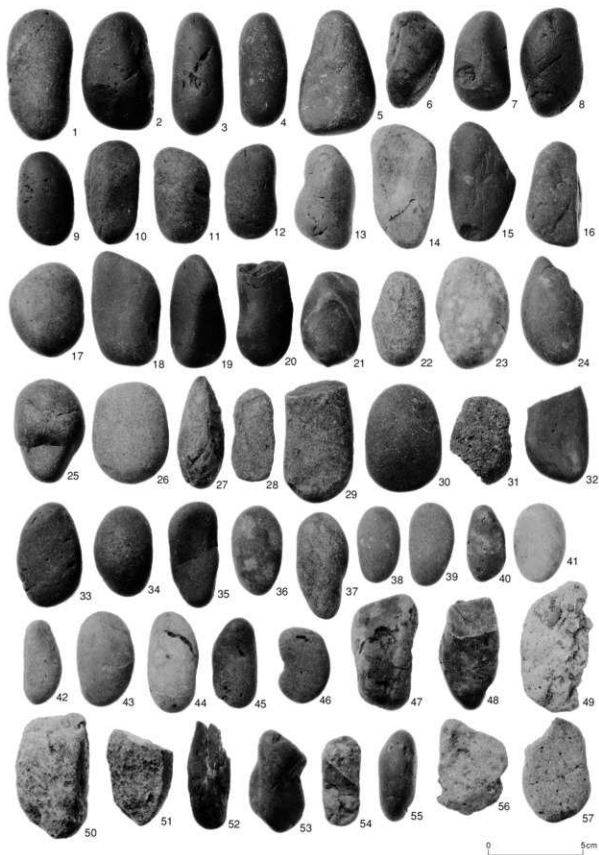
特徴 III層中に確認した小礫で構成される集石である。攪乱の影響を受けているがほぼ原位置と思われる。周辺には焼土(UF-6)が検出されている。柱穴は見られないが、簡易な建築物に伴う可能性もある。

遺物 小礫。

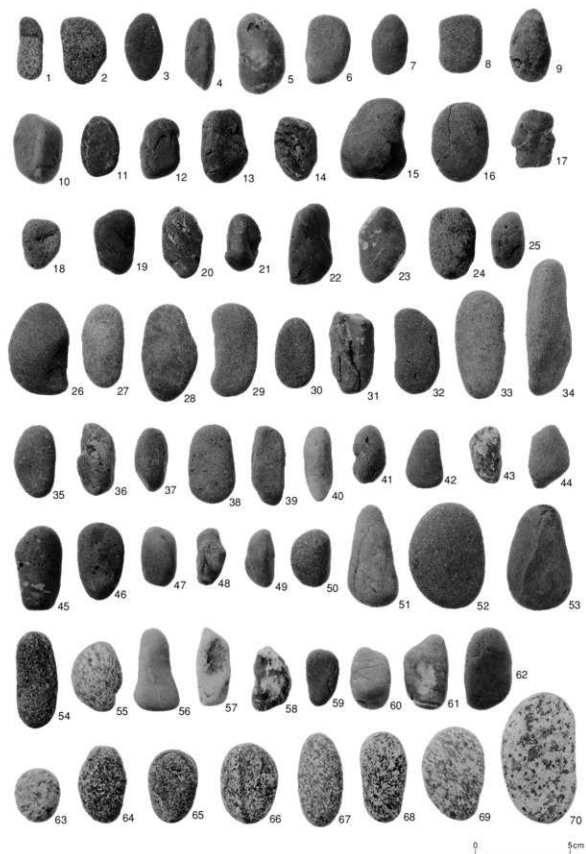
時期 周囲の状況からアイヌ文化期の可能性がある。(皆川洋一)



図Ⅱ-32 USの遺物(1)



図II-33 USの遺物(2)



図II-34 USの遺物(3)

f 灰集中 (図Ⅱ-31、表Ⅱ-6、図版-10)

灰集中4カ所(UA-1~4)が検出された。

UA-1 (図Ⅱ-31、表Ⅱ-6)

位置: I-59, H-59 規模: 1.46×0.55m 長軸方向: N-61°-W

特徴 III層中で確認した灰集中で、一部に焼土を伴っている。一部に擾乱の影響を受けているがほぼ原型を保っていると思われる。平面形は東西を軸に長く伸びるもので西端部に焼土が位置している。灰と焼土からは動物や魚類の遺存体、貝類の破片が多数検出されている。東側にはUH-2が位置しており、同一個体の鉄鍋片がどちらからも出土していることからそれに関わる可能性が高い。UH-2に関わる「灰送り場」の可能性もある。

遺物 鉄製品。

時期 周囲の状況からアイヌ文化期の可能性がある。(菅川洋一)

UA-2 (図Ⅱ-31、表Ⅱ-6、図版Ⅱ-10)

位置: K-59 規模: 0.49×0.36m 長軸方向: N-62.5°-E

特徴 III層中で確認した灰集中で、一部に焼土を伴っている。平面は東西を軸にする楕円形で西端部に焼土が位置している。灰と焼土からは細かい動物や魚類の遺存体が検出されている。近接する西側にはUH-2が位置しており、そのHSP-1~3は位置的に近くUA-2とセットで考えるべきかもしれない。UA-2はUH-2に関わる「灰送り場」の可能性もある。

遺物 なし

時期 周囲の状況からアイヌ文化期の可能性がある。(菅川洋一)

UA-3 (図Ⅱ-31、表Ⅱ-6、図版Ⅱ-10)

位置: N-58 規模: 0.62×0.46m 長軸方向: N-66°-W

特徴 III層中で確認した灰集中で、一部に焼土を伴っている。平面は東西を軸にする楕円形で西端部に焼土が位置している。灰と焼土からは細かい動物や魚類の遺存体が検出されている。周囲にはやや離れてUS-2やUF-2が位置する。なかでもUF-2の周辺には柱穴が多く検出されており、擾乱で失われた建築物の可能性もある。それらに関わる「灰送り場」の可能性もある。

遺物 なし

時期 周囲の状況からアイヌ文化期の可能性がある。(菅川洋一)

UA-4 (図Ⅱ-31、表Ⅱ-6)

位置: P-77 標高: 14.2m 付近

規模: 0.20×0.14m

長軸方向: N-68.5°-E

確認・調査: III層包含層調査中に、楕円形の灰の集中が確認された。長軸方向で半裁し、灰集中であることを確認した。灰の層界は明瞭で、レンズ状に堆積する。明確な焼成痕はみられないが、焼土粒をごくまばらに含む。近接してまとまって出土した擦文文化期の土器片は、灰層下面と近似する標高で出土していることから、同一時期のものと判断される。

出土遺物: III層から擦文文化期の土器片が出土している。

時期: 出土層位、出土遺物の特徴から擦文文化期と考えられる。(山田和史)

g 焼土 (図Ⅱ-35、36)

焼土14カ所 (UF-1~14) が検出された。

UF-1・4・5 (図Ⅱ-35・49、表Ⅱ-7・12、図版Ⅱ-11・30)

位置：P-70 (UF-1) ・71 (UF-4・5) 標高：14.3~14.6m

規模：UF-1：1.06×0.58m UF-4：1.45×0.77m UF-5：0.47×0.18m

長軸方向：UF-1：N-29.5°-E UF-4：N-39.5°-E UF-5：N-41°-W

確認・調査：Ⅲ層包含層調査中に、不整形な焼土が3基確認され、長軸方向で半載した。UF-1は、焼成の強い範囲は一部で(1層)、大部分に黒色土が混ざり(2層)、層界は不明瞭で波状を呈す。UF-4は、層界が明瞭だが、焼成は弱く、下面は波状。UF-5は、焼成の強い範囲は一部で(1層)、大部分に黒色土が混ざり(2層)、層界は不明瞭で断面はレンズ状。出土遺物は、UF-5の東側で擦文文化期の土器片の集中がみられ、UF-1・4・5の周囲で被熱した礫片が散漫に出土した。これらの遺物は焼土下面と近似する標高で出土しており、同一時期に形成されたものと考えられる。

出土遺物：Ⅲ層から擦文文化期の土器片、礫16点、UF-4の1層上面から礫2点が出土した。

時期：出土層位、出土遺物の特徴から擦文文化期と考えられる。(山田和史)

UF-2 (図Ⅱ-35、表Ⅱ-7、図版Ⅱ-11)

位置：O-57 規模：0.68×0.31m 長軸方向：N-81°-W

特徴 Ⅲ層中で確認した焼土である。平面は東西を軸にする長楕円形を呈し、厚みは最大で4cmを測る。焼土中からは細かい動物や魚類の遺存体が検出されている。UF-2の周辺には柱穴が多く検出されており、周囲にはやや離れてUS-2やUA-3が位置する。これらは攪乱で失われた建物跡の可能性もある。UF-2はその建物跡の炉跡の可能性もある。

遺物 なし

時期 周囲の状況からアイヌ文化期の可能性もある。(皆川洋一)

UF-3 (図Ⅱ-35、表Ⅱ-7、図版Ⅱ-10)

位置：H-62 規模：0.24×0.20m 長軸方向：N-46.5°-E

特徴 Ⅲ層中で確認した小形の焼土である。平面は不整の円形を呈するが、Ⅲ層の攪乱で原型をとどめていない。周辺には柱穴が少なく性格は不明である。

遺物 なし

時期 アイヌ文化期の可能性もある。(皆川洋一)

UF-4 (図Ⅱ-35、表Ⅱ-7)

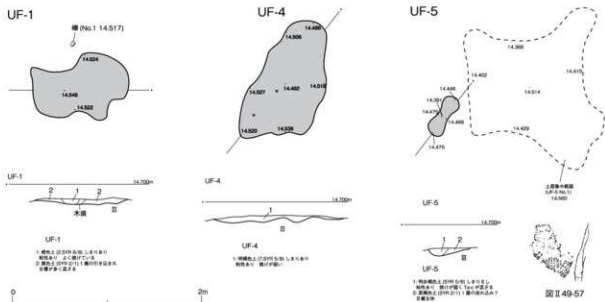
位置：P-71 規模：1.45×0.77m 長軸方向：N-39.5°-W

特徴 Ⅲ層中で確認した小形の焼土である。平面は不整の円形を呈するが、Ⅲ層の攪乱で原型をとどめていない。周辺には柱穴が少なく性格は不明である。

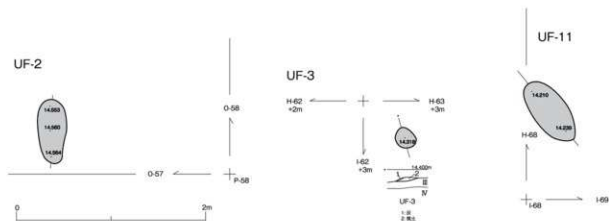
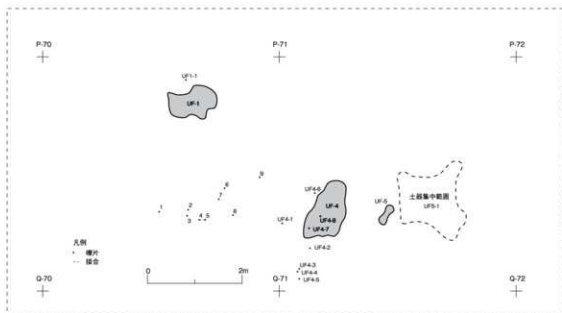
遺物 なし

時期 アイヌ文化期の可能性もある。(皆川洋一)

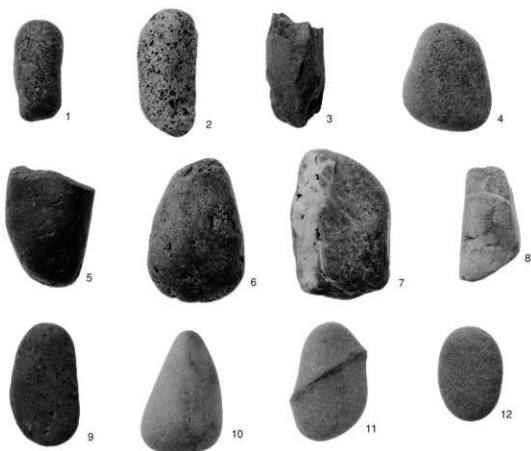
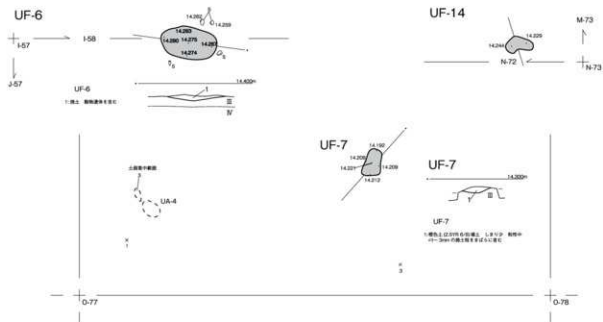
Ⅱ 祝梅川上田遺跡



図Ⅱ-49-57



図Ⅱ-35 焼土(1)



図II-36 焼土(2)

UF-6 (図Ⅱ-36、表Ⅱ-7、図版Ⅱ-11)

位置：H-57・I-57 規模：0.60×0.34m 長軸方向：N-32.5°-E

特徴 Ⅲ層中で確認した焼土である。平面は南北を軸にする楕円形を呈する。焼土中には微細な動物や魚類などの遺存体が多数含まれている。遺物は近接して礫(図Ⅱ-35-9~12)が出土している。周辺からはUS-4が検出されている。性格は不明である。

遺物 礫

時期 アイヌ文化期の可能性がある。(菅川洋一)

UF-7 (図Ⅱ-36、表Ⅱ-7)

位置：P-77 標高：14.2m 付近

規模：0.32×0.29m

長軸方向：N-47°-W

確認・調査 Ⅲ層包含層調査中に、不整形な焼土が確認され、長軸方向で半裁した。焼土の層界は明瞭で、断面はレンズ状を呈す。焼成は弱く、焼土粒をまばらに含む。西側にはUA-4が位置しており、焼土の構築面がUA-4と近似することから、両者は同一時期に形成されたものと考えられる。

時期：出土層位、UA-4の出土遺物の特徴から擦文文化期と考えられる。(山田和史)

UF-11 (図Ⅱ-35、表Ⅱ-7)

位置：H-67・68 規模：0.75×0.36m 長軸方向：N-47°-W

特徴 Ⅲ層中で確認した焼土である。平面は南東-北西を軸とする楕円形を呈する。攪乱によって完全に浮き上がっているため原位置は保っていない。UH-5の炉跡(HF-1)の焼土である可能性が高い。

遺物 なし

時期 アイヌ文化期の可能性がある。(菅川洋一)

UF-12 (図Ⅱ-36、表Ⅱ-7)

位置：H-67・68 規模：0.46×0.36m 長軸方向：N-55.5°-E

特徴 Ⅲ層中で確認した焼土である。平面は南東-北西を軸とする楕円形を呈する。被熱による土壌の赤化は弱く、焼土中からは微細な動物や魚類などの遺存体が僅かに含まれている。周辺には多数の柱穴が検出されており、UH-5にも近い。建物跡の炉跡の可能性もある。

遺物 なし

時期 アイヌ文化期の可能性がある。(菅川洋一)

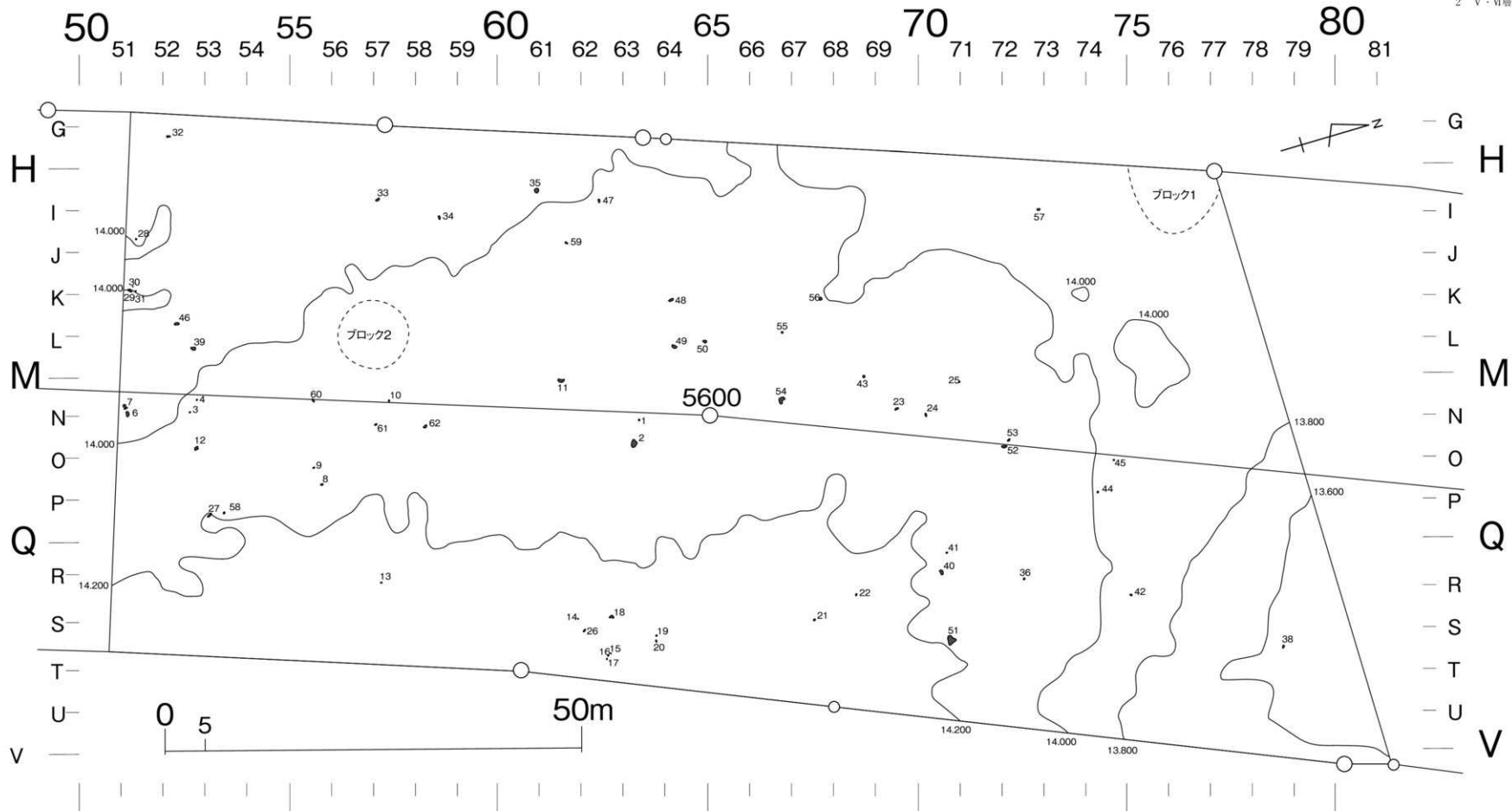
UF-13 (図Ⅱ-36、表Ⅱ-7)

位置：H-63 規模：0.44×0.38m 長軸方向：N-59°-W

特徴 Ⅲ層中で確認した焼土である。平面は南東-北西を軸とする楕円形を呈するが一部に攪乱を受けている。被熱による土壌の赤化は弱い。周辺には柱穴も少なく性格は不明である。

遺物 なし

時期 アイヌ文化期の可能性がある。(菅川洋一)



図Ⅱ-37 V～VI層遺構配置図（地形はV層上面）

2 V・VI層の調査

V～VI層から土壙2基（LP-1・2）、焼土62カ所（LF-1～62）、旧石器の石器ブロック2カ所が検出されている。なお、旧石器に関してはII章4節で扱う。

a 土壙（図II-38）

土壙2基（LP-1・2）が検出されている。

LP-1（図II-38・50、表II-8・13、図版II-17・31）

位置：H-76 標高：13.4～13.8m

規模：0.52×0.30×0.12m

長軸方向：N-40°-W

確認・調査：V層包含層調査中に、安山岩製の石皿が出土していたがV層中で掘込みは確認されなかった。VI層上面で台石の周囲に褐色土の不整形な落ち込みを確認し、短軸方向で半載したところ、VII層の軽石を含む細粒な褐色土が自然層位と不整合に堆積していたため、掘込みを持つ土壙と判断した。壙口、壙底の平面形状は、石皿の形状に沿うように不整形を呈し、壙底は最深部でVII層に達する。断面形状は短軸方向で浅い皿状、長軸方向では壙底が凹凸となる皿状を呈す。壙底から壙口へは石皿の外形に沿って緩やかに立ち上がる。覆土は1層のみで、黒色土が混ざらないことから、掘込み面はVI層と考えられる。また、覆土がよく混成していること、壙底から壙口までの比高差がないことから、崩落土などの自然流入土ではなく、埋め戻しと考えられる。石皿は、磨面が西側に向き、東側に傾斜して倒立する形で、壙底からわずかに上位で出土した。

出土遺物：覆土1層から安山岩製の石皿1点が出土した。

時期：掘込み面、覆土の特徴から縄文時代早期以前と考えられる。（山田和史）

LP-2（図II-38、表II-8）

位置：R-67 規模：1.18×0.60/0.40m 長軸方向：N-49°-E

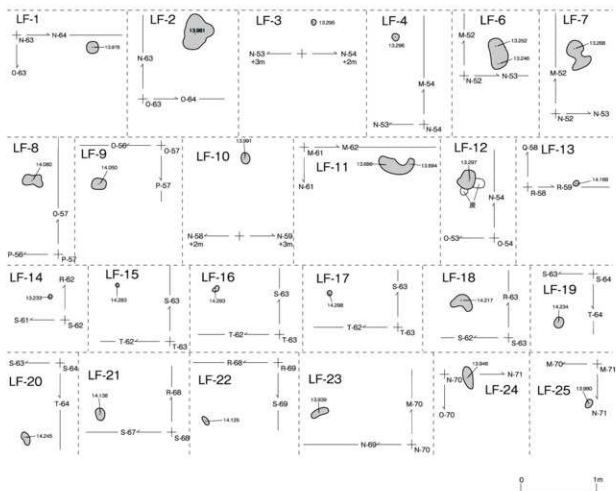
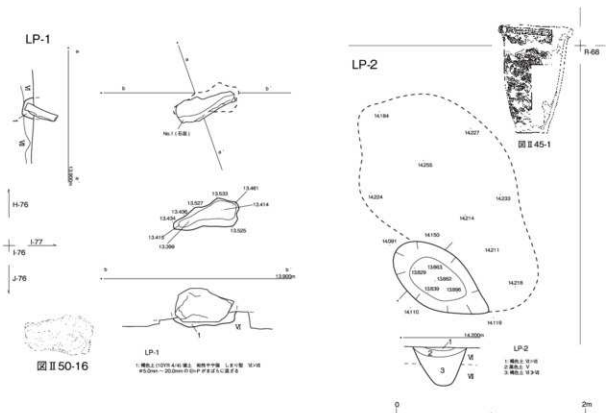
特徴 V層中で確認した小形の土壙である。平面は不整の楕円形を呈するが、東側の一部が風倒木と重複している。波線の範囲から破片状の北筒式土器一団が出土しており覆土2層にその一部が混入していた。この土器は副葬されたものなら土壙墓の可能性もある。

遺物 土器

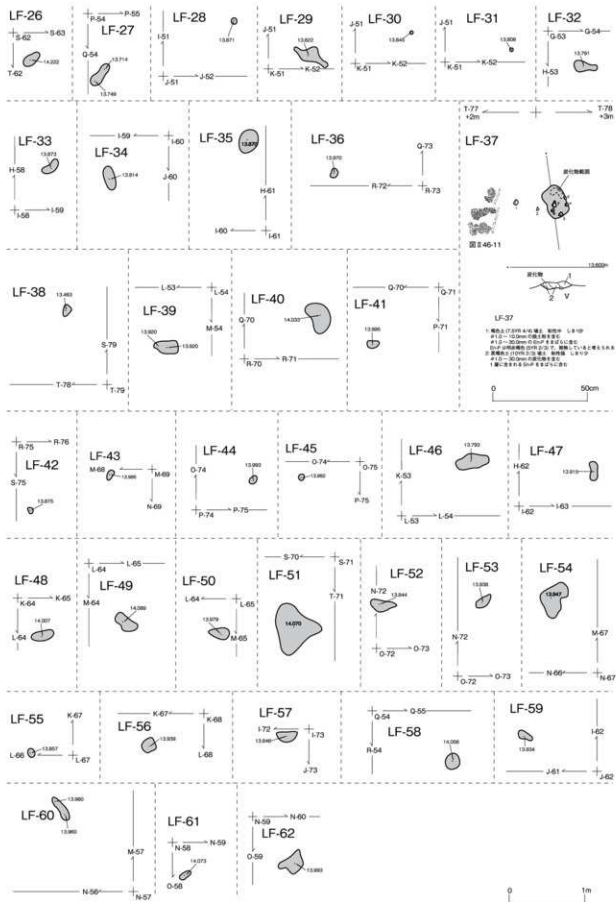
時期 縄文中期後半の可能性もある。（皆川洋一）

b 焼土（図II-38・39、II-9）

焼土62カ所（LF-1～62）が検出されている。大半がV層とVI層の境目ぐらいから見つかっており、遺物を伴うものも少なく人為的痕跡が乏しい。唯一、LF-37だけに図II-46-11で示した東銅路IV式土器が伴う。LF-37は縄文早期末葉の焼土と考えられる。



図II-38 土壌・焼土(1)



図II-39 焼土(2)

3 遺物 (図Ⅱ-40~61、表Ⅰ-1)

鉄製品類28点、土器2,635点、石器類2,726点(縄文以降)、旧石器類6,423点が出土している。

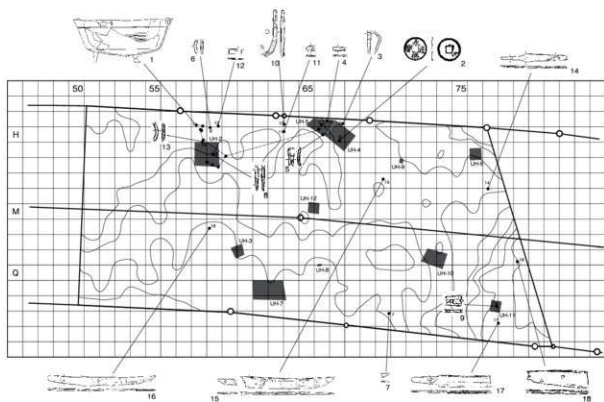
a 鉄製品 (図Ⅱ-40~44、表Ⅱ-11、図版Ⅱ-11・12・21~26)

鉄製品類は鉄鍋、鉞、刀子、マレック、角釘、古銭(永楽通宝)などで合計28点が出土した。全てアイヌ文化期のもと考えられ、この時期としては比較的豊富な資料といえる。

1~13は遺構から出土している。1はUH-2とUH-4とにまたがって出土した内耳鉄鍋である。内耳は口縁部から上に飛び出しており機能的にはやや疑問が残る。破損したため修理した可能性がある。足は3本で内1本は欠失している。湯口は楕円形を呈している。遺跡内から破片11点で出土しており、それらはUH-2とUH-4、さらにUA-1の周辺に分布する。UA-1で送られたものが、再利用目的でUH-2とUH-4に持ち込まれた可能性がある。

2はUH-4から出土した永楽通宝(1411年~)である。1点だけが出土した。3~5もUH-4から出土した。3は折れ曲がった角釘、4・5は板状の鉄製品である。6はUA-1で出土した角釘である。1の鉄鍋とともにUA-1で送られた可能性がある。7はUS-1から出土した刀子の切っ先部である。8はUF-2で出土した角釘の先端~胴部、9はUH-11の炉跡(HF-1)から出土した刀子の茎である。10はUSP-108から出土したマレックで、欠失した先端部に向かって両側面に溝が切られている。11はUSP-234出土の鉄製品片である。12・13はUH-2出土で、12は刀子、13はマレックの一部と考えられる。

14~18は包含層出土のものである。14は小形の刀子で先端部が欠失している。15・16は太刀あるいは刀子である。17・18は鉞として用いられたもので、峰あるいは背に敲打された痕跡が見られる。17は太刀を再利用したものであろう。



図Ⅱ-40 鉄製品分布図

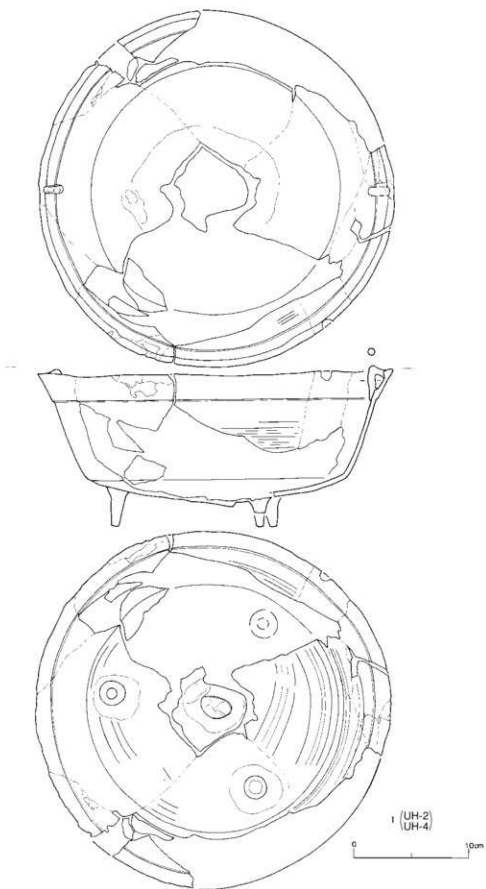
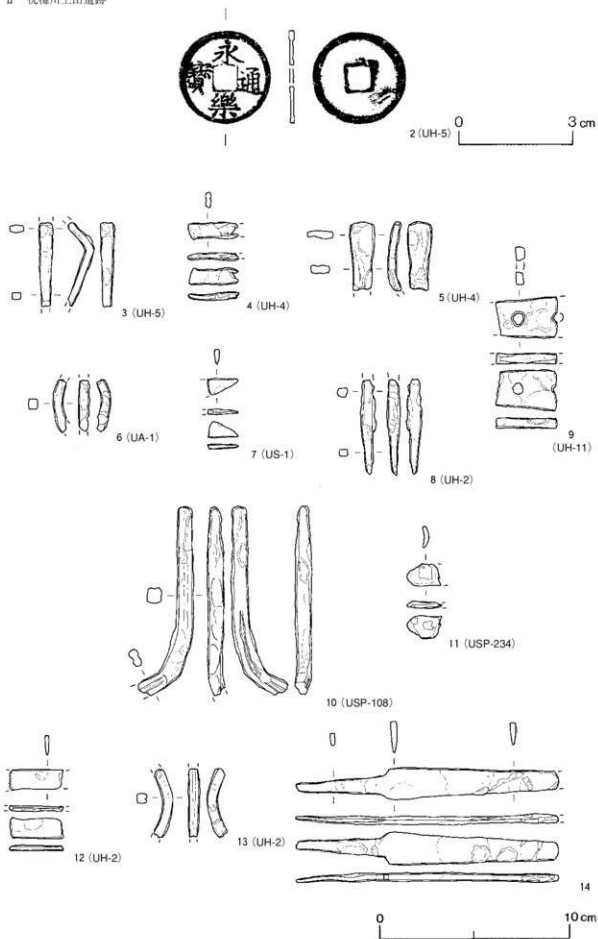


图 II-41 鉄製品 (1)



図II-42 鉄製品(2)

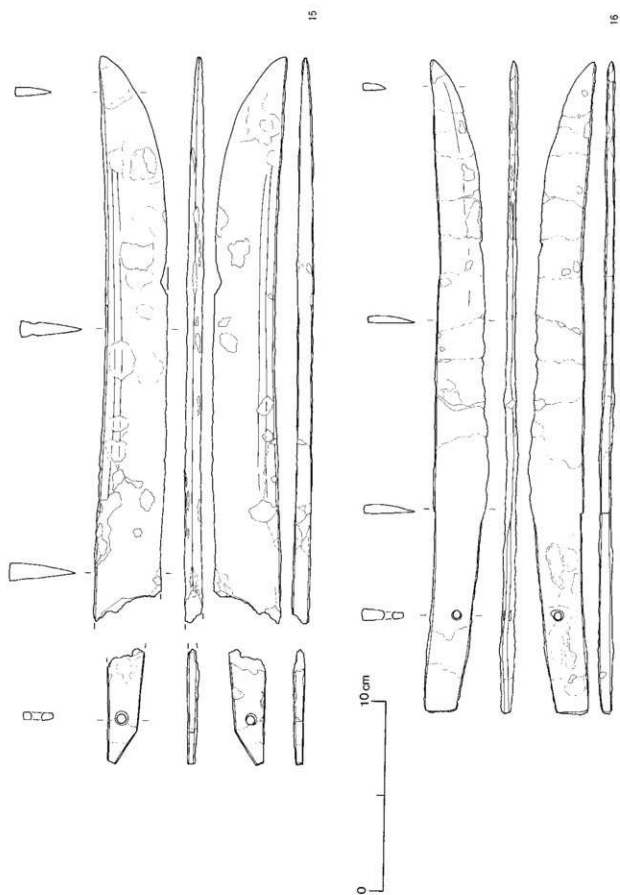
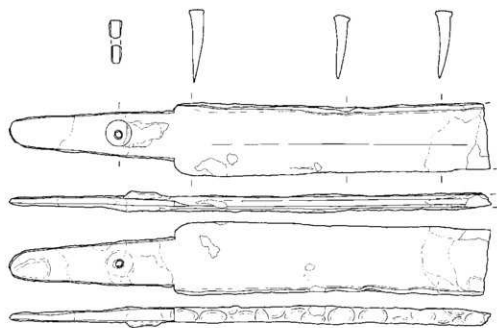
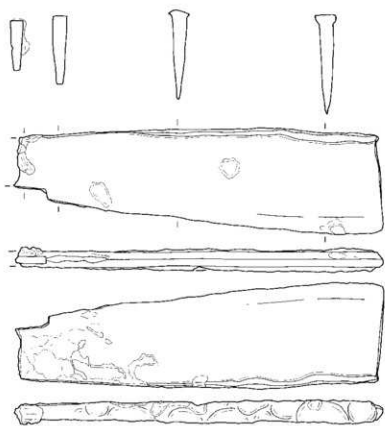


图 II-43 鉄製品 (3)



17



18

0 10 cm

図II-44 鉄製品(4)

b 土器 (図Ⅱ-45~49、表Ⅱ-12、図版Ⅱ-27~30)

土器は縄文早~晩期、統縄文、擦文土器などが出土している。比較的多かったのは縄文早・中期と擦文文化期のものである。

1はLP-2に伴うⅢ群b類土器である。所謂北筒式土器で口唇部と口縁部肥厚帯上には寛鈿の施文具による横位の刻みが巡らされ、その直下には外から斜め上に向かう刺突文が巡らされている。地紋は太目の原体を用いた結束の羽状縄文である。2はJ~M-76~78の広い範囲に破片が散逸して出土した擦文土器である。口縁部には刻文、頸部には沈線による文様が巡らされている。胴部には粘土紐上にきつく巻いた布の端部を押圧したものを2段巡らせている。

3、4はI群b-2類土器(コッタロ式)である。3は縄線文の施された口縁部を持つもので、口唇部には同じ原体を使った刻みが、胴部には斜行縄文が施されている。4は胴部で細い原体による羽状の斜行縄文と縄端部の刺突文が施されている。5はI群b-3類土器(中茶路式)としたものである。器壁は薄く、口唇部の断面は先端が丸みを帯びたところが気味のもので、口縁から胴部の全面に極細の原体を用いた絡条体圧痕文が施されている。I群b-4類土器の古手としても良いかもしれない。

6~45はI群b-4類土器(東鋼路Ⅳ式)である。今回最も多く出土した土器で、東鋼路Ⅳ式の中で最も新手法の土器群である。器形は丈の短い深鉢形で底部は不安定な尖底に近い平底、器壁は比較的厚く、施文原体には太目のものが使われる傾向にある。大きな特徴である撚糸文状の縄文も菱形を構成するものが多くなる。また、魚骨文が1点だけ出土している(図Ⅱ-44-13)。これらの、分布状況を見ると環状に分布する様子が窺える(図Ⅱ-54上段)。

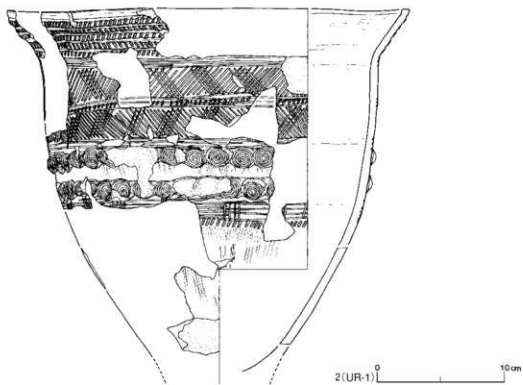
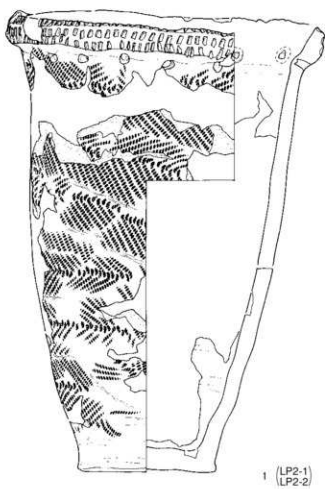
東鋼路Ⅳ式土器の時期には「環状の遺物分布」という特徴的な遺物の出土状況がある。これは住居遺構を伴わない遺物散布の状況で、これまでは主に美沢川流域の遺跡群で認められてきた。遺物量と密接に関連することから、存在の可能性は道東・道北地域において低く、道央、道南部においては高いだろう。特に、美沢川流域では環の内側から足形付土製品を伴う墓が見つかっており、同様の墓が見つまっている函館地域ではその可能性が特に高いと考えられる。

6~20の地紋は、比較的太目の原体を用いた撚糸文状の縄文である。6は口縁部に4本の縄の圧痕文とその上下にループ状の縄の圧痕文が巡らされたものがある。口唇の断面は角形である。7は地紋が羽状をなすもので、口唇部の内側と外側の角には縄の刻みが施されている。8は口唇直下の器面に地紋の原体を縦に押捺したものを巡らせたもので、その下位には縄線文が3段以上施される。9は口唇断面が角形の口縁部に3本の縄を押捺し巡らせた口縁部である。地紋原体は撚りが戻り気味で部分的に斜行縄文のように見える。10は太い原体で明瞭な施文の施された胴部で、胴下半部では条の間隔がやや乱れて密になっている。11も太い原体で明瞭な施文の施されたもので、部分的に菱形の文様構成が見られる。胴上半部には地紋と同じ原体の端部を強く押捺したものが数段巡らされている。11はLF-37に伴って出土している。12は縄で口唇部に刻みを口縁部に3本の縄線文を施している。

13は魚の脊椎骨を転がしながら押捺する魚骨文の施文された胴部小片で、施文具は大ききなどから恐らくニシンの脊椎骨が用いられたと考えられる。

14~18は口縁部に縄の端部を押捺したものを巡らせたものである。14の口縁は低い波状を呈する。17は口縁部の表裏に同一の文様が施されている。19、20は胴部で、太い原体を用いた撚糸文状の縄文が施されている。16、21、22は2本で一对の原体を用いた撚糸状の文様が地紋に施されている。22はそれを菱形に構成させている。

23~25は器壁が厚く胎土に繊維が混入する土器である。23、24は極太の縄の文様が施された胴部で、23の内面はきれいに研磨されている。中野式土器と考えられる。25は低い肥厚が巡る口縁部で、その



圖Ⅱ-45 土器 (1)

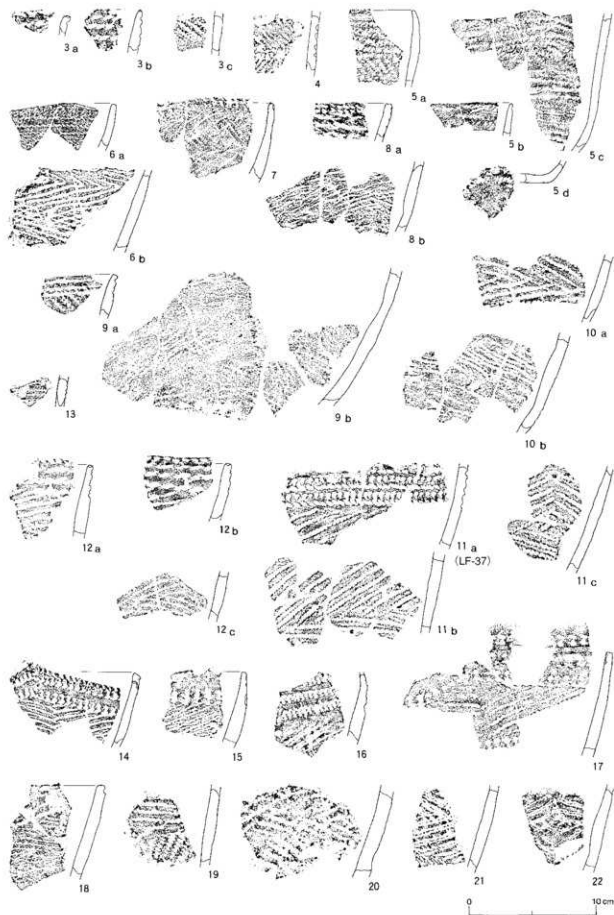
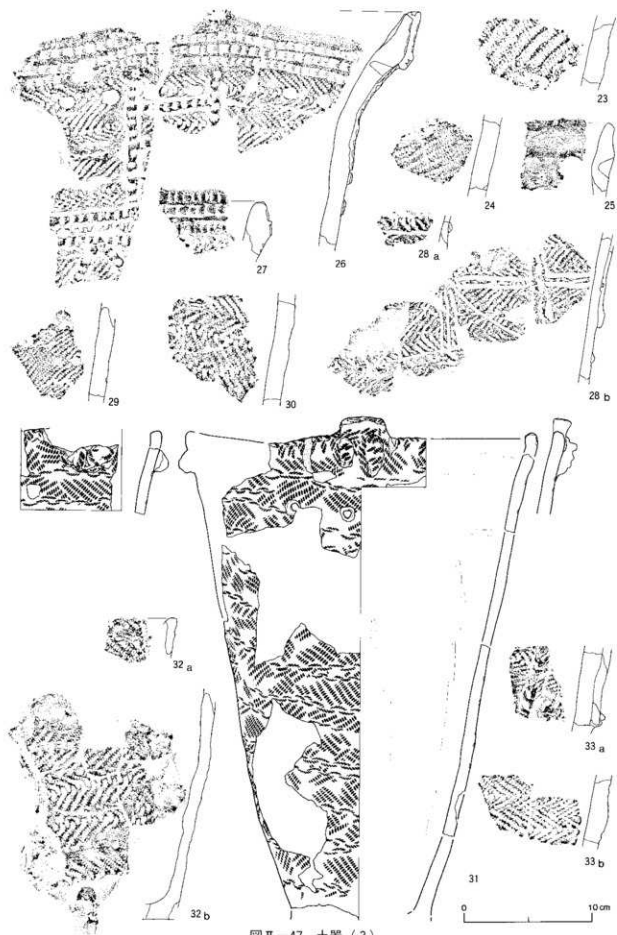


圖 II-46 土器 (2)



圖II-47 土器(3)

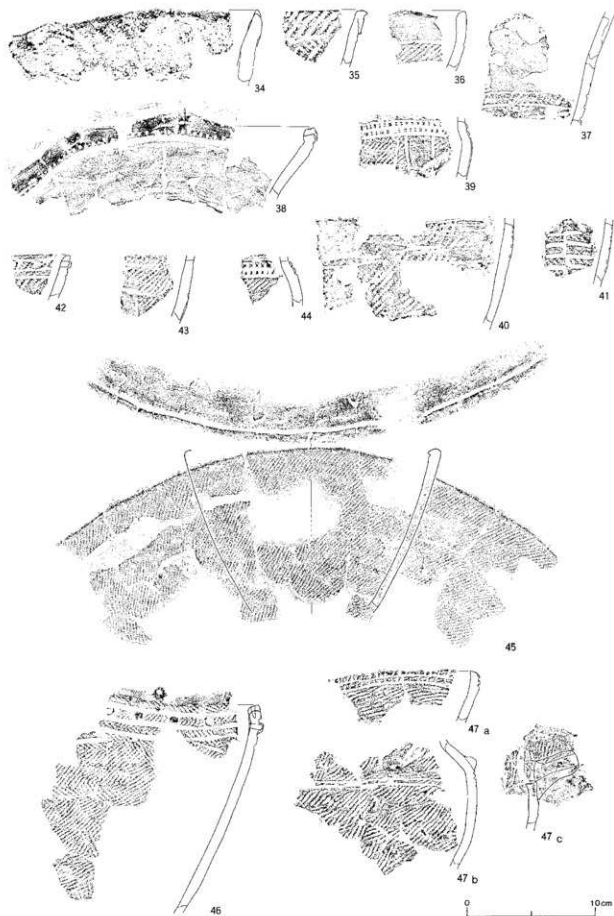
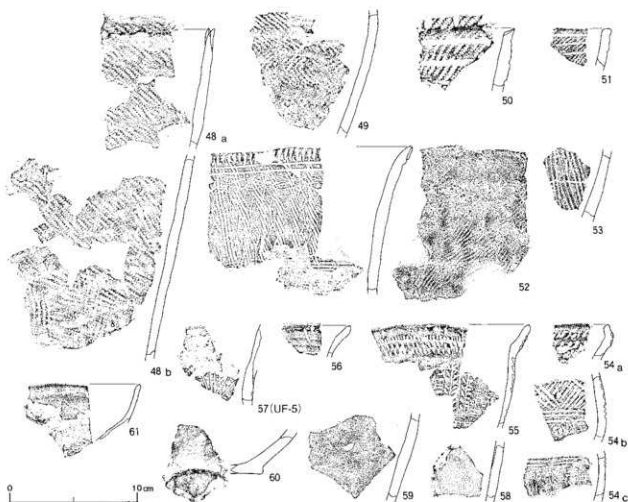


图 II-48 土器 (4)

下には指頭状の道具による刺突が施されている。胎土に繊維を含み器面には地紋が認められない。器形は円筒型になると推測される。土器形式は大麻V式か植苗式、あるいは宮本式の仲間かもしれない。

26~33は円筒形の深鉢器形を呈するⅢ群 b 類土器である。26は北筒式の大形深鉢形土器で、篋状の施文具で3段の刻み列を施された肥厚帯の直下には径1cmほどの棒状施文具による刺突文が巡らされ、その刺突の方向は斜め上に向かって施されている。地紋は結束羽状縄文と綾絡文で、その上から刻みの入る粘土紐が格子状に貼り付けられている。口唇と粘土紐の終点と交点には低い突起が設けられ、その上に棒状のもので刺突が加えられている。27も肥厚上に篋状の施文具で刻みが施されるもので、口唇部にも同じ施文がなされている。28は胴部で器面には爪先の様なもの刻みが施された粘土紐の貼付と沈線文で整った文様が構成されている。地紋は多条の原体を用いた結束羽状縄文で、内面が軽く研磨されている。30の地紋も28と同じである。29は斜行縄文と綾絡文が施されている。31は平縁に設けられた突起直下に二つの縦長の貼り付けが施された深鉢形土器である。地紋は綾絡文が付加する結束の羽状縄文で、口唇部と貼付上には同じ原体を用いて刻みが施されている。内面には軽い研磨が施されており、円筒上層式土器の特徴を濃く残している。32は結束羽状縄文を地紋とする小形の深鉢形土器で、断面角形の口唇にも同様の施文を施している。33も同様の地紋で、その上に断面が三角形の大柄の貼付がなされている。

34、35はⅣ群 a 類土器の口縁部で、34は胎土中に多数の小砂利を含むタブコブ式類似の土器、35は堅緻な胎土と肥厚口縁を有する余市式土器である。36~41、43、44はⅣ群 b 類土器で手桶、甕間



図II-49 土器(5)

式である。36、37は研磨部の下位に沈線で区切られた斜行縄文の文様帯を有する口縁部である。38は口縁が頸部から大きく開く深鉢形土器である。刻みのある口唇部には点々と等間隔に粘土の貼り付けられており、いくつかの貼り付けの上には一文字の刻みが施される。39～41、43、44は沈線で区切られた部分に斜行縄文が施される胴部である。39と44の平行沈線の間には刻みが施されている。

42、45～47はⅣ群c類土器で堂林式である。42、46は口縁部に内面からの突瘤を巡らす深鉢形土器、45は口唇直下の内側に沈線を巡らせ、器面に細い原体で斜行縄文の施された小形の深鉢土器である。47は注口土器である。

48～51はⅤ群c類土器でタンネトウL式である。48は口唇断面が尖る深鉢形土器で、その口唇部の内側には地紋と同じ斜行縄文が施され、表側には棒のようなもので刻みが入れている。49は一部が羽状になる胴部でⅣ群c類の可能性もある。50は断面が切り出し形を呈する口縁部で、器面と口唇部には斜行縄文が施され、その上から棒状施工具による刻みと平行沈線文が施されている。51の口唇断面は角形で、平行沈線文は細く浅い。また地紋の斜行縄文も細い原体が用いられている。

52、53はⅥ群土器である。52は断面が尖り気味の口唇部を持った、やや外に向かって開気味の口縁部である。口唇直下には細かいピッチで短い縦の沈線を入れており、その下位には菱形を基調とする幾何学的な沈線文を描いている。表面の地紋は縞状の縄文が施されるが、内面には斜行するものが施されている。縞縄文前半期のものであろう。53は縞状縄文の施された胴部片である。

54～61はⅦ群土器である。擦文土器（54～60）と須恵器（61）がある。54はUH-3の周辺から出土したもので、口縁部に刻文、胴部に沈線文が施される。55は刻文が主体でそれに沈線文が加わる口縁部、56は無文の口縁部である。57はUF-5に伴うもので沈線文の施された胴部である。58、59は胴部片、60は底部である。

61は還元焼成の不徹底な須恵器で坏の口縁部と考えられる。1点だけ出土している。（皆川）

c 石器 (図Ⅱ-50、表Ⅱ-13・14、図版Ⅱ-31)

UH-1 HA-1 出土の石器 (1)

たつき石1点、礫5点が出土。1点掲載。1は片麻岩製のたつき石で、器体の2/3以上を欠損する。扁平な楕円礫の側縁に剥離痕がみられる。

UH-3 出土の石器 (2~4)

礫器2点、すり石1点、礫5点が出土。3点掲載。2・3は砂岩製の礫器、2は楕円棒状礫の長軸の両端がわずかに敲打されている。3は扁平な板状礫の裏面中央部に敲打痕がみられる。4は泥岩製のすり石で、楕円礫の全周が磨面と考えられる。

UH-5 出土の石器 (5・6)

礫器2点、礫192点(礫片170点)が出土。2点掲載。5は楕円形を呈する軽石製の礫器、6は扁平楕円礫の側縁に剥離痕がみられる礫器である。

UH-7 HSP-7 出土の石器 (7)

礫1点が出土。7は側面形状がいびつな砂岩製の棒状礫。

USP-407 出土の石器 (8)

礫1点が出土。8は凝灰岩製の粗粒な扁平礫で、被熱しており、1/2以上を欠損する。

USP-456 出土の石器 (9)

礫1点が出土。9は凝灰岩製の不整形な扁平礫。

USP-526 出土の石器 (10~15)

礫6点が出土。全点掲載。10は砂岩製、11は片麻岩製の扁平な楕円礫。12は石材不明(凝灰岩?)の楕円礫、13は珪岩製の楕円礫、14は被熱して焼けはじけたいびつな泥岩製の円礫、15は安山岩製の角礫。大きさは均一であるが、形状、石材ともにばらつきがみられる。

Ⅲ層包含層出土の石器 (図Ⅱ-51、表Ⅱ-15、図版Ⅱ-32)

石鏃 (18・19)

2点掲載。黒曜石製。18は長身の凹基無茎。統縄文時代前半の土器に伴出する石鏃に形態が類似する。19は上下両端を欠損する。

スクレイパー (20・21)

2点掲載。20は黒曜石製、21は珪岩製。20は不定形剥片の周縁に円形の刃部が作出されている。上半を欠損する。21は軋礫面が残る縦長剥片の背面左側縁に腹面側からの急角度剥離による刃部が作出されている。

石斧 (22)

1点掲載。22は2点が接合し1個体となった。砂岩製。研磨調整以前の敲打痕が器体上半の表面と側面に残る棒状の両刃石斧である。

砥石 (23)

1点掲載。片麻岩製。扁平な不整形楕円礫の両面に研磨痕が残されている。

V層遺構出土の石器 (図Ⅱ-50、表Ⅱ-14、図版Ⅱ-31)

LP-1 出土の石器 (16)

石皿(16)1点が出土。安山岩製の扁平な大形の垂角礫を素材とする。側縁が剥離調整によって整形され、器体の片側全面が研磨されている。研磨面はわずかに窪んでいる。

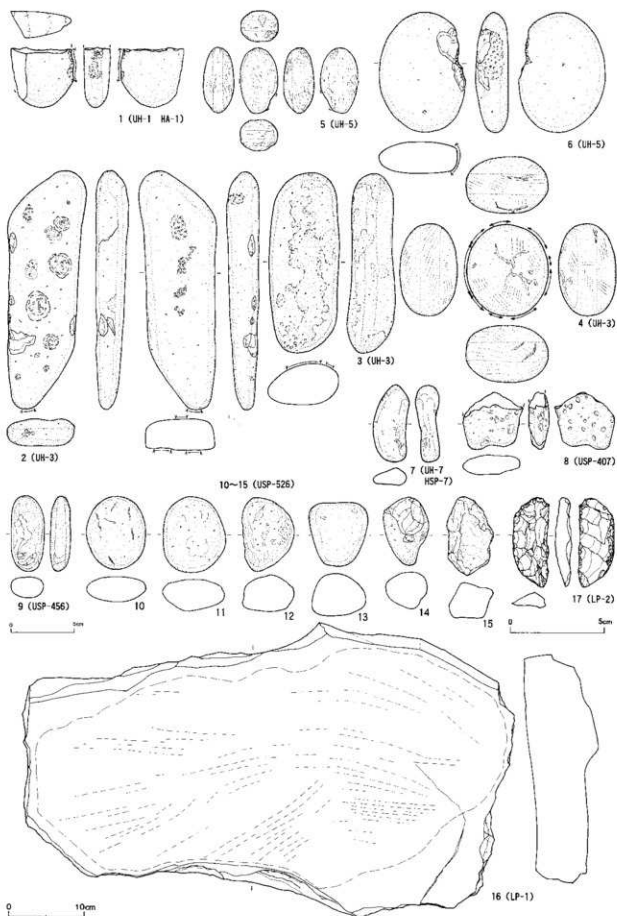
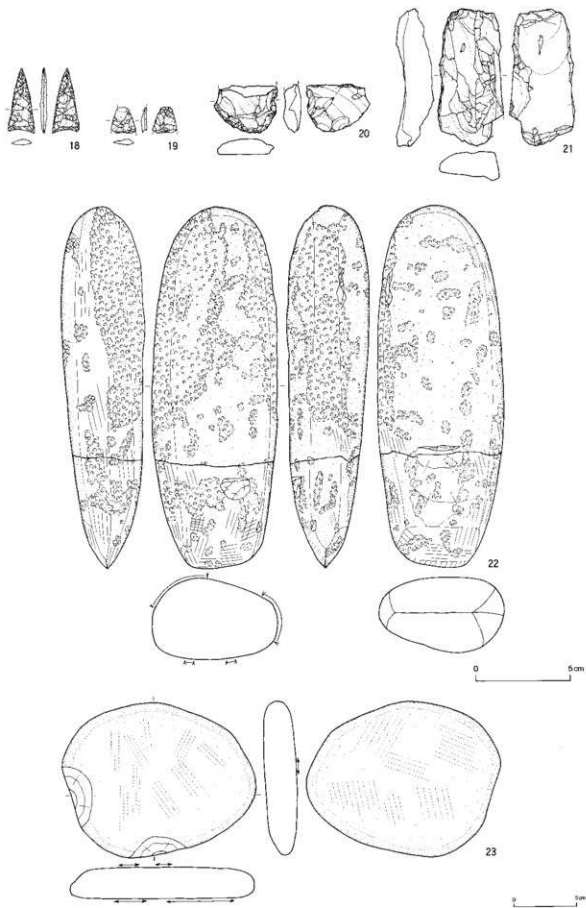
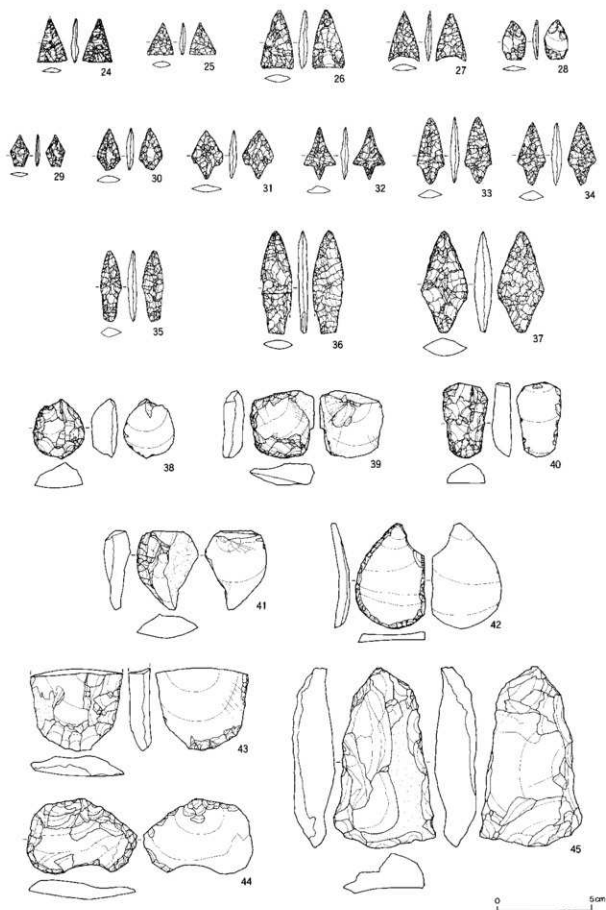


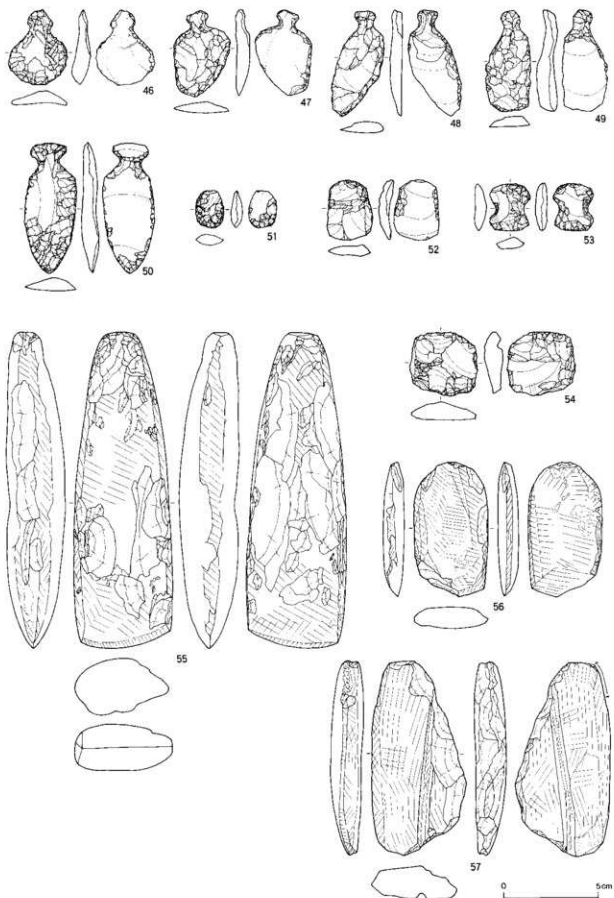
図 II-50 III層遺構の石器



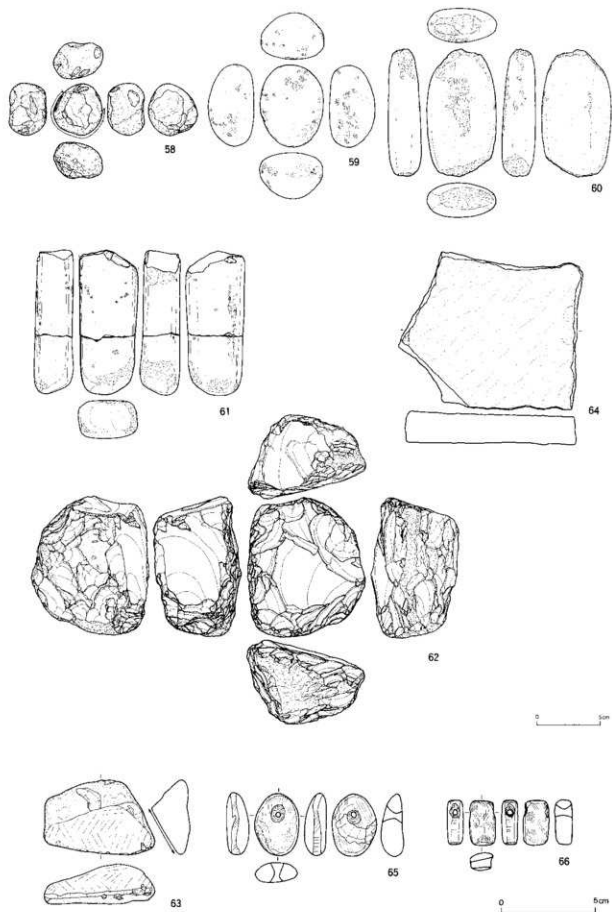
図II-51 III層の石器



図Ⅱ-52 V・VI層の石器(1)



図II-53 V・VI層の石器(2)



図II-54 V・VI層の石器(3)

LP-2 出土の石器 (17)

スクレイパー1点が出土。17は黒曜石製のスクレイパー。両面が平坦剥離により調整され、背面左側縁が弧状、背面右側縁が直線状となる刃部が作出されている。

V・V層包含層出土の石器 (図II-52~54、表II-16、図版II-32・33)

石鏃 (24~35)

12点掲載。24は頁岩製、25~35は黒曜石製。24・25は平基無茎、26・27は凹基無茎、28は円基、32は五角形、30は凸基有茎、31~34は平基有茎、12は凸基有茎で身部と茎部の返しが見取ではない。24~29・30・35は中期、29は早期、31・33~34は後期前葉から中葉、32は後期中葉の時期の土器に伴う石鏃に形態が類似する。

石槍 (36・37)

2点掲載。黒曜石製。36は柳葉形で、横断面が薄いレンズ状を呈す。折面で2点が接合し、1個体となった。欠損は左側縁と下端にみられ、左側縁の剥離痕は下端欠損時の衝撃剥離によるものとみられる。37は木葉有茎で、横断面が凸レンズ状を呈す。茎部に対し、身部がわずかに張り出す。

スクレイパー (38~45)

8点掲載。38~40は黒曜石製、42・43は頁岩製、41・44はメノウ質頁岩製、45はメノウ製。43は上半を欠損する。刃部、側縁調整は43、44のみ両面にみられるが、他は腹面側からの剥離による。38は打面と背面に岩屑面が残る厚手の剥片に、器体を円形に固る急角度の刃部が施されている。39は打面、背面、側面に岩屑面が残る内湾した剥片の末端に、急角度の刃部が施されている。40は両側縁に調整が施された縦長剥片の末端に刃部が施されたもので、平面はU字形を呈す。41は背面に転礫面が残る剥片の背面左側縁から末端にかけて弧状の刃部が施されている。42は幅広で薄手の内湾した剥片の周縁に刃部が施されたもので、平面は涙滴状を呈す。被熱しており、基部の一端を欠損する。43は大形、幅広で薄手の剥片の末端に、平坦剥離による刃部が施されている。腹面側が調整されたのち、背面側に刃部調整と側縁調整が施され、平面はU字形を呈す。器体上半を欠損する。44は転礫面が残る横長の不定形剥片を素材とし、素材両側縁から末端にかけて、軽微な調整による刃部が施されている。45は大形で厚手の縦長剥片を素材とする。器体正面が素材腹面側にあたる。背面側からの剥離で側縁が調整されたのち、器体長軸の下端に直線的な刃部が施され、平面は撥形を呈す。

つまみ付ナイフ (46~50)

5点掲載。46・50は黒曜石製、47~49は頁岩製。「つまみ部」は46・47が腹面側から、48~50は両面から調整されている。47・49は剥片を横位に用いて、素材右側縁側に「つまみ部」が作り出されている。刃部は46が円形、47は末端の先端が左側に向く斜刃のもの、48は剥片の打点側にT字形の「つまみ部」が作り出されたもので、刃部は末端が左側に向く斜刃のもの、49は両側縁が調整された縦長剥片の末端に急角度の直線的な刃部が作られている。「つまみ部」は円形を呈す。50は背面左側縁の下半から背面右側縁に剥片末端の形状が尖形となる平坦剥離調整が施されている。腹面側の先端にも調整がみられる。「つまみ部」はT字形である。

箆形石器 (51・52)

2点掲載。51は黒曜石製、52は頁岩製。51は貝殻状剥片を素材とし、刃部は素材背面側の左側縁の両面に施されている。52は背面の両側縁と末端に微細な剥離痕からなる刃部が施されたのち、腹面側の両側縁が平坦剥離により調整されたもので、素材となった剥片は単剥離打面である。側面形状は内湾する。

挟入石器 (53)

1点掲載。黒曜石製。背面に岩屑面がわずかに残る剥片を素材とし、器体長軸の上下端に平坦剥離による調整、両側縁の短軸上に挟入状の調整が施されている。調整は背腹両面にみられる。

ピエスエスキュー (54)

1点掲載。黒曜石製。平面は四辺形、断面は器体中央部が厚くなる凸レンズ状を呈する。長軸と短軸の対向する縁辺に階段状の微細な剥離痕がみられる。

石斧 (55~57)

3点掲載。55は緑色泥岩製、56・57はロジン岩製。55は全面が研磨される以前の剥離調整痕が両面にみられる棒状の直刃石斧である。56は側面が面取りされた全面研磨の扁平な両刃石斧で、刃部の一部を欠損する。57は扁平な素材の全面に研磨調整が施されたもので、器体両面に長軸方向の擦切痕が残されている。器体両面にみられる右側面側の剥離痕は、器体幅を減じるためのものと思われるが、剥離角が鈍角であること、剥離痕末端が階段状であることから、失敗品の可能性がある。

たたき石 (58~62)

5点掲載。58は橄欖岩製、59は安山岩製、60は片麻岩製、61は砂岩製、62は緑色泥岩製。敲打痕の位置は58が凹円盤の側面全周、59は楕円盤の表面と側面、60は不整楕円形を呈する扁平な碟の器体長軸の両端と表面の中央、61は直方体状の碟の左側面側下端にみられる。62は石核状を呈する大形角碟の上面、右側面、下面、裏面の剥離稜線上に敲打痕が残されるもので、器体にみられる剥離痕が鈍角となっていること、遺跡内で緑色泥岩製の剥片を素材とした定型石器が出土していないことから、器体に残る剥離痕は、敲打調整の際の衝撃剥離によるものと考えられる。

断面三角形のすり石 (63)

1点掲載。砂岩製。縦断面が三角形で、平面が不整四辺形の長辺に幅0.5cm、長さ9cm程の狭長な磨痕が残されている。

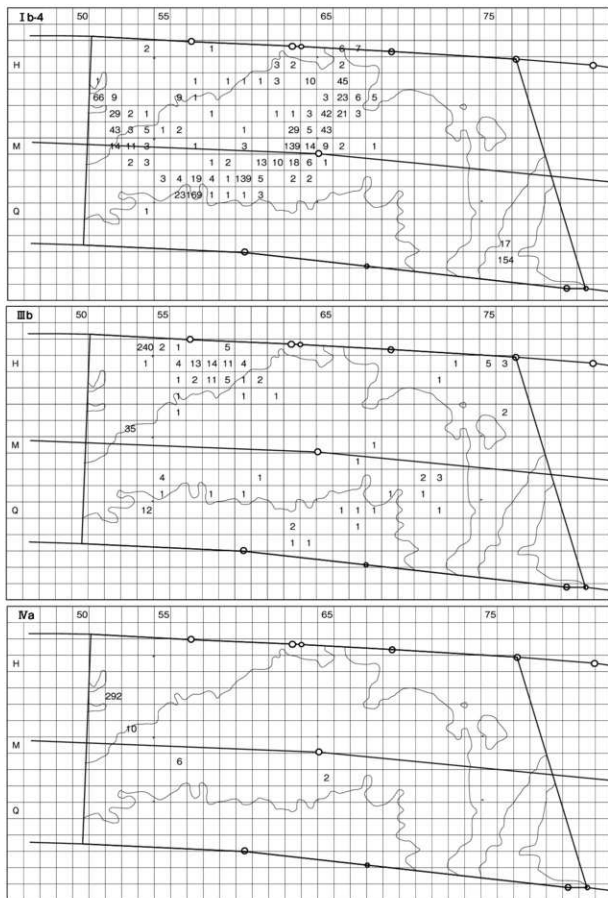
砥石 (64)

1点掲載。砂岩製。全体の2/3以上を欠損する。扁平な板状角碟を素材とし、表裏両面に磨痕は残されていないが、砥石の一部であった可能性がある。

d 石製品**玉 (65・66)**

2点掲載。65は蛇紋岩製もしくは橄欖岩製、66は橄欖岩製。65は全面が研磨され、丸みを帯びるが、一部に自然面が残るもので、平面は不整楕円形、横断面は蒲鉾形を呈す。器体中央やや上方に両面から穿孔されている。孔は外径で表面側が6.8mm、裏面側が6.6mm、内径が2.8mmと孔の形状は中央に向かって狭くなる。66は全面が研磨され、角が丸みを帯びる直方体を呈し、器体上方の短軸方向に両面から穿孔されている。孔は外径で左側が5.2mm、右側が4.6mm、内径が3.2mmで孔の形状は直線的である。

(山田)



図II-55 遺物分布図(1)

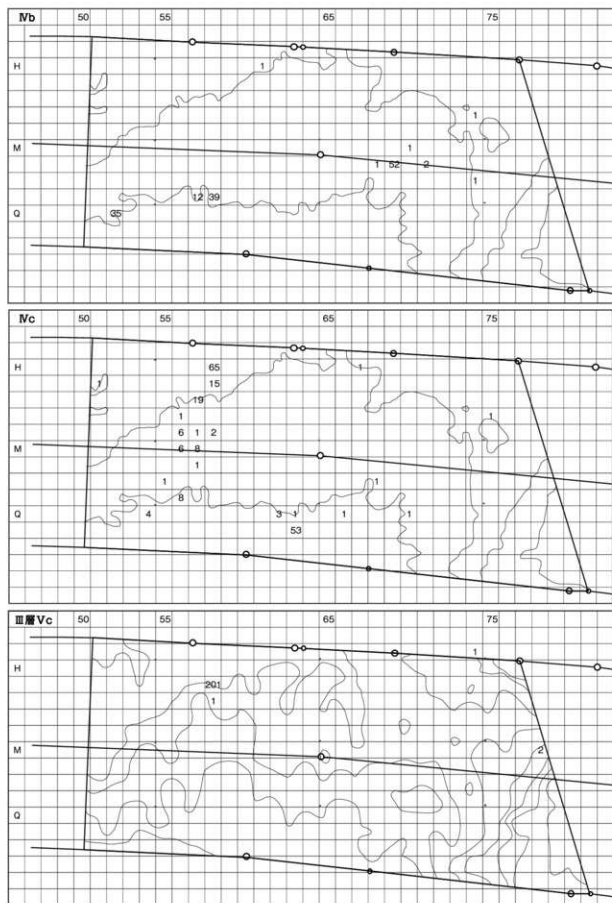
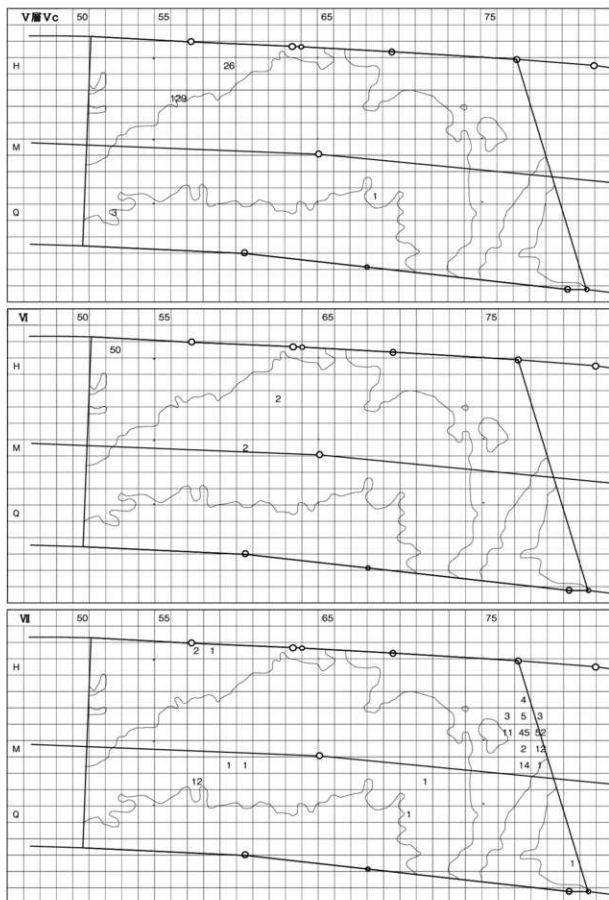


圖 II-56 遺物分布圖(2)



図II-57 遺物分布図(3)

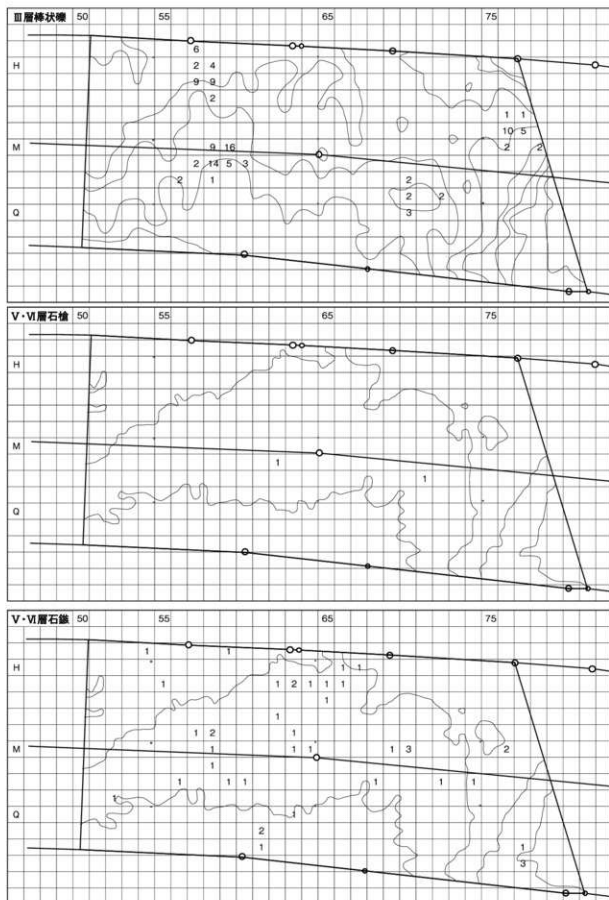
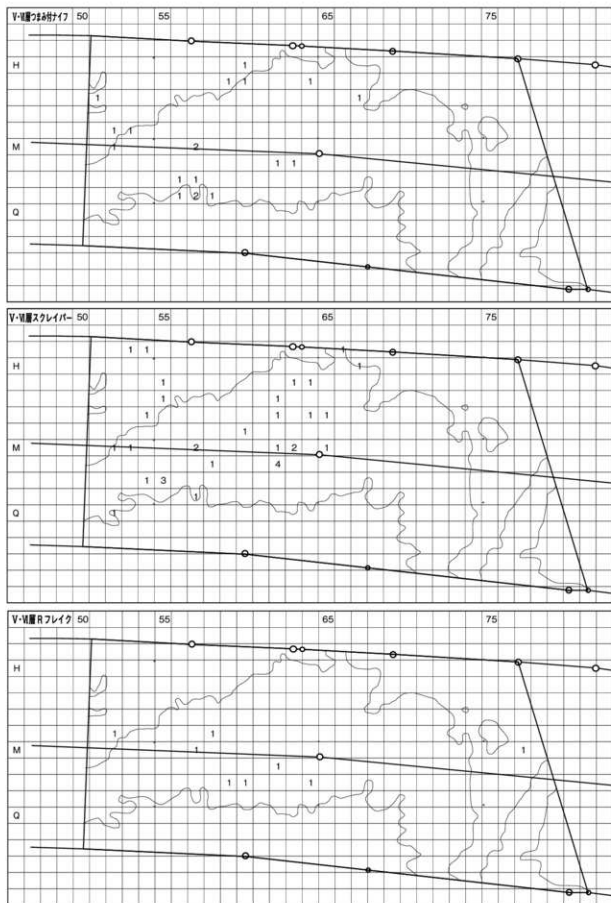
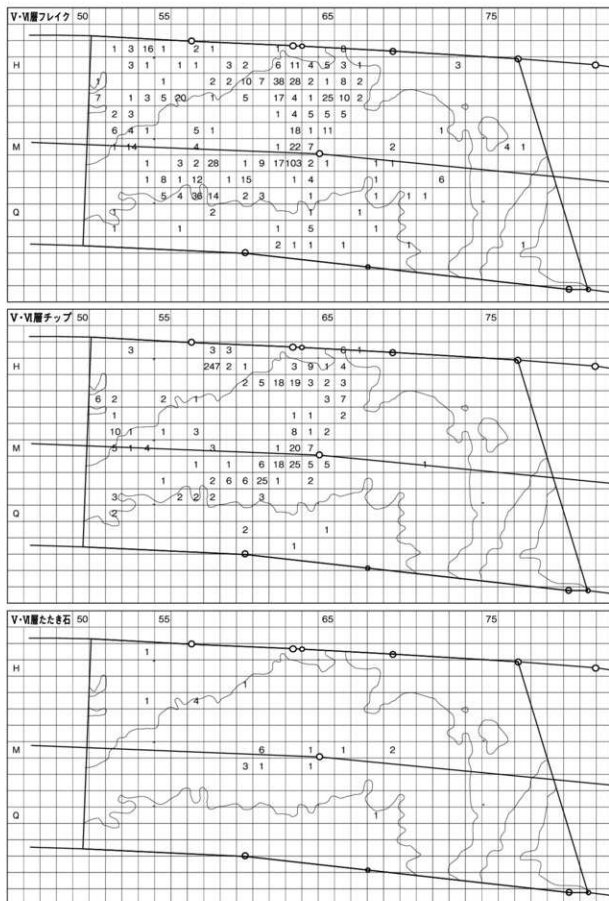


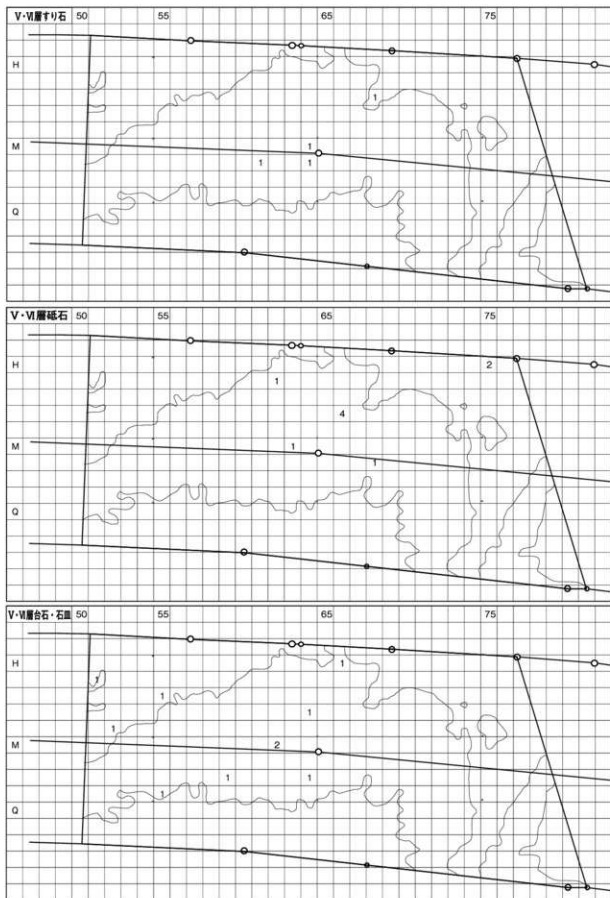
圖 II-58 遺物分布圖(4)



図II-59 遺物分布図(5)



図II-60 遺物分布図(6)



図II-61 遺物分布図(7)

4. 旧石器時代の遺跡 (Ⅷ層調査)

a) 調査の概要

V・Ⅵ層包含層調査で、旧石器時代の遺物が確認された。遺物は調査区北西側に1か所(ブロック1)、調査区中央の南側に1か所(ブロック2)の計2か所で平面的なまとまりをもって出土した(図Ⅱ-62)。出土層準はV層からⅧ層にかけてで、上下移動が認められる。土層断面では倒木による攪乱や凍上現象などの二次的な影響がみられることから、本来的な包含層はⅧ層にあったと考えられる。ブロック間は直線距離にして約100m離れている。また、ブロック外からも、旧石器時代の遺物と考えられる石器が出土している。

調査の方法

ブロック1は調査区北西側に位置する。樽前c降下火山灰除去後のV層上面精査中に、I-75グリッドで細石刃核削片1点が出土したことから、Ⅷ層包含層調査を行った。

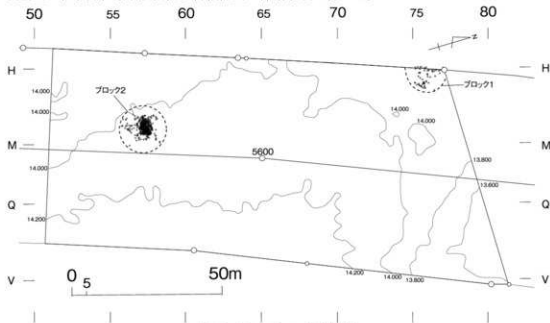
ブロック2は、調査区中央の南側に位置し、V層包含層の縄文時代の遺物とともに石刃素材の搔器、細石刃等が出土したことから、包含層中に旧石器時代の遺物が含まれていることが明らかになった。

V・Ⅵ層で出土した遺物はおもに風倒木痕の攪乱の範囲に沿って出土しており、周辺のグリッドを遺物が出土しなくなるまで掘下げ、一部Ⅷ層上面まで掘り下げた。なお、V・Ⅵ層では縄文時代の石器も出土しており、特に黒曜石製の剥片類の燻属時期が問題とされるが、これらについては表面の風化度の違いをもとに、時期を判別し、縄文時代に燻属すると考えられるものについては、包含層出土遺物として扱った。ただし、量的にはそれほど多くはない。

遺物の取り上げは原則として遺物1点ごとに座標値を計測して取り上げたが、2mm以下の微細な剥片、砕片類に関しては、グリッド単位で取り上げたものもある。ブロック2では、微細な遺物が多く出土したことから、Ⅷ層掘下げ時の排土を採取し、水洗篩選別により、遺物を回収した(図Ⅱ-68)。土壤の水洗には、4.0mmと1.0mmメッシュの篩を重ねて使用し、4.0mmで大きめの遺物や、Ⅷ層に含まれている軽石を除去した後、1.0mmでローム質土を水洗した。この作業によって、細石刃30点(0.510g)、刃部再生剥片69点(2.731g)、微細剥離痕ある剥片1点(0.01g)、剥片2,463点(35.119g)、砕片2,364点(9.887g)の計4,927点(48.257g)を回収した。

整理の方法

一次整理は、水洗、分類、注記、台帳記入の作業手順で行った。



図Ⅱ-62 ブロック位置図

遺物は原則として1点ごとに遺物番号を付したが、水洗篩選別で回収した遺物のうち、2mm以下の微細な碎片に関しては、数百点を一単位として番号を付したものがある。また、遺物番号と注記は、取上方法毎に分け、以下の内容とした。

座標点を計測したものは「1」から番号を付し、注記内容を「遺跡名、ブロック名、遺物名」（例：「上、B2.1」）とした。グリッド単位でとりあげたものはグリッドごとに「1」から番号を付し、注記内容を「遺跡名、グリッド名、遺物番号」（例：「上、K57.1」「上、L57.1」）とした。水洗篩選別で回収したものはグリッドごとに「1」から番号を付し、注記内容を「遺跡名、グリッド名、フ、遺物番号」（例：「上、K57.フ.1」「上、L57.フ.1」）とした。水洗篩選別で回収した遺物のうち、特に微細なものは、「遺跡名」と「グリッドの数字」、「フ」を省略して記した場合（例：「K.1」）がある。

二次整理では「石質の分類」を行ったのち、「接合作業」を行い、剥離面で接合したものを「接合」、折面で接合したものを「折接」とし、それぞれ「1」から番号を付し、接合台帳を作成した。

石質の分類

母岩識別が困難なことから、肉眼観察に基づいて黒曜石製石器、頁岩製石器を対象に石質別による分類を行った。黒曜石製石器は5種類に、頁岩製石器は19種類に分類した。なお、ブロック2出土の黒曜石製石器で分類の対象としたのは、6,316点のうち、5,308点である。また、頁岩製石器については、石質単位の点数が少ないことから、分布図および集計では「頁岩」として包括してある。

黒曜石製石器

黒曜石1：黒色半透明で、黒色と乳白色の筋が帯状に入る。夾雑物がわずかにみられる。

黒曜石2：黒色半透明で、黒色と乳白色の筋が縞状に入る。夾雑物がわずかにみられる。

黒曜石3：無色透明に近く、夾雑物がほとんどみられないもの。

黒曜石4：被熱による発泡、クラックなどの表面変化がみられるもの。

黒曜石5：黒色半透明で、黒色のまだら模様が入る。夾雑物がみられないもの。

頁岩製石器

頁岩1：黒色。風化もしくは被熱による影響のため、表面の光沢が若干失われているもの。

頁岩2：黒色。光沢を放つもの。

頁岩3：暗褐色。やや珪質で光沢を放つ。 頁岩4：暗褐色。珪質で光沢を放つ。

頁岩5：暗褐色。光沢を放ち、不規則な黒色の筋状の模様と薄褐色の斑状の模様が入る。

頁岩6：褐色。やや珪質で光沢を放つ。

頁岩7：褐色。珪質で光沢を放つ。 頁岩8：褐色。わずかに光沢を放つ。

頁岩9：灰色。光沢を放つ。 頁岩10：灰色。珪質で光沢を放つ。

頁岩11：灰色。やや珪質で光沢を放ち、短い黒色の筋状の模様が一定の方向に入る。

頁岩12：灰色。やや珪質で光沢を放つ。

頁岩13：薄灰色。光沢を放つ。 頁岩14：灰褐色。珪質分に富み、光沢を放つ。

頁岩15：暗灰色。光沢を放つ。

頁岩16：暗灰色。珪質で光沢を放つ。

頁岩17：白色。光沢を放たない。 頁岩18：被熱しているもの。

頁岩19：暗赤褐色。わずかに光沢を放つ。

b) ブロック1の調査

遺物出土状況 (図Ⅱ-66・67、図版Ⅱ-15~17)

層別別の出土点数は、V層1点(3.25g)、V層の攪乱21点(103.92g)、VI層14点(40.59g)、VII層22点(65.77g)である。V~VI層出土遺物は、風倒木痕や土壌の凍結融解作用により移動したもので、本来的な包含層はVII層と判断される。

ブロック全体の遺物の出土状況は、平面分布で長軸約11.0m、短軸約7.5m、垂直分布で標高約13.0m~14.0mの範囲にみられる。全体に散漫な出土状況で、垂直分布も約1.0mの幅で上下移動がみられるが、標高13.5m付近にまとまりが認められる。

石材ごとの器種別出土状況では、黒曜石製石器、頁岩製石器ともに集中箇所はみられず、散漫に分布している。頁岩製石器では彫器が調査区西側、搔器、砕片が調査区南側に分布する傾向がみられる。3個体得られている接合資料は、それぞれが近接した位置で出土している。

出土遺物 (図Ⅱ-64・65、表Ⅱ-19・20、図版Ⅱ-34)

細石刃19点(17個体)、細石刃核削片2点、石刃13点、搔器3点、彫器4点(3個体)、微細剥離痕ある剥片1点、剥片10点、砕片4点、礫片1点の総計58点(56個体)、総重量213.530gが出土した。

細石刃 (図Ⅱ-64-1~17、図版Ⅱ-34)

19点(17個体)出土した。黒曜石製9点(1~9)、頁岩製8点(10~17)。残存状況は完形1点(1)、打点側5点(2・10~13)、中間部6点(3~6、14・15)、末端側5点(7~9・16・17)がある。平面形状は幅広く、側面形状は直線的なものが多い。中間から末端側にかけて大きく内湾するものもみられる。打面はすべて平坦打面である。1・6・7・11・16は側縁に微細剥離痕がみられる。9・10・17は背面に細石刃核の側面調整稜が残る。黒曜石製の細石刃は最小幅0.35cm、最大幅1.1cm、平均幅0.74cm、厚さは最小厚0.1cm、最大厚0.35cm、平均厚0.25cm、頁岩製は最小幅0.55cm、最大幅0.85cm、平均幅0.75cm、厚さは最小厚0.2cm、最大厚0.3cm、平均厚0.25cmである。

細石刃核削片 (図Ⅱ-64-18・19、図版Ⅱ-34)

2点出土。黒曜石製。18は末端側を欠損、19は打点側を欠損する。18は幅1.15cm、19は幅1.10cmといずれも概して小形の母型から剥離された一次削片である。18は削片剥離打面側からみて右側面側に素材の腹面がわずかにみられるもので、剥片素材の細石刃核母型から剥離されたものと考えられる。断面は稜が右側面側に偏る三角形形状を呈す。母型の調整は右側面側を先とする両面調整によるもので、稜部の摩擦が著しい。19は削片剥離打面側からみて左側面に素材の腹面が残るもので、断面形状が「D字形」となる剥片素材の細石刃核母型から剥離されたものである。削片剥離打面は素材末端側に位置する。稜調整は交互剥離によるものである。

石刃 (図Ⅱ-64-20~32、図版Ⅱ-34)

13点出土。頁岩製。完形1点(20)、打点側欠損4点(21~24)、打点側と末端側欠損3点(25~27)、中間から末端側欠損1点(28)。いずれも平面形状は幅広く、側面形状は直線的で、薄手である。欠損しているものが多い。幅は1.15cmから3.0cm、厚さは0.25cmから0.8cmに収まる。打面形状はすべて単剥離打面である。背面側の剥離構成は、20が腹面と逆方向の剥離痕を含み、20・25・27・28・31・32が横方向、それ以外は腹面と同方向の剥離痕である。21は両側縁に微細剥離痕、25~28は被熱によると考えられる剥落痕がみられる。

搔器 (図II-64-33~35、図版II-34)

3点出土。頁岩製。完形2点(33・35)、基部側欠損1点(34)。33は側面形状が直線的な縦長剥片もしくは石刃を素材とするもの、34・35は厚手で末端側が内湾する石刃もしくは縦長剥片を素材とするもので、このうち33・35は頭部調整が施された単剥離打面のものである。搔器の刃部はいずれも素材末端部に作出されている。35は打面を除く背面側に急角度剥離の周縁調整が施されている。なお、34は器体中程に折損面がみられるが、これは出土時に折損したものである。

彫器 (図II-65-36~38、図版II-34)

4点(3個体)出土した。頁岩製。38は折面で接合し、1個体となった。いずれも素材打面側を基部とし、素材末端から左側縁にかけて彫刀面が作出されている。36は頭部調整が施された単剥離打面のやや寸詰まりの縦長剥片を素材とする。石質は褐色で光沢を放ち、やや珪質である。背面側の素材末端に施された急角度の調整を打面とし、器体長軸に平行する直線的な形状の彫刀面が作出されている。彫刀面は最低4回再生されている。37は、素材端部に彫刀面作出用の打面調整が施されており、最低1回の彫刀面作出が行われている。背面左側縁には、彫刀面作出時の剥離誘導のための前処理と考えられる稜調整が施されている。彫刀面は直線的である。背面側に腹面と同方向の平坦な剥離面が残るとともに、側面調整時の稜調整が残ることから、彫器の素材は細石刃核の二次削片と考えられる。石質は褐色で珪質分に富むが、表面は被熱による色調変化がみとめられる。38は背面側に急角度剥離による周縁調整が施された石刃もしくは縦長剥片を素材としたもので、彫刀面は最低2回作出されている。1回目は背面側、2回目は腹面側にみられる。石質は黒色で光沢を放つ。彫刀面と素材腹面とのなす角度は36が $88.0^{\circ} \rightarrow 83.0^{\circ} \rightarrow 88.0^{\circ} \rightarrow 115.0^{\circ}$ 、37が 94.0° 、38が $75.0^{\circ} \rightarrow 112.0^{\circ}$ である。

微細剥離痕ある剥片 (図II-65-39、図版II-34)

1点出土。頁岩製。完形。末端が幅広の小形の剥片に、軽微な周縁加工が施されている。打面はリップ状の平坦な単剥離打面で、背面の剥離構成は横方向と斜方向のものがみられる。素材となった剥片は細石刃核の側面調整剥片と考えられる。

縦長剥片 (図II-65-40、図版II-34)

1点出土。黒曜石製。背面に岩屑面を残す縦長の剥片で、打面側が欠損している。両側縁には錯向する微細な剥離痕がみられる。

剥片 (図II-65-41~50、図版II-34)

10点出土。黒曜石製1点(41)、頁岩製9点(42~50)。残存状況は完形3点(46・47・48)、左側縁側欠損1点(42)、打点側欠損2点(44・45)、末端側欠損2点(41・43)、打点側と末端側欠損2点(49・50)である。41・42・45~48は背面に多方向の剥離痕がみられる不定形剥片、41・42・47は細石刃核の側面調整剥片、46・48は細石刃核の稜調整剥片もしくは両面調整石器の調整剥片、43・44・49・50は欠損のため全体形状が不明な不定形剥片である。打面は41が点状、42・47が平坦な単剥離打面、43・46が複剥離打面、48は打面が破砕している。41は背面右側に細石刃核の狭長な剥離痕がみられる。

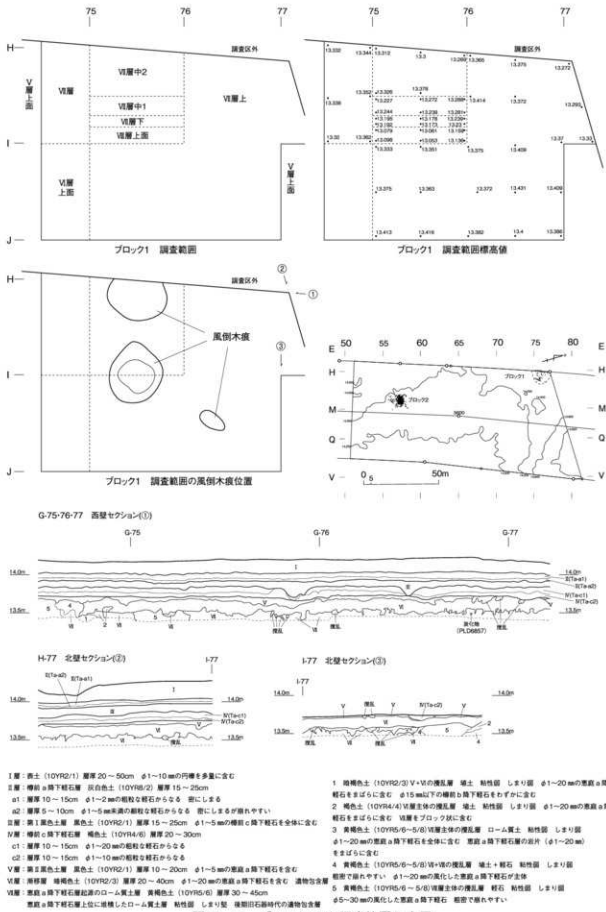
礫片 (図II-65-51、図版II-34)

1点出土。黄色がかかった灰白色の粗粒な砂岩製の礫片で、全体に摩滅している。表裏面に被熱していること、剥離痕が明瞭でないことから、被熱により焼きはじけたものと考えられる。

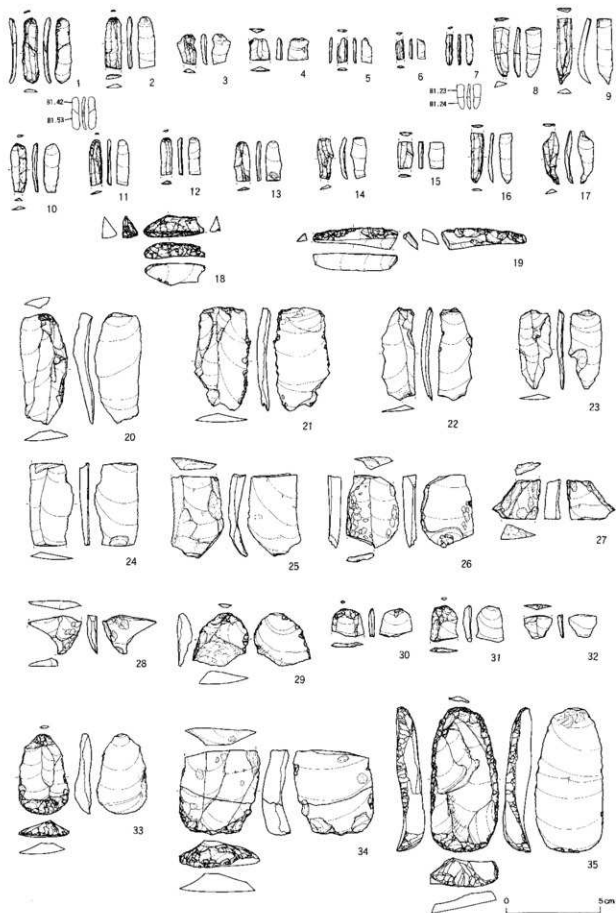
年代測定結果

遺物が平面的に安定して出土したレベルで、1点の炭化物を採取し、放射性炭素年代測定(AMS法)を行った。暦年校正で $14,698 \pm 45 \text{yrBP}$ の年代値が測定された。

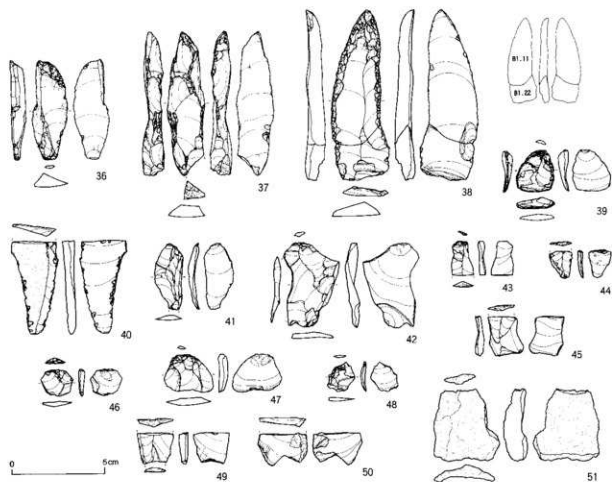
4. 旧石器時代の遺跡 (竪塚調査)



図Ⅱ-63 ブロック1の調査範囲と土層

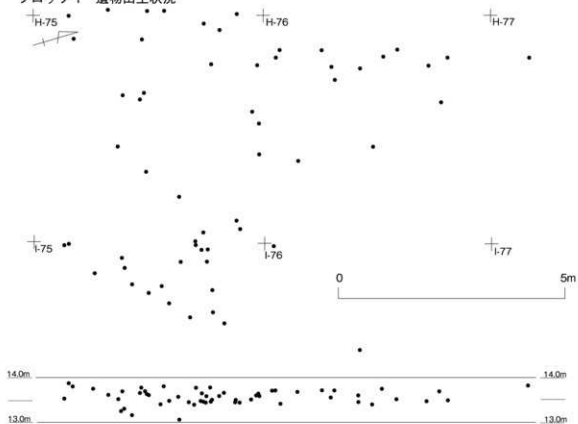


図II-64 ブロック1の掲載石器(1)

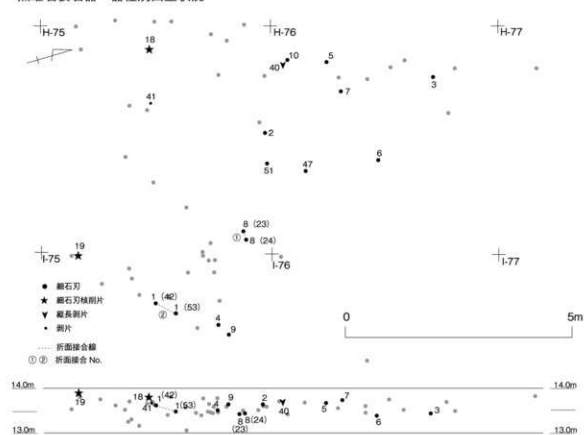


図Ⅱ-65 ブロック1の掲載石器（2）

ブロック1 遺物出土状況

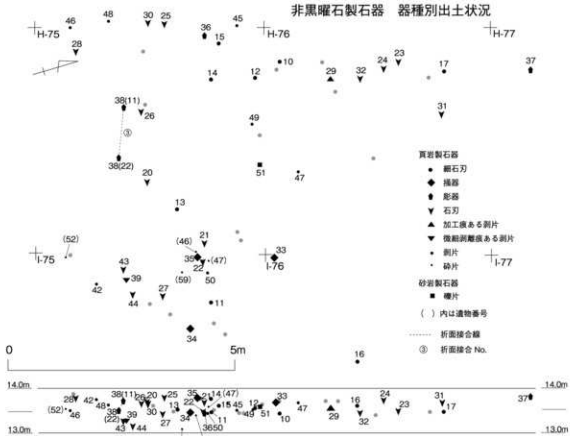
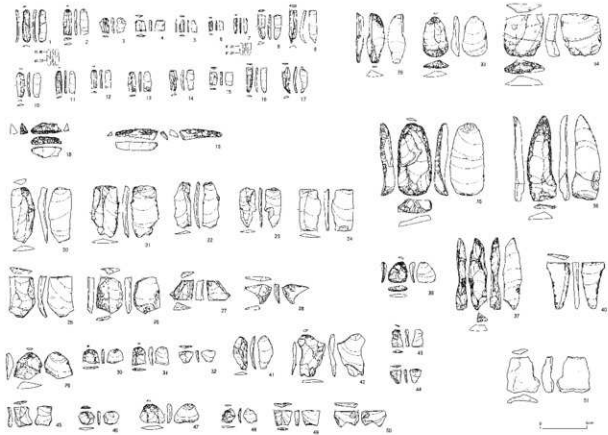


黒曜石製石器 器種別出土状況



図Ⅱ-66 ブロック1 遺物分布図(1)

4. 旧石器時代の遺跡（埋層調査）



図Ⅱ-67 ブロック1 遺物分布図(2)

c) ブロック2の調査

遺物出土状況 (図II-75~80、図版II-18~20)

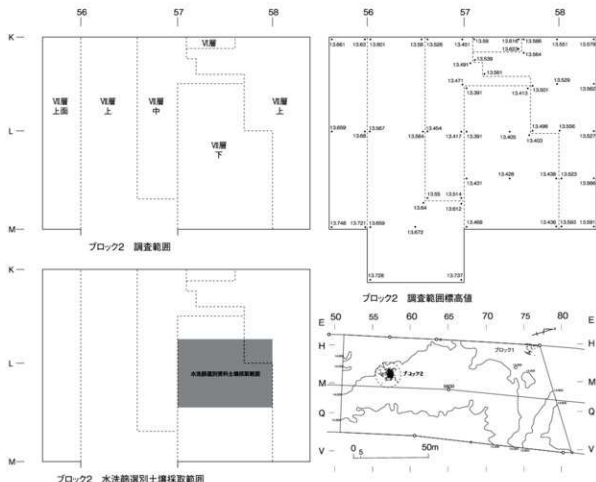
層位別の出土点数はV層68点 (205.74g)、V層 (攪乱) 24点 (82.47g)、VI層521点 (1,163.853g)、VII層5,746点 (425.176g)、VII層 (攪乱) 5点 (5.21g) で、VI~VII層にかけて遺物が多く出土する傾向がみられる。

ブロック全体の遺物の出土状況は、平面分布で長軸約13.0m、短軸約12.0m、垂直分布で標高約13.5m~14.5mの範囲にみられる。遺物はK-57、L-57グリッドで多く出土しており、特に出土範囲の東側に密な分布傾向がある。分布は東西方向に楕円状に広がり、外側に向かうにつれ分布密度が薄くなる。垂直分布では約1.0mの幅で上下移動がみられるが、13.5m~14.0mの付近にまとまる。分布状況は、平面、垂直分布ともにVII層中が安定しているといえる。

石材ごとの器種別出土状況では、黒曜石1が出土範囲の南側、黒曜石2・3が北東側に分布する傾向がある。非黒曜石裂石器では、出土範囲の中央付近と南側に分布する傾向がある。器種別の分布では、搔器が中央から南側、刃部再生剥片が東側、彫器が北東側に分布している。石材、器種ともに出土範囲は重複しており、平面的に分離されるものではないことから、ブロックは一時期に形成されたものと考えられる。

出土遺物 (図II-69~74、表II-21・22、図版II-35~38)

細石刃78点、両面調整石器1点、搔器21点 (19個体)、削器6点、搔器の刃部再生剥片306点、彫器4点、彫器削片3点、石刃63点 (59個体)、加工痕ある剥片20点、微細剥離痕ある剥片26点、磨製石



図II-68 ブロック2調査範囲

斧調整剥片7点、剥片3,340点、碎片2,504点、加工痕ある礫1点、礫片1点の総計6,362点、総重量1,882.449gが出土した。

細石刃 (図Ⅱ-69-1-53、図版Ⅱ-35)

59点出土。53点掲載。黒曜石製。未掲載のものを含め、完形2点(1・49)、打面から中間部7点(2~8)、打面部17点(9~20)、中間部28点(21~44)、中間から末端部3点(45~47)、末端部2点(48)がある。9・22・49~53は他のものに比べてやや幅広で薄手であるが、細石刃様の剥片であることから、これに含めた。細石刃の幅は最小幅0.05cm、最大幅0.59cm、平均幅0.38cm、厚さは最小厚0.04cm、最大厚0.17cm、平均厚0.09cmである。打面が残るものは点状および線状打面である。背面に細石刃核の側面調整痕が残るものは6点あり、内訳は左側縁側の調整痕が残るもの2点(1・45)、右側縁側の調整痕が残るもの4点(21・33・37・47)である。平面形状は、右に湾曲するもの2点(1・22)、左に湾曲するもの1点(45)のほかは、直線的である。側面形状では内湾するもの13点(1~5・9・10・21・26・40・45・46・51)、直線的で、一部内湾するもの1点(46)がみられるほかは、直線的である。

両面調整石器 (図Ⅱ-69-54、図版Ⅱ-35)

1点出土。黒曜石製。完形。下縁に岩屑面が残る両面調整石器である。器体は主に上縁と横方向からの剥離により整形されたのち、表面右側縁の下縁から上縁にかけて稜調整が施されている。稜調整は両面調整によるものである。横断面は裏面が平坦となるいびつな凸レンズ状、平面形は左右非対称となる不整楕円形を呈す。

掻器 (図Ⅱ-70-55-69、図版Ⅱ-35)

21点出土。折面で接合したものが3個体あり、個体数は18点である。15点掲載。黒曜石製。完形5点(55・60・61・62・63)、打面側欠損3点(56・57・59)、刃部片6点(64~69)がある。素材は寸詰まり気味で、末端に厚みを持つ内湾した石刃もしくは縦長剥片である。刃部の位置は素材末端側に位置し、平面の刃部形状は、素材剥離軸に対し、右側に傾斜するものがほとんどで、63のみ左側に傾斜する。56・57・59・60・61・62・63には器体調整がみられ、調整はすべて背面側への急角度剥離によるものである。長さは4.67cm~8.76cm、幅は1.85cm~3.14cm、厚さは0.41cm~1.31cmである。

削器 (図Ⅱ-70-70-72、図版Ⅱ-35)

6点出土。3点掲載。黒曜石製。末端側欠損(70)、中間から末端側欠損(71)、打面側と末端側欠損(72)。欠損しており、全体形状が不明なため削器としたが、掻器の器体片の可能性がある。

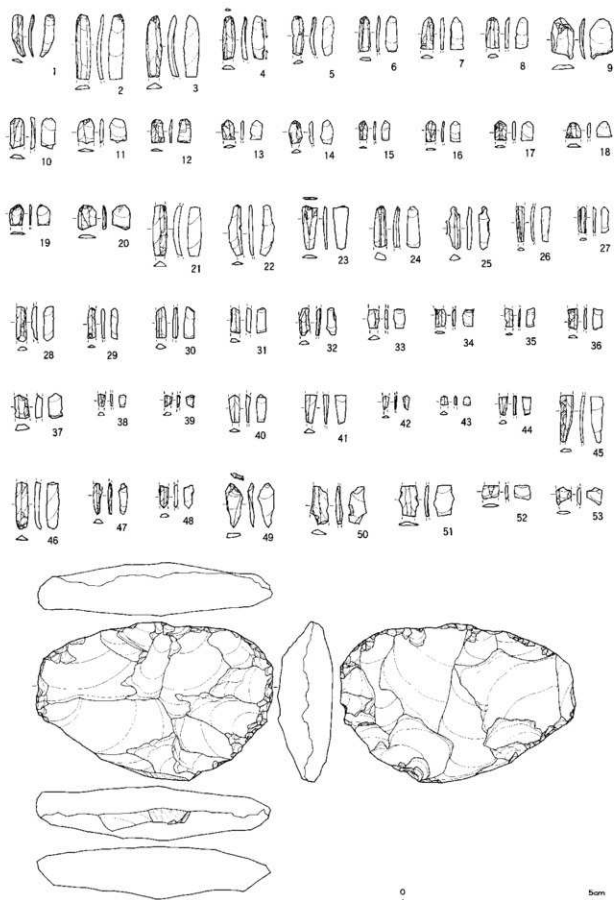
刃部再生剥片

306点出土。掲載なし。掻器の刃部作出および再生時に剥離された剥片で、打面は掻器の腹面側の刃部に相当する。黒曜石製。

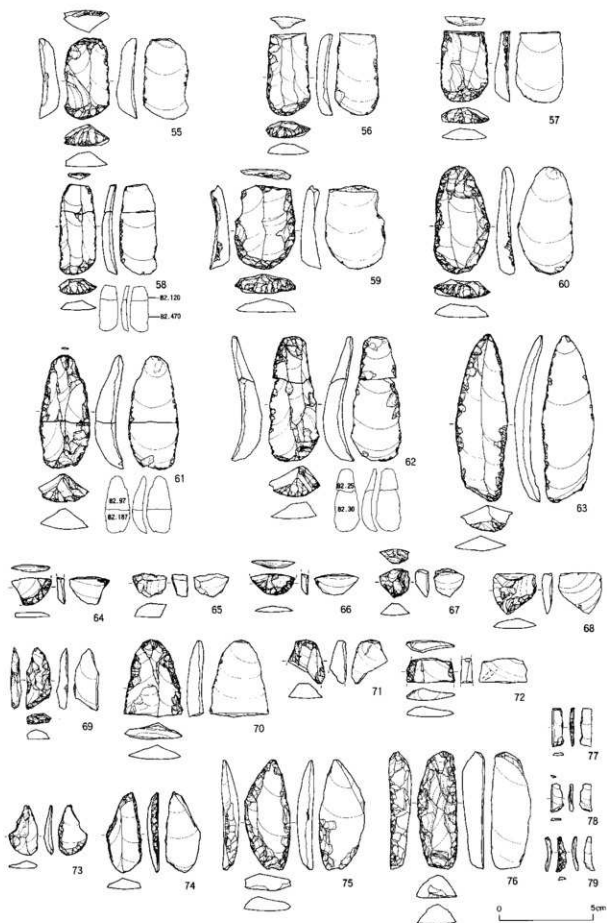
彫器 (図Ⅱ-70-73-76、図版Ⅱ-35)

4点出土。頁岩製。完形3点(74~76)、彫刀面側欠損の基部1点(73)。素材末端側を基部とし、素材打面側に左斜刃の彫刀面が作出されている。75・76はわずかに光沢を放つ灰色のもので、器体全体が被熱している。特に76は背腹両面の基部側に煤状の黒色付着物が観察される。素材はいずれも側面形状が直線的で、73~75は石刃、76は厚手の石刃もしくは縦長剥片と考えられる。彫刀面はすべて腹面側に傾く。73は彫器の基部と考えられるもので、腹面側に平坦剥離による調整が施されている。被熱による剥落痕がみられる。74は背面側の側縁に急角度の調整が施されたもので、彫刀面の作出は最低2回行われている。75は背面に急角度の周縁加工が施されたもので、腹面の基部側は平坦剥離により調整されている。彫刀面は最低1回の作出が行われている。彫刀面作出後にこれを打面として、

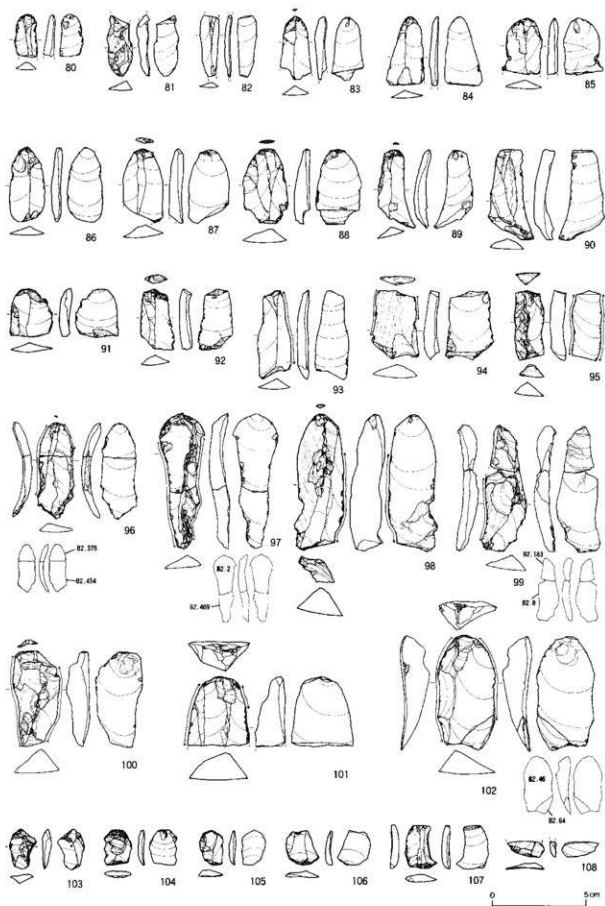
II 祝梅川上田遺跡



図Ⅱ-69 ブロック2の掲載石器(1)



図II-70 ブロック2の掲載石器(2)



図Ⅱ-71 ブロック2の掲載石器(3)

背面側に細かな調整が施されている。76は基部に平坦な節理面(?)が残るもので、背面側に急角度剥離による周縁加工が施されている。彫刀面は最低2回作出されている。彫刀面と腹面とのなす角度は、74が 90.0° → 130.0° 、75が 122.5° 、76が 95.0° → 121.5° である。

彫器削片 (図Ⅱ-70-77-79、図版Ⅱ-35)

3点出土。頁岩製。いずれも打点部を欠損する。77・78は断面が四辺形で、背面に1面の先行する削片剥離面がみられる。79は断面が三角形で、背面に彫刀面作出の際に施された細部調整がみられるものである。いずれも左側面側が素材腹面、右側面側が素材背面にあたることから、削片が剥離された彫器は左斜刃のものである。側面形状は、77・78が直線的、79が末端にかけて内湾する。削片が剥離された彫器の彫刀面と腹面とのなす角度は、77が背腹両面ともに 115° 、78が背面側 100° と腹面側 111.5° 、79が 107° である。

石刃 (図Ⅱ-71-80-102、図版Ⅱ-35)

63点出土。折面接合後の個体数は59点。23点掲載。完形8点(86・89・90・96・97・99・100・102)、打面側欠損2点(81・82)、末端側欠損10点(80・83-85・87・88・91-93・101)、打面側と末端側欠損2点(94・95)。94・98・99は背面に岩屑面がのこるもの、96は背面側の右側面に岩屑面が残るもの、81・95・97・100は石刃核の稜調整痕が残るものである。打面は小さく、点状打面、単剥離打面、複剥離打面がある。平面形状は、打面から側縁にかけて撫肩のものが多く、

加工痕ある剥片 (図Ⅱ-71-103-107、図版Ⅱ-35)

20点出土。5点掲載。103は両側縁、104は素材末端部、105・106は素材打点側、107は素材末端から左側縁にかけて、それぞれ小形不定形剥片の背面側の端部に刃部調整と考えられる急角度の微細な剥離痕がみられる。いずれも背面の剥離構成は多方向からのもので、後述する「接合資料1」にも類似した石器が含まれていることから、両面調整石器の調整剥片が素材に利用されたものと考えられる。

微細剥離痕ある剥片 (図Ⅱ-71-108、図版Ⅱ-35)

26点出土。1点掲載。欠損しているため全体形状が不明であるが、素材の末端にやや不連続な微細な剥離痕がみられる。

磨製石斧調整剥片 (図Ⅱ-74-148-160、図版Ⅱ-38)

「接合資料13」に記載。

剥片

3,340点出土。掲載なし。黒曜石製3,312点、頁岩製16点、チャート製4点、緑色泥岩製8点。図示できなかったが、黒曜石製の剥片には、石刃核の打面再生剥片、打面調整剥片が小数含まれる。

加工痕ある礫

1点出土。掲載なし。砂岩製で、1面の剥離痕が認められるが、自然遺物の可能性がある。

礫片

1点出土。掲載なし。砂岩製で、被熱している。

接合資料 (図Ⅱ-72・73・74、表Ⅱ-22、図版Ⅱ-36-38)

接合資料1 (図Ⅱ-72-54・109-113、図版Ⅱ-36)

両面調整石器と調整剥片の接合資料である。両面調整石器1点、微細剥離痕ある剥片2点、剥片2点の計5点が接合した。剥片類は両面調整石器の上縁を調整した剥片で、すべて裏面側に接合している。表面の上縁を打面とし、110→111→112・113の順に剥片が剥離され、器高と器厚が減じられている。54は110-113が剥離されたのち、下縁、側縁に細部調整が施されている。器体の調整は両面調整

によるものである。111は背面側の末端部から右側縁にかけて、112は背面側の末端部に微細な剥離による刃部が施されている。

接合資料 2 (図Ⅱ-72-114~117、図版Ⅱ-36)

石刃核の打面調整剥片の接合資料である。3点が接合した。剥片の打面は打角が鋭角な複剥離打面で、これは石刃剥離作業面に相当する。115と116では打面の位置が異なり、115から116が剥離される間に石刃剥離が行われている。

接合資料 3 (図Ⅱ-72-118~120、図版Ⅱ-36)

両面調整石器もしくは細石刃核の調整剥片の接合資料である。2点が接合した。120の打面は鋭角な複剥離打面で、これは両面調整石器の縁辺を取り込んだものと考えられる。

接合資料 4 (図Ⅱ-72-121~123、図版Ⅱ-36)

両面調整石器もしくは細石刃核の調整剥片の接合資料である。微細剥離痕ある剥片1点、剥片1点が接合した。「接合資料3」の120と同様に、122の打面は打角が鋭角な複剥離打面で、これは両面調整石器の縁辺を取り込んだものと考えられる。

接合資料 5 (図Ⅱ-72-124~126、図版Ⅱ-36)

岩屑面が残る石核から剥離された不定形剥片の接合資料である。2点が接合した。

接合資料 6 (図Ⅱ-72-127~129、図版Ⅱ-36)

大形の不定形剥片の接合資料である。4点(2個体)が接合した。いずれも幅広、薄手で、背面には剥離軸に対して上斜方向の剥離が含まれている。両面調整石器の調整剥片と考えられる。

接合資料 7 (図Ⅱ-73-130~132、図版Ⅱ-37)

稜調整がみられる縦長剥片と削器の接合資料である。削器1点、剥片1点の計2点が接合した。131は削器としたが、搔器基部の可能性もある。また、132は剥片としたが、石刃としたほうが適切であるかもしれない。131と132は打面の高さが異なっており、131の剥離後に、打面調整が施されたものと考えられる。

接合資料 8 (図Ⅱ-73-133~135、図版Ⅱ-37)

不定形剥片の接合資料である。微細剥離痕ある剥片1点、剥片1点の計2点が接合した。134、135ともに側面形状が内湾するもので、素材背面の剥離構成は多方向の剥離である。いずれも打面が点状で、両面調整石器の調整剥片と考えられる。

接合資料 9 (図Ⅱ-73-136~138、図版Ⅱ-37)

不定形剥片の接合資料である。4点(2個体)が接合した。137、138ともに側面形状が内湾するもので、素材背面の剥離構成は多方向の剥離である。両面調整石器の調整剥片と考えられる。

接合資料10 (図Ⅱ-73-139~141、図版Ⅱ-37)

自然面が残る石核から剥離された剥片の接合資料である。2点が接合した。

接合資料11 (図Ⅱ-73-142~144、図版Ⅱ-37)

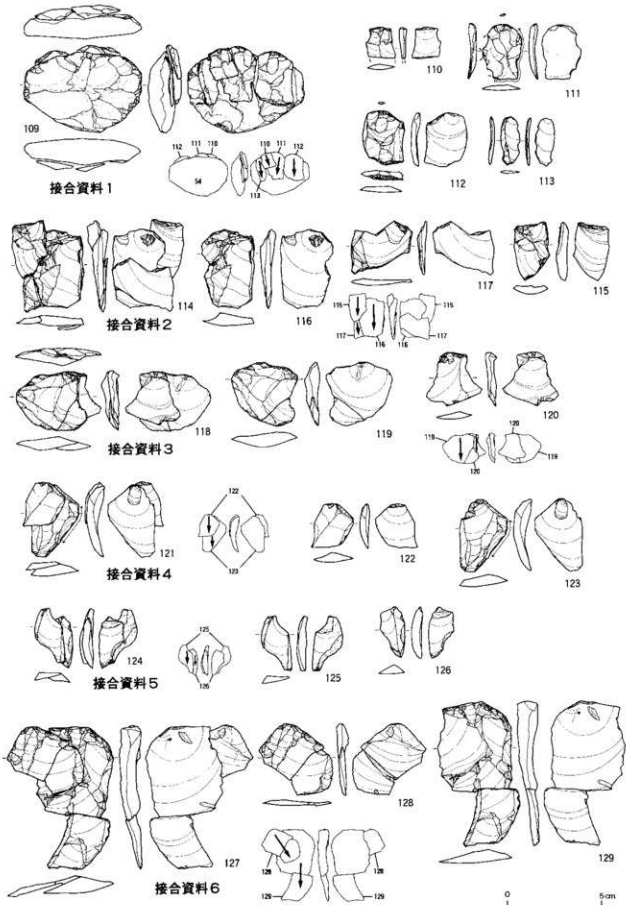
岩屑面が残る石核から剥離された剥片の接合資料である。微細剥離痕ある剥片1点と剥片2点(1個体)の計3点(2個体)が接合した。

接合資料12 (図Ⅱ-73-145~147、図版Ⅱ-37)

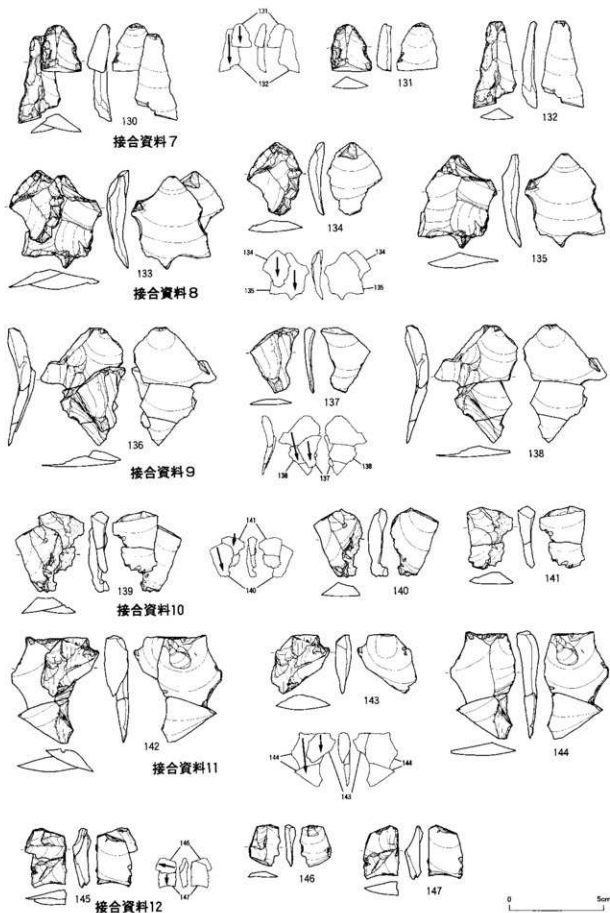
不定形剥片の接合資料である。2点が接合した。剥片剥離は90°の打面転移が行われている。

接合資料13 (図Ⅱ-74-148~160、図版Ⅱ-38)

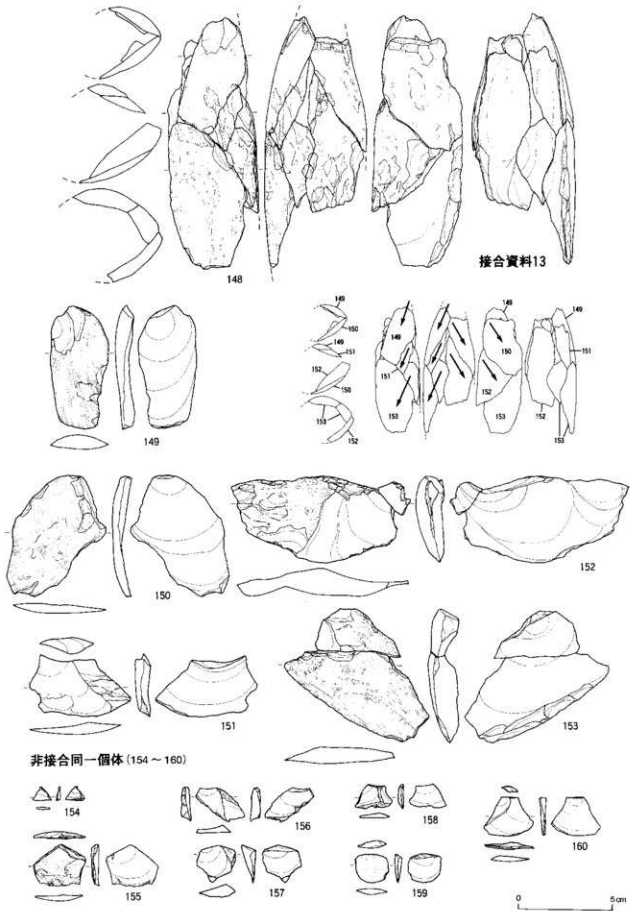
磨製石斧の調整剥片の接合資料である。接合7点(剥離面接合5個体)と非接合同一個体7点の計14点で構成される。緑色泥岩製。接合時の長さは13.22cm、幅は5.80cm、厚さは5.40cmを測り、調整



図Ⅱ-72 ブロック2の掲載石器（4）



図Ⅱ-73 ブロック2の掲載石器(5)



図Ⅱ-74 ブロック2の掲載石器 (6)

剥片が剥離される以前の器体はかなり大形のものであったと判断される。接合時の横断面形状から、器体はやや丸みを帯びた棒状のものであった可能性が高い。研磨調整は器体の全面に長軸方向でみられ、研磨以前の剥離調整が部分的に残っている。調整剥片は、器体の一側縁側から交互剥離により149から153までの比較的大形の剥片が剥離されている。剥離された調整剥片の打面は大きく、打点は明瞭でない。非接合資料に刃部を取り込んだ剥片が含まれている。刃部の平面形状は不明であるが、石斧は両刃のものと考えられる。

154～160は同一個体の非接合資料で、155・156・158は背面に、157・158は背面と腹面に研磨調整痕が残るものである。159は刃部、157も刃部に近い部位から剥離されたものと考えられる。

年代測定結果

遺物が平面的に安定して出土したレベルで、5点の炭化物を採取し、そのうち4点について、放射性炭素年代測定（AMS法）を行った。暦年較正で14,727±46yrBP、14,751±46yrBP、14,120±44yrBP、12,332±40yrBPの年代値が測定された。

d) ブロック外出土の石器（図Ⅱ-80、表Ⅱ-23、図版Ⅱ-38）

石刃（図Ⅱ-80-1・2 図版Ⅱ-38）

2点出土。1は頁岩製、2は黒曜石製。1、2ともに頭部調整が施された複剥離打面のもので、いずれも末端側が欠損している。1は背面に石核調整時の横方向の剥離痕がみられる。

尖頭器（図Ⅱ-80-3 図版Ⅱ-38）

1点出土。黒曜石製。器体上半と下半を欠損する。

e) ブロック1、2の石器群について

恵庭a降下火山灰層の上位の層で後期旧石器時代の細石刃石器群のブロックが2か所確認された。両ブロックは石器群の内容が異なるとともに、石材利用についても違いがみられることから、以下にブロックの特徴を述べる。

ブロック1の細石刃石器群

出土遺物全体の定形石器の比率は79.3%を占める。石器石材は頁岩製石器42点（72.4%）、黒曜石製石器15点（25.9%）、砂岩製石器1点（1.7%）で、石材別の重量は頁岩製石器185.84g（87.0%）、黒曜石製石器15.59g（7.3%）、砂岩製石器12.1g（5.6%）の総重量213.530gで、点数・重量ともに頁岩製石器の占める割合が高い。

総点数58点とブロックの規模は小さいが、定形石器が多く、剥片剥離作業の痕跡を示す剥片、碎片類の出土点数が極端に少ないことに特徴がある。石材利用の点では、細石刃に黒曜石と頁岩の両者の石材が利用されているが、石刃、搔器、彫器等の石器類は頁岩のみが利用されており、製作対象に応じて石材が使い分けられていたと考えられる。なお、黒曜石の石質は2種類認められ、赤井川産黒曜石に特徴が類似するが、産地同定分析を依頼していることもあり、分析結果を待って次年度以降に報告を述べたい。

石器群の性格は、細石刃核が出土していないこともあり、やや不鮮明であるが、細石刃の製作を示す遺物としては細石刃、細石刃核削片、細石刃核の側面調整剥片が出土している。また、細石刃核の二次削片が彫器の素材に利用されている。

細石刃核削片は、小形の剥片を素材とし、片面に素材腹面が残る細石刃核母型から剥離されたもの

と、両面調整の母型から剥離されたものがある。前者は黒曜石製2点があり、「峠下型細石刃核」の母型から剥離されたものと考えられる。後者は頁岩製1点があり、彫器の素材に利用されたもので、「札滑型細石刃核」から剥離されたものと考えられる。なお、黒曜石製の「峠下型細石刃核」のうち1点(図Ⅱ-64-19)は削片剥離打面側からみて左側面側に素材背面が位置する通常の「峠下型細石刃核」とは素材利用が異なっており、素材背面が右側面側に位置し、断面形状がD字形を呈す、いわゆる「逆峠下型細石刃核」と呼ばれるものに含まれるものである。

細石刃は黒曜石製、頁岩製ともに、長さ、幅が比較的大形で、平面・側面ともに直線的な形状のものが多い。また、末端にかけて内湾するもの、背面に細石刃核の稜調整痕が残るものがある。これらは「札滑型細石刃核」から剥離された細石刃の特徴に類似すると考えられる。

細石刃核削片、細石刃の形態から、ブロック1の石器群には、黒曜石を利用した「峠下型細石刃核」と「札滑型細石刃核」、頁岩を利用した「札滑型細石刃核」が含まれていたと理解される。この「峠下型細石刃核」と「札滑型細石刃核」の共件については、従来から、行動論的な視点による「テクノコンプレックス」仮説(木村1995)や、細石刃石器群の編年作業のなかで「峠下2類+札滑型細石刃核」(寺崎1999)として、その位置づけが行われてきた。最近では山田 哲氏が「峠下型」を「B1～B3」の3群に分けて説明しており(山田2007)、これによれば、ブロック1出土の石器群は「B3群」に該当するものと思われる。編年的には後期旧石器時代後期(細石刃石器群前半期)に位置づけられる。

ブロック2の細石刃石器群

ブロック2では、接合資料13個体を含む総点数6,362点の遺物が出土した。細石刃核は出土していないが、細石刃、両面調整石器、搔器、磨製石斧などの石器の特徴は「忍路子型細石刃石器群」に含まれるもので、組成の点でも一致する。

出土遺物全体の定形石器の比率は3.1%で、刃部再生剥片や磨製石斧調整剥片などの調整剥片、碎片類が多くを占める。剥片、碎片を除いた器種別の比率では細石刃11.3%、両面調整石器0.1%、石刃12.0%、搔器4.0%、削器1.1%、刃部再生剥片58.4%、彫器0.8%、彫器削片0.6%、加工痕ある剥片3.8%、微細剥離痕ある剥片5.0%、磨製石斧調整剥片2.9%である。石器石材は頁岩製石器25点(0.4%)、黒曜石製石器6,316点(99.3%)、チャート製石器4点(0.1%以下)、緑色泥岩製石器15点(0.2%)、砂岩製石器2点(0.1%以下)で、石材別の重量は頁岩製石器94.47g(5.0%)、黒曜石製石器1,456.029g(79.4%)、チャート製石器1.58g(0.1%以下)、緑色泥岩175.48g(9.3%)、砂岩製石器124.89g(6.6%)で、点数・重量ともに黒曜石製石器の占める割合が高い。

石材利用の点では、細石刃、両面調整石器、搔器、石刃、加工痕ある剥片、微細剥離痕ある剥片が黒曜石製であるほか、彫器に頁岩、磨製石斧に緑色泥岩が利用されている。黒曜石の石質は5種類認められる。石質ごとの傾向としては、黒曜石1が細石刃、両面調整石器、石刃、黒曜石2が搔器、刃部再生剥片に利用される傾向がみられる。肉眼的には黒曜石1～3は赤井川産に類似する。黒曜石5は道東方面のいずれかの産地が該当するものと思われるが、遺物点数が少なく、特定の石器に利用されているものでもない。頁岩、チャート、緑色泥岩は剥片、碎片ともに少ないことから、これらの石器は製品として搬入されたものと考えられる。彫器3点と彫器削片3点が出土しているが、それぞれ石質が異なり、接合関係がないことから、少なくとも6点の彫器があったといえる。

接合資料では、両面調整石器の製作、石刃の製作、磨製石斧の調整技術に関連する個体が得られた。これらの製作を示す剥片、碎片類が5,844点出土している。背面の剥離構成に多方向の剥離を含む小形の不定形剥片が多く出土しており、これらは主に石核や両面調整石器などの調整時に生じたものと

考えられる。また、石刃に石刃核の稜調整痕が残るものがみられること、石刃核の打面再生剥片、打面調整剥片が出土していることから、ある程度の剥離作業が進行した状態の石刃核が搬入されたものと考えられる。遺跡内では石刃剥離とそれに伴う調整が行われ、石刃核は搬出されている。石刃は主に搔器の素材に供給されたと考えられ、刃部再生剥片が多く出土していることから、遺跡内では、石刃の製作から、搔器の製作と使用および刃部再生の一連の作業が行われていたと考えられる。

「忍路子型細石刃石器群」は細石刃核母型の形態と器体調整のあり方から、「母型に木葉形状を呈する両面調整石器を用いるが、湧別技法同様に左右非対称の母型を準備する例が多い」大形の「1類」と、「母型に両側縁が平行する柳葉形を呈する両面調整石器を用い、打面は石核長軸に沿って平行して設けられる例が多い」小形の「2類」に分類できることが指摘されており（寺崎1999、2006）、この基準を参照すれば、ブロック2の石器群は「1類」に該当するものである。編年的には「後期旧石器時代後半期」（細石刃石器群後半期）に位置づけられる。

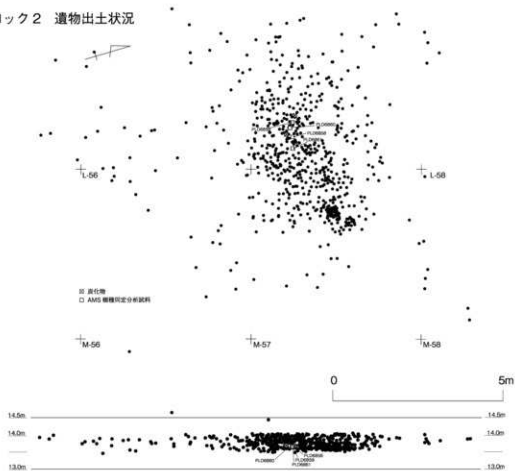
ブロック1、2の年代測定結果について

ブロック1で採取した炭化物1点と、ブロック2で採取した炭化物4点について、放射性炭素年代測定（AMS法）を行った。両ブロックの測定試料は包含層において、遺物が平面的に出土した位置で採取したものである。このことから、炭化物と石器群との関係を直接的に明示できるものではないが、暦年較正でブロック1が $14,698 \pm 45 \text{yrBP}$ 、ブロック2が $14,727 \pm 46 \text{yrBP}$ 、 $14,751 \pm 46 \text{yrBP}$ 、 $14,120 \pm 44 \text{yrBP}$ 、 $12,332 \pm 40 \text{yrBP}$ の年代値が測定された。年代値はおよそまとまりがみられ、特にブロック1では、従来示されている値、編年観とも概ね整合する値が得られた。ブロック2で示された値では、 $12,332 \pm 40 \text{yrBP}$ の値が石器群の編年観にも整合するが、 $14,727 \pm 46 \text{yrBP}$ 、 $14,751 \pm 46 \text{yrBP}$ 、 $14,120 \pm 44 \text{yrBP}$ の値は「忍路子型細石刃石器群」の年代値としてはやや古めである。（山田和史）

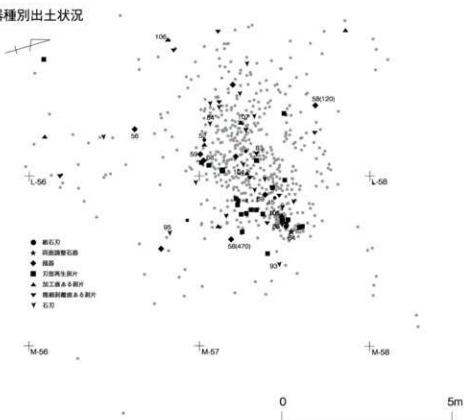
引用・参考文献

- 赤井文人 2005a 「千歳市丸山遺跡忠庭 a テフラ上位石器群の再検討」『論集忍路子』1、103-123頁
- 赤井文人 2005b 「石狩低地帯における細石刃石器群の研究—千歳市メソソ川2遺跡石器群の再検討—」『北海道旧石器文化研究』第9号、59-78頁
- 阿部明義編 2003 「千歳市オルイカ2遺跡」、隼北海道埋蔵文化財センター
- 三浦正人・阿部明義・広田良成ほか 2005 「千歳市オルイカ2遺跡（2）」、隼北海道埋蔵文化財センター
- 安齊正人・佐藤宏之編 2006 『旧石器時代の地域編年の研究』、同成社
- 大島秀徳 1997 『千歳市オサフ16遺跡（2）」、北海道文化財保護協会
- 大島居仁・大矢義朗・山原敏郎「土土幌町・匠道17遺跡」、土土幌町教育委員会
- 木村英明 1995 『黒曜石・ヒト・技術』北海道考古学 第31輯、北海道考古学会
- 田村俊之編 1983 『メソソ川2遺跡における考古学的調査』、千歳市教育委員会
- 田村俊之編 1994 『丸山遺跡における考古学的調査』、千歳市教育委員会
- 千葉英一 1985 「日本の旧石器—北海道（2）」『考古学ジャーナル』248、20-26頁
- 寺崎康史 1999 「細石刃石器群の変遷とその終末」『日本考古学協会1999年度大会研究発表要旨』、11-12頁
- 寺崎康史 2006 「北海道の地域編年」、275-314頁、安齊正人・佐藤宏之編『旧石器時代の地域編年の研究』、同成社
- 山田 哲 1999 「北海道の前半期細石刃石器群についての研究—常呂群洞子町野崎丘B遺跡石器群の再検討—」『先史考古学論集』第8集、1-70頁
- 山田 哲 2006 「北海道における細石刃石器群の研究」、六一書房

ブロック2 遺物出土状況

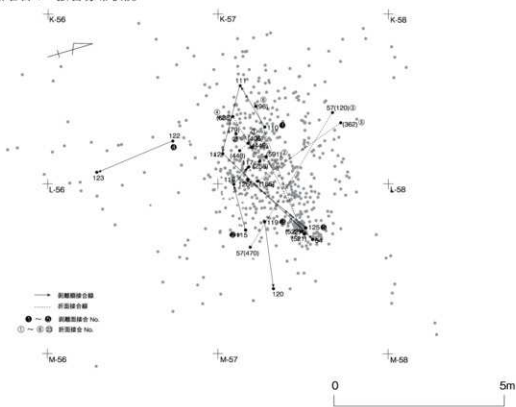


黒曜石1 器種別出土状況

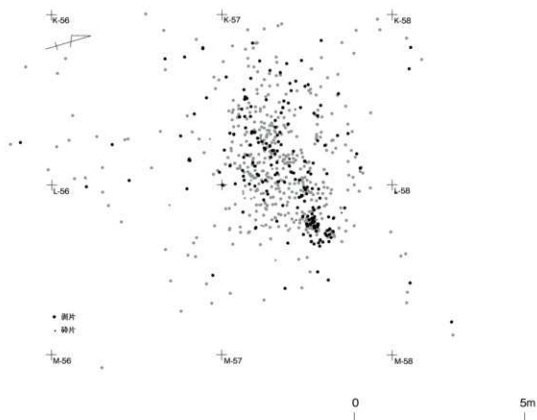


図Ⅱ-75 ブロック2 遺物分布図(1)

黒曜石 1 接合分布状況

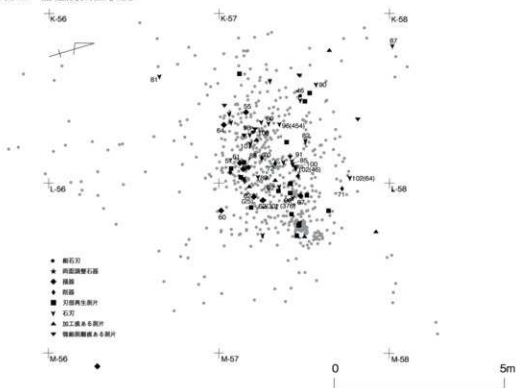


黒曜石 1 剥片・碎片出土状況

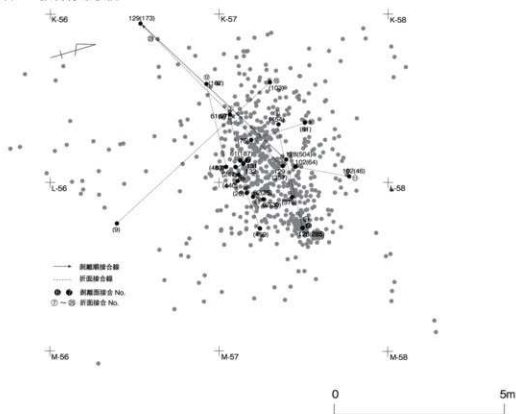


図Ⅱ-76 ブロック2 遺物分布図(2)

黒曜石 2 器種別出土状況

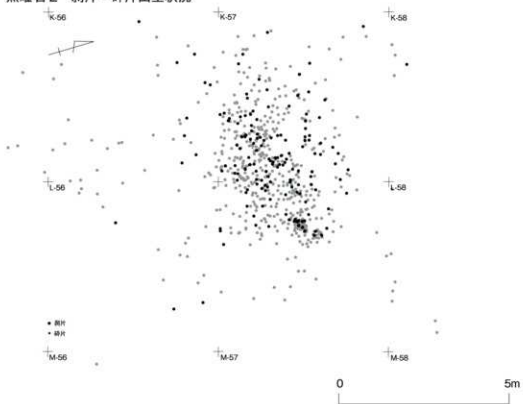


黒曜石 2 接合分布状況

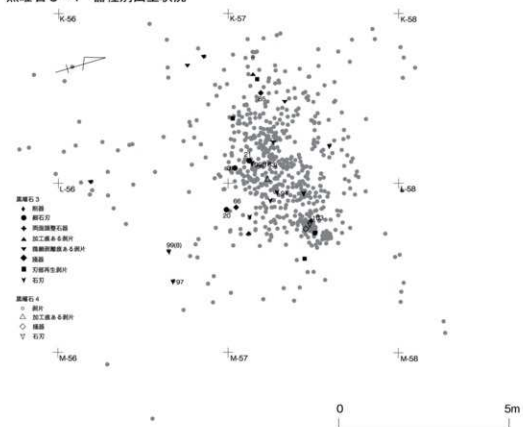


図Ⅱ-77 ブロック2 遺物分布図(3)

黒曜石 2 剥片・碎片出土状況

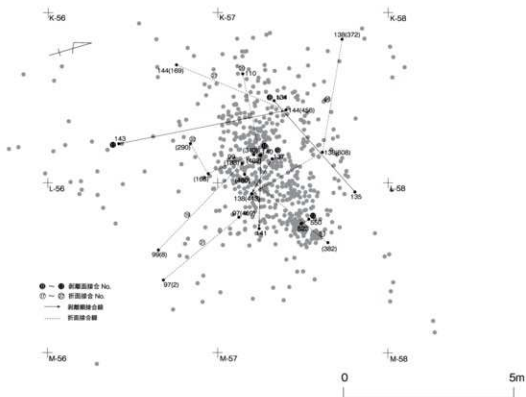


黒曜石 3・4 器種別出土状況

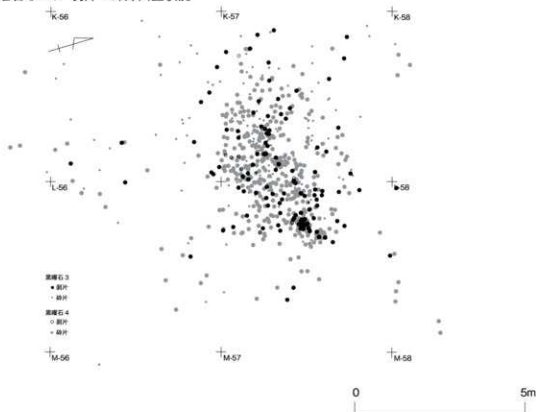


図II-78 ブロック2遺物分布図(4)

黒曜石3・4 接合分布状況

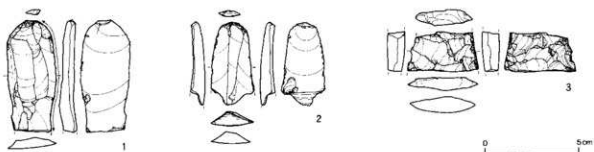
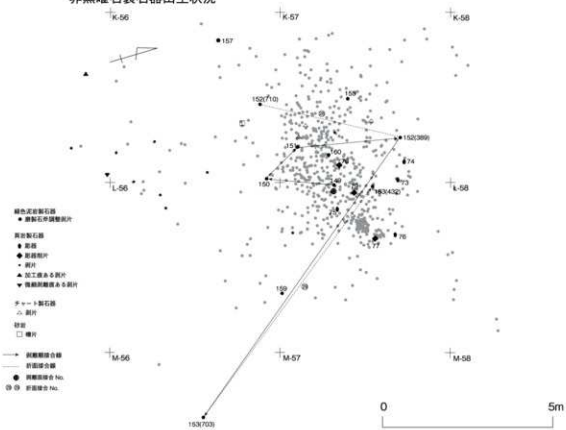


黒曜石3・4 剥片・碎片出土状況



図Ⅱ-79 ブロック2 遺物分布図(5)

非黒曜石製石器出土状況



図II-80 ブロック2遺物分布図(6)とブロック外出土の石器

5. 資料一覧

表Ⅱ-1 Ⅲ層の建物跡一覧

図版番号			グリッド	長さ(m)	幅(m)	長軸方向	備考
図Ⅱ-3	UH	1	N77-79, O76-79, P77-79				
図Ⅱ-5	UH	2	H-58.59, I-58.59, J-58.59	21.0	20.5	N-78°-W	伊跡あり
図Ⅱ-7	UH	3	O-60.61, P-60.61	4.0	(3.8)	N-86°-E	伊跡あり
図Ⅱ-9	UH	4	G-65-67, H-65-67	6.9	5.9	N-49°-E	伊跡あり
図Ⅱ-9	UH	5	G-67, H-66-68, I-67.68	7.9	6.0	N-49°-E	伊跡あり
図Ⅱ-12	UH	6	I76, J75-77	3.9	3.8	N-16.5°-E	伊跡あり
図Ⅱ-13	UH	7	Q61.63, R62-64, S62-64	8.6	6.1	N-17°-E	
図Ⅱ-14	UH	8	P66, Q66	1.4	0.7	N-6.5°-E	
図Ⅱ-15	UH	9	J71	1.5	1.3	N-59.5°-W	
図Ⅱ-16	UH	10	O74, P72-75, Q72-75	5.1	4.3	N-58.5°-W	伊跡あり
図Ⅱ-17	UH	11	S77.78, T77.78	3.6	3.3	N-65°-W	伊跡あり
図Ⅱ-18	UH	12	L65.66, M65.66	3.7	3.4	N-70°-W	

表Ⅱ-2 Ⅲ層の建物跡柱穴一覧

UH1のHSP(図Ⅱ-4)

	No	径	深さ		No	径	深さ		No	径	深さ
HSP	1	15	46	HSP	16	11	21	HSP	29	17	42
HSP	2	12	30	HSP	17	14	44	HSP	30	17	29
HSP	3	23	40	HSP	18	13	25	HSP	31	20	36
HSP	4	8	21	HSP	19	10	31	HSP	32	18	42
HSP	5	12	21	HSP	20	13	30	HSP	33	22	33
HSP	7	12	18	HSP	21	17	39	HSP	34	13	31
HSP	9	15	19	HSP	22	14	47	HSP	35	14	38
HSP	10	13	18	HSP	23	21	41	HSP	36	14	-
HSP	12	15	32	HSP	24	14	30	HSP	37	10	16
HSP	13	13	36	HSP	25	9	17	HSP	38	18	50
HSP	14	17	36	HSP	26	13	31				
HSP	15	12	38	HSP	28	16	46				

UH2のHSP(図Ⅱ-6)

	No	径	深さ		No	径	深さ		No	径	深さ
HSP	1	10	14	HSP	18	7	8	HSP	35	9	22
HSP	2	13	18	HSP	19	7	13	HSP	36	7	18
HSP	3	10	43	HSP	20	8	27	HSP	37	9	22
HSP	4	9	27	HSP	21	7	15	HSP	38	8	19
HSP	5	10	27	HSP	22	6	20	HSP	39	9	29
HSP	6	10	42	HSP	23	7	22	HSP	40	9	17
HSP	7	11	44	HSP	24	20	44	HSP	41	8	10
HSP	8	8	25	HSP	25	20	52	HSP	42	10	18
HSP	9	11	42	HSP	26	20	47	HSP	43	10	20
HSP	10	11	29	HSP	27	20	45	HSP	44	10	30
HSP	11	11	26	HSP	28	18	34	HSP	45	8	14
HSP	12	9	13	HSP	29	20	43	HSP	46	10	29
HSP	13	11	36	HSP	30	11	20	HSP	47	9	20
HSP	14	8	25	HSP	31	10	29	HSP	48	7	14
HSP	15	10	23	HSP	32	8	15	HSP	49	9	20
HSP	16	8	21	HSP	33	10	30				
HSP	17	14	47	HSP	34	9	15				

UH6のHSP(図Ⅱ-12)

	No	径	深さ		No	径	深さ		No	径	深さ
HSP	1	11	34	HSP	6	10	37	HSP	11	9	36
HSP	2	6	22	HSP	7	7	16	HSP	12	8	20
HSP	3	7	19	HSP	8	10	14	HSP	13	9	36
HSP	4	11	32	HSP	9	8	19	HSP	14	8	11
HSP	5	10	38	HSP	10	9	14	HSP	15	9	13

UH7のHSP(図Ⅱ-14)

	No	径	深さ		No	径	深さ		No	径	深さ
HSP	1	17	27	HSP	7	12	20	HSP	13	11	24
HSP	2	9	26	HSP	8	10	15	HSP	14	10	28
HSP	3	8	18	HSP	9	9	18	HSP	15	10	23
HSP	4	7	17	HSP	10	10	14	HSP	16	9	28
HSP	5	9	25	HSP	11	10	23	HSP	17	8	59
HSP	6	13	33	HSP	12	11	48	HSP	18	8	18

UH8のHSP(図Ⅱ-14)

	No	径	深さ		No	径	深さ		No	径	深さ
HSP	1	11	28	HSP	2	10	38	HSP	3	10	18

II 祝梅川上田遺跡

UH9のHSP (図Ⅰ-15)

	No	径	深さ			No	径	深さ
HSP	1	9	25		HSP	3	10	30
HSP	2	9	18		HSP	4	10	19

UH10のHSP (図Ⅰ-15)

	No	径	深さ			No	径	深さ			No	径	深さ
HSP	1	9	32		HSP	11	11	55		HSP	21	8	23
HSP	2	13	34		HSP	12	8	21		HSP	22	9	21
HSP	3	9	47		HSP	13	11	28		HSP	23	11	38
HSP	4	11	33		HSP	14	13	44		HSP	24	8	15
HSP	5	11	43		HSP	15	7	12		HSP	25	7	15
HSP	6	9	31		HSP	16	8	15		HSP	26	9	27
HSP	7	11	29		HSP	17	7	17		HSP	27	17	24
HSP	8	14	37		HSP	18	8	21		HSP	32	11	28
HSP	9	14	22		HSP	19	10	13					
HSP	10	10	43		HSP	20	8	40					

UH11のHSP (図Ⅰ-17)

	No	径	深さ			No	径	深さ			No	径	深さ
HSP	1	10	18		HSP	5	13	50		HSP	9	16	52
HSP	2	15	48		HSP	6	15	49		HSP	10	7	32
HSP	3	15	44		HSP	7	11	40		HSP	11	12	50
HSP	4	11	36		HSP	8	15	45					

表Ⅱ-3 Ⅲ層の柱穴一覧

図取番号			グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備考
図Ⅱ-21	USP	3	K-58	9	27	
図Ⅱ-21	USP	4	L-58	12	34	
図Ⅱ-21	USP	5	T-68	10	31	
図Ⅱ-21	USP	6	S-69	8	12	
図Ⅱ-21	USP	7	S-69	10	18	
図Ⅱ-21	USP	8	T-69	10	26	
図Ⅱ-21	USP	9	T-69	8	17	
図Ⅱ-21	USP	10	S-71	10	13	
図Ⅱ-21	USP	11	S-71	10	22	
図Ⅱ-21	USP	12	S-71	7	11	
図Ⅱ-21	USP	13	R-70	28	92	
図Ⅱ-21	USP	14	S-70	14	68	
図Ⅱ-21	USP	15	R-70	12	35	
図Ⅱ-21	USP	16	T-64	10	21	
図Ⅱ-21	USP	17	P-57	7	22	
図Ⅱ-21	USP	18	O-58	11	21	
図Ⅱ-21	USP	19	O-57	10	21	
図Ⅱ-21	USP	20	O-57	10	21	
図Ⅱ-21	USP	21	O-51	11	15	
図Ⅱ-21	USP	22	O-51	6	13	
図Ⅱ-21	USP	23	O-52	12	20	
図Ⅱ-21	USP	24	P-53	12	17	
図Ⅱ-21	USP	25	O-53	12	26	
図Ⅱ-21	USP	26	P-55	10	23	
図Ⅱ-21	USP	27	P-55	10	20	
図Ⅱ-21	USP	28	O-55	10	29	
図Ⅱ-21	USP	29	O-55	8	19	
図Ⅱ-21	USP	30	P-56	10	42	
図Ⅱ-21	USP	31	P-56	11	30	
図Ⅱ-21	USP	32	P-56	14	18	
図Ⅱ-21	USP	33	N-57	8	22	
図Ⅱ-21	USP	34	N-57	7	18	
図Ⅱ-21	USP	35	N-57	7	16	
図Ⅱ-21	USP	36	N-57	9	18	
図Ⅱ-21	USP	37	G-57	11	30	
図Ⅱ-21	USP	38	G-57	9	36	
図Ⅱ-21	USP	39	G-57	12	59	
図Ⅱ-21	USP	40	I-56	9	29	
図Ⅱ-21	USP	41	I-56	5	33	
図Ⅱ-21	USP	42	I-56	10	13	
図Ⅱ-21	USP	43	I-55	13	40	
図Ⅱ-21	USP	44	I-55	11	36	
図Ⅱ-21	USP	45	I-55	11	36	

図版番号			グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備考
図Ⅱ-21	USP	46	I-55	18	39	
図Ⅱ-21	USP	47	H-55	16	29	
図Ⅱ-21	USP	48	H-55	18	40	
図Ⅱ-22	USP	49	H-55	12	42	
図Ⅱ-22	USP	50	G-56	6	17	
図Ⅱ-22	USP	51	G-56	7	15	
図Ⅱ-22	USP	52	J-57	11	21	
図Ⅱ-22	USP	53	G-55	18	60	
図Ⅱ-22	USP	54	G-55	10	60	
図Ⅱ-22	USP	55	G-55	10	40	
図Ⅱ-22	USP	56	G-55	9	50	
図Ⅱ-22	USP	57	G-55	12	56	
図Ⅱ-22	USP	58	G-55	12	35	
図Ⅱ-22	USP	59	G-54	23	49	
図Ⅱ-22	USP	60	G-54	11	56	
図Ⅱ-22	USP	61	G-54	28	50	
図Ⅱ-22	USP	62	G-54	15	40	
図Ⅱ-22	USP	63	H-55	4	33	
図Ⅱ-22	USP	64	H-55	10	34	
図Ⅱ-22	USP	65	H-54	20	46	
図Ⅱ-22	USP	66	G-54	16	50	
図Ⅱ-22	USP	67	H-54	16	20	
図Ⅱ-22	USP	68	G-52	18	40	
図Ⅱ-22	USP	69	I-53	24	44	
図Ⅱ-22	USP	70	H-51	15	25	
図Ⅱ-22	USP	71	I-51	19	30	
図Ⅱ-22	USP	72	I-51	22	33	
図Ⅱ-22	USP	73	I-53	19	38	
図Ⅱ-22	USP	74	J-52	12	26	
図Ⅱ-22	USP	75	K-52	13	31	
図Ⅱ-1	USP	76	T-70	-	-	
図Ⅱ-1	USP	77	T-71	-	-	
図Ⅱ-1	USP	78	T-71	-	-	
図Ⅱ-1	USP	79	T-71	-	-	
図Ⅱ-22	USP	80	M-56	10	14	
図Ⅱ-22	USP	81	L-55	16	49	
図Ⅱ-22	USP	82	M-54	12	27	
図Ⅱ-22	USP	83	K-72	12	21	
図Ⅱ-22	USP	84	K-73	33	26	
図Ⅱ-22	USP	86	K-70	25	20	
図Ⅱ-22	USP	87	L-72	13	17	
図Ⅱ-22	USP	88	L-72	17	29	
図Ⅱ-22	USP	89	M-73	8	16	
図Ⅱ-22	USP	90	M-73	16	25	
図Ⅱ-22	USP	91	N-72	32	38	
図Ⅱ-22	USP	92	N-72	23	39	
図Ⅱ-22	USP	93	G-53	14	30	
図Ⅱ-22	USP	94	H-62	5	8	
図Ⅱ-22	USP	97	I-63	10	18	
図Ⅱ-22	USP	98	I-62	9	10	
図Ⅱ-22	USP	99	I-62	10	21	
図Ⅱ-23	USP	100	G-62	12	35	
図Ⅱ-23	USP	101	G-62	8	17	
図Ⅱ-23	USP	102	G-63	11	40	
図Ⅱ-23	USP	103	H-63	12	30	
図Ⅱ-23	USP	104	H-63	11	36	
図Ⅱ-23	USP	105	H-63	9	30	
図Ⅱ-23	USP	106	G-63	12	22	
図Ⅱ-23	USP	107	H-64	10	48	
図Ⅱ-23	USP	108	G-64	12	32	
図Ⅱ-23	USP	109	G-64	15	34	
図Ⅱ-23	USP	110	G-64	11	27	
図Ⅱ-23	USP	111	H-64	23	33	
図Ⅱ-23	USP	112	H-64	11	29	
図Ⅱ-23	USP	113	G-64	14	18	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	114	G-64	8	19	UH-4.5

II 祝梅川上田遺跡

図版番号			グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備考
図Ⅱ-23	USP	115	G-64	9	12	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	116	G-64	6	11	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	117	G-65	8	10	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	118	H-64	8	16	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	119	H-65	8	14	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	120	H-65	8	20	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	121	H-64	12	20	UH-4.5
図Ⅱ-1	USP	122	H-64	-	-	
図Ⅱ-23	USP	123	I-64	12	29	
図Ⅱ-23	USP	124	H-65	6	16	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	125	G-65	8	14	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	126	G-65	9	18	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	127	G-65	6	10	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	128	G-65	11	20	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	129	G-65	12	20	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	130	G-65	8	12	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	131	G-65	8	9	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	132	G-65	9	25	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	133	H-65	11	17	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	134	H-65	9	11	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	135	G-65	7	12	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	136	H-66	4	17	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	137	H-66	7	9	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	138	H-66	9	10	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	139	G-65	12	18	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	140	H-65	4	17	UH-4.5
図Ⅱ-23	USP	141	G-63	9	26	
図Ⅱ-23	USP	142	Q-80	9	32	
図Ⅱ-23	USP	143	Q-80	11	34	
図Ⅱ-23	USP	144	Q-80	20	45	
図Ⅱ-23	USP	145	R-79	13	29	
図Ⅱ-23	USP	146	R-79	17	44	
図Ⅱ-23	USP	147	R-80	13	35	
図Ⅱ-23	USP	148	S-80	10	22	
図Ⅱ-23	USP	149	S-80	9	11	
図Ⅱ-23	USP	150	R-79	20	38	
図Ⅱ-23	USP	151	S-80	13	15	
図Ⅱ-23	USP	152	S-80	10	23	
図Ⅱ-23	USP	153	T-80	15	30	
図Ⅱ-23	USP	154	S-80	9	9	
図Ⅱ-23	USP	155	R-80	20	44	
図Ⅱ-23	USP	156	S-79	10	12	
図Ⅱ-24	USP	157	S-79	11	16	
図Ⅱ-24	USP	158	S-79	10	29	
図Ⅱ-24	USP	159	Q-79	12	9	
図Ⅱ-24	USP	160	Q-79	11	21	
図Ⅱ-24	USP	161	Q-79	9	16	
図Ⅱ-24	USP	162	R-79	18	25	
図Ⅱ-24	USP	163	R-79	12	36	
図Ⅱ-24	USP	164	S-79	11	20	
図Ⅱ-24	USP	165	R-79	10	15	
図Ⅱ-24	USP	166	R-79	11	16	
図Ⅱ-24	USP	167	R-78	10	26	
図Ⅱ-24	USP	168	S-79	10	22	
図Ⅱ-24	USP	169	T-78	12	23	
図Ⅱ-24	USP	170	T-78	11	18	
図Ⅱ-24	USP	171	R-79	10	20	
図Ⅱ-24	USP	172	Q-79	9	28	
図Ⅱ-24	USP	173	R-79	13	30	
図Ⅱ-24	USP	174	R-80	7	9	
図Ⅱ-24	USP	175	Q-80	10	34	
図Ⅱ-24	USP	176	Q-80	20	64	
図Ⅱ-24	USP	177	S-79	10	23	
図Ⅱ-24	USP	178	S-79	14	28	
図Ⅱ-24	USP	179	R-79	10	16	
図Ⅱ-24	USP	180	S-79	13	12	

図版番号			グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備考
図Ⅱ-24	USP	181	S-78	10	24	
図Ⅱ-24	USP	182	R-78	10	16	
図Ⅱ-24	USP	183	R-77	21	40	
図Ⅱ-24	USP	184	R-78	15	44	
図Ⅱ-24	USP	185	Q-78	6	14	
図Ⅱ-24	USP	186	Q-77	17	41	
図Ⅱ-24	USP	187	R-76	22	34	
図Ⅱ-24	USP	188	R-76	24	38	
図Ⅱ-24	USP	189	R-76	20	37	
図Ⅱ-24	USP	190	Q-76	9	40	
図Ⅱ-24	USP	191	Q-76	13	55	
図Ⅱ-24	USP	192	P-76	10	31	
図Ⅱ-24	USP	193	P-76	10	40	
図Ⅱ-24	USP	194	P-76	9	47	
図Ⅱ-24	USP	195	P-76	8	21	
図Ⅱ-24	USP	196	P-76	10	23	
図Ⅱ-24	USP	197	P-76	11	40	
図Ⅱ-24	USP	198	P-76	11	49	
図Ⅱ-24	USP	199	P-76	9	28	
図Ⅱ-24	USP	200	Q-75	18	54	
図Ⅱ-24	USP	201	H-66	8	16	UH-4.5
図Ⅱ-24	USP	202	H-66	9	17	UH-4.5
図Ⅱ-24	USP	203	G-66	7	12	UH-4.5
図Ⅱ-24	USP	204	G-66	8	14	UH-4.5
図Ⅱ-24	USP	205	G-66	7	24	UH-4.5
図Ⅱ-24	USP	206	H-66	7	8	UH-4.5
図Ⅱ-24	USP	207	H-66	12	12	UH-4.5
図Ⅱ-24	USP	208	H-66	8	8	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	209	H-66	8	9	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	210	H-66	13	23	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	211	H-66	9	8	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	212	H-66	9	21	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	213	H-66	5	9	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	214	H-66	10	30	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	215	G-66	5	9	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	216	H-67	14	13	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	217	H-67	9	6	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	218	H-67	8	12	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	219	G-67	7	15	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	220	G-67	9	18	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	221	G-67	11	25	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	222	G-67	7	26	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	223	G-67	5	9	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	224	H-67	7	10	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	225	I-67	10	18	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	226	I-67	12	14	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	227	I-67	7	13	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	228	H-66	8	6	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	229	H-66	4	7	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	230	H-67	6	9	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	231	H-67	5	8	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	232	H-67	7	7	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	233	H-67	9	21	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	234	H-64	9	16	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	235	G-67	12	28	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	236	G-67	12	29	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	237	H-67	6	8	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	238	H-67	8	25	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	239	G-67	10	20	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	240	G-67	18	19	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	241	H-67	7	6	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	242	H-68	8	22	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	243	H-68	10	22	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	244	G-68	11	10	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	245	G-68	4	19	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	246	H-68	15	24	UH-4.5

II 祝梅川上田遺跡

図版番号			グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備考
図Ⅱ-25	USP	247	H-68	7	24	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	248	G-68	11	16	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	249	G-68	12	21	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	250	G-68	9	21	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	251	H-68	6	10	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	252	H-68	7	22	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	253	H-68	8	28	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	254	H-68	8	8	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	255	H-68	9	11	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	256	H-68	9	9	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	257	H-68	13	13	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	258	H-68	14	13	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	259	H-69	11	12	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	260	G-69	8	10	UH-4.5
図Ⅱ-25	USP	261	K-62	11	14	
図Ⅱ-25	USP	262	K-62	7	23	
図Ⅱ-25	USP	263	L-63	8	18	
図Ⅱ-25	USP	264	L-63	9	19	
図Ⅱ-25	USP	265	L-63	9	10	
図Ⅱ-25	USP	266	L-63	7	11	
図Ⅱ-25	USP	267	L-63	9	11	
図Ⅱ-26	USP	268	L-63	8	18	
図Ⅱ-26	USP	269	L-63	5	15	
図Ⅱ-26	USP	270	K-63	6	12	
図Ⅱ-26	USP	271	K-63	8	11	
図Ⅱ-26	USP	272	L-63	9	18	
図Ⅱ-26	USP	273	L-63	8	8	
図Ⅱ-26	USP	274	L-63	9	12	
図Ⅱ-26	USP	275	L-64	7	15	
図Ⅱ-26	USP	276	L-64	8	10	
図Ⅱ-26	USP	277	L-64	7	12	
図Ⅱ-26	USP	278	M-64	10	12	
図Ⅱ-26	USP	279	K-64	8	14	
図Ⅱ-26	USP	280	K-64	10	18	
図Ⅱ-26	USP	281	K-64	10	14	
図Ⅱ-26	USP	282	K-64	10	12	
図Ⅱ-26	USP	283	K-64	9	9	
図Ⅱ-26	USP	284	N-65	9	8	
図Ⅱ-26	USP	285	N-65	12	8	
図Ⅱ-26	USP	286	N-65	15	26	
図Ⅱ-26	USP	287	K-70	7	18	
図Ⅱ-26	USP	288	N-65	19	55	
図Ⅱ-26	USP	289	M-65	9	19	UH-12
図Ⅱ-26	USP	290	M-65	11	18	UH-12
図Ⅱ-26	USP	291	M-65	9	11	UH-12
図Ⅱ-26	USP	292	L-65	12	17	UH-12
図Ⅱ-26	USP	293	L-65	9	17	UH-12
図Ⅱ-26	USP	294	L-66	11	14	UH-12
図Ⅱ-26	USP	295	M-66	9	23	UH-12
図Ⅱ-26	USP	296	M-66	11	22	UH-12
図Ⅱ-1	USP	297	M-67	-	-	
図Ⅱ-26	USP	298	N-67	11	32	
図Ⅱ-26	USP	299	N-67	7	21	
図Ⅱ-26	USP	300	N-67	7	9	
図Ⅱ-26	USP	301	I-66	5	8	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	302	I-66	7	14	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	303	I-66	9	16	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	304	I-66	8	13	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	305	I-68	7	14	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	306	I-68	6	27	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	307	I-68	8	10	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	308	I-68	8	19	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	309	I-69	12	18	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	310	I-69	6	11	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	311	I-69	9	21	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	312	I-69	9	20	UH-4.5

図版番号			グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備考
図Ⅱ-26	USP	313	I-69	7	17	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	314	I-69	6	18	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	315	I-69	9	17	UH-4.5
図Ⅱ-26	USP	316	J-68	10	13	
図Ⅱ-26	USP	317	K-68	10	23	
図Ⅱ-26	USP	318	K-68	8	25	
図Ⅱ-26	USP	319	J-69	11	21	
図Ⅱ-26	USP	320	K-69	8	20	
図Ⅱ-26	USP	321	K-69	10	10	
図Ⅱ-26	USP	322	K-69	14	8	
図Ⅱ-26	USP	323	K-69	7	15	
図Ⅱ-26	USP	324	K-70	11	30	
図Ⅱ-26	USP	325	M-66	7	11	
図Ⅱ-26	USP	326	M-66	8	10	UH-12
図Ⅱ-26	USP	327	M-65	8	20	UH-12
図Ⅱ-26	USP	328	L-65	7	13	
図Ⅱ-26	USP	329	I-67	10	21	UH-4.5
図Ⅱ-1	USP	330	P-75	-	-	
図Ⅱ-1	USP	331	P-75	-	-	
図Ⅱ-1	USP	332	O-75	-	-	
図Ⅱ-1	USP	333	O-75	-	-	
図Ⅱ-1	USP	334	O-75	-	-	
図Ⅱ-1	USP	335	O-76	-	-	
図Ⅱ-1	USP	336	R-76	-	-	
図Ⅱ-1	USP	337	R-76	-	-	
図Ⅱ-1	USP	338	Q-75	-	-	
図Ⅱ-1	USP	339	Q-75	-	-	
図Ⅱ-27	USP	340	R-80	9	19	
図Ⅱ-1	USP	341	Q-79	-	-	
図Ⅱ-1	USP	342	Q-79	-	-	
図Ⅱ-27	USP	343	R-79	9	30	
図Ⅱ-1	USP	344	R-78	-	-	
図Ⅱ-1	USP	345	R-77	-	-	
図Ⅱ-27	USP	346	R-77	10	41	
図Ⅱ-27	USP	347	R-77	22	42	
図Ⅱ-27	USP	348	R-76	19	26	
図Ⅱ-27	USP	349	Q-77	15	29	
図Ⅱ-27	USP	360	K-68	11	27	
図Ⅱ-27	USP	361	K-69	7	5	
図Ⅱ-27	USP	362	J-68	10	18	
図Ⅱ-27	USP	363	P-66	11	22	
図Ⅱ-27	USP	364	P-66	9	17	
図Ⅱ-27	USP	365	P-66	11	34	
図Ⅱ-27	USP	366	P-66	5	15	
図Ⅱ-27	USP	367	P-66	13	8	
図Ⅱ-27	USP	368	P-66	11	36	
図Ⅱ-27	USP	369	P-66	12	38	
図Ⅱ-27	USP	370	P-66	8	16	
図Ⅱ-27	USP	371	O-66	8	25	
図Ⅱ-27	USP	372	P-67	10	71	
図Ⅱ-27	USP	373	N-68	11	20	
図Ⅱ-27	USP	374	N-68	10	19	
図Ⅱ-27	USP	375	N-68	16	20	
図Ⅱ-27	USP	376	M-69	11	20	
図Ⅱ-27	USP	377	O-68	12	26	
図Ⅱ-27	USP	378	P-68	8	14	
図Ⅱ-27	USP	379	O-68	14	36	
図Ⅱ-27	USP	380	P-68	11	14	
図Ⅱ-27	USP	381	O-68	12	25	
図Ⅱ-27	USP	382	O-69	9	18	
図Ⅱ-27	USP	383	O-69	8	24	
図Ⅱ-27	USP	384	P-69	8	18	
図Ⅱ-27	USP	385	P-69	8	25	
図Ⅱ-27	USP	386	P-69	8	34	
図Ⅱ-27	USP	387	T-76	19	61	
図Ⅱ-27	USP	388	T-76	18	49	

II 祝梅川上田遺跡

図版番号			グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備考
図Ⅱ-27	USP	389	T-76	15	28	
図Ⅱ-27	USP	390	S-76	15	60	
図Ⅱ-27	USP	391	S-75	11	49	
図Ⅱ-27	USP	392	S-75	14	14	
図Ⅱ-27	USP	393	S-75	21	35	
図Ⅱ-27	USP	394	S-75	11	42	
図Ⅱ-27	USP	395	S-75	15	46	
図Ⅱ-27	USP	396	S-75	13	40	
図Ⅱ-27	USP	397	R-75	13	41	
図Ⅱ-27	USP	398	S-75	9	43	
図Ⅱ-27	USP	399	S-75	11	41	
図Ⅱ-27	USP	400	R-75	14	41	
図Ⅱ-27	USP	401	R-75	12	39	
図Ⅱ-28	USP	402	R-75	14	25	
図Ⅱ-28	USP	403	Q-76	11	35	
図Ⅱ-28	USP	404	Q-76	8	36	
図Ⅱ-28	USP	405	Q-76	15	55	
図Ⅱ-28	USP	406	P-76	8	48	
図Ⅱ-28	USP	407	L-74	37	73	
図Ⅱ-28	USP	408	Q-75	15	56	
図Ⅱ-28	USP	409	R-75	11	50	
図Ⅱ-1	USP	410	M-78	-	-	
図Ⅱ-1	USP	411	M-78	-	-	
図Ⅱ-1	USP	412	M-78	-	-	
図Ⅱ-28	USP	413	M-77	10	15	
図Ⅱ-1	USP	414	M-77	-	-	
図Ⅱ-28	USP	415	M-77	10	13	
図Ⅱ-28	USP	416	M-77	13	12	
図Ⅱ-28	USP	417	M-78	-	-	
図Ⅱ-28	USP	420	M-77	16	28	
図Ⅱ-28	USP	421	M-76	15	46	
図Ⅱ-28	USP	422	M-76	10	19	
図Ⅱ-28	USP	423	L-76	13	27	
図Ⅱ-28	USP	424	L-76	10	20	
図Ⅱ-28	USP	425	L-76	8	20	
図Ⅱ-28	USP	426	M-76	10	26	
図Ⅱ-28	USP	427	M-76	15	28	
図Ⅱ-28	USP	428	M-76	14	34	
図Ⅱ-28	USP	429	N-76	6	22	
図Ⅱ-28	USP	431	L-76	7	24	
図Ⅱ-28	USP	432	U-74	12	20	
図Ⅱ-28	USP	433	U-74	9	18	
図Ⅱ-28	USP	434	T-73	7	26	
図Ⅱ-28	USP	435	S-74	12	22	
図Ⅱ-28	USP	436	R-74	11	33	
図Ⅱ-28	USP	437	R-74	9	26	
図Ⅱ-28	USP	438	R-74	13	36	
図Ⅱ-28	USP	439	R-74	9	29	
図Ⅱ-28	USP	440	R-74	9	25	
図Ⅱ-28	USP	441	R-74	7	15	
図Ⅱ-28	USP	442	O-74	9	22	
図Ⅱ-1	USP	443	N-76	-	-	
図Ⅱ-28	USP	444	M-76	10	20	
図Ⅱ-28	USP	445	M-76	10	28	
図Ⅱ-28	USP	451	I-67	14	21	UH-4.5
図Ⅱ-28	USP	452	I-68	8	21	UH-4.5
図Ⅱ-28	USP	453	M-72	10	31	
図Ⅱ-1	USP	454	M-73	-	-	
図Ⅱ-1	USP	455	M-73	-	-	
図Ⅱ-1	USP	456	M-73	-	-	
図Ⅱ-1	USP	457	N-71	-	-	
図Ⅱ-1	USP	458	O-72	-	-	
図Ⅱ-1	USP	459	O-72	-	-	
図Ⅱ-1	USP	460	P-72	-	-	
図Ⅱ-1	USP	461	P-71	-	-	
図Ⅱ-1	USP	462	P-71	-	-	

図版番号			グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備考
図Ⅱ-1	USP	463	O-71	-	-	
図Ⅱ-1	USP	464	N-72	-	-	
図Ⅱ-1	USP	465	M-73	-	-	
図Ⅱ-1	USP	466	M-73	-	-	
図Ⅱ-1	USP	467	M-74	-	-	
図Ⅱ-1	USP	468	M-74	-	-	
図Ⅱ-28	USP	469	H-68	5	10	UH-4.5
図Ⅱ-28	USP	470	H-69	4	7	UH-4.5
図Ⅱ-28	USP	471	H-69	6	14	UH-4.5
図Ⅱ-28	USP	472	H-69	4	10	UH-4.5
図Ⅱ-28	USP	473	H-69	6	11	UH-4.5
図Ⅱ-28	USP	474	H-69	17	13	UH-4.5
図Ⅱ-28	USP	475	G-65	7	12	UH-4.5
図Ⅱ-28	USP	476	G-65	6	16	UH-4.5
図Ⅱ-28	USP	477	N-61	8	9	
図Ⅱ-1	USP	478	N-62	6	13	
図Ⅱ-29	USP	479	N-62	6	7	
図Ⅱ-29	USP	480	M-62	9	21	
図Ⅱ-29	USP	481	M-62	7	11	
図Ⅱ-29	USP	482	M-62	11	8	
図Ⅱ-29	USP	483	N-62	6	18	
図Ⅱ-29	USP	484	N-63	7	14	
図Ⅱ-29	USP	485	N-63	9	22	
図Ⅱ-29	USP	486	N-63	7	14	
図Ⅱ-29	USP	487	M-63	9	9	
図Ⅱ-29	USP	488	M-62	5	10	
図Ⅱ-29	USP	489	M-63	11	11	
図Ⅱ-29	USP	490	M-63	7	13	
図Ⅱ-29	USP	491	N-63	10	16	
図Ⅱ-29	USP	492	O-63	10	17	
図Ⅱ-29	USP	493	O-63	7	13	
図Ⅱ-29	USP	494	Q-73	14	36	
図Ⅱ-29	USP	495	T-73	12	28	
図Ⅱ-29	USP	496	U-73	12	26	
図Ⅱ-29	USP	497	Q-72	12	40	
図Ⅱ-29	USP	498	Q-72	15	58	
図Ⅱ-29	USP	499	T-71	10	42	
図Ⅱ-29	USP	500	T-70	12	24	
図Ⅱ-29	USP	501	T-70	14	23	
図Ⅱ-29	USP	502	T-70	10	24	
図Ⅱ-29	USP	503	S-70	12	23	
図Ⅱ-29	USP	504	S-70	12	36	
図Ⅱ-29	USP	505	S-70	12	32	
図Ⅱ-1	USP	506	I-75	-	-	
図Ⅱ-29	USP	507	I-74	10	23	
図Ⅱ-29	USP	508	I-74	10	26	
図Ⅱ-29	USP	509	I-74	13	26	
図Ⅱ-29	USP	510	I-74	10	20	
図Ⅱ-29	USP	511	T-71	11	33	
図Ⅱ-29	USP	512	S-76	15	40	
図Ⅱ-1	USP	513	I-74	-	-	
図Ⅱ-29	USP	514	U-76	20	52	
図Ⅱ-29	USP	515	M-63	17	16	
図Ⅱ-29	USP	516	L-64	11	18	
図Ⅱ-29	USP	517	L-64	21	12	
図Ⅱ-29	USP	518	L-54	15	20	
図Ⅱ-29	USP	519	O-56	19	12	
図Ⅱ-29	USP	520	P-58	21	14	
図Ⅱ-1	USP	521	R-63	-	-	
図Ⅱ-1	USP	522	N-70	-	-	
図Ⅱ-29	USP	524	T-76	7	7	
図Ⅱ-1	USP	525	G-57	-	-	
図Ⅱ-29	USP	526	-	-	-	
図Ⅱ-29	USP	527	J-75	11	49	
図Ⅱ-29	USP	528	J-75	12	45	
図Ⅱ-29	USP	529	J-76	10	46	

Ⅱ 祝梅川上田遺跡

図版番号			グリッド	径(cm)	深さ(cm)	備考
図Ⅱ-29	USP	530	J-76	10	44	
図Ⅱ-29	USP	531	J-76	15	44	
図Ⅱ-29	USP	532	J-75	10	29	
図Ⅱ-29	USP	533	J-75	8	19	
図Ⅱ-29	USP	534	K-76	12	38	
図Ⅱ-29	USP	535	K-75	10	18	
図Ⅱ-29	USP	536	K-75	11	19	
図Ⅱ-29	USP	537	K-75	16	28	
図Ⅱ-29	USP	538	J-76	11	25	
図Ⅱ-29	USP	539	K-76	9	14	
図Ⅱ-29	USP	540	K-76	4	13	
図Ⅱ-29	USP	541	J-76	11	24	
図Ⅱ-29	USP	542	J-76	10	20	
図Ⅱ-29	USP	543	J-76	9	36	
図Ⅱ-29	USP	544	J-77	10	37	
図Ⅱ-29	USP	545	J-77	10	28	
図Ⅱ-29	USP	546	J-77	12	24	
図Ⅱ-29	USP	547	J-77	12	18	
図Ⅱ-29	USP	548	P-75	11	26	
図Ⅱ-29	USP	549	Q-75	10	26	
図Ⅱ-29	USP	550	Q-74	9	25	
図Ⅱ-29	USP	551	Q-75	15	29	
図Ⅱ-1	USP	552	R-80	10	30	

表Ⅱ-4 Ⅲ層の土壌一覧

図版番号			グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方向
図Ⅱ-30	UP	1	O-79	0.92	0.67	0.44	N-69°-W
図Ⅱ-30	UP	2	P-61	0.70	0.58	0.30	N-79°-W
図Ⅱ-30	UP	3	P-58	0.68	0.68	0.38	N-44°-E

表Ⅱ-5 Ⅲ層の集石一覧

図版番号			グリッド	長径(m)	短径(m)	長軸方向
図Ⅱ-30	US	1	S-70, T-70	4.74	2.70	N-72°-E
図Ⅱ-31	US	2	L-59, M-59	1.94	0.74	N-20°-W
図Ⅱ-31	US	3	O-56, P-56	0.70	0.31	N-78°-W
図Ⅱ-31	US	4	I-57	0.13	0.12	N-52°-E

表Ⅱ-6 Ⅲ層の灰集中一覧

図版番号			グリッド	長径(m)	短径(m)	厚さ(m)	長軸方向
図Ⅱ-31	UA	1	H-59	1.46	0.55	0.04	N-61°-W
図Ⅱ-31	UA	2	K-59	0.49	0.36	0.07	N-62.5°-E
図Ⅱ-31	UA	3	N-58	0.62	0.46	0.10	N-66°-W
図Ⅱ-31	UA	4	N-77	0.20	0.14	0.06	N-68.5°-E

表Ⅱ-7 Ⅲ層の焼土一覧

図版番号			グリッド	長径(cm)	短径(cm)	短径(cm)	長軸方向
図Ⅱ-35	UF	1	P-70	106	58	6	N-29.5°-E
図Ⅱ-35	UF	2	O-57	68	31	-	N-81°-W
図Ⅱ-35	UF	3	H-62	24	20	4	N-46.5°-E
図Ⅱ-35	UF	4	P-71	145	77	7	N-39.5°-W
図Ⅱ-35	UF	5	P-71	47	18	8	N-41°-W
図Ⅱ-36	UF	6	H-57, I-57	60	34	5	N-32.5°-E
図Ⅱ-36	UF	7	N-77	32	29	6	N-47°-W
図Ⅱ-35	UF	11	H-67	75	36	-	N-67°-E
図Ⅱ-36	UF	12	I-69	46	36	8	N-50.5°-E
図Ⅱ-36	UF	13	N-63	44	38	8	N-59°-W
図Ⅱ-36	UF	14	M-72	30	18	-	N-90°-E

表Ⅱ-8 V・VI層の土壌一覧

図版番号			グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方向
図Ⅱ-38	LP	1	H76	0.52	0.30	0.12	N-40°-W
図Ⅱ-38	LP	2	R67	1.18	0.60	0.40	N-49°-E

表Ⅱ-9 V・VI層の焼土一覧

図版番号			グリッド	層位	深さ(cm)	長径(cm)	短径(cm)	長軸方向	備考
図Ⅱ-38	LF	1	N-63	V	5 cm	36	34	N-39°-W	
図Ⅱ-38	LF	2	N-63	V	5 cm	94	80	N-71.5°-W	フレイク(焼土上面)
図Ⅱ-38	LF	3	M-53	V	6 cm	16	15	N-54°-W	
図Ⅱ-38	LF	4	M-53	V	3 cm	20	18	N-81°-W	
図Ⅱ-38	LF	6	M-52	V	6 cm	82	48	N-86°-E	
図Ⅱ-38	LF	7	M-52	V	6 cm	80	46	N-78°-W	
図Ⅱ-38	LF	8	O-56	V	9 cm	54	30	N-41.5°-E	
図Ⅱ-38	LF	9	O-56	V	6 cm	42	36	N-15.5°-W	
図Ⅱ-38	LF	10	M-58	V	8 cm	30	25	N-74°-W	
図Ⅱ-38	LF	11	M-61	V	3 cm	94	40	N-32°-E	
図Ⅱ-38	LF	12	N-53	V	3 cm	56	50	N-82.5°-W	
図Ⅱ-38	LF	13	Q-58	V	2 cm	20	16	N-2°-E	
図Ⅱ-38	LF	14	R-61	V	6 cm	14	12	N-46.5°-W	
図Ⅱ-38	LF	15	S-62	V	3 cm	12	10	N-78°-E	
図Ⅱ-38	LF	16	S-62	V	3 cm	22	14	N-9°-W	
図Ⅱ-38	LF	17	S-62	V	1 cm	18	12	N-72°-W	
図Ⅱ-38	LF	18	R-62	V	-	56	32	N-34°-E	
図Ⅱ-38	LF	19	S-63	V	2 cm	30	26	N-88.5°-E	
図Ⅱ-38	LF	20	S-63	V	3 cm	38	20	N-77°-E	
図Ⅱ-38	LF	21	R-67	V	2 cm	32	28	N-76°-E	
図Ⅱ-38	LF	22	R-68	V	4 cm	28	14	N-70.5°-E	
図Ⅱ-38	LF	23	M-69	V	5 cm	50	18	N-7.5°-W	
図Ⅱ-38	LF	24	N-70	V	7 cm	64	28	N-89°-E	
図Ⅱ-38	LF	25	M-70	V	1 cm	26	15	N-35.5°-W	
図Ⅱ-39	LF	26	S-62	V	3 cm	52	28	N-26°-W	
図Ⅱ-39	LF	27	P-54	V	7 cm	70	28	N-40.5°-W	
図Ⅱ-39	LF	28	I-51	V	2 cm	20	16	N-89°-W	
図Ⅱ-39	LF	29	J-51	V	5 cm	100	42	N-47°-E	メノウ出土
図Ⅱ-39	LF	30	J-51	V	2 cm	10	9	N-74°-W	
図Ⅱ-39	LF	31	J-51	V	2 cm	10	9	N-47°-E	
図Ⅱ-39	LF	32	G-53	V	5 cm	52	30	N-34°-E	
図Ⅱ-39	LF	33	H-58	V	6 cm	50	22	N-26°-W	チップ(obs)出土
図Ⅱ-39	LF	34	I-59	V	11cm	64	28	N-87°-E	
図Ⅱ-39	LF	35	H-60	V	12cm	66	50	N-50.5°-W	
図Ⅱ-39	LF	36	Q-72	V	2 cm	26	24	N-27°-W	
図Ⅱ-39	LF	37	T-77	V	-	35	26	N-74°-W	
図Ⅱ-39	LF	38	S-78	V	6 cm	32	24	N-61.5°-W	
図Ⅱ-39	LF	39	L-53	V	8 cm	68	38	N-26°-E	
図Ⅱ-39	LF	40	Q-70	V	8 cm	84	60	N-58°-E	
図Ⅱ-39	LF	41	Q-70	V	5 cm	34	22	N-8°-E	
図Ⅱ-39	LF	42	R-75	V	3 cm	20	16	N-59.5°-E	
図Ⅱ-39	LF	43	M-68	V	5 cm	30	20	N-35°-W	
図Ⅱ-39	LF	44	O-74	V	4 cm	26	18	N-22°-W	
図Ⅱ-39	LF	45	O-74	V	6 cm	18	17	N-63°-E	
図Ⅱ-39	LF	46	K-53	V	5 cm	90	40	N-1.5°-W	
図Ⅱ-39	LF	47	H-62	V	7 cm	50	24	N-85°-W	
図Ⅱ-39	LF	48	K-64	V	11cm	62	26	N-2.5°-E	
図Ⅱ-39	LF	49	L-64	V	9 cm	65	36	N-47°-E	
図Ⅱ-39	LF	50	L-64	V	5 cm	58	36	N-20.5°-E	
図Ⅱ-39	LF	51	S-70	V	7 cm	140	120	N-74°-W	
図Ⅱ-39	LF	52	N-72	V	2 cm	70	30	N-17°-E	
図Ⅱ-39	LF	53	N-72	V	3 cm	50	25	N-30°-W	
図Ⅱ-39	LF	54	M-66	V	7 cm	96	60	N-49°-W	
図Ⅱ-39	LF	55	K-66	V	8 cm	26	20	N-84°-W	
図Ⅱ-39	LF	56	K-67	V	11cm	42	38	N-55°-W	
図Ⅱ-39	LF	57	I-72	V	6 cm	58	28	N-2.5°-E	
図Ⅱ-39	LF	58	Q-54	V	5 cm	43	40	N-63°-W	
図Ⅱ-39	LF	59	I-61	V	9 cm	41	21	N-50°-E	

II 祝梅川上田遺跡

図版番号			グリッド	層位	深さ(㎝)	長径(㎝)	短径(㎝)	長軸方向	備考
図Ⅱ-39	LF	60	M-56	V	9 ㎝	70	24	N-64°-E	
図Ⅱ-39	LF	61	N-58	V	7 ㎝	36	16	N-15.5°-W	
図Ⅱ-39	LF	62	N-59	V	7 ㎝	70	50	N-4.5°-E	

表Ⅱ-10 写真掲載遺物一覧

挿入番号	図版番号	遺構名	層位	器種	石材	長さ(㎝)	幅(㎝)	厚さ(㎝)	重量(g)	備考
Ⅱ-8	1	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	3.31	1.78	1.17	9.73	
Ⅱ-8	2	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	4.28	1.67	1.49	15.26	
Ⅱ-8	3	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	4.40	1.81	9.96	13.81	
Ⅱ-8	4	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	3.85	2.29	1.35	16.42	
Ⅱ-8	5	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	3.57	1.91	1.24	12.70	
Ⅱ-8	6	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	3.55	2.59	1.52	19.13	
Ⅱ-8	7	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	3.38	1.92	0.74	7.58	
Ⅱ-8	8	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	3.12	1.86	1.78	15.93	
Ⅱ-8	9	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	4.05	2.16	1.31	17.88	
Ⅱ-8	10	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	3.76	2.43	1.52	21.88	
Ⅱ-8	11	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	3.84	1.52	1.27	8.17	
Ⅱ-8	12	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	4.42	1.68	1.60	19.27	
Ⅱ-8	13	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	アブライト	4.05	2.32	1.94	24.40	
Ⅱ-8	14	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	4.32	3.25	2.19	40.36	
Ⅱ-8	15	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	3.94	1.80	1.00	11.19	
Ⅱ-8	16	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	6.66	2.90	2.22	53.81	
Ⅱ-8	17	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	3.67	1.86	1.50	13.77	
Ⅱ-8	18	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	3.64	2.03	1.28	14.84	
Ⅱ-8	19	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	4.73	2.35	1.23	19.88	
Ⅱ-8	20	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	3.29	2.15	1.25	12.64	
Ⅱ-8	21	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	4.15	2.01	1.46	15.87	
Ⅱ-8	22	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	3.32	2.10	1.28	13.81	
Ⅱ-8	23	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	6.06	2.73	2.69	70.37	
Ⅱ-8	24	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	4.85	2.84	1.80	33.83	
Ⅱ-8	25	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.16	3.00	1.51	34.39	
Ⅱ-8	26	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.33	2.85	2.50	52.22	
Ⅱ-8	27	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.52	2.78	2.71	64.04	
Ⅱ-8	28	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	4.40	2.73	2.05	36.96	
Ⅱ-8	29	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.93	2.74	2.68	74.86	
Ⅱ-8	30	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.49	3.56	1.72	46.47	
Ⅱ-8	31	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.39	2.98	1.51	35.53	
Ⅱ-8	32	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	石英珪岩	6.20	4.11	1.34	49.71	
Ⅱ-8	33	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	チャート	5.57	2.67	2.56	60.21	
Ⅱ-8	34	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	安山岩	5.41	4.75	2.85	83.49	
Ⅱ-8	35	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	安山岩	6.20	4.91	2.17	88.08	
Ⅱ-8	36	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	凝灰岩	5.14	3.46	2.40	41.59	
Ⅱ-8	37	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	安山岩	6.17	3.23	1.77	58.97	
Ⅱ-8	38	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	凝灰岩	5.32	3.16	2.23	32.32	
Ⅱ-8	39	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	片麻岩	5.62	4.00	2.07	71.77	
Ⅱ-8	40	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	凝灰岩	5.50	3.14	2.46	69.14	
Ⅱ-8	41	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	6.38	4.51	2.25	66.08	
Ⅱ-8	42	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.51	3.48	2.16	51.09	
Ⅱ-8	43	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.23	3.71	1.97	44.52	
Ⅱ-8	44	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.52	3.53	2.76	62.77	
Ⅱ-8	45	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	凝灰岩	5.40	3.81	2.62	50.01	
Ⅱ-8	46	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	凝灰岩	6.45	2.86	1.63	29.96	
Ⅱ-8	47	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	安山岩	5.53	3.04	1.65	29.14	
Ⅱ-8	48	UH-3	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.44	1.73	1.76	20.42	
Ⅱ-11	1	UH-4	Ⅲ	棒状礫類	珪岩	6.23	3.94	2.48	86.68	
Ⅱ-11	2	UH-4	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	5.65	3.25	2.07	49.56	
Ⅱ-11	3	UH-5	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	7.08	2.74	1.95	54.05	S1-3
Ⅱ-11	4	UH-5	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	8.62	4.32	2.65	144.2	S1-3
Ⅱ-11	5	UH-5	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	8.02	4.1	2.64	148.14	S1-3
Ⅱ-11	6	UH-5	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	5.45	3.67	2.73	64.77	S1-3
Ⅱ-11	7	UH-5	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	5.93	3.57	1.76	51.76	S1-3
Ⅱ-11	8	UH-5	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	7.29	2.69	1.6	41.16	S1-3
Ⅱ-11	9	UH-5	Ⅲ	棒状礫類	泥岩	4.32	2.96	1.1	20.32	
Ⅱ-11	10	UH-5	Ⅲ	棒状礫類	砂岩	6.71	3.40	1.98	52.80	S3-2
Ⅱ-11	11	UH-5	Ⅲ	棒状礫類	凝灰岩	7.68	2.47	2.18	30.27	S3-2

挿図番号	掲載番号	遺構名	層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
Ⅱ-11	12	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	5.62	2.22	1.90	25.05	S3-2
Ⅱ-11	13	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	6.08	3.60	2.03	62.96	S3-1
Ⅱ-11	14	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	6.96	3.01	2.63	79.66	S3-1
Ⅱ-11	15	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.72	3.93	1.95	76.87	S3-1
Ⅱ-11	16	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.56	3.57	1.96	68.47	S3-1
Ⅱ-11	17	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.76	4.11	1.7	83.33	S3-1
Ⅱ-11	18	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	8.32	3.93	1.48	68.89	S3-1
Ⅱ-11	19	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.82	2.80	1.75	35.21	S3-1
Ⅱ-11	20	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.13	3.41	1.80	57.58	S3-1
Ⅱ-11	21	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.99	2.63	2.00	46.29	S3-1
Ⅱ-11	22	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	7.34	3.36	1.7	63.77	S3-1
Ⅱ-11	23	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	凝灰岩	6.40	3.20	2.75	29.25	S3-1
Ⅱ-11	24	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	7.22	2.74	2.86	57.24	S3-1
Ⅱ-11	25	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.14	3.65	1.41	46.10	S3-1
Ⅱ-11	26	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.18	2.59	2.10	41.47	S3-1
Ⅱ-11	27	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.20	4.28	1.99	55.18	S3-1
Ⅱ-11	28	UH-5	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	9.17	3.2	2.16	103.55	S3-1
Ⅱ-32	1	US-1	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	5.21	3.35	2.93	68.62	
Ⅱ-32	2	US-1	Ⅲ	棒状磙類	アブライト	5.79	3.63	2.38	64.45	
Ⅱ-32	3	US-1	Ⅲ	棒状磙類	緑色泥岩	6.18	4.27	2.97	103.17	
Ⅱ-32	4	US-1	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	5.57	3.02	1.91	45.01	
Ⅱ-32	5	US-1	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	4.78	2.80	2.20	44.38	
Ⅱ-32	6	US-1	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	6.24	3.21	2.54	72.80	
Ⅱ-33	1	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	7.20	3.59	2.41	96.50	
Ⅱ-33	2	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.37	3.97	2.88	107.50	
Ⅱ-33	3	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.65	2.85	2.49	78.53	
Ⅱ-33	4	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.13	2.87	2.24	39.03	
Ⅱ-33	5	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.68	4.18	2.04	88.16	
Ⅱ-33	6	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.37	3.01	2.78	62.40	
Ⅱ-33	7	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.55	2.91	2.96	63.53	
Ⅱ-33	8	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.82	3.25	2.84	76.74	
Ⅱ-33	9	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.16	3.13	2.39	55.74	
Ⅱ-33	10	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.72	3.23	2.38	52.66	
Ⅱ-33	11	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.20	3.03	1.72	41.65	
Ⅱ-33	12	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.19	2.77	1.53	39.51	
Ⅱ-33	13	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.66	3.21	2.72	73.25	
Ⅱ-33	14	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.77	3.49	2.34	79.19	
Ⅱ-33	15	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.50	3.57	4.83	54.59	
Ⅱ-33	16	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.74	2.72	2.55	64.54	
Ⅱ-33	17	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.29	4.05	2.41	70.88	
Ⅱ-33	18	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.56	3.73	2.00	75.07	
Ⅱ-33	19	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.20	3.05	2.38	51.56	
Ⅱ-33	20	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.68	2.95	2.04	53.27	
Ⅱ-33	21	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.26	3.31	2.53	65.17	
Ⅱ-33	22	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.17	2.88	2.55	57.32	
Ⅱ-33	23	US-2	Ⅲ	棒状磙類	珪岩	6.19	4.00	2.32	81.68	
Ⅱ-33	24	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.05	3.34	1.71	55.27	
Ⅱ-33	25	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.73	3.95	1.99	62.68	
Ⅱ-33	26	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.59	4.25	2.31	94.97	
Ⅱ-33	27	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.16	2.50	1.98	34.27	
Ⅱ-33	28	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.14	2.41	1.60	27.96	
Ⅱ-33	29	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.52	3.74	2.13	83.76	
Ⅱ-33	30	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.97	4.15	2.75	97.50	
Ⅱ-33	31	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.77	3.30	2.13	40.81	
Ⅱ-33	32	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.27	3.40	1.87	50.04	
Ⅱ-33	33	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.78	3.50	1.67	53.53	
Ⅱ-33	34	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.93	3.18	3.15	68.68	
Ⅱ-33	35	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.81	2.67	1.74	44.26	
Ⅱ-33	36	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.92	2.73	1.87	36.11	
Ⅱ-33	37	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.83	2.88	1.13	48.07	
Ⅱ-33	38	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.20	2.30	1.37	20.27	
Ⅱ-33	39	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.57	2.42	1.24	21.43	
Ⅱ-33	40	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.23	2.06	1.45	19.46	
Ⅱ-33	41	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.30	2.75	1.44	28.20	
Ⅱ-33	42	US-2	Ⅲ	棒状磙類	石英珪岩	4.63	2.06	1.35	19.64	
Ⅱ-33	43	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.23	3.11	1.45	39.06	

II 祝梅川上田遺跡

挿図番号	掲載番号	遺構名	層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
Ⅱ-33	44	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.51	2.81	2.13	44.38	
Ⅱ-33	45	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.95	2.41	1.44	26.70	
Ⅱ-33	46	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.17	2.86	1.22	21.92	
Ⅱ-33	47	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.38	3.52	3.06	104.94	
Ⅱ-33	48	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	6.05	3.06	2.95	78.13	
Ⅱ-33	49	US-2	Ⅲ	棒状磙類	凝灰岩	7.08	3.63	1.51	39.84	
Ⅱ-33	50	US-2	Ⅲ	棒状磙類	凝灰岩	6.67	3.95	2.47	68.55	
Ⅱ-33	51	US-2	Ⅲ	棒状磙類	アブライト	5.29	3.48	1.23	37.51	
Ⅱ-33	52	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.96	2.64	2.13	42.47	
Ⅱ-33	53	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.63	2.99	2.51	56.02	
Ⅱ-33	54	US-2	Ⅲ	棒状磙類	チャート	4.88	2.55	2.25	34.40	
Ⅱ-33	55	US-2	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.17	2.44	2.05	33.53	
Ⅱ-33	56	US-2	Ⅲ	棒状磙類	凝灰岩	5.49	3.90	0.88	18.97	
Ⅱ-33	57	US-2	Ⅲ	棒状磙類	凝灰岩	5.68	3.63	1.97	53.87	
Ⅱ-34	1	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.50	1.43	1.03	7.44	
Ⅱ-34	2	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.62	2.46	1.30	16.09	
Ⅱ-34	3	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.65	2.03	0.94	9.05	
Ⅱ-34	4	US-4	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	3.96	1.55	1.23	11.53	
Ⅱ-34	5	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.48	2.56	1.87	29.34	
Ⅱ-34	6	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.87	2.37	1.40	22.11	
Ⅱ-34	7	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.28	1.99	0.86	7.54	
Ⅱ-34	8	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.14	2.29	1.43	16.54	
Ⅱ-34	9	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.90	2.24	1.50	16.75	
Ⅱ-34	10	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.89	2.70	1.95	31.26	
Ⅱ-34	11	US-4	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	3.39	2.14	0.84	9.14	
Ⅱ-34	12	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.33	2.40	1.72	18.82	
Ⅱ-34	13	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.09	2.66	1.71	23.45	
Ⅱ-34	14	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.53	2.24	1.44	15.58	
Ⅱ-34	15	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.66	3.51	1.63	41.45	
Ⅱ-34	16	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.33	3.01	1.55	31.47	
Ⅱ-34	17	US-4	Ⅲ	棒状磙類	チャート	3.12	2.33	1.15	12.29	
Ⅱ-34	18	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	2.76	2.03	1.30	11.00	
Ⅱ-34	19	US-4	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	3.59	2.21	1.41	17.73	
Ⅱ-34	20	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.02	2.25	1.45	16.37	
Ⅱ-34	21	US-4	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	3.19	1.90	1.41	9.97	
Ⅱ-34	22	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.52	2.45	1.47	21.40	
Ⅱ-34	23	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.17	2.62	1.60	23.87	
Ⅱ-34	24	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.97	2.55	1.58	23.41	
Ⅱ-34	25	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.12	1.77	1.82	13.29	
Ⅱ-34	26	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.00	3.22	1.30	33.36	
Ⅱ-34	27	US-4	Ⅲ	棒状磙類	石英灰岩	4.56	2.32	1.14	18.90	
Ⅱ-34	28	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.32	3.00	1.15	26.32	
Ⅱ-34	29	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.10	2.43	1.05	22.69	
Ⅱ-34	30	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.84	2.20	1.05	13.53	
Ⅱ-34	31	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.51	2.40	1.22	21.41	
Ⅱ-34	32	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.69	2.43	1.10	20.57	
Ⅱ-34	33	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.89	2.66	1.37	39.85	
Ⅱ-34	34	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	7.38	2.49	1.51	33.95	
Ⅱ-34	35	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.98	2.35	1.28	16.54	
Ⅱ-34	36	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.98	2.22	1.87	19.33	
Ⅱ-34	37	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.48	1.28	1.68	14.94	
Ⅱ-34	38	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.31	2.57	1.08	20.25	
Ⅱ-34	39	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.37	1.40	1.06	15.44	
Ⅱ-34	40	US-4	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	4.08	1.54	1.00	6.53	
Ⅱ-34	41	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.18	1.72	1.47	12.16	
Ⅱ-34	42	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.22	1.98	1.93	8.69	
Ⅱ-34	43	US-4	Ⅲ	棒状磙類	不明	3.12	1.65	0.99	7.46	泥岩？
Ⅱ-34	44	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.52	2.21	0.87	10.04	
Ⅱ-34	45	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.64	2.60	1.20	25.70	
Ⅱ-34	46	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	2.56	2.56	1.00	17.42	
Ⅱ-34	47	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.22	1.92	1.40	16.00	
Ⅱ-34	48	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.12	1.97	1.43	11.07	
Ⅱ-34	49	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.17	1.60	1.15	7.56	
Ⅱ-34	50	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.19	2.22	1.64	15.67	
Ⅱ-34	51	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.55	2.72	1.15	27.93	
Ⅱ-34	52	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.77	4.06	1.34	48.98	

挿図番号	掲載番号	遺構名	層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
Ⅱ-34	53	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.72	3.44	1.37	39.11	
Ⅱ-34	54	US-4	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	5.30	2.26	0.92	19.74	
Ⅱ-34	55	US-4	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	3.87	2.82	1.10	18.93	
Ⅱ-34	56	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.55	2.53	1.28	19.56	
Ⅱ-34	57	US-4	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	4.30	1.82	1.10	8.94	
Ⅱ-34	58	US-4	Ⅲ	棒状磙類	チャート	3.59	2.00	1.34	13.58	
Ⅱ-34	59	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.12	1.82	0.89	7.28	
Ⅱ-34	60	US-4	Ⅲ	棒状磙類	珪岩	3.50	2.13	1.30	15.30	
Ⅱ-34	61	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.12	2.42	1.28	19.54	
Ⅱ-34	62	US-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.60	2.67	1.27	22.44	
Ⅱ-34	63	US-4	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	3.00	2.50	1.22	14.35	
Ⅱ-34	64	US-4	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	4.27	2.65	1.07	20.27	
Ⅱ-34	65	US-4	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	4.06	2.66	0.99	19.08	
Ⅱ-34	66	US-4	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	4.46	3.10	0.89	21.47	
Ⅱ-34	67	US-4	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	5.14	2.49	1.15	24.75	
Ⅱ-34	68	US-4	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	5.05	2.52	1.36	28.13	
Ⅱ-34	69	US-4	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	5.14	3.30	1.06	32.06	
Ⅱ-34	70	US-4	Ⅲ	棒状磙類	片麻岩	7.14	4.01	1.30	65.78	
Ⅱ-36	1	UF-4	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	4.27	2.04	1.70	24.50	
Ⅱ-36	2	UF-4	Ⅲ	棒状磙類	安山岩	5.32	2.2	2.19	44.06	
Ⅱ-36	3	UF-4	Ⅲ	棒状磙類	片岩	4.88	2.08	1.83	27.65	
Ⅱ-36	4	UF-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.62	3.59	1.69	48.14	
Ⅱ-36	5	UF-4	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	4.97	3.82	2.80	72.10	
Ⅱ-36	6	UF-4	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	6.01	4.04	2.91	99.54	
Ⅱ-36	7	UF-4	Ⅲ	棒状磙類	チャート	6.37	4.11	2.58	92.08	
Ⅱ-36	8	UF-4	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	4.69	2.43	1.99	37.93	
Ⅱ-36	9	UF-6	Ⅲ	棒状磙類	泥岩	5.17	2.80	1.01	26.07	
Ⅱ-36	10	UF-6	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.22	3.28	1.61	43.60	
Ⅱ-36	11	UF-6	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	5.00	3.22	1.38	32.45	
Ⅱ-36	12	UF-6	Ⅲ	棒状磙類	砂岩	3.94	2.61	1.27	20.11	

表Ⅱ-11 金属製品掲載一覧

図版番号	No	遺構名	遺物名	層位	口径	器高	底径	重さ	出土グリッド・遺物No	備考
Ⅱ-41	1	UH-2 UH-4	鉄鍋	Ⅲ層	31.50cm	13.80cm	22.00cm		UH-2 (J-09-9.11, J-58-10, H-58-1), UH-4-4.5, G-58-1.2, G-58-1.2, H-58-3.4, I-60-8	内耳丸型濠口
Ⅱ-42	2	UH-5	水磨通寶	Ⅲ層	2.48cm	2.48cm	0.10cm	1.6g	UH-5-1	
Ⅱ-42	3	UH-5	角釘	Ⅲ層	4.40cm	0.78cm	1.35cm	3.4g	UH-5-2	
Ⅱ-42	4	UH-4	板状鉄製品	Ⅲ層	2.62cm	0.90cm	0.40cm	0.9g	UH-4-3	
Ⅱ-42	5	UH-4	加工鉄製品	Ⅲ層	3.65cm	1.36cm	0.70cm	7.0g	UH-4-6	
Ⅱ-42	6	UA-1	角釘	Ⅲ層	2.72cm	0.75cm	0.65cm	0.9g	UA-1-13	
Ⅱ-42	7	US-1	刀子	Ⅲ層	1.60cm	0.85cm	0.30cm	0.4g	US-1	
Ⅱ-42	8	UH-2	角釘	Ⅲ層	5.00cm	0.85cm	0.73cm	3.6g	UH-2, HF-1	
Ⅱ-42	9	UH-11	刀子/鏃	Ⅲ層	3.22cm	2.20cm	0.60cm	8.3g	UH-11, HF-1	
Ⅱ-42	10	USP-108	マレット	覆土	9.95cm	3.00cm	0.93cm	32.7g	USP-108-1 (G-64)	
Ⅱ-42	11	USP-234	不明	覆土	1.80cm	1.20cm	0.40cm	0.3g	USP-234-1 (H-64)	
Ⅱ-42	12	包含層	刀子	Ⅲ層	2.85cm	1.10cm	0.30cm	1.8g	UH-2-7	
Ⅱ-42	13	包含層	マレット片	Ⅲ層	3.60cm	1.00cm	0.65cm	3.7g	UH-2-6	
Ⅱ-42	14	包含層	刀子	Ⅲ層上面	13.85cm	1.80cm	0.60cm	13.2g	L-76-1	
Ⅱ-42	15	包含層	刀子	Ⅲ層	36.00cm	3.80cm	1.10cm	173.9g	K-70-1	
Ⅱ-43	16	包含層	刀子	Ⅲ層上面	34.5cm	3.30cm	0.95cm	94.2g	N-59-5	
Ⅱ-44	17	包含層	鉞	Ⅲ層上面	25.40cm	3.90cm	1.20cm	124.8g	T-77-1	山刀を鉞として使用
Ⅱ-44	18	包含層	鉞	Ⅲ層上面	19.50cm	5.70cm	1.30cm	272.8g	P-79-1	

表Ⅱ-12 掲載土器一覧

図版番号	押印番号	部位	分類	接合	点数	未接合	点数	総計
図Ⅱ-45	1	V	Ⅲb	LP 2-1, LP 2-2	78	LP 2-1, LP 2-2	266	344
図Ⅱ-45	2	Ⅲ	Ⅳ	J77-1, K77-4, K77-12, K78-1, K78-3, L76-3, L76-6, L76-8, L76-9, L76-12, L76-18, L77-3, L77-8, L77-9, L77-11, L77-15, L77-16, L77-21, L77-24, 77-28, L77-29, L77-31, L78-1, L78-2, L78-3, L78-6, L78-7, L78-8, L78-9, L78-12, M77-6, M78-1, M78-2, M78-10, M78-15, UH 1-2, UH 1-5	64	J77-4, K76-2, K76-6, K76-9, K77-2, K77-4, L76-15, L77-12, L77-21, L77-28, L77-31, L77-33, L78-1, L77-9, L78-3, L78-4, L78-5, L78-6, L78-7, L78-8, L78-9, L78-11, L78-12, L78-13, M78-4, M78-5, M77-1, M78-7, M78-6, N59-5, N60-1, N78-1, O71-1, Q70-2 未注記	76	140
図Ⅱ-46	3	V	Ib-2	I66-2, J66-1	3	I66-2	32	35
図Ⅱ-46	4		Ib-2	I77-4	1	I77-4	14	15
図Ⅱ-46	5	Ⅳ	Ib-3	J63-3	9	J63-3, J63-1, 未注記	22	31
図Ⅱ-46	6	M	Ib-4	L63-13, L11線	4	L63-13, M63-10, J68-1, J62-8	23	27
図Ⅱ-46	7	V	Ib-4	L52-1	3	L52-1	12	15
図Ⅱ-46	8	V	Ib-4	J51-1	4	J51-1, J52-3	63	67
図Ⅱ-46	9	V	Ib-4	K65-1	9	K65-1, M60-3, K53-1, K66-1, J67-1, 未注記	40	49
図Ⅱ-46	10	V	Ib-4	P57-1, P57-9	7	P57-1, O57-3, P57-9, P56-6, 未注記	180	187
図Ⅱ-46	11	V	Ib-4	I77-5	10	I77-5, S77-6, I66-3, Lf37-1, Lf37-2, Lf37-3, Lf37-4, Lf37-5, Lf37-6, Lf37-7	169	179
図Ⅱ-46	12	V	Ib-4	M63-13	9	M63-13, M63-10, M65-1, 未注記	91	100
図Ⅱ-46	13	V	Ib-4	L52-1	1			1
図Ⅱ-46	14	V	Ib-4	P57-1, 排土	2	P57-1, P57-9, P57-3, P58-1	7	9
図Ⅱ-46	15	V	Ib-4	J57-1	1			1
図Ⅱ-46	16	V	Ib-4	P56-1	1			1
図Ⅱ-46	17	V	Ib-4	I66-3	6	I66-3, I66-10, J66-9	29	35
図Ⅱ-46	18	Ⅳ	Ib-4	M65-3	2			2
図Ⅱ-46	19	V	Ib-4	N53-1	2			2
図Ⅱ-46	20	V	Ib-4	J52-2	1			1
図Ⅱ-46	21	V	Ib-4	N59-6	1			1
図Ⅱ-46	22	V	Ib-4	M57-2	1			1
図Ⅱ-47	23	V	Ⅱa	H59-2	2			2
図Ⅱ-47	24	V	Ⅱa	O66-1	1			1
図Ⅱ-47	25	V	Ⅱb	H74-1	1			1
図Ⅱ-47	26	V	Ⅱb	O55-3, P55-1, Q54-1	4	O55-3, Q54-1	2	6
図Ⅱ-47	27	V	Ⅱb	Q54-3	1			1
図Ⅱ-47	28	V	Ⅱb	G54-2	7	G54-2, 未注記	163	170
図Ⅱ-47	29	V	Ⅱb	P60-2	1			1
図Ⅱ-47	30	V	Ⅱb	G55-2, H54-1	2			2
図Ⅱ-47	31	V	Ⅱb	G54-2, G59-1, H56-1, H57-3, H58-4, H60-2, H58-8, H59-3, E58-6, E59-1, E59-3, E61-2, J60-1	61	G54-2, H57-3, H58-4, H60-2	16	77
図Ⅱ-47	32	V	Ⅱb	G54-2	9	G54-2	48	57
図Ⅱ-47	33	V	Ⅱb	H56-1, E56-1, G54-2	3	E57-2, E57-4, J56-2, K56-2	4	7
図Ⅱ-48	34	V	Ⅱa	J52-2	5	J52-2, 未注記	287	292
図Ⅱ-48	35	V	Ⅱa	L53-6	1			1
図Ⅱ-48	36	V	Ⅱb	K74-1	1			1
図Ⅱ-48	37	V	Ⅱb	P58-2	4	P58-2	35	39
図Ⅱ-48	38	V	Ⅱb	N69-1	9	N69-1, M70-1, 未注記	44	53
図Ⅱ-48	39	V	Ⅱb	N56-3	2			2
図Ⅱ-48	40	V	Ⅱb	Q52-1	8	Q52-1 未注記	27	35
図Ⅱ-48	41	V	Ⅱb	N68-2	1			1
図Ⅱ-48	42	V	Ⅱc	H58-5	1			1
図Ⅱ-48	43	排土	Ⅱb	排土 2	1			1
図Ⅱ-48	44	攪乱	Ⅱc	L56-2	1			1
図Ⅱ-48	45	V	Ⅱc	Q62-2, Q63-2, R63-2	36	Q63-2, R63-2	20	56
図Ⅱ-48	46	V	Ⅱc	P56-2, 排土-5, J57-2	7	P56-2, E58-7, J57-2, L57-1, M57-3, M56-2, L56-3, L58-1, P56-7	45	52
図Ⅱ-48	47	V	Ⅱc	H58-9, H58-3	16	H58-9, 未注記	49	65
図Ⅱ-49	48	Ⅲ	Vc	E58-1	11	E58-1, E58-2, J58-1	187	198
図Ⅱ-49	49	V	Vc	J56-3	3	J56-3, 未注記	126	129

図版番号	挿入番号	層位	分類	接合	点数	未接合	点数	総計
図Ⅱ-49	50	Ⅳ上面	Vc	U73-1	1			1
図Ⅱ-49	51	Ⅳ	Vc	Q52-4	1			1
図Ⅱ-49	52	Ⅲ	Ⅵ	G52-1	3	G52-1, 未注記	40	43
図Ⅱ-49	53	Ⅲ	Ⅵ	M60-2	2			2
図Ⅱ-49	54	Ⅲ	Ⅵ	UH 3-1	3			3
図Ⅱ-49	55	Ⅲ	Ⅵ	L76-12, L77-1, L77-4	4	L77-4	2	6
図Ⅱ-49	56	Ⅲ	Ⅵ	G57-1	1			1
図Ⅱ-49	57	Ⅲ	Ⅵ	UF 5-1	2	UF 5-1, UF 5-2, 未注記	132	134
図Ⅱ-49	58	Ⅲ	Ⅵ	N77-5	1			1
図Ⅱ-49	59	Ⅲ	Ⅵ	G58-1	1			1
図Ⅱ-49	60	Ⅳ上面	Ⅵ	N71-1	1			1
図Ⅱ-49	61	Ⅲ	Ⅵ	O57-1	5			5

表Ⅱ-13 Ⅲ層遺構出土石器掲載一覧

挿入番号	写真図版	遺構名	層位	遺物番号	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
図Ⅱ-50	1	図版Ⅱ-31 UH-1 HA-1	Ⅲ	5	たたく石	片麻岩	(4.80)	(4.80)	2.10	(81.00)	
図Ⅱ-50	2	図版Ⅱ-31 UH-3	Ⅲ	2	礮器	砂岩	18.75	5.80	2.55	415.00	
図Ⅱ-50	3	図版Ⅱ-31 UH-3	Ⅲ	4	礮器	安山岩?	14.05	5.50	3.65	451.00	
図Ⅱ-50	4	図版Ⅱ-31 UH-3	Ⅲ	3	すり石	泥岩	7.20	6.40	4.50	318.00	
図Ⅱ-50	5	図版Ⅱ-31 UH-5	Ⅲ	1	礮器	軽石凝灰岩	5.15	2.90	2.40	11.28	
図Ⅱ-50	6	図版Ⅱ-31 UH-5	Ⅲ	51-1	礮器	砂岩	9.45	6.80	2.55	272.00	
図Ⅱ-50	7	図版Ⅱ-31 UH-7 HSP-7	覆土2	1	礮	泥岩	6.10	2.60	1.90	35.40	
図Ⅱ-50	8	図版Ⅱ-31 USP-407	覆土1	1	礮	凝灰岩	(4.50)	4.40	1.60	(28.61)	
図Ⅱ-50	9	図版Ⅱ-31 USP-456	覆土1	1	礮	珪岩	5.90	2.55	1.60	41.83	
図Ⅱ-50	10	図版Ⅱ-31 USP-526	覆土1	1	礮	砂岩	5.75	4.45	2.00	79.05	
図Ⅱ-50	11	図版Ⅱ-31 USP-526	覆土1	2	礮	片麻岩	5.90	4.90	2.50	122.43	
図Ⅱ-50	12	図版Ⅱ-31 USP-526	覆土1	3	礮	凝灰岩?	5.80	4.10	2.90	94.85	
図Ⅱ-50	13	図版Ⅱ-31 USP-526	覆土1	4	礮	珪岩	5.00	4.65	3.30	114.67	
図Ⅱ-50	14	図版Ⅱ-31 USP-526	覆土1	5	礮	泥岩	(5.40)	3.50	2.90	(57.86)	
図Ⅱ-50	15	図版Ⅱ-31 USP-526	覆土1	6	礮	安山岩	(6.10)	3.50	3.10	(74.31)	

表Ⅱ-14 V層遺構出土石器掲載一覧

挿入番号	写真図版	遺構名	層位	遺物番号	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
図Ⅱ-50	16	図版Ⅱ-31 LP-1	覆土1	1	石皿	安山岩	69.50	37.20	9.00	31000.00	
図Ⅱ-50	17	図版Ⅱ-31 LP-2	V	3	スクレイパー	黒曜石	4.70	1.85	0.85	6.95	

表Ⅱ-15 Ⅲ層包含層出土石器掲載一覧

挿入番号	写真図版	発掘区	層位	遺物番号	分類	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
図Ⅱ-51	18	図版Ⅱ-32 I-60	Ⅲ	1	石鏃	黒曜石	3.40	1.40	0.35	1.10	
図Ⅱ-51	19	図版Ⅱ-32 N-60	Ⅲ	2	石鏃	黒曜石	(1.35)	1.30	0.30	(0.40)	
図Ⅱ-51	20	図版Ⅱ-32 M-61	Ⅲ	3	スクレイパー	黒曜石	2.50	3.30	0.90	7.22	
図Ⅱ-51	21	図版Ⅱ-32 I-52	Ⅲ	1	スクレイパー	珪岩	7.10	3.45	1.51	50.90	
図Ⅱ-51	22	図版Ⅱ-32 J-71	Ⅲ	1・2	磨製石斧	緑色砂岩	19.10	6.60	4.40	908.00	
図Ⅱ-51	23	図版Ⅱ-32 J-59	Ⅲ	12	砥石	片麻岩	12.10	15.00	2.50	834.00	

表Ⅱ-16 V・VI層包含層出土石器掲載一覧

検出番号	掲載番号	写真図版	発掘区	層位	遺物番号	分類	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
国Ⅱ-52	24	国Ⅱ-32	L-76	V	24	石鏃	頁岩	(2.30)	1.55	0.40	0.85	
国Ⅱ-52	25	国Ⅱ-32	L-76	V	23	石鏃	黒曜石	1.70	1.65	0.30	0.41	
国Ⅱ-52	26	国Ⅱ-32	M-64	V	6	石鏃	黒曜石	3.10	1.70	0.45	1.80	
国Ⅱ-52	27	国Ⅱ-32	I-55	V	1	石鏃	黒曜石	(2.50)	1.60	0.35	0.84	
国Ⅱ-52	28	国Ⅱ-32	G-54	V	3	石鏃	黒曜石	2.10	1.25	0.25	0.54	
国Ⅱ-52	29	国Ⅱ-32	O-60	V	3	石鏃	黒曜石	1.65	1.00	0.20	0.22	
国Ⅱ-52	30	国Ⅱ-32	K-62	V	3	石鏃	黒曜石	2.20	1.20	0.35	0.72	
国Ⅱ-52	31	国Ⅱ-32	O-68	V	3	石鏃	黒曜石	2.50	1.60	0.40	1.04	
国Ⅱ-52	32	国Ⅱ-32	M-70	V	4	石鏃	黒曜石	2.80	1.65	0.40	0.73	
国Ⅱ-52	33	国Ⅱ-32	M-69	V	1	石鏃	黒曜石	3.50	1.40	0.45	1.33	
国Ⅱ-52	34	国Ⅱ-32	M-63	V	4	石鏃	黒曜石	3.30	1.50	0.55	1.49	
国Ⅱ-52	35	国Ⅱ-32	O-59	V	5	石鏃	黒曜石	3.75	1.10	0.50	1.56	
国Ⅱ-52	36	国Ⅱ-32	I-63	VI	8	石槍	黒曜石	(5.40)	1.60	0.50	(2.47)	
国Ⅱ-52	37	国Ⅱ-32	O-71	V	3	石槍	黒曜石	5.30	2.40	0.90	8.21	
国Ⅱ-52	38	国Ⅱ-32	N-62	VI	18	スクレイパー	黒曜石	3.10	2.70	1.40	10.02	
国Ⅱ-52	39	国Ⅱ-32	O-54	V	1	スクレイパー	黒曜石	3.55	3.40	1.15	14.58	
国Ⅱ-52	40	国Ⅱ-32	M-65	VI	4	スクレイパー	黒曜石	3.90	2.35	1.00	9.28	
国Ⅱ-52	41	国Ⅱ-32	K-54	V	3	スクレイパー	メノウ	4.15	3.25	1.40	12.69	
国Ⅱ-52	42	国Ⅱ-32	N-58	VI	8	スクレイパー	頁岩	5.55	3.65	0.65	11.64	
国Ⅱ-52	43	国Ⅱ-32	G-55	V	5	スクレイパー	頁岩	(4.45)	4.90	1.10	(24.29)	
国Ⅱ-52	44	国Ⅱ-32	H-67	V	1	スクレイパー	メノウ質頁岩	3.70	5.70	0.80	23.75	
国Ⅱ-52	45	国Ⅱ-32	M-62	V	3	スクレイパー	メノウ	9.50	5.20	2.20	102.00	
国Ⅱ-52	46	国Ⅱ-32	M-52	V	2	つばめ付ナイフ	黒曜石	4.00	3.05	0.80	6.69	
国Ⅱ-52	47	国Ⅱ-32	P-58	V	5	つばめ付ナイフ	頁岩	4.00	2.90	0.75	8.18	
国Ⅱ-52	48	国Ⅱ-32	P-57	VI	10	つばめ付ナイフ	頁岩	5.60	2.40	0.60	8.83	
国Ⅱ-52	49	国Ⅱ-32	N-62	VI	15	つばめ付ナイフ	頁岩	5.30	2.40	1.00	10.05	
国Ⅱ-52	50	国Ⅱ-32	I-64	V	3	つばめ付ナイフ	黒曜石	6.90	2.60	0.90	13.07	
国Ⅱ-52	51	国Ⅱ-32	I-53	V	1	鹿形石器	黒曜石	1.95	1.50	0.60	1.64	
国Ⅱ-52	52	国Ⅱ-32	M-51	V	2	鹿形石器	頁岩	3.15	2.35	0.60	4.41	
国Ⅱ-52	53	国Ⅱ-32	N-61	V	9	抉入石器	黒曜石	2.50	2.10	0.60	3.12	
国Ⅱ-52	54	国Ⅱ-32	N-62	VI	12	ビューストース	黒曜石	3.25	3.60	1.00	11.83	
国Ⅱ-53	55	国Ⅱ-33	I-63 J-62	V	6 7	磨製石斧	緑色泥岩	16.70	5.20	3.00	392.00	
国Ⅱ-53	56	国Ⅱ-33	L-62	V	2	磨製石斧	ロザン岩	7.10	3.90	1.10	51.58	
国Ⅱ-53	57	国Ⅱ-33	K-55	V	2	磨製石斧	ロザン岩	10.20	5.00	1.65	127.40	横切
国Ⅱ-54	58	国Ⅱ-33	M-64	V	9	たたき石	燧石	4.10	3.90	2.90	70.50	
国Ⅱ-54	59	国Ⅱ-33	N-60	V	9	たたき石	デイサイト	6.45	5.00	6.60	136.40	
国Ⅱ-54	60	国Ⅱ-33	I-60	V	9	たたき石	片麻岩	10.00	5.40	2.60	209.60	
国Ⅱ-54	61	国Ⅱ-33	G-54 J-54	V	8 2	たたき石	砂岩	(11.35)	4.60	3.10	(280.90)	
国Ⅱ-54	62	国Ⅱ-33	M-66	V	2	たたき石	緑色泥岩	11.00	9.20	6.80	898.00	
国Ⅱ-54	63	国Ⅱ-33	M-51	V	1	新三形石	砂岩	5.80	8.70	3.10	159.00	
国Ⅱ-54	64	国Ⅱ-33	I-62	VI	24	砥石	砂岩	(12.25)	(14.40)	2.55	(616.00)	
国Ⅱ-54	65	国Ⅱ-33	H-74	V	2	玉	蛇紋岩	3.30	2.35	1.15	7.55	
国Ⅱ-54	66	国Ⅱ-33	M-64	V	1	玉	燧石	2.35	1.35	0.85	5.41	

表Ⅱ-19 ブロック1 掲載石器一覧

神回番号	写真図版	掲載番号	発掘区	層位	遺物番号	器種名	石材	点数	長 cm	幅 cm	厚 cm	重 g	折痕 No	分析 No	備考
Ⅱ-64		1	I-75 (V)	B1.42	細石刀	黒曜石1	1	(1.81)	0.74	0.30	(0.30)	折2	10		
		I-75 (V)	B1.53	細石刀	黒曜石1	1	(2.14)	0.85	0.22	(0.42)	9				
		H-76 (V)	B1.20	細石刀	黒曜石2	1	(2.70)	0.90	0.25	(0.63)	6				
		H-76 (V)	B1.36	細石刀	黒曜石1	1	(1.60)	1.00	0.30	(0.36)	7				
		I-75 (V)	B1.56	細石刀	黒曜石1	1	(1.15)	1.10	0.30	(0.31)	5				
		H-76 (V)	B1.29	細石刀	黒曜石1	1	(1.35)	0.50	0.10	(0.10)	4				
		H-76 (V)	B1.38	細石刀	黒曜石1	1	(1.05)	0.40	0.15	(0.06)	3				
		H-76 (V)	B1.27	細石刀	黒曜石1	1	(1.65)	0.35	0.15	(0.06)	8				
		H-75 (V)	B1.23	細石刀	黒曜石2	1	(1.42)	0.80	0.30	(0.36)	折1	11			
		H-75 (V)	B1.24	細石刀	黒曜石2	1	(1.29)	0.68	0.33	(0.22)					
		I-75 (V)	B1.45	細石刀	黒曜石2	1	(3.50)	0.80	0.35	(0.94)					
		H-76 (V)	B1.32	細石刀	頁岩4	1	(2.60)	8.50	3.00	(0.45)					
		I-75 (V)	B1.55	細石刀	頁岩8	1	(2.40)	0.55	0.20	(0.30)					
		H-75 (V)	B1.18	細石刀	頁岩4	1	(1.95)	0.60	0.25	(0.30)					
		H-75 (V)	B1.8	細石刀	頁岩10	1	(2.10)	0.85	0.25	(0.36)					
		H-75 (V)	B1.6	細石刀	頁岩9	1	(2.20)	0.85	0.30	(0.42)					
		H-75 (V)	B1.17	細石刀	頁岩4	1	(1.40)	0.80	0.20	(0.24)					
		I-75 (V)	B1.60	細石刀	頁岩4	1	(2.60)	0.70	0.20	(0.35)					
		H-76 (V)	B1.37	細石刀	頁岩2	1	(2.80)	0.80	0.30	(0.46)					
		H-75 (V)	B1.5	細石刀残片	黒曜石2	1	(3.20)	1.15	0.80	(2.49)	2				
		I-75 (V)	B1.44	細石刀残片	黒曜石2	1	(4.50)	1.10	0.60	(3.25)	1				
		H-75 (V)	B1.7	石刀	頁岩14	1	5.85	2.50	0.70	9.04					
		H-75 (V)	B1.9	石刀	頁岩16	1	(5.45)	3.00	0.55	(8.51)					
		I-75 (V)	B1.48	石刀	頁岩17	1	(4.90)	1.80	0.40	(2.37)					
		H-76 (V)	B1.35	石刀	頁岩2	1	(4.20)	1.75	0.30	(1.72)					
		H-76 (V)	B1.30	石刀	頁岩5	1	(4.35)	2.35	0.50	(3.87)					
		G-75 (V)	B1.2	石刀	頁岩18	1	(4.40)	2.80	0.70	(7.79)					
		H-75 (V)	B1.12	石刀	頁岩18	1	(3.80)	2.80	0.80	(6.86)					
		I-75 (V)	B1.49	石刀	頁岩15	1	(2.10)	(2.50)	0.80	(3.94)					
		H-75 (V)	B1.10	石刀	頁岩18	1	(2.10)	2.80	0.50	(2.11)					
		H-76 (V)	B1.33	石刀	頁岩3	1	(2.80)	2.95	0.80	(4.61)					
		G-75 (V)	B1.4	石刀	頁岩7	1	(1.50)	1.70	0.30	(0.75)					
		H-76 (V)	B1.31	石刀	頁岩11	1	(1.90)	1.45	0.40	(1.01)					
H-76 (V)	B1.34	石刀	頁岩1	1	(1.25)	1.50	0.25	(0.35)							
I-76 (V)	B1.61	楕円器	頁岩12	1	4.25	2.75	0.90	7.97							
I-75 (V)	B1.54	楕円器	頁岩15	1	(4.50)	4.25	1.20	(26.17)							
I-75 (V)	B1.43	楕円器	頁岩3	1	7.65	3.60	1.20	36.23							
H-75 (V)	B1.16	卵形器	頁岩4	1	5.25	1.90	0.80	6.34							
H-77 (V)	B1.39	卵形器	頁岩6	1	(7.60)	2.00	1.15	(13.65)							
H-75 (V)	B1.11	卵形器	頁岩1	1	(7.06)	2.56	0.78	(17.04)	折3						
H-75 (V)	B1.22	卵形器	頁岩1	1	(2.57)	2.83	1.00	(6.48)							
I-75 (V)	B1.50	微細網縷面ある割片	頁岩3	1	2.20	2.00	0.55	1.75							
H-76 (V)	B1.28	短長割片	黒曜石2	1	(4.90)	2.50	0.65	(4.69)	12						
H-75 (V)	B1.13	割片	黒曜石2	1	3.50	1.50	0.40	1.40	13						
I-75 (V)	B1.40	割片	頁岩6	1	(4.45)	(2.95)	0.60	(5.56)							
I-75 (V)	B1.58	割片	頁岩17	1	(1.80)	1.15	0.35	(0.50)							
I-75 (V)	B1.51	割片	頁岩17	1	(1.45)	1.20	0.25	(0.22)							
H-75 (V)	B1.25	割片	頁岩9	1	(2.10)	1.85	0.45	(1.46)							
H-75 (V)	B1.15	割片	頁岩13	1	(1.40)	(1.70)	0.30	(0.64)							
H-76 (V)	B1.26	割片	頁岩6	1	2.00	2.60	0.45	2.04							
G-75 (V)	B1.3	割片	頁岩13	1	(1.55)	1.45	0.25	(0.35)							
H-75 (V)	B1.19	割片	頁岩4	1	(1.65)	1.90	0.45	(1.58)							
I-75 (V)	B1.57	割片	頁岩1	1	(1.70)	2.60	0.50	(1.67)							
H-75 (V)	B1.21	礫片	砂岩	1	3.85	3.50	1.10	12.10							
-	-	-	I-75 (V)	B1.46	砕片	頁岩13	1	-	-	-	-	0.12			
		-	I-75 (V)	B1.47	砕片	頁岩13	1	-	-	-	-	0.02			
		-	I-75 (V)	B1.52	砕片	頁岩13	1	-	-	-	-	0.05			
		-	I-75 (V)	B1.59	砕片	頁岩13	1	-	-	-	-	0.22			

表Ⅱ-20 ブロック1 接合資料一覧

検回番号	写真図版	添付 No	折接 No	掲載 番号	器種	発掘区	層位	遺物 番号	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	分析 No	石質	備考
Ⅱ-64	Ⅱ-34	1	-	8	接合資料	H-75	Ⅷ		2.60	0.80	0.33	0.58	8	黒曜石 2	
					細石刃	H-75	Ⅷ	B1.23	(1.42)	0.80	0.30	(0.36)			
					細石刃	H-75	Ⅷ	B1.24	(1.29)	0.68	0.33	(0.22)			
Ⅱ-65				1	接合資料	I-75	(V), Ⅷ		3.45	0.85	0.30	0.72	10	黒曜石 1	
					細石刃	I-75	(V)	B1.42	1.81	0.74	0.30	0.30			
					細石刃	I-75	Ⅷ	B1.53	2.14	0.85	0.22	0.42			
				38	接合資料	H-75	Ⅷ, Ⅷ		9.00	3.05	1.00	23.52		頁岩 1	
					彫器	H-75	Ⅷ	B1.11	7.06	2.56	0.78	17.04			
					彫器	H-75	Ⅷ	B1.22	2.57	2.83	1.00	6.48			

表Ⅱ-21 ブロック2 掲載石器一覧(1)

検回番号	写真図版	掲載 番号	発掘区	層位	遺物番号	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	接合 No	折接 No	分析 No	備考	
Ⅱ-69	Ⅱ-35	1	L-57	Ⅷ	L57, 7.55	細石刃	黒曜石 1	1.11	0.29	0.08	0.03			35	1.0m	
		2	K-57	Ⅷ	K57, 433	細石刃	黒曜石 1	(1.70)	0.41	0.11	(0.10)			27		
		3	K-57	Ⅷ	B2, 249	細石刃	黒曜石 3	(1.60)	0.43	0.15	(0.09)					
		4	L-57	Ⅷ	B2, 264	細石刃	黒曜石 1	(1.12)	0.33	0.12	(0.06)			33		
		5	L-57	Ⅷ	L57, 239	細石刃	黒曜石 2	(1.02)	0.31	0.10	(0.03)					
		6	K-57	Ⅷ	K57, 448	細石刃	黒曜石 1	(0.91)	0.30	0.08	(0.28)			29		
		7	K-57	Ⅷ	K57, 442	細石刃	黒曜石 1	(0.82)	0.34	0.12	(0.03)			18		
		8	K-57	Ⅷ	K57, 7.51	細石刃	黒曜石 1	(0.80)	0.33	0.09	(0.03)					1.0m
		9	K-57	Ⅷ	K57, 432	細石刃	黒曜石 1	(1.06)	0.59	0.11	(0.07)			28		
		10	K-57	Ⅷ	K57, 438	細石刃	黒曜石 1	(0.80)	0.38	0.10	(0.02)			22		
		11	K-57	Ⅷ	K57, 7.53	細石刃	黒曜石 3	(0.67)	0.43	0.08	(0.02)					1.0m
		12	K-57	Ⅷ	K57, 440	細石刃	黒曜石 1	(0.61)	0.33	0.07	(0.01)			20		
		13	K-57	Ⅷ	K57, 441	細石刃	黒曜石 1	(0.52)	0.35	0.08	(0.01)			19		
		14	K-57	Ⅷ	K57, 445	細石刃	黒曜石 1	(0.62)	0.39	0.08	(0.01)			15		
		15	L-57	Ⅷ	L57, 7.46	細石刃	黒曜石 1	(0.49)	0.21	0.04	(0.01)					1.0m
		16	K-57	Ⅷ	K57, 7.29	細石刃	黒曜石 1	(0.53)	0.24	0.04	(0.01)			30	1.0m	
		17	K-57	Ⅷ	K57, 7.43	細石刃	黒曜石 1	(0.52)	0.30	0.07	(0.01)					1.0m
		18	L-57	Ⅷ	L57, 7.47	細石刃	黒曜石 1	(0.39)	0.40	0.09	(0.02)					1.0m
		19	K-57	Ⅷ	K57, 443	細石刃	黒曜石 1	(0.56)	0.35	0.06	(0.01)			17		
		20	L-56	(V)	B2, 240	細石刃	黒曜石 3	(0.56)	0.50	0.10	(0.03)					
		21	K-57	Ⅷ	B2, 252	細石刃	黒曜石 3	(1.30)	0.40	0.15	(0.07)					
		22	L-57	Ⅷ	L57, 237	細石刃	黒曜石 1	(1.32)	0.40	0.08	(0.03)					
		23	K-57	Ⅷ	B2, 670	細石刃	黒曜石 1	(1.14)	0.37	0.08	(0.03)			32		
		24	L-56	Ⅷ	B2, 616	細石刃	黒曜石 1	(1.07)	0.29	0.11	(0.05)					
		25	L-57	Ⅷ	L57, 7.87	細石刃	黒曜石 1	(1.10)	0.28	0.11	(0.04)					1.0m
		26	K-57	Ⅷ	K57, 7.45	細石刃	黒曜石 2	(0.92)	0.37	0.07	(0.02)					1.0m
		27	K-57	Ⅷ	K57, 7.48	細石刃	黒曜石 1	(0.66)	0.21	0.06	(0.02)					1.0m
		28	K-57	Ⅷ	K57, 7.32	細石刃	黒曜石 1	(0.90)	0.29	0.11	(0.04)					1.0m
		29	K-57	Ⅷ	K57, 7.49	細石刃	黒曜石 1	(0.80)	0.20	0.08	(0.01)					1.0m
		30	L-57	Ⅷ	L57, 7.42	細石刃	黒曜石 4	(0.81)	0.28	0.15	(0.04)					1.0m
		31	L-57	Ⅷ	L57, 7.84	細石刃	黒曜石 2	(0.67)	0.22	0.11	(0.02)					1.0m
		32	K-57	Ⅷ	K57, 7.55	細石刃	黒曜石 2	(0.74)	0.28	0.10	(0.02)					1.0m
		33	L-57	Ⅷ	L57, 7.58	細石刃	黒曜石 1	(0.52)	0.32	0.09	(0.01)					1.0m
		34	K-57	Ⅷ	K57, 7.50	細石刃	黒曜石 1	(0.45)	0.40	0.08	(0.01)					1.0m
		35	L-57	Ⅷ	L57, 7.32	細石刃	黒曜石 1	(0.48)	0.21	0.04	(0.01)			34		1.0m
		36	K-57	Ⅷ	K57, 7.28	細石刃	黒曜石 1	(0.54)	0.24	0.08	(0.01)			31		1.0m
		37	K-57	Ⅷ	K57, 439	細石刃	黒曜石 1	(0.63)	0.40	0.17	(0.04)			21		
		38	L-57	Ⅷ	L57, 7.45	細石刃	黒曜石 1	(0.32)	0.16	0.05	(0.01)					1.0m
		39	L-57	Ⅷ	L57, 7.48	細石刃	黒曜石 2	(0.26)	0.16	0.06	(0.01)					1.0m
		40	K-57	Ⅷ	K57, 444	細石刃	黒曜石 1	(0.73)	0.27	0.09	(0.02)			16		
		41	K-57	Ⅷ	K57, 436	細石刃	黒曜石 1	(0.77)	0.32	0.13	(0.02)			24		
		42	L-57	Ⅷ	L57, 7.59	細石刃	黒曜石 1	(0.34)	0.16	0.05	(0.01)					1.0m
		43	L-57	Ⅷ	L57, 7.49	細石刃	黒曜石 1	(0.22)	0.19	0.09	(0.01)					1.0m
		44	L-57	Ⅷ	L57, 7.31	細石刃	黒曜石 1	(0.47)	0.20	0.04	(0.01)					1.0m
		45	L-57	Ⅷ	B2, 214	細石刃	黒曜石 1	(1.22)	0.36	0.08	(0.03)					
		46	K-57	Ⅷ	B2, 418	細石刃	黒曜石 2	(1.25)	0.37	0.11	(0.04)					
		47	L-57	Ⅷ	L57, 7.54	細石刃	黒曜石 1	(0.84)	0.25	0.10	(0.02)					1.0m

Ⅱ 祝梅川上田遺跡

表Ⅱ-21 ブロック2 掲載石器一覧(2)

詳細番号	写真四角版	掲載番号	発掘区	層位	遺物番号	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	接合 No	折痕 No	分析 No	備考		
図Ⅱ-69		48	K-57	Ⅴ	K57_7_44	磨石刀	黒曜石1	(0,06)	0,20	0,07	(0,02)				1,0mm		
		49	L-57	Ⅴ	L57_7_86	磨石刀	黒曜石1	1,17	0,45	0,06	0,05				1,0mm		
		50	L-57	Ⅴ	L57_238	磨石刀	黒曜石2	(1,00)	0,48	0,14	(0,06)						
		51	K-57	Ⅴ	K57_434	磨石刀	黒曜石1	(0,79)	0,05	0,06	(0,04)			26			
		52	K-57	Ⅵ	B2_332	磨石刀	黒曜石1	(0,35)	0,43	0,08	(0,01)						
		53	K-57	Ⅴ	K57_446	磨石刀	黒曜石1	(0,49)	0,40	0,10	(0,01)			14			
		54	L-57	Ⅴ	B2_465	両面調整石芯	黒曜石1	4,18	6,15	1,41	34,86	接1					
		55	K-57	Ⅴ	B2_323	接芯	黒曜石2	(4,26)	2,34	0,89	(9,11)						
		56	K-56	V	B2_154	接芯	黒曜石1	(4,32)	2,30	0,57	(7,16)						
		57	K-57	Ⅴ	B2_484	接芯	黒曜石2	(3,71)	2,44	0,71	(7,43)						
図Ⅱ-70		58	K-57	Ⅵ	B2_130	接芯	黒曜石1	(3,30)	1,91	0,61	(4,38)			折3			
		L-57	Ⅴ	B2_470	接芯	黒曜石1	(1,45)	1,71	0,42	(1,19)			折3				
		59	K-57	Ⅵ	B2_329	接芯	黒曜石1	(4,40)	3,14	0,93	(11,96)						
		60	L-57 (V)	Ⅴ	B2_395	接芯	黒曜石2	5,62	2,82	0,75	12,93						
		61	K-57	V	B2_97	接芯	黒曜石2	(3,28)	2,21	0,69	(8,66)			折7			
		K-57	V	B2_187	接芯	黒曜石2	(2,18)	2,29	0,83	(6,47)			折7				
		L-57	Ⅵ	B2_25	接芯	黒曜石2	(4,39)	2,62	1,31	(12,15)			折13				
		L-57	Ⅵ	B2_30	接芯	黒曜石2	(2,52)	1,99	0,71	(3,15)			折13				
		63	M-56	Ⅴ	B2_14	接芯	黒曜石2	8,76	2,72	0,82	15,15						
		64	K-57	Ⅵ	B2_191	接芯	黒曜石2	(1,43)	2,09	0,36	(1,05)						
		65	K-57	Ⅵ	B2_307	接芯	黒曜石3	(1,27)	1,81	0,81	(11,46)						
		66	L-57	V	B2_18	接芯	黒曜石3	(2,30)	1,09	0,41	(10,88)						
		67	L-57	Ⅴ	B2_425	接芯	黒曜石2	(1,50)	1,56	0,65	(11,26)						
		68	K-57	Ⅵ	B2_439	接芯	黒曜石1	(2,13)	2,23	0,53	(12,63)						
		69	L-57	Ⅵ	B2_399	接芯	黒曜石1	(3,22)	(1,30)	0,55	(12,17)						
		70	K-57	Ⅴ	B2_493	削芯	黒曜石2	(4,02)	3,04	0,75	(18,53)						
		71	L-57	Ⅴ	B2_387	削芯	黒曜石2	(1,89)	1,79	0,84	(12,45)						
		72	K-57	Ⅴ	B2_390	削芯	黒曜石2	(1,31)	2,52	0,63	(12,29)						
		図Ⅱ-71		73	K-57	Ⅵ	B2_43	彫芯	頁岩9	(2,65)	1,54	0,43	(1,30)				
				74	K-57	Ⅵ	B2_431	彫芯	頁岩19	4,25	1,84	0,55	4,51				
75	L-57			Ⅴ	B2_33	彫芯	頁岩18	5,70	2,40	0,80	11,37						
76	L-57			Ⅴ	B2_383	彫芯	頁岩18	6,20	2,08	1,12	16,30						
77	L-57			Ⅴ	B2_575	彫芯削片	頁岩13	(2,01)	6,00	0,18	(0,28)						
78	K-57			Ⅴ	B2_502	彫芯削片	頁岩15	(1,48)	0,64	0,19	(0,16)						
79	L-57			Ⅴ	B2_686	彫芯削片	頁岩7	1,81	0,44	0,22	0,13						
80	K-57			Ⅵ	B2_364	石刀	黒曜石2	(2,20)	1,15	0,51	(1,21)						
81	K-56			Ⅵ	B2_170	石刀	黒曜石2	(2,97)	1,31	0,66	(2,12)			40			
82	K-57			V	B2_55	石刀	黒曜石2	(3,21)	1,01	0,29	(0,84)			39			
83	K-57	Ⅴ	B2_503	石刀	黒曜石1	(3,32)	1,63	0,53	(2,19)								
84	K-57	Ⅴ	B2_676	石刀	黒曜石1	(3,60)	1,98	0,45	(2,53)								
85	K-57	Ⅴ	B2_697	石刀	黒曜石2	(2,98)	2,01	0,55	(3,14)								
86	L-57	Ⅴ	B2_574	石刀	黒曜石1	3,89	1,86	0,50	3,29								
87	K-56	V	B2_130	石刀	黒曜石2	(3,67)	2,11	0,68	(5,30)								
88	K-57	Ⅵ	B2_463	石刀	黒曜石2	(3,95)	2,31	0,81	(6,30)								
89	K-57	Ⅵ	B2_22	石刀	黒曜石2	3,80	1,58	0,62	2,76								
90	K-57	V	B2_123	石刀	黒曜石2	(4,73)	2,02	0,70	(6,25)								
91	K-57	Ⅴ	B2_500	石刀	黒曜石2	(2,53)	2,22	0,52	(2,60)								
92	L-57	Ⅴ	B2_604	石刀	黒曜石2	(3,14)	1,77	0,61	(3,11)								
93	L-57	Ⅴ	B2_641	石刀	黒曜石1	(4,28)	1,72	0,55	(3,75)								
94	L-57	Ⅵ	B2_420	石刀	黒曜石3	(3,61)	2,50	0,74	(6,30)								
95	L-56	Ⅴ	B2_615	石刀	黒曜石1	(3,72)	1,55	0,73	(4,42)								
図Ⅱ-71		96	L-57	Ⅴ	B2_376	石刀	黒曜石2	(1,85)	1,76	0,46	(1,60)			折9			
		K-57	Ⅵ	B2_454	石刀	黒曜石2	(3,36)	1,91	0,43	(3,15)			折9				
		L-56	Ⅴ	B2_2	石刀	黒曜石3	(4,21)	2,42	1,08	(6,51)			折21				
		97	L-57	Ⅴ	B2_469	石刀	黒曜石3	(3,11)	1,47	0,72	(2,75)			折21			
		K-57	V	B2_85	石刀	黒曜石2	(7,23)	2,47	1,51	(26,82)			38				
		L-56	Ⅴ	B2_8	石刀	黒曜石3	(4,40)	2,11	0,83	(6,58)			折19				
		99	K-57	Ⅵ	B2_183	石刀	黒曜石3	(2,38)	1,46	0,75	(2,50)			折19			
		100	K-57	Ⅵ	B2_210	石刀	黒曜石2	(4,97)	2,45	1,21	(11,29)						
		101	K-57	Ⅵ	B2_75	石刀	黒曜石2	(3,73)	3,21	1,57	(16,93)						

表Ⅱ-21 ブロック2 掲載石器一覧(3)

詳細番号	写真四版	掲載区	層位	遺物番号	器種	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	接合 No	折痕 No	分析 No	備考
Ⅱ-71	Ⅱ-35	101	Ⅵ	Ⅱ2.75	石片	黒曜石2	(3.73)	3.21	1.57	(16.93)				
				Ⅱ2.46	石片	黒曜石2	(5.71)	3.32	1.39	(17.68)				
				Ⅱ2.64	石片	黒曜石2	(2.23)	0.99	0.29	(0.71)				
		103	Ⅶ	Ⅱ2.533	加工痕ある剥片	黒曜石3	2.11	1.34	0.47	0.95				
		104	Ⅵ	Ⅱ2.67	加工痕ある剥片	黒曜石1	1.83	1.42	0.28	0.86				
		105	Ⅵ	Ⅱ2.279	加工痕ある剥片	黒曜石1	(1.82)	1.24	0.35	(0.76)				
		106	Ⅵ	Ⅱ2.171	加工痕ある剥片	黒曜石1	1.80	1.60	0.28	0.69				
		107	Ⅵ	Ⅱ2.390	加工痕ある剥片	黒曜石1	(2.28)	1.52	0.37	(1.42)				
		108	Ⅶ	Ⅱ2.667	微細割断痕ある剥片	黒曜石2	(0.86)	1.96	0.26	(0.38)				

表Ⅱ-22 ブロック2 接合資料一覧(1)

詳細番号	写真四版	ブロック	接合No	折痕No	掲載番号	器種	掲載区	層位	遺物番号	長cm	幅cm	厚cm	重量g	分析No	石材	備考	
Ⅱ-72	Ⅱ-36	接合1	-	-	109	接合資料	K-07,L-07	V,Ⅵ,Ⅶ		4.60	6.15	1.76	40.29	37	黒曜石1		
					110	剥片	K-07	Ⅵ	Ⅱ2.365	(1.64)	1.45	0.38	(0.77)				
					111	剥片	K-07	V	Ⅱ2.161	2.96	2.06	0.39	1.84				
					112	加工痕ある剥片	K-07	Ⅵ	Ⅱ2.331	2.88	2.20	0.35	2.53				
					113	剥片	K-07	Ⅵ	K57.503	2.55	1.00	0.15	0.39				
					56	微細調整石器	L-07	Ⅶ	Ⅱ2.465	4.18	6.15	1.41	34.86				
					114	接合資料	K-07,L-07	(V,Ⅵ)		4.70	3.78	0.70	11.31				
					115	剥片	L-07	Ⅵ	Ⅱ2.177	2.91	1.84	0.42	2.68				
					116	剥片	L-07	Ⅵ	Ⅱ2.26	4.08	2.78	0.67	6.26				
					117	剥片	K-07	(V)	Ⅱ2.250	(2.32)	3.19	0.39	(2.57)				
		接合3	-	-	-	118	接合資料	L-07	Ⅵ,Ⅶ		4.50	3.12	0.81	8.90		黒曜石1	
		119	剥片	L-07	Ⅶ	Ⅱ2.347	3.39	3.44	0.71	6.49							
		120	剥片	L-07	Ⅵ	Ⅱ2.434	2.84	2.89	0.60	2.41							
		接合4	-	-	-	121	接合資料	K-06	Ⅵ		(3.96)	2.81	0.89	(7.40)		黒曜石1	
		122	剥片	K-06	Ⅵ	Ⅱ2.155	2.52	2.05	0.52	2.22							
		123	微細調整痕ある剥片	K-06	Ⅵ	Ⅱ2.138	3.80	2.49	0.59	5.18							
		接合5	-	-	-	124	接合資料	K-07,L-07	Ⅶ		3.15	2.00	0.67	2.91		黒曜石1	
		125	剥片	L-07	Ⅶ	Ⅱ2.532	2.75	1.35	0.51	1.40							
		126	剥片	K-07	Ⅶ	Ⅱ2.479	2.95	1.44	0.46	1.51							
		接合6	-	-	-	127	接合資料	K-06/Ⅵ,L-07	V,Ⅵ,Ⅶ		7.55	5.61	1.07	22.70		黒曜石2	
128	剥片	L-07	Ⅶ	Ⅱ2.285	(2.52)	(2.30)	0.57	(3.24)									
129	剥片	K-07	Ⅶ	Ⅱ2.506	(2.26)	(1.90)	0.23	(1.32)									
接合7	-	-	-	130	接合資料	K-07	Ⅵ		4.35	2.82	0.77	8.51		黒曜石2			
131	剥片	K-07	Ⅵ	Ⅱ2.255	(2.48)	2.17	0.74	(3.77)									
132	剥片	K-07	Ⅵ	Ⅱ2.335	4.39	3.13	0.76	(4.74)									
接合8	-	-	-	133	接合資料	K-07,L-07	V,Ⅶ		4.87	4.80	1.01	15.98		黒曜石3			
134	微細調整痕ある剥片	K-07	V	Ⅱ2.100	3.88	2.86	0.65	5.18									
135	剥片	L-07	Ⅶ	Ⅱ2.41	4.87	3.76	0.83	10.80									
136	接合資料	K-07,L-07	V,Ⅵ,Ⅶ		6.20	4.22	0.83	14.80									
137	剥片	K-07	Ⅶ	Ⅱ2.401	(3.42)	2.21	0.52	(2.56)									
接合9	-	-	-	138	接合資料	L-07	V		Ⅱ2.443	(3.00)	4.34	0.82	9.13		黒曜石3		
139	剥片	K-07	Ⅶ	Ⅱ2.372	(1.81)	(3.04)	0.51	2.76									
140	剥片	K-07	Ⅶ	Ⅱ2.608	(1.51)	(1.51)	0.17	0.35									
接合10	-	-	-	139	接合資料				4.20	3.73	0.87	9.46		黒曜石3			
140	剥片	K-07	Ⅵ	Ⅱ2.259	(3.57)	2.55	0.72	(5.13)									
141	剥片	L-07	Ⅶ	Ⅱ2.397	(3.23)	2.38	0.87	(4.33)									
接合11	-	-	-	142	接合資料	K-06-07			5.62	4.02	1.25	18.91		黒曜石3			
143	剥片	K-06	Ⅵ	Ⅱ2.230	2.88	2.86	0.83	6.20									
144	剥片	K-07	Ⅶ	Ⅱ2.436	(2.34)	(2.74)	0.80	2.58									
145	微細調整痕ある剥片	K-06	V	Ⅱ2.189	(3.34)	3.41	1.00	10.13									
接合12	-	-	-	145	接合資料	L-07	Ⅶ		3.08	2.18	0.80	4.62		黒曜石3			
146	剥片	L-07	Ⅶ	Ⅱ2.550	2.18	1.60	0.50	1.34									
147	剥片	L-07	Ⅶ	Ⅱ2.523	2.61	1.79	0.72	3.28									

表Ⅱ-22 ブロック2 接合資料一覧(2)

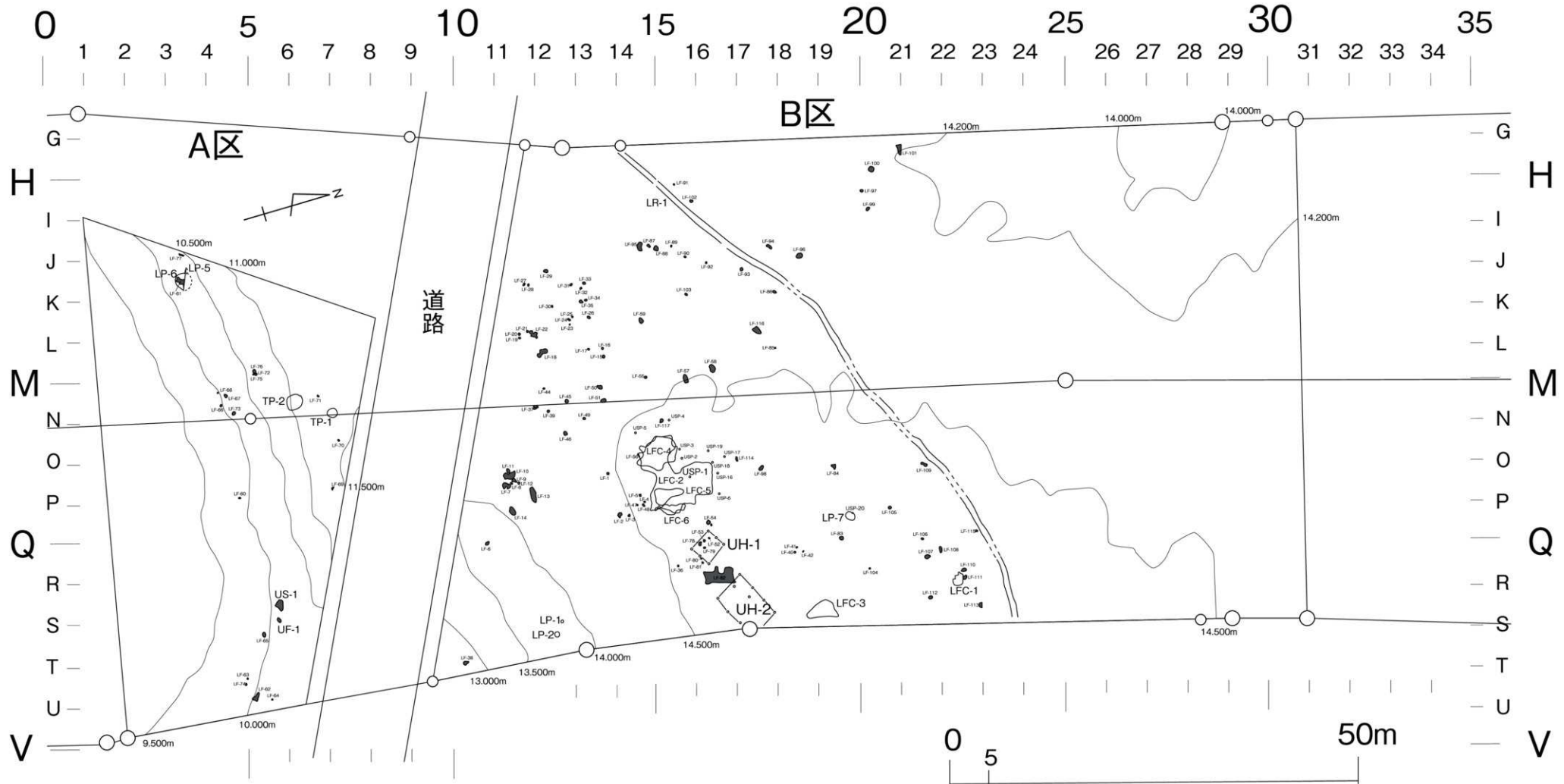
採掘番号	写真図録	ブロック	接合No	相違No	図録番号	器種	発掘区	層位	遺物番号	長 cm	幅 cm	厚 cm	重量 g	分析 No	石質	備考					
国Ⅱ-74	国Ⅱ-74	-	接合13 5 割縁 (7点)	相違28 2点	148	接合資料	K-57, L-57, M-56	(V), V, V, Ⅷ		13.22	5.80	5.40	171.41		緑色虎豹						
					149	銅片	K-57	Ⅷ	B2.289	6.50	3.09	0.87	19.27								
					150	磨製石斧調整銅片	K-56	(V)	B2.373	6.35	4.84	0.73	22.68								
					151	磨製石斧調整銅片	K-57	Ⅷ	B2.70	3.07	5.28	0.88	11.93								
					152	磨製石斧調整銅片	K-57	Ⅷ	B2.269	4.56	3.97	1.28	19.40								
				相違29 2点	152	銅片	K-56	V	B2.710	11.82	1.13	0.46	11.95								
					153	磨製石斧調整銅片	M-56	Ⅷ	B2.703	2.32	4.50	1.40	14.46								
					153	銅片	L-57	Ⅷ	B2.432	4.66	7.72	1.09	18.36								
					154	銅片	K-57	Ⅷ	K57.7.28	0.72	0.94	0.17	0.11								
					155	銅片	K-57	Ⅷ	B2.410	2.11	2.73	0.37	12.38								
				非接合 7点	156	銅片	L-57	Ⅷ	K57.506	1.77	1.23	0.48	1.16								
					157	磨製石斧調整銅片	K-56	V	B2.172	1.84	1.97	0.76	1.89								
					158	銅片	K-57	Ⅷ	K57.7.28	1.21	1.93	0.29	0.66								
					159	磨製石斧調整銅片	L-57	V	B2.4	1.47	1.78	0.26	1.00								
					160	磨製石斧調整銅片	K-57	Ⅷ	B2.671	2.01	2.55	0.37	1.44								
				-	-	-	相違1 (2点)	-	接合資料	K-57	Ⅷ		3.09	3.04			0.65	4.86		黒曜石1	
								-	銅片	K-57	Ⅷ	B2.496	1.84	2.67			0.73	2.83			
								-	銅片	K-57	Ⅷ	B2.448	2.68	2.41			0.50	2.03			
-	-	-	相違2 (2点)	-	接合資料	K-57, L-57	Ⅷ		2.91	2.60	0.45	3.41		黒曜石1							
				-	銅片	K-57	Ⅷ	B2.591	1.90	2.45	0.45	2.24									
				-	銅片	L-57	Ⅷ	B2.521	1.09	2.30	0.44	1.17									
国Ⅱ-74	国Ⅱ-74	-	相違3 (2点)	58	接合資料	K-57, L-57	Ⅷ, Ⅷ		4.67	1.85	0.96	5.58		黒曜石1							
					漆部	K-57	Ⅷ	B2.129	1.46	1.64	0.40	4.38									
					漆部	L-57	Ⅷ	B2.470	3.21	1.85	0.96	1.19									
-	-	-	相違4 (2点)	-	接合資料	K-57	Ⅷ		2.45	2.44	0.29	1.56		黒曜石1							
					銅片	K-57	Ⅷ	B2.638	1.33	2.10	0.26	0.74									
					銅片	K-57	Ⅷ	B2.258	1.20	2.42	0.25	0.82									
-	-	-	相違5 (2点)	-	接合資料	K-57	Ⅷ, Ⅷ		1.92	1.97	1.90	0.78		黒曜石1							
					銅片	K-57	Ⅷ	B2.262	1.20	1.40	0.18	0.44									
					銅片	K-57	Ⅷ	B2.185	0.75	1.32	0.17	0.34									
-	-	-	相違6 (2点)	-	接合資料	K-57, L-57	V, Ⅷ		2.76	1.95	0.36	1.39		黒曜石1							
					銅片	K-57	V	B2.96	1.61	1.62	0.35	0.92									
					銅片	L-57	Ⅷ	B2.522	1.90	1.61	0.20	0.47									
国Ⅱ-74	国Ⅱ-74	-	相違7 (2点)	61	接合資料	K-57	Ⅷ		5.84	4.85	10.75	14.53		黒曜石2							
					銅片	K-57	V	B2.97	3.44	2.22	0.80	8.06									
					漆部	K-57	Ⅷ	B2.187	2.40	2.63	0.95	6.47									
-	-	-	相違8 (2点)	-	接合資料	K-57	Ⅷ, Ⅷ		2.44	1.97	0.37	2.20		黒曜石2							
					銅片	L-57	Ⅷ	B2.430	1.30	1.79	0.58	1.29									
					銅片	K-57	Ⅷ	K57.502	0.99	2.00	0.33	0.91									
国Ⅱ-74	国Ⅱ-74	-	相違9 (2点)	96	接合資料	K-57, L-57	Ⅷ, Ⅷ		5.00	1.93	0.46	4.75		黒曜石2							
					石刃	L-57	Ⅷ	B2.376	1.76	1.77	0.46	1.60									
					石刃	K-57	Ⅷ	B2.454	4.76	0.16	0.43	3.15									
-	-	-	相違10 (2点)	-	接合資料	K-57	V, Ⅷ		2.56	3.62	0.54	3.89		黒曜石2							
					銅片	K-57	Ⅷ	B2.76	2.20	1.92	0.49	1.87									
					銅片	K-57	V	B2.61	1.47	2.79	0.51	2.02									
国Ⅱ-74	国Ⅱ-74	-	相違11 (2点)	102	接合資料	K-57	Ⅷ		5.97	2.99	1.96	18.39		黒曜石2							
					加工面ある銅片	K-57	Ⅷ	B2.46	1.21	1.08	0.25	17.68									
					銅片	K-57	Ⅷ	B2.64	1.93	1.31	0.24	0.71									
-	-	-	相違12 (2点)	-	接合資料	K-56-57	Ⅷ, Ⅷ		4.65	3.71	0.38	7.86		黒曜石2							
					銅片	K-56	Ⅷ	B2.162	3.65	3.71	0.38	5.28									
					銅片	K-57	Ⅷ	B2.483	2.02	2.79	0.34	2.58									
国Ⅱ-74	国Ⅱ-74	-	相違13 (2点)	62	接合資料	L-57	Ⅷ		6.50	2.55	0.96	10.30		黒曜石2							
					漆部	L-57	Ⅷ	B2.25	2.48	1.92	0.60	12.15									
					漆部	L-57	Ⅷ	B2.30	4.29	2.55	0.96	3.15									
-	-	-	相違14 (2点)	-	接合資料	K-57	Ⅷ		3.34	3.53	0.34	5.61		黒曜石2							
					銅片	K-57	Ⅷ	B2.247	2.20	1.28	0.25	1.98									
					銅片	K-57	Ⅷ	B2.440	3.19	3.53	0.34	4.53									
-	-	-	相違15 (2点)	-	接合資料	K-57, L-56	(V), V		2.92	2.60	0.78	6.80		黒曜石2							
					銅片	L-56	(V)	B2.9	3.63	2.60	0.78	5.52									
					石刃	K-57	V	B2.105	1.09	1.67	0.46	1.28									

表Ⅱ-22 ブロック2 接合資料一覧(3)

詳細番号	写真回数	ブロック	接合%	詳細No	掲載番号	器種	発掘区	層位	遺物番号	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量g	分析No	石質	備考			
—	—	2	—	柄線16 (2.0)	—	接合資料	L-57	V, Ⅲ		1.03	0.75	0.71	3.30						
						削片	L-57	Ⅲ	器2.26	0.80	0.68	0.48	1.16			黒曜石2			
						石刃	L-57	Ⅲ	器2.459	1.25	0.75	0.71	2.14						
				柄線17 (2.0)	—	接合資料	K-57, L-57	Ⅲ		0.03	1.73	0.41	2.65						
						削片	L-57	Ⅲ	器2.382	2.66	1.73	0.41	1.83			黒曜石3			
						削片	K-57	Ⅲ	器2.490	2.26	1.62	0.20	0.82						
				柄線18	—	接合資料	K-57, L-57	V, Ⅲ		2.75	3.24	0.42	2.96						
						削片	K-57	Ⅲ	器57.303	2.03	1.37	0.42	1.38			黒曜石3			
						削片	L-57	Ⅲ	器2.536	2.05	1.90	0.39	1.58						
				柄線19 (2.0)	99	接合資料	K-57, L-56	V, Ⅲ		6.62	2.30	0.82	9.08						
						削片	L-56	Ⅲ	器2.8	4.27	2.22	0.82	6.58			黒曜石3			
						削片	K-57	Ⅲ	器2.183	2.43	1.47	0.75	2.50						
柄線20 (2.0)	—	接合資料	K-57	Ⅲ		3.82	2.60	0.55	3.25										
		加工前ある削片	K-57	Ⅲ	器2.110	2.28	2.60	0.55	2.27			黒曜石3	焼熱						
		削片	K-57	Ⅲ	器2.402	1.64	2.32	0.25	1.06										
柄線21 (2.0)	97	接合資料	L-56-57	V, Ⅲ		6.81	2.11	0.55	9.25										
		削片	L-56	Ⅲ	器2.2	3.81	2.11	0.55	6.51			黒曜石3							
		削片	L-57	Ⅲ	器2.469	3.00	1.33	0.41	2.75										
柄線22 (2.0)	—	接合資料	K-56-57	(V), Ⅲ		3.77	3.71	0.56	4.25										
		削片	K-57	Ⅲ	器2.340	2.15	0.86	0.19	0.56			黒曜石3							
		削片	K-56	Ⅲ	器2.165	1.99	1.49	0.39	0.68										
柄線23 (2.0)	—	削片	K-56	(V)	器2.290	2.02	2.86	0.56	3.01										
		接合資料	K-57	V		4.07	2.23	0.42	2.08										
		削片	K-57	Ⅲ	器2.449	2.24	2.13	0.34	1.47			黒曜石1	焼熱						
柄線24	128	削片	K-57	Ⅲ	器2.79	1.78	2.26	0.49	1.51										
		接合資料	K-57, L-57	V, Ⅲ		4.01	3.76	0.56	4.56										
		削片	L-57	Ⅲ	器2.285	2.85	3.76	0.56	3.24			黒曜石2	接合6						
柄線25	129	削片	K-57	Ⅲ	器2.504	2.17	2.64	0.26	1.32										
		接合資料	K-56-57	V, Ⅲ		7.39	3.73	1.02	19.14										
		削片	K-56	V	器2.173	4.65	3.73	1.02	15.73			黒曜石2	接合6						
柄線26	138	削片	K-57	Ⅲ	器2.357	2.97	3.59	0.41	3.41										
		接合資料	K-57	V, Ⅲ		6.16	4.32	0.79	3.11										
		削片	K-57	Ⅲ	器2.372	3.05	4.32	0.79	2.76			黒曜石3	接合9						
柄線27	144	削片	K-57	Ⅲ	器2.608	3.12	3.02	0.55	0.35										
		接合資料	K-56-57	V, Ⅲ		5.64	3.50	0.96	12.71										
		微細網鑑定ある削片	K-56	V	器2.189	2.93	3.50	0.96	10.13			黒曜石3	接合11						
柄線28	152	削片	K-57	Ⅲ	器2.436	2.39	2.86	0.53	2.58										
		接合資料	K-56-57	V, Ⅲ		9.01	9.41	1.35	58.43										
		磨製石片調整削片	K-57	Ⅲ	器2.369	9.02	9.41	1.35	57.38			緑色泥岩	接合13						
柄線29	153	削片	K-56	V	器2.710	1.69	1.61	0.37	1.05										
		接合資料	L-57, M-56	V, Ⅲ		5.01	4.53	1.21	54.94										
		磨製石片調整削片	M-56	Ⅲ	器2.703	2.46	4.53	1.21	14.46			緑色泥岩	接合13						
削片	L-57	Ⅲ	器2.432	4.03	7.81	0.93	40.18												

表Ⅱ-23 ブロック外 掲載石器一覧

詳細番号	写真回数	掲載番号	発掘区	層位	遺物番号	器種	石質	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量(g)	接合%	詳細No	分析No	備考
柄線-80	柄線Ⅱ-38	1	J-53	V	2	石刃	頁岩9	5.84	2.56	0.74	12.67				
		2	S-27	V	8	石刃	黒曜石1	4.34	2.24	0.72	6.71				
		3	M-42	V	10	矢頭部	黒曜石5	2.06	3.74	0.88	9.01				



図Ⅲ-1 遺構配置図 (地形はV層上面)

Ⅲ 梅川 2 遺跡

1 Ⅲ層の調査

Ⅲ層包含層の約7割に耕作地の攪乱が及んでいた。

遺構は住居2軒(UH-1・2)、小柱穴:11基(USP-1~6、16~21)が検出された。UH-1・2はアイヌ文化期のもので、こちらの柱穴は掘り込みを伴う。LR-1は縄文後期の可能性がある。なお、UH-1から出土した炭化物1件の年代測定を行った結果、BP818の結果を得ている(Ⅳ章1節PLD-6862)。

a 建物跡

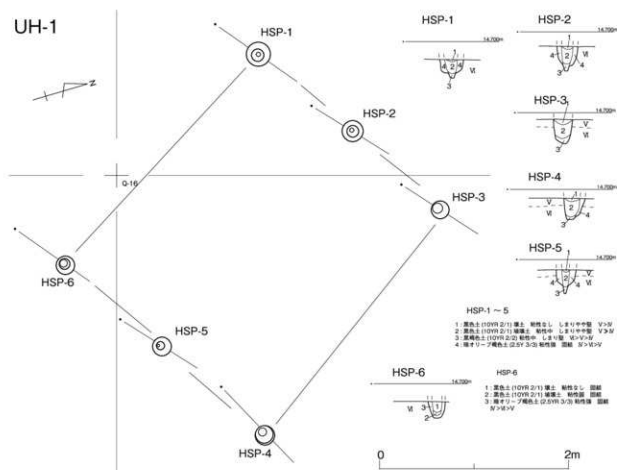
UH-1 (図Ⅲ-2、表Ⅲ-1・2、図版Ⅲ-2・3)

位置:P-16、Q-15・16 標高:14.5~14.7m

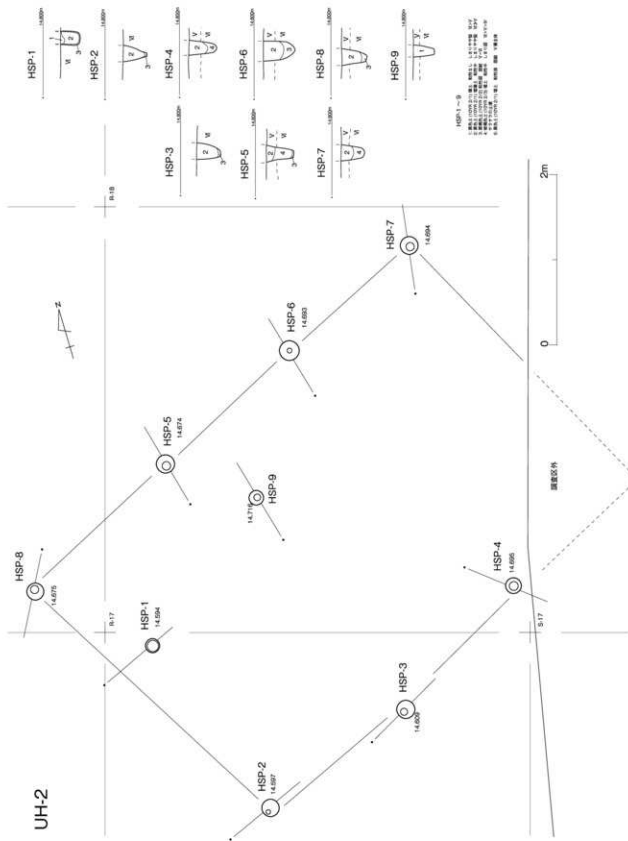
規模:3.3×2.6m

長軸方向:N-32°-W

確認・調査: V・VI層包含層調査中にVI層上面で柱穴3基を確認した。周囲のV層を精査したところ、V層上面で3基の柱穴が確認された。半裁して堆積を観察した結果、IV層の細粒なバミスが覆土に含まれていたことから、Ⅲ層中に構築面がある遺構と判断し、1辺が3本で構成される柱穴が対をなす、6本の組み合わせとなる「建物跡」と認定した。柱間距離は東西軸が1.2~1.5m、南北軸が3.0mである。



図Ⅲ-2 UH-1



図III-3 UH-2

付属施設：柱穴6基（HSP1～6）を確認した。

[HSP-1～6]

位置：P-16、Q-15・16

先端形状はすべて角形。1・2・4・5・6は柱穴覆土の側壁に堀り形が残るもの。堀り形の覆土は固結するものがみられ、柱穴の配置後に人為的に埋め戻されたと考えられる。柱穴は直径18cm～25cmまでで、確認面からの柱穴の深さは17cm～26cmまでである。

時期：覆土の堆積状況、構成の特徴から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。（山田和史）

UH-2（図Ⅲ-3、表Ⅲ-1・2、図版Ⅲ-2・3）

位置：Q-17、R-16・17 標高：14.6～14.7m

規模：6.2×4.0m

長軸方向：N-65°-E

確認・調査：V・VI層包含層調査中にVI層上面で柱穴3基を確認した。周囲のV層を精査したところ、V層上面で6基の柱穴が確認された。半裁して堆積を観察した結果、IV層の細粒なバミスが覆土に含まれていた。Ⅲ層中に構築面がある遺構と判断し、柱穴が方形の配列をなすことから「建物跡」と認定した。調査区外に長辺上の柱穴が位置することも考えられるが、1辺が4本で構成される柱穴が対をなす、8本の組み合わせとなる「建物跡」と認定した。「主体部」を構成する柱穴は7基を確認したが、1基は調査区外に位置する。柱間距離は東西軸が1.9～2.0m、南北軸が3.8mである。

付属施設：柱穴9基（HSP1～9）を確認した。

[HSP-1～6]

位置：Q-17、R-16・17

2～8は「主体部」を構成する柱穴で、長方形に配列する。長軸は4基、短軸は2基で、配列は調査区外に広がることから、8基の組み合わせをもつ「建物跡」と考えられる。1・9は「主体部」の内側に位置し、付属的な柱穴と判断される。先端形状は6が尖形、2・5・8・9が角形、1・3・4・7が丸形。1の覆土3層は混じりのない黒色土で、打ち込みの際に杭に附着したV層の黒色土が固結したものと考えられる。すべて「打ち込み」によるものである。柱穴は直径14cm～20cmまでで、確認面からの柱穴の深さは23cm～37cmまでである。

時期：覆土の堆積状況、構成の特徴から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。（山田和史）

b 柱穴

USP-20（図Ⅲ-4、表Ⅲ-3）

位置：P-19 規模：0.14×0.14×0.36m 標高：14.0～14.5m

VI層上面で褐色土の円形の落ち込みを確認した。半裁後、覆土の堆積状況からⅢ層に構築面がある「柱穴」と判断し、調査した。LP-7を切っており、先端形状は円形で、覆土は「打ち込み痕」と考えられる5層が黒色土であるほか、1～4層にIV層の軽石が混ざる。直径15cm、確認面からの深さは35cmである。

時期：覆土の堆積状況、特徴から、1739年以前の近世アイヌ文化期と考えられる。（山田和史）

c 焼土

UF-1 (図Ⅲ-4、表Ⅲ-5)

位置：R-5 長軸方向：N-76°-E 規模：0.67×0.39×0.05m 標高：10.3~10.4m

確認・調査：Ⅲ層で焼土1基が確認された。焼土は1mm程度の骨片を含むもので、ブロック状の灰が斑状に含まれていたことから、半截後、フローテーション用の試料として回収した。「地床炉」で、平面形は不整楕円形、断面はレンズ状、下面は波状であるが層界は明瞭である。近接して集石1基 (US-1)、擦文文化期の土器片が出土しており、共伴関係にあると考えられる。

出土遺物：

時期：遺構の構築面、共伴関係にあると考えられる。遺物の特徴から擦文文化期と考えられる。

(山田和史)

d 集石

US-1 (図Ⅲ-5、表Ⅲ-4)

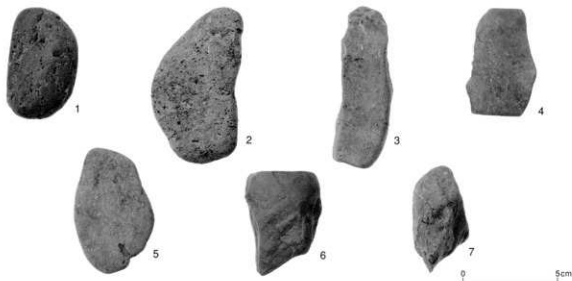
位置：R-5 長軸方向：N-18°-W 規模：0.60×0.22m 標高：10.4~10.5m

確認・調査：Ⅲ層で礫が集中して出土した。全体に被熱しており、標高差がないことから、同一時期に形成されたものと判断し、「集石」として調査した。平面は不整形で礫は3か所にまとまる。図中の標高値は取り上げ後のものである。近接して焼土1基 (UF-1)、擦文文化期の土器片が出土しており、共伴関係にあると考えられる。

出土遺物：

時期：遺構の構築面、共伴関係にあると考えられる遺構・遺物の特徴から擦文文化期と考えられる。

(山田和史)



図Ⅲ-5 US-1

2 V・VI層の調査

V～VI層から土壌：5基（LP-1・2・6～8）、Tピット：2基（TP-1・2）、集石：1カ所（US-1）、焼土：116カ所（LF-1～116）、フレイク・チップ集中：6カ所（LFC-1～6）、道跡1カ所（LR-1）が検出されている。LR-1は縄文後期の可能性がある。

a 道路跡

LR-1（図Ⅲ-6、図版Ⅲ-6）

位置：H-14・15、I-15・16、J-16・17、K-18、L-18・19、M-19・20、N-20・21、O-21・22、P-22、Q-22・23、R-23

長軸方向：N-78° -E

規模：72.0×0.70×0.15m

標高：14.2～14.5m 付近

確認・調査：V・VI層包含層調査中にVI層上面で幅約90cmの溝状の黒色土が堆積する範囲を確認した。短軸方向でトレンチを入れたところ、土層断面では人為的な堀込みを示す自然土層との不整合はみられなかったが、土層断面の堅密度が自然堆積土より幾分堅くしまっていることが確認された。これを人為的な填圧によるものと考え、周りの調査区をVI層上面まで掘り下げた。黒色土の溝状の落ち込みは調査区を横断するように東西方向に延びることが確認された。堆積状況と平面形状から「道跡」と判断した。堆積は2枚認められる。断面形は浅い皿状を呈するが層界は明瞭でなく、下面はVII層に接し、堅くしめる。覆土は、窪みに溜まった自然堆積土と考えられる。

出土遺物：覆土1層上面からIV群b類土器5点、IV群c類土器10点、石鏃1点、フレイク6点の計22点、覆土1層からII群a類土器2点、IV群b類土器29点、IV群c類土器5点、石鏃1点、フレイク9点の計46点、覆土2層からIV群b類土器1点、フレイク2点の計3点、総計71点が出土した。

時期：覆土2層からIV群b類土器が出土していることから、「道跡」の構築は縄文時代後期中葉以前と考えられる。（山田和史）

b 土壌

LP-1（図Ⅲ-7、表Ⅲ-6）

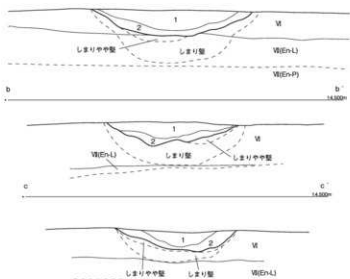
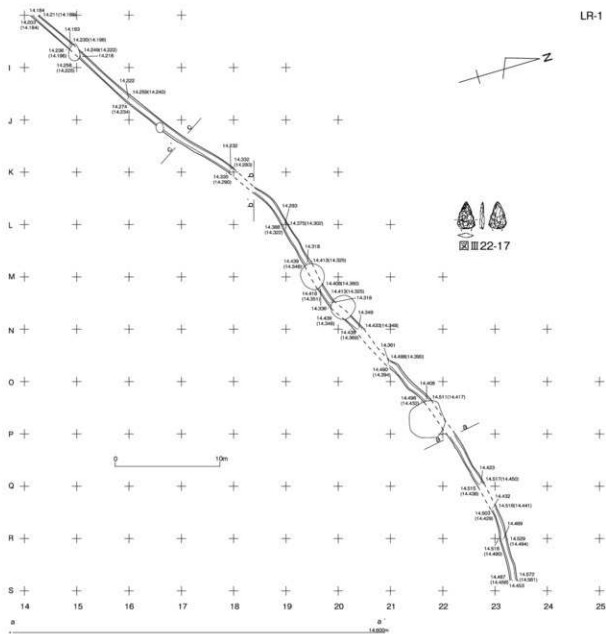
位置：R-11 長軸方向：N-43°-W 規模：0.35×0.30×0.07m 標高：14.4～14.6m

確認・調査：調査以前に包含層がVII層上面まで削平を受けていた。VII層上面で褐色土の円形の落ち込みを確認し、半裁後、自然土層と覆土が不整合であることを確認した。確認面はVII層である。平面は円形を呈し、坑底は皿状でVII層中にある。立ち上がりは緩やかである。覆土は粘性の強い埴土で、1～10mmのVII層の軽石が均質に混ざる。隣接するLP-2と形状、覆土が類似することから同時期の可能性が考えられる。

性格：覆土の混成状況、平面、断面形状から、土壌と考えられるが、その性格は不明である。

時期：不明

（山田和史）



図III-6 LR-1

LR-1

- 1 調査区(100m×100m)の境界
 2 調査区(100m×100m)の境界
 3 調査区(100m×100m)の境界
 4 調査区(100m×100m)の境界
 5 調査区(100m×100m)の境界
 6 調査区(100m×100m)の境界

0 50m

LP-2 (図Ⅲ-7、表Ⅲ-6、図版Ⅲ-5)

位置：S-11 長軸方向：N-69.5°-W 規模：0.65×0.58×0.07m 標高：14.3~14.5

確認・調査：調査以前に包含層がⅧ層上面まで削平を受けていた。Ⅷ層上面で褐色土の円形の落ち込みを確認し、半截後、自然土層と覆土が不整合であることを確認した。確認面はⅧ層である。平面は円形を呈し、壙底は皿状でⅧ層中にある。覆土は粘性の強い埴土で、1~10mmのⅧ層の軽石が均質に混ざる。隣接するLP-1と形状、覆土が類似することから同時期の可能性が考えられる。

性格：覆土の混成状況、平面、断面形状から、土壌と考えられるが、その性格は不明である。

時期：不明

(山田和史)

LP-5 (図Ⅲ-7、表Ⅲ-6)

位置：J-3 長軸方向：N-67°-W 規模：0.66×0.08×0.09m 標高：10.1~10.4m

確認・調査：B 調試掘坑によって大部が失われていたが、Ⅷ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。土層断面を確認するため、B 調試掘坑の埋土を取り除き、落ち込みの断面が皿状を呈すること、自然土層と覆土が不整合であることを確認し、土壌と認定し、調査した。覆土はレンズ状に堆積する2枚が認められ、Ⅴ層を主体とする1層と、Ⅷ層の軽石がブロック状に混ざる7層からなる。壙底はⅧ層まで達し、覆土は埋め戻された可能性がある。平面形は楕円形を呈すと推測される。

性格：覆土の混成状況、平面、断面形状から、土壌と考えられるが、その性格は不明である。

時期：不明。

(山田和史)

LP-6 (図Ⅲ-7、表Ⅲ-6、図版Ⅲ-3)

位置：J-3 長軸方向：N-70.5°-W 規模：2.12×1.16×0.33m 標高：9.8~10.4m

確認・調査：B 調試掘坑によって遺構の半分が失われていたが、Ⅵ層上面で黒色土の落ち込みを確認した。土層断面を確認するため、B 調試掘坑の埋土を取り除き、落ち込みの断面が皿状を呈すること、自然土層と覆土が不整合であることを確認し、土壌と認定し、調査した。覆土は7枚ある。6・7層は堆積状況から自然流入土と考えられ、1~5・2の堆積は重なるように交互にみられることから埋め戻しの可能性が考えられる。平面形は大形の不整楕円形、断面は不整形で下面は平坦、立ち上がりは壙口に向かって開く。

性格：覆土の混成状況、平面、断面形状から、土壌と考えられるが、その性格は不明である。

時期：不明。

(山田和史)

LP-7 (図Ⅲ-7、表Ⅲ-6)

位置：P-19 長軸方向：N-65°-E 規模：1.20×0.96×0.58m 標高：13.9~14.5m

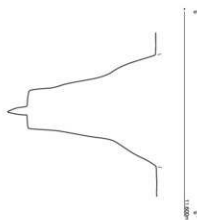
確認・調査：Ⅵ層上面で黒色土の円形の落ち込みを確認し、半截後、自然土層と覆土が不整合であることを確認した。確認面はⅥ層である。平面は楕円形を呈し、壙底は凹凸のある平坦面でⅧ層中にある。壙底から急角度で立ち上がり、壙口に向かって開く。覆土はいずれも粘性の強い埴土で、1~10mmのⅧ層の軽石が均質に混ざるもので、下層ほどよく混ざる。1~3層は中央が窪むレンズ状の堆積を示し、4・5層は壙底に接し斜めに堆積するが、覆土の混成状況からいずれも埋め戻しと考えられる。

性格：覆土の混成状況、平面、断面形状から、土壌と考えられるが、その性格は不明である。

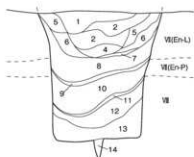
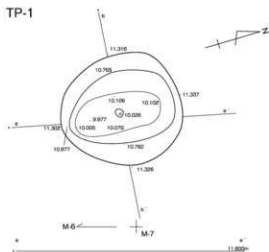
時期：不明。

(山田和史)

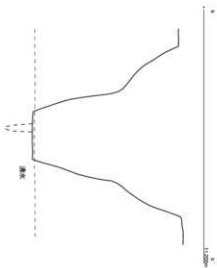
III 梅川2遺跡



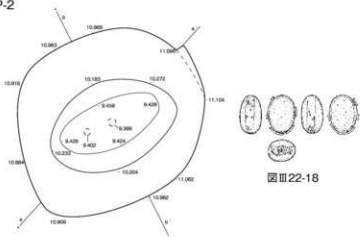
- TP-1
1. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 2. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 3. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 4. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 5. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 6. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 7. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 8. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 9. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 10. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 11. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 12. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 13. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 14. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂



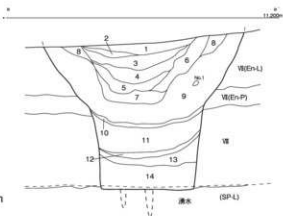
TP-2



- TP-2
1. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 2. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 3. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 4. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 5. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 6. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 7. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 8. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 9. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 10. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 11. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 12. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 13. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂
 14. 遺跡上(100m)の中心部、砂礫層、L 5.0m、V 厚層砂



図III-22-18



図III-8 TP

c Tピット

TP-1 (図Ⅲ-8、表Ⅲ-7、図版Ⅲ-4)

位置：L-5・6 長軸方向：N-2°-E 規模：1.23×1.12×1.50m 標高：9.8～11.4m

確認・調査：調査以前に包含層がⅦ層上面まで削平を受けていた。斜面の走行に沿ってトレンチを設け、自然土層と覆土が不整合であることを確認した。当初、8層を自然堆積土と認識していたため7層までを土壌の覆土と判断して調査していたが、Ⅶ層と比較して8層が軟らかかったことから、土壌としての調査を完了した後、8層以下の層を半載した。壙底、杭痕、壁の立ち上がりを確認し、TPと判断した。確認面はⅦ層である。長軸方向は等高線に直交する。平面は楕円形を呈し、壙底はほぼ水平でⅦ層中にある。立ち上がりは垂直で、壙口部で開く。杭痕は長軸と短軸の交点に1基が確認された。確認面から杭先端までの長さは約20cmである。覆土はV～Ⅶ層の崩落土と自然埋没による腐植土からなる。

時期：不明

(山田和史)

TP-2 (図Ⅲ-8、表Ⅲ-7、図版Ⅲ-4)

位置：M-5・6 長軸方向：N-4°-W 規模：2.05×1.82×1.85m 標高：9.1～11.1m

確認・調査・土層：V・VI層包含層調査中に長楕円形の黒色土の落込みを確認した。斜面の走行に沿ってトレンチを設け、自然堆積土と覆土が不整合であることを確認した。当初、9層を自然堆積土と認識していたため8層までを土壌の覆土と判断して調査していたが、Ⅶ層と比較して9層が軟らかかったことから、土壌としての調査を完了した後、9層以下の層を半載した。壙底、壁の立ち上がりを確認し、Tピットと判断した。確認面はⅥ層である。長軸方向は等高線に直交する。平面は不整楕円形で、壙底はほぼ水平でIX層上面にあたる。壙口部の壁際の崩落が著しく、立ち上がりは垂直で壙口部で開く。湧水のため杭痕は視認できなかったが、ピンボールで位置と深さを確認した。確認した杭は長軸方向に2基が並び、確認面から杭先端までの長さは約20cm～30cmである。覆土はV～Ⅶ層の崩落土と自然埋没による腐植土からなる。

出土遺物：覆土9層でたき石が1点出土している。

時期：不明

(山田和史)

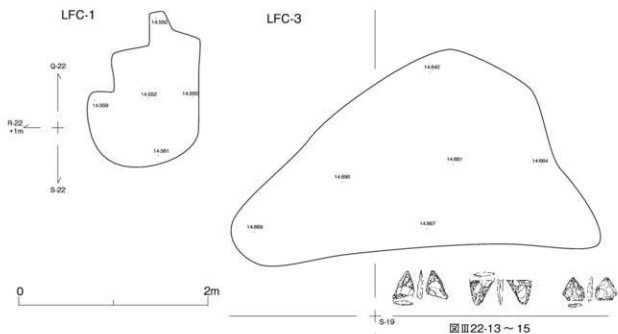
d フレイク・チップ集中 (図Ⅲ-9・10・22、表Ⅲ-8)

6カ所(LFC-1～6)が検出されている。広い範囲から大きな規模を有して見つかっており、状態から見て時間差はそれ程ないほぼ同時期のものと考えられる。石槍類の両面調整時に生じた剥片や失敗作などが特に多く、石器製作時に生じたものが廃棄されたと考えられる。

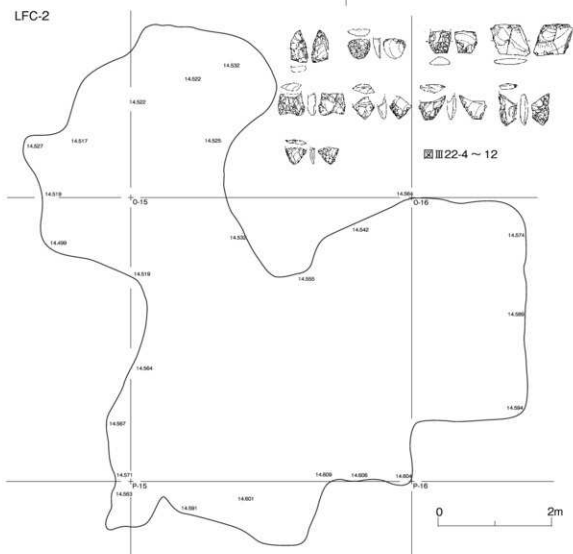
e 焼土 (図Ⅲ-11～17、表Ⅲ-9)

117カ所(LF-1～117)が検出されている。大半がV層とⅥ層の境目ぐらいにあり、風倒木など攪乱に関わって見つかるものが多い。人為的痕跡に乏しい。縄文前期前半と中期後半の遺物の近くから検出するものもあるが、いずれも強い関連性は窺われない。本来的には遺跡全面に存在していた可能性がある。

Ⅲ 梅川2遺跡



図Ⅲ-22-13 ~ 15



図Ⅲ-22-4 ~ 12

図Ⅲ-9 LFC (1)

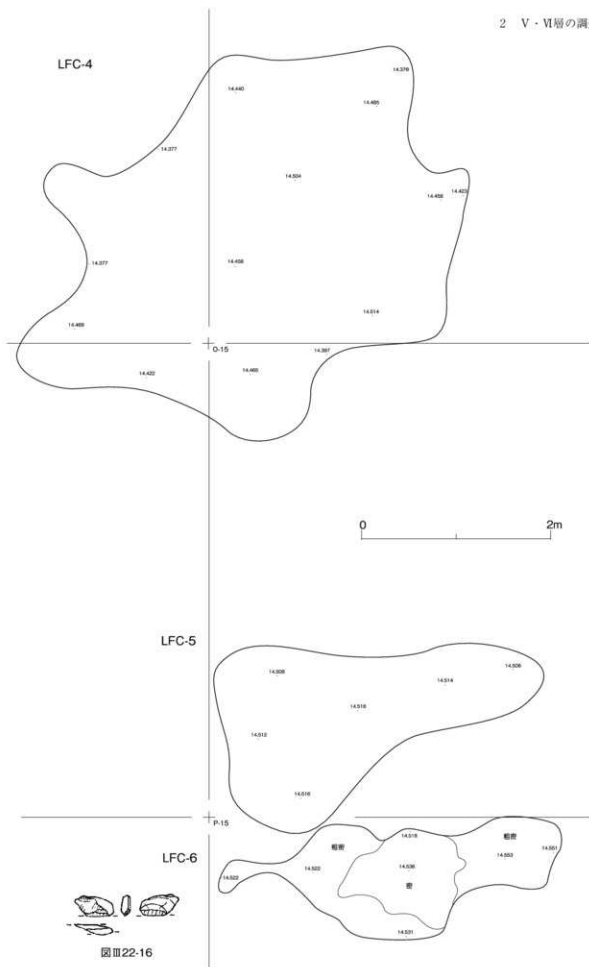
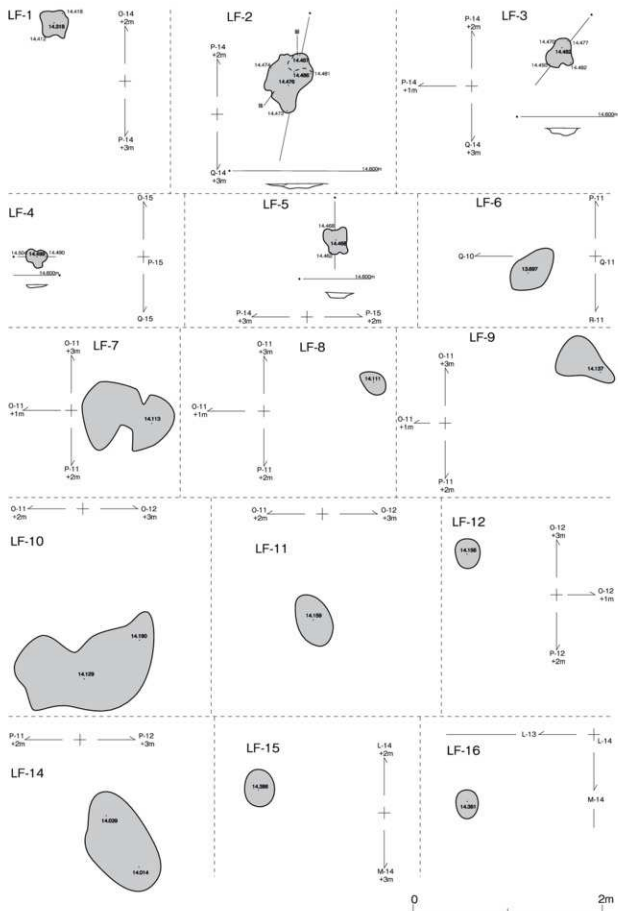
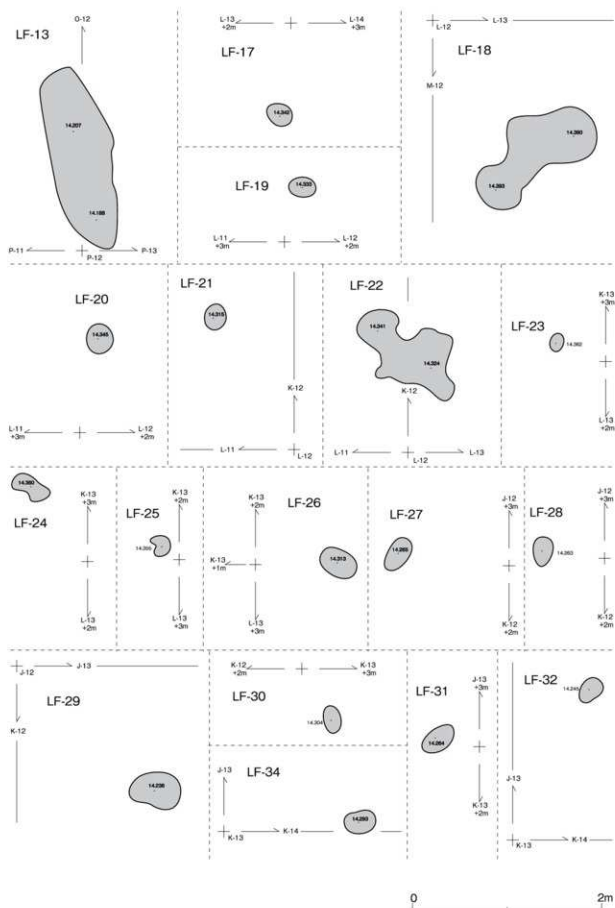


図 III-22-16

Ⅲ 梅川2遺跡

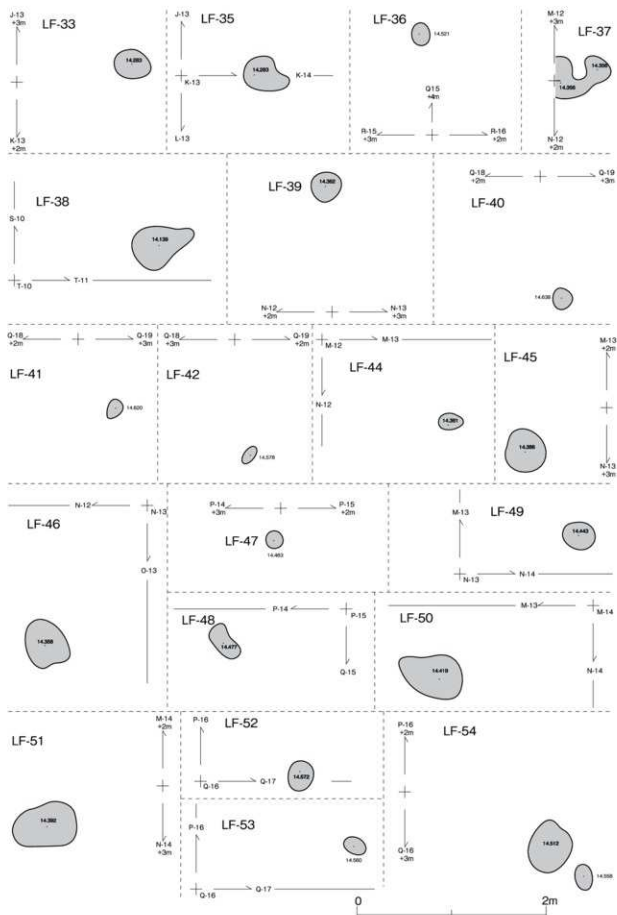


図Ⅲ-11 焼土(1)

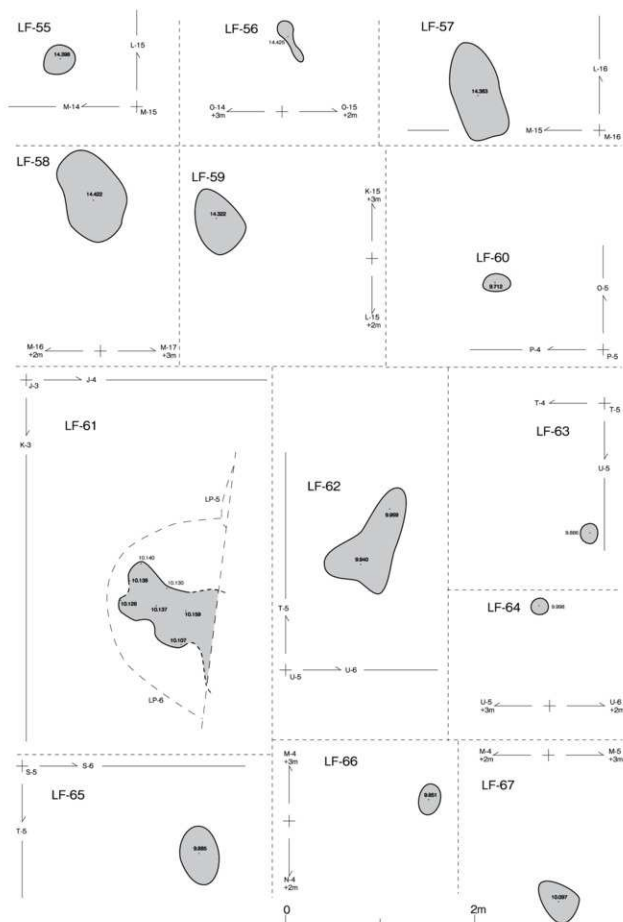


図Ⅲ-12 焼土 (2)

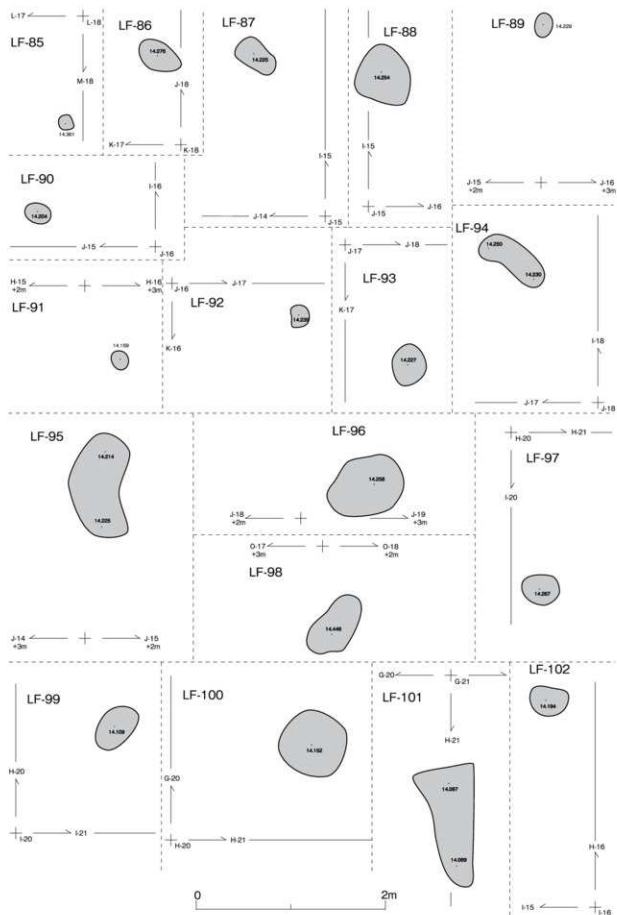
Ⅲ 梅川2遺跡



図Ⅲ-13 焼土 (3)

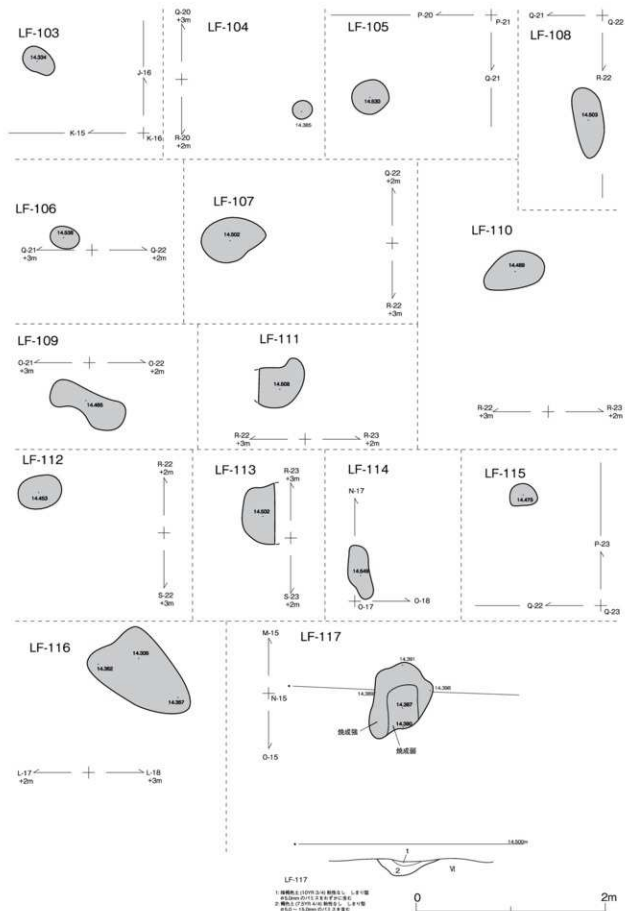


図Ⅲ-14 焼土(4)



図Ⅲ-16 焼土(6)

Ⅲ 梅川2遺跡



図Ⅲ-17 焼土(7)

3 遺物 (図Ⅲ-18~23、表Ⅲ-10~15、図版Ⅲ-8~12)

遺物は、土器2,172点、石器類9,122点が出土している。

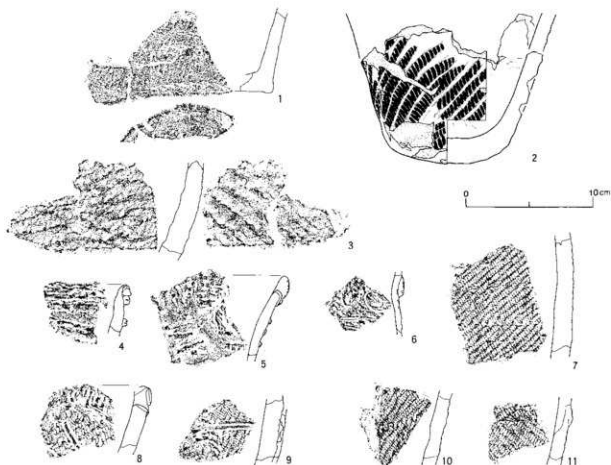
a 土器 (図Ⅲ-18~21、表Ⅲ-11、図版Ⅲ-8~10)

土器は2,172点が出土している。縄文早~晩期、統縄文、擦文土器などで比較的多かったのは縄文前・晩期のものである。

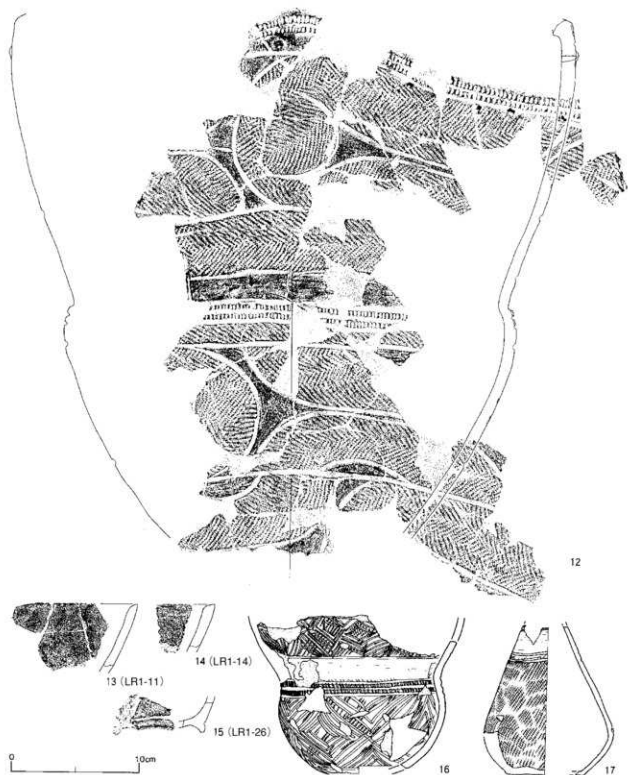
1は下端がやや張り出すI群b-2類土器の底部である。表面と底面に多条の斜行縄文が施されている。2、3はII群a類土器で、2は中野式の底部、3が表裏面に施文された網文式の胴部である。

4、5、8、9はIII群b類土器である。粘土紐を貼付する装飾が施されている。5は口縁部に山形突起を有する。8、9には半裁された竹管状の施文具による沈線文が加わる。6、7、10、11はIV群a類土器である。6は貼付と沈線文の施された口縁部に近い胴部で、貼付上には管状の道具で刻みが施されている。7、10、11は多条の原体を使った斜行縄文の施される胴部である。10には結束の原体が使われている。11は横位の貼付も施されている。

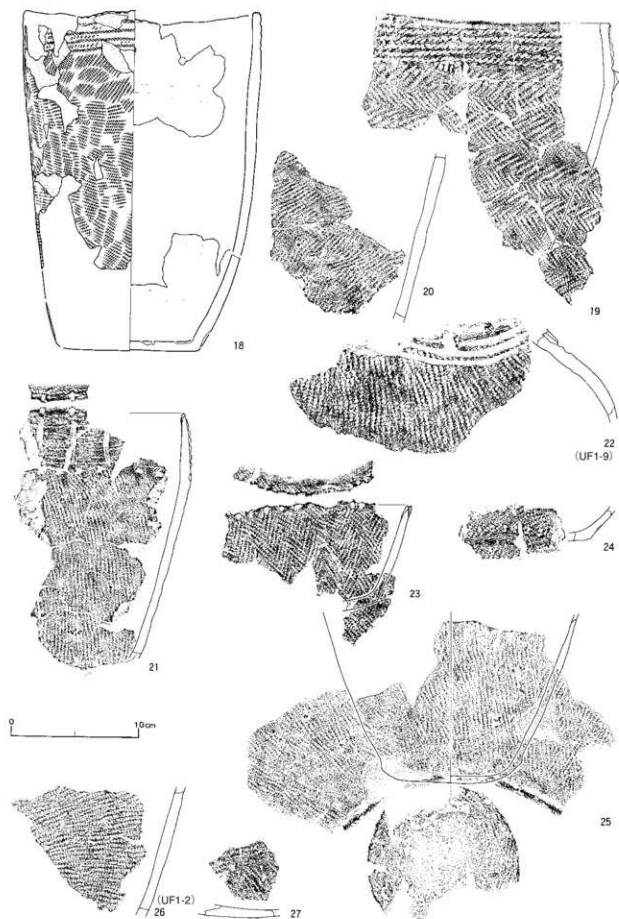
13は表面に研磨が施されたIV群b類土器の口縁部である。12、14~17はIV群c類で堂林式である。12は大形の深鉢形土器で、内側からの突瘤文を有する口縁部は波状を呈している。胴部には沈線で区画し羽状縄文で充填する文様がほぼ全面に施されている。14は研磨の施された口縁部で胎土中には無



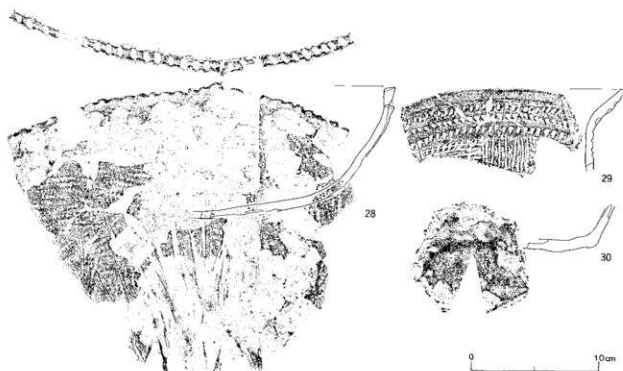
図Ⅲ-18 土器 (1)



図III-19 土器(2)



圖Ⅲ-20 土器(3)



図III-21 土器(4)

数の重鉾物が含まれている。15は小形の鉢の底部で上げ底になっている。16は沈線で菱形を構成する文様が描かれている小形の深鉢である。17は口縁が極端に窄まる小形の土器で、恐らく下部単孔土器であろう。

18~25、27、28は新手のV群c類土器である。18、19は口縁に縄線文が、21には燃糸文が施される深鉢である。18は口縁部に低い山形突起を有す深鉢で、口唇断面は角形である。地紋の斜行縄文は平坦な底面を含め全面に施されており、胴部中段から回転方向を変化させている。19も口唇断面が角形を呈する口縁から胴部の破片である。文様帯のすぐ下に瘤状の粘土が貼付れている。地紋は横位の羽状縄文である。20は細い原体を使った斜行縄文が施される胴部片である。21は断面が尖り気味の口唇部に棒状工具による刻みが施される口縁から胴部の破片である。燃糸文の上から縦の沈線文がほぼ等間隔で描かれており、さらに燃糸文のすぐしたには管状の工具で刻みが施される。燃糸文は内面にも認められる。22は大型壺の肩部の破片で、平行沈線文が描かれている。大洞A式相当と考えられる。23は縦位の羽状縄文の施される鉢で、断面が尖り気味の口唇部には指頭状の道具を押し捺した刻みが施され、内面にも地紋が施されている。24は角の明瞭な下端の上位に棒状の道具で浅い刺突列が施された鉢か深鉢の底部である。25も角の明瞭な底部で状が縦方向になる斜行縄文が全面に施されている。27は浅鉢の底部と考えられる。28も浅鉢で口縁部には山形突起を有し、口唇部には棒状の工具で密な刻みが施されている。

26の胴部片には、条が横走する斜行縄文が施される。VI群土器としたがそれよりも古い可能性もある。

29、30は擦文土器である。29は口縁部に刻文、胴部には沈線文が施された深鉢である。30は29と共に出土した造りの悪い底部である。同じ個体ではないようである。(菅川洋一)

b 石器 (図Ⅲ-22~25)

Ⅲ層遺構出土の石器 (図Ⅲ-22、表Ⅲ-12、図版Ⅲ-11)

UF-1 出土の石器 (1~3)

スクレイパー1点、すり石1点、礫2点(接合1個体)が出土。全点掲載。1は凝灰岩製の礫。被熱により焼きはじけた2点の礫片が接合し、1個体となった。2は黒曜石製のスクレイパー。背面に岩屑面を残す、側面形状が直線的なやや厚手の剥片を素材とし、腹面側からの急角度剥離により刃部が作出されている。平面形は円形を呈す。3は砂岩製のすり石。平面形状が不整楕円形、断面が三角形を呈す垂円礫の下縁に幅1cm以下、長さ16cm程の狭長なすり痕が器体を半周する。

Ⅲ層包含層出土の石器 (図Ⅲ-22、表Ⅲ-14、図版Ⅲ-11)

3点掲載。19は黒曜石製のスクレイパー。幅広くやや厚手の内湾する不定形剥片を素材とし、剥片末端部から両側縁にかけて、腹面側からの急角度剥離により縁辺に連続する刃部が施されている。平面形はU字形を呈す。素材打面側の折面にも剥離痕がみられることから、再加工されたものと考えられる。20は片岩製の石斧。全面に研磨調整がみられるが、器体調整時の剥離痕が残る両刃のもの。横断面は蒲鉾形を呈す。21は花崗岩製のたたき石。不整楕円礫を素材とし、敲打痕は礫の長軸両端と右側面側にみられる。面取りも行われていることから、すり石としても機能していたと考えられる。

V・Ⅳ層遺構出土の石器 (図Ⅲ-22、表Ⅲ-13、図版Ⅲ-11)

LFC-2 出土の石器 (4~12)

石槍5点、両面調整石器1点、スクレイパー1点、ピエスエスキュー2点(接合1個体)、Rフレイク3点、フレイク4,396点の計4,408点が出土した。

9点掲載。黒曜石製。4・6・8・10・12は石槍。4は下半を、6・8・10・12は上半を欠損する。石槍は平坦剥離により両面調整が施されるが、いずれも素材面が残り、形態も歪なことから、製作途次の失敗により廃棄されたと理解される。5はスクレイパー。側面に転礫面が残る剥片を素材とし、転礫面以外の器体の周縁に腹面側からの平坦剥離により刃部が施され、平面形はU字形を呈す。7はピエスエスキュー。剥離面で2点が接合し、1個体となった。岩屑面が残る剥片を素材とし、器体長軸と短軸の対向する縁辺に背面側からの細部調整が施され、平面形は平行四辺形、縦断面形は凸レンズ状を呈す。11は両面調整石器。上半を欠損する。剥片を素材とし、素材腹面側に平坦剥離が施された後、背面側の左側縁に急角度剥離が施されている。19はRフレイク。上半を欠損する。剥片を素材とし、素材背面側から細部調整が施されている。

LFC-3 出土の石器 (13~15)

石槍3点、フレイク333点の計336点が出土した。3点掲載。黒曜石製。13~15は石槍。13・15は下半を、14は上半を欠損する。剥片を素材とし、背腹両面に平坦剥離による調整が施されている。いずれも素材面が残り、形態もいびつなことから、製作途次の失敗により廃棄されたものと考えられる。

LFC-6 出土の石器 (16)

緑色泥岩製の石斧1点、黒曜石製のフレイク663点の計664点が出土した。1点掲載。16は石斧としたが、両刃に研磨が施された石斧の刃部調整剥片である。

LR-1 出土の石器 (17)

石鏃2点、フレイク17点の計19点が出土した。1点掲載。黒曜石製。17は石鏃。下半が折面である

ことから、茎部を欠損した有茎鏃と考えられる。剥片素材で、表面に素材背面、裏面に素材腹面が残る。幅広い身部の形状は縄文時代中期の土器に伴出する石鏃の形態に類似する。

TP-2 出土の石器 (18)

たつき石1点が出土。砂岩製。楕円礫の長軸の下端と側面に敲打痕がみられる。

V・VI層出土の石器 (図III-23~25、表III-15、図版III-12)

石鏃 (22~31)

10点掲載。28は頁岩製、22~27・29~31は黒曜石製。22・25は平基無茎、23・24は凹基無茎、26は菱形、27~31は有茎鏃。22~25が前期、26が中期、27・28が中期から後期、29・30が後期中葉、31が後期前葉から中葉の時期の土器に伴出する石鏃に形態が類似する。

石槍 (32~36)

5点掲載。32~34は黒曜石製、35・36は頁岩製。34は折面で2点が接合し1個体となったもの、36は下半を欠損する。32・35・36は有茎、32・35は身部と茎部の境が明瞭で、表面には素材となった剥片の腹面が残る。いずれも器体中程にいたる平坦剥離が両面に施された後、縁辺の細部調整により整形されている。

スクレイパー (37~40)

4点掲載。37~39は黒曜石製、40は頁岩製。39は上半を欠損、40は被熱による焼きはじけのため刃部の一部を欠損する。37は転礫面が残る不定形剥片の末端と右側縁に刃部が作出されている。38はやや内湾する縦長剥片を素材とし、素材末端に腹面側からの刃部調整と器体を周縁する縁辺調整が施され、平面は楕円形を呈す。39は幅広い剥片の素材末端に腹面側からの急角度剥離により平面形状が直線的な刃部が作出されている。40はわずかに末端が内湾する縦長で幅広い剥片に、腹面側からの刃部調整と器体中程に達する調整が施され、平面は楕円形を呈す。

つまみ付ナイフ (41~44)

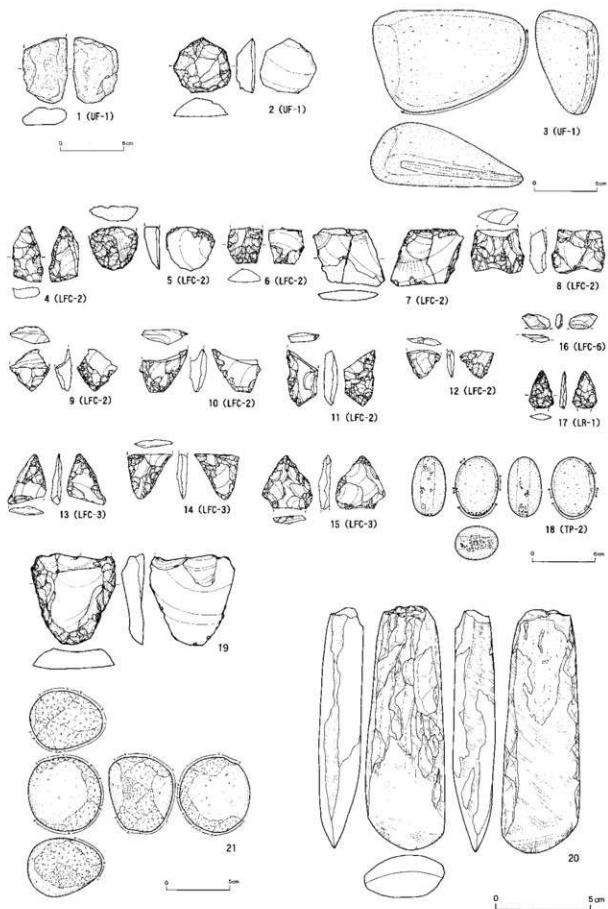
4点掲載。41はメノウ製、42・43は黒曜石製、44は頁岩製。41は幅広い縦長剥片素材、21は内湾した剥片を素材とし、いずれも薄手である。素材末端の背腹両面に微細な剥離により、「つまみ部」が作りだされている。43は両面調整が施された縦長剥片の素材末端側に微細な剥離により「つまみ部」が作りだされており、背面の左側縁側に連続した平坦剥離により刃部が施される。44は末端がわずかに内湾した縦長剥片の打面側の背腹両面が調整され、「つまみ部」が作りだされている。背面右側縁に腹面側から連続したやや急角度の剥離により器体が整形され、背面左側縁には微細剥離痕が観察される。素材末端は被熱による焼きはじけのため、一部欠損する。

石鏃 (45~50)

6点掲載。47は頁岩製、45・46、48・49は黒曜石製。45は素材背面側からの急角度剥離で器体が棒状に整形されている。鏃部は、素材末端側に位置し、横断面は台形を呈す。46は転礫面の残る不定形剥片の末端に両面調整により鏃部が作出されている。上半を欠損する。47は厚手の剥片の素材右側縁側に両面調整により鏃部が作出されている。腹面右側縁にも剥離痕が連続する。48は剥片に交互剥離調整が施され、棒状に整形されたもので、鏃部は素材末端側に位置する。49・50は薄手の剥片の打面側に微細な剥離痕からなる両面調整によって鏃部が作出されている。

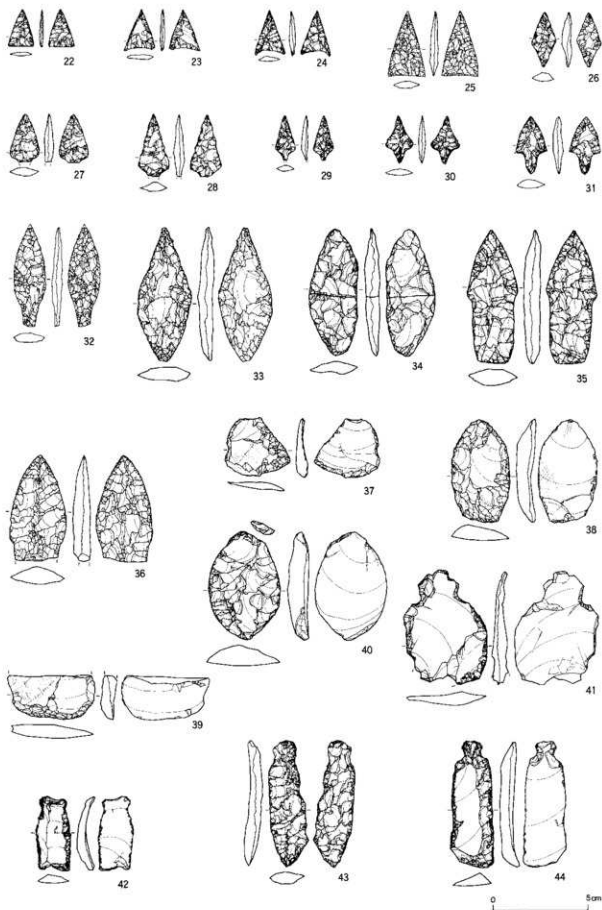
石斧 (51~54)・石斧原材 (55)

5点掲載。泥岩製。いずれも扁平な楕円礫を素材とする。55は上半を欠損、52・53は被熱している。51は全面が研磨され、両側面が面取りされた、平面が菱形の石斧で、刃部は交互剥離により調整され

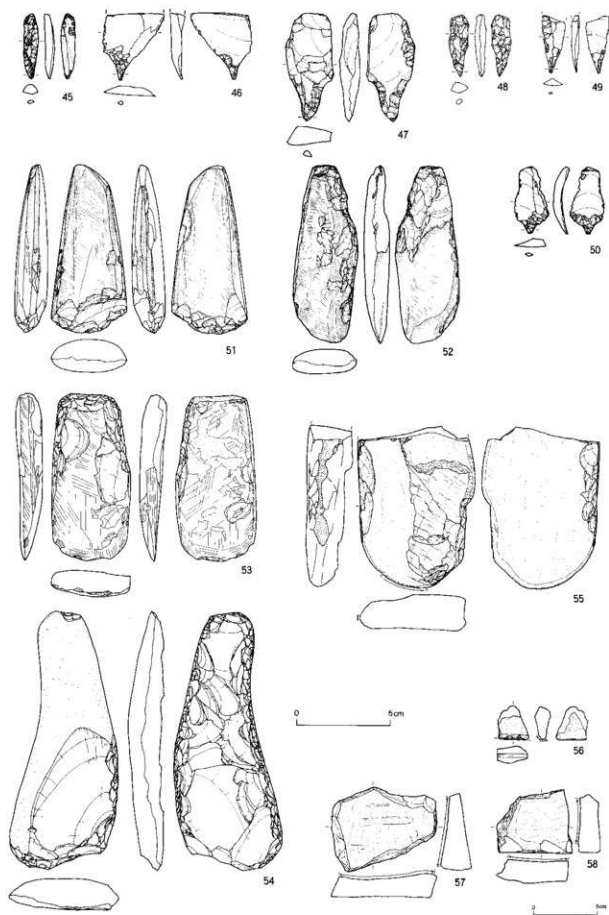


圖三-22 石器 (1)

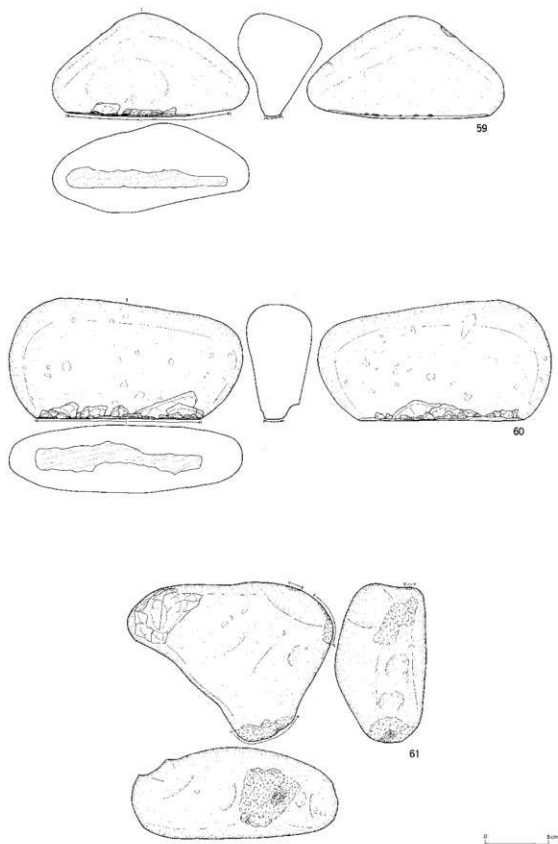
III 梅川2遺跡



圖III-23 石器(2)



图Ⅲ-24 石器(3)



圖III-25 石器(4)

る。52は全面が研磨された両刃石斧で、研磨痕を切る右側縁の剥離痕のために平面形が不整形を呈す。53は全面が研磨され、両側面が面取りされた長四辺形の両刃石斧で、両側縁から剥離調整が施されている。54は背面に転礫面が残る剥片を素材とし、腹面の全面と背面側の器体長軸の下端に部分的な平坦剥離が施された両刃石斧で、背腹両面の剥離痕の稜線上に研磨痕がみられる。平面形は末端が幅広いの弓状を呈す。55は平面がU字形の礫を素材とし、左側縁に両面調整が施された後、剥離稜線上が研磨調整により面取りされたもので、部分研磨にとどまることから石斧原材としたが、石斧製作途次の失敗品の可能性がある。

石鏃 (56)

1点掲載。砂岩製。器体の2/3以上を欠損する。剥離調整が施された礫の縁辺に狭長な磨痕が残されている。

石皿 (57)

1点掲載。砂岩製。器体の2/3以上を欠損する。扁平な極角礫の片面が磨痕によって皿状に窪んでいる。

礫石 (58)

1点掲載。砂岩製。器体の2/3以上を欠損する。扁平な板状の角礫の片面が研磨されたことによって皿状に浅く窪んでいる。

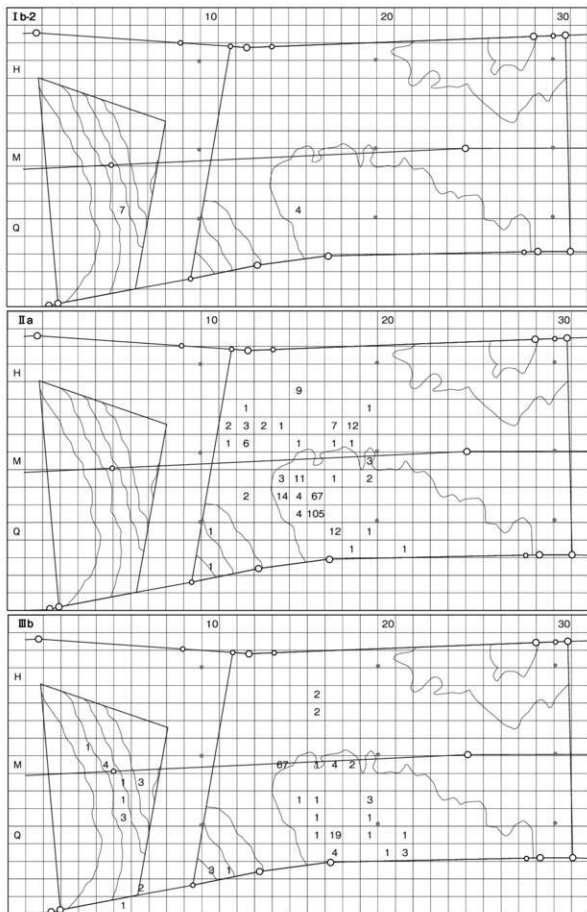
すり石 (59・60)

2点掲載。砂岩製。59は平面、断面ともに隅丸三角形の亜円礫の最長辺に直線的な磨面がみられる。60は平面、断面ともに隅丸長方形を呈す亜円礫の一縁辺に剥離調整が施されたのち、研磨によって線的な磨面が形成されている。

たたき石 (61)

1点掲載。砂岩製。隅丸三角形の大形亜円礫の突端部2か所に面的な敲打痕がみられる。

(山田和史)



図III-26 遺物分布図(1)

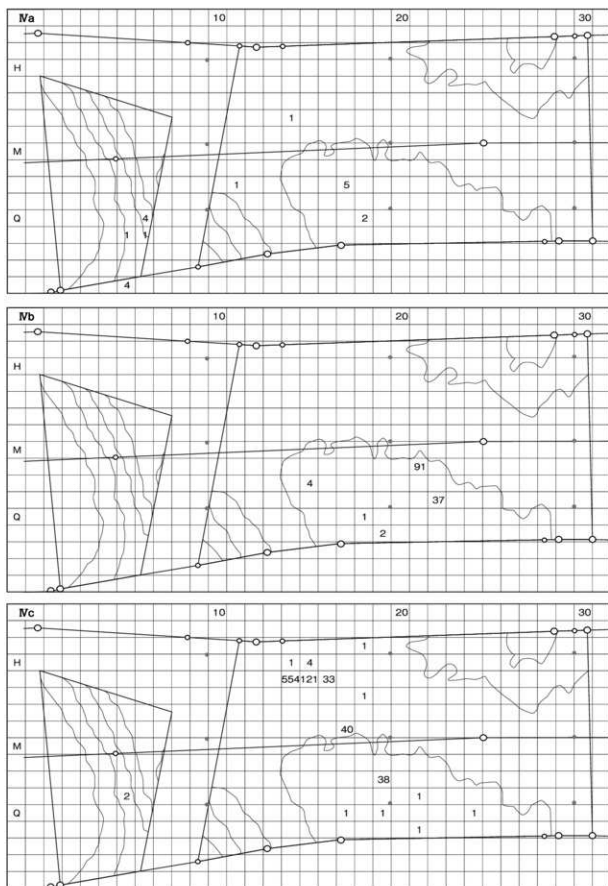
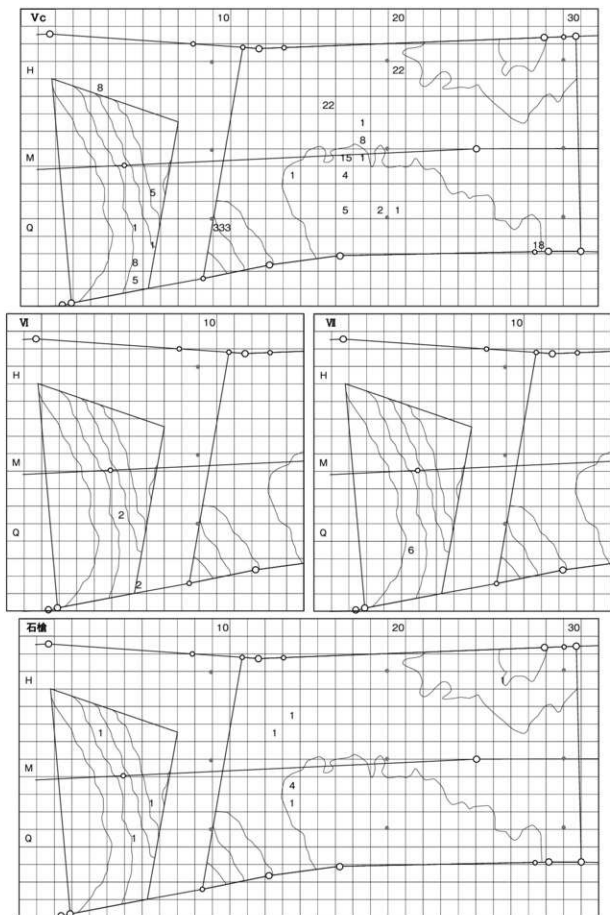
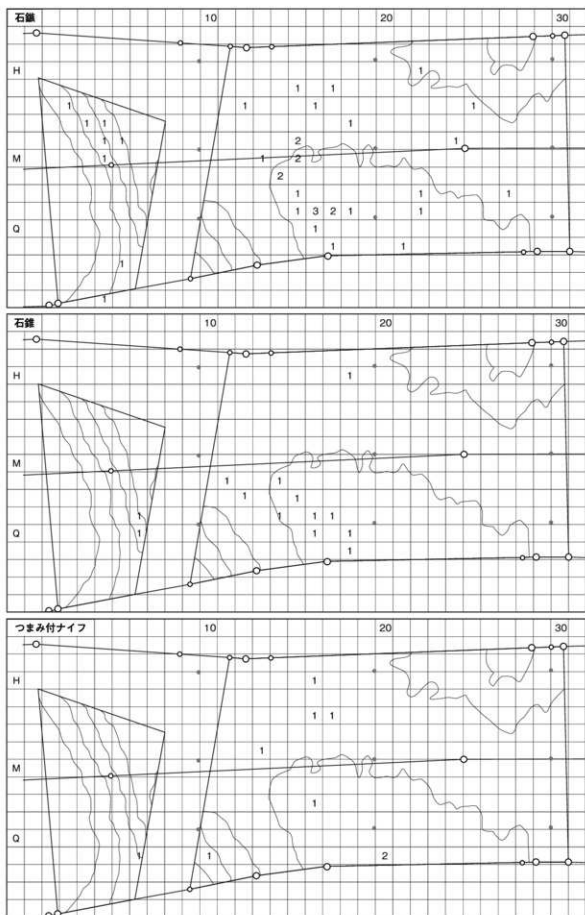


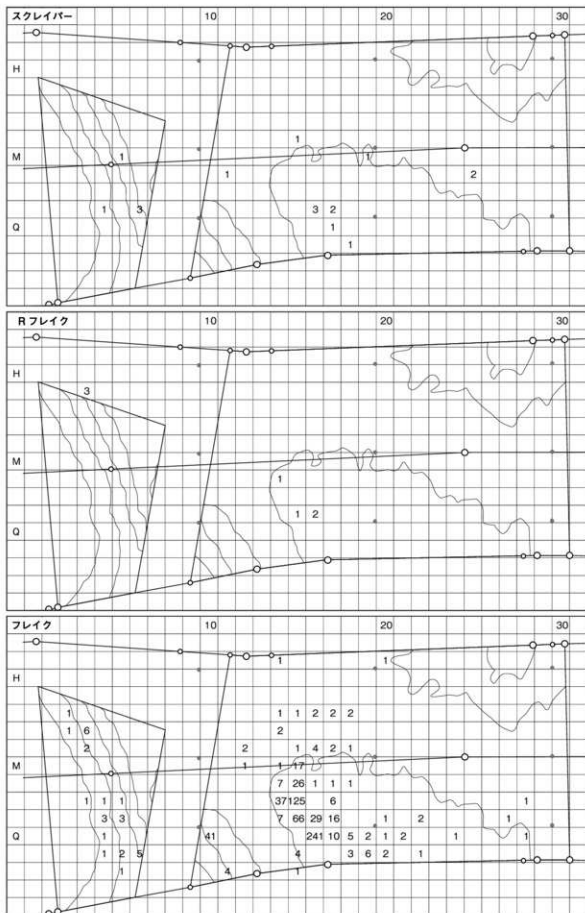
图 III-27 遺物分布图 (2)



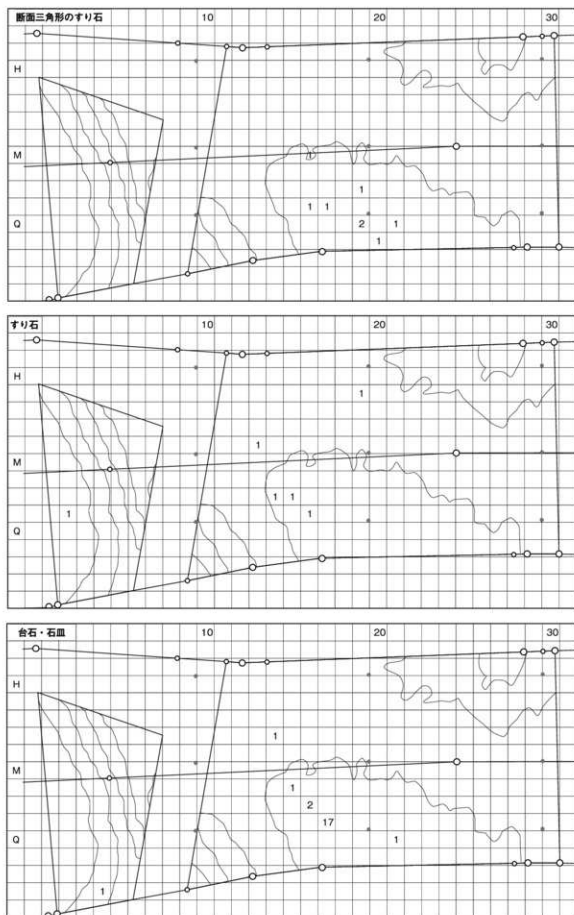
図III-28 遺物分布図(3)



図Ⅲ-29 遺物分布図(4)



図Ⅲ-30 遺物分布図(5)



図III-32 遺物分布図(7)

4. 資料一覧

表Ⅲ-1 Ⅲ層の建物跡一覧

図版番号			グリッド	長さ(m)	幅(m)	長軸方向
図Ⅲ-2	UH	1	P-16、Q-15・16	3.3	2.6	N-32°-W
図Ⅲ-3	UH	2	Q-17、R-16・17	6.2	4.0	N-65°-E

表Ⅲ-2 UHの柱穴一覧

UH1のHSP(図Ⅲ-2)

	No	径(cm)	深さ(cm)		No	径(cm)	深さ(cm)		No	径(cm)	深さ(cm)	
HSP	1	25	19		HSP	3	20	26	HSP	5	21	25
HSP	2	22	26		HSP	4	22	23	HSP	6	18	17

UH2のHSP(図Ⅲ-3)

	No	径(cm)	深さ(cm)		No	径(cm)	深さ(cm)		No	径(cm)	深さ(cm)	
HSP	1	15	23		HSP	4	17	32	HSP	7	19	27
HSP	2	19	28		HSP	5	20	32	HSP	8	20	30
HSP	3	20	28		HSP	6	24	37	HSP	9	14	25

表Ⅲ-3 Ⅲ層の建物跡の柱穴一覧

図版番号			グリッド	径(cm)	深さ(cm)
図Ⅲ-4	USP	1	O-15	19	12
図Ⅲ-4	USP	2	N-15	10	13
図Ⅲ-4	USP	3	N-15	13	10
図Ⅲ-4	USP	4	N-15	13	28
図Ⅲ-4	USP	5	N-14	15	15
図Ⅲ-4	USP	6	O-6	22	17
図Ⅲ-4	USP	16	O-16	18	12
図Ⅲ-4	USP	17	N-16	13	17
図Ⅲ-4	USP	18	N-16	13	8
図Ⅲ-4	USP	19	N-16	15	4
図Ⅲ-4	USP	20	P-19	14	36

表Ⅲ-4 Ⅲ層の集石一覧

図版番号			グリッド	層位	長径(cm)	短径(cm)	長軸方向
図Ⅲ-4	US	1	R-5	Ⅲ	60	22	N-18°-W

表Ⅲ-5 Ⅲ層の焼土一覧

図版番号			グリッド	層位	長径(cm)	短径(cm)	長軸方向
図Ⅲ-4	UF	1	R-5	Ⅲ	67	39	N-76°-E

表Ⅲ-6 V・VI層の土壌一覧

図版番号			グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方向
図Ⅲ-7	LP	1	R-S-12	0.35	0.30	0.07	N-43°-W
図Ⅲ-7	LP	2	S-12	0.65	0.58	0.07	N-69.5°-W
図Ⅲ-7	LP	5	J-3	0.66	0.00	0.09	N-67°-W
図Ⅲ-7	LP	6	J-3	2.12	1.16	0.33	N-70.5°-W
図Ⅲ-7	LP	7	P-19	1.20	0.96	0.58	N-65°-E

表Ⅲ-7 V・VI層のTピット一覧

図版番号			グリッド	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	長軸方向
図Ⅲ-8	TP	1	L-6・7	1.23	1.12	1.50	N-2°-E
図Ⅲ-8	TP	2	M-5・6	2.05	1.82	1.85	N-4°-W

表Ⅲ-8 V・Ⅵ層のフレイク・チップー覧

図版番号			グリッド	長径(m)	短径(m)	長軸方向
図Ⅲ-9	LFC	1	Q-22	1.68	1.22	N-59°-W
図Ⅲ-9	LFC	2	N-14.15, O-14.15.16, P-14.15	0.99	0.69	N-46°-E
図Ⅲ-9	LFC	3	R-18.19	3.54	2.22	N-5.5°-W
図Ⅲ-10	LFC	4	N-14.15, O-14・15	5.16	3.42	N-7°-W
図Ⅲ-10	LFC	5	O-15	3.43	2.02	N-2°-E
図Ⅲ-10	LFC	6	P-15	3.62	1.20	N-11°-E

表Ⅲ-9 V・Ⅵ層の焼土一覧

図版番号			グリッド	層位	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	長軸方向	備考
図Ⅲ-11	LF	1	O-13	V-VI	37	33		N-61.5°-E	
図Ⅲ-11	LF	2	P-14	V-VI	65	48		N-59°-W	
図Ⅲ-11	LF	3	P-14	V-VI	35	27		N-37.5°-W	
図Ⅲ-11	LF	4	O-14	V-VI	23	19		N-160°-E	
図Ⅲ-11	LF	5	O-14	V-VI	33	26		N-62°-E	
図Ⅲ-11	LF	6	Q-10	V-VI	59	38		N-25°-W	
図Ⅲ-11	LF	7	O-11	V-VI	98	76	6	N-160°-E	
図Ⅲ-11	LF	8	O-11	V-VI	30	22	7	N-50.5°-E	
図Ⅲ-11	LF	9	O-11	V-VI	62	46	9	N-52°-E	
図Ⅲ-11	LF	10	O-11	V-VI	160	106	9	N-24.5°-W	
図Ⅲ-11	LF	11	O-11	V-VI	60	36	7	N-83.5°-E	
図Ⅲ-11	LF	12	O-11	V-VI	32	28	3	N-74°-W	
図Ⅲ-12	LF	13	O-11.12	V-VI	194	70	11	N-87°-E	
図Ⅲ-12	LF	14	P-11	V-VI	110	66	9	N-78°-E	
図Ⅲ-12	LF	15	L-13	V-VI	40	32	6	N-74°-W	
図Ⅲ-12	LF	16	L-13	V-VI	32	26	4	N-74°-W	
図Ⅲ-12	LF	17	L-13	V-VI	28	22	6	N-37.5°-E	
図Ⅲ-12	LF	18	L-12	V-VI	146	60	4	N-23°-W	
図Ⅲ-12	LF	19	K-11	V-VI	30	22	5	N-12.5°-E	
図Ⅲ-12	LF	20	K-11	V-VI	33	30	4	N-72.5°-W	
図Ⅲ-12	LF	21	K-11	V-VI	28	24	6	N-68°-W	
図Ⅲ-12	LF	22	K-11.12	V-VI	126	78	5	N-66°-E	
図Ⅲ-12	LF	23	K-12	V-VI	20	16		N-70°-W	
図Ⅲ-12	LF	24	K-12	V-VI	43	22		N-30.5°-E	
図Ⅲ-12	LF	25	K-12	V-VI	24	23		N-40°-E	
図Ⅲ-12	LF	26	K-13	V-VI	40	26		N-47.5°-E	
図Ⅲ-12	LF	27	J-11	V-VI	40	24		N-46.5°-W	
図Ⅲ-12	LF	28	J-11	V-VI	32	20		N-69°-W	
図Ⅲ-12	LF	29	J-12	V-VI	56	40		N-18°-E	
図Ⅲ-12	LF	30	K-12	V-VI	30	18		N-85.5°-W	
図Ⅲ-12	LF	31	J-12	V-VI	40	23		N-24.5°-W	
図Ⅲ-12	LF	32	J-13	V-VI	30	22		N-34°-W	
図Ⅲ-13	LF	33	J-13	V-VI	40	30		N-32°-E	
図Ⅲ-12	LF	34	J-13	V-VI	32	23		N-40°-W	
図Ⅲ-13	LF	35	K-13	V-VI	50	36		N-30°-E	
図Ⅲ-13	LF	36	Q-15	V-VI	25	18	7	N-74°-W	
図Ⅲ-13	LF	37	M-12	V-VI	64	48	6	N-18°-W	
図Ⅲ-13	LF	38	S-10	V-VI	68	46	7	N-7°-W	
図Ⅲ-13	LF	39	M-12	V-VI	32	28	8	N-16.5°-W	
図Ⅲ-13	LF	40	Q-18	V-VI	24	22	5	N-74°-W	
図Ⅲ-13	LF	41	Q-18	V-VI	22	16	5	N-39°-W	
図Ⅲ-13	LF	42	Q-18	V-VI	20	12	5	N-36.5°-W	
図Ⅲ-13	LF	44	M-12	V-VI	26	18	8	N-16°-E	
図Ⅲ-13	LF	45	M-12	V-VI	48	46	10	N-65.5°-E	
図Ⅲ-13	LF	46	N-12	V-VI	56	45	9	N-64°-E	
図Ⅲ-13	LF	47	P-14	V-VI	20	17	6	N-67°-E	
図Ⅲ-13	LF	48	P-14	V-VI	40	24	7	N-67.5°-E	
図Ⅲ-13	LF	49	M-13	V-VI	34	28	10	N-35.5°-E	
図Ⅲ-13	LF	50	M-13	V-VI	74	48	9	N-38.5°-E	
図Ⅲ-13	LF	51	M-13	V-VI	70	47	8	N-6.5°-E	
図Ⅲ-13	LF	52	P-16	V-VI	56	46	4	N-46°-W	
図Ⅲ-13	LF	53	P-16	V-VI	24	18	4	N-36.5°-E	
図Ⅲ-13	LF	54	P-16	V-VI	80	50	4	N-56.5°-E	
図Ⅲ-14	LF	55	L-14	V-VI	38	36	8	N-13°-W	

図版番号		グリッド	層位	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	長軸方向	備考
図Ⅲ-14	LF	56	N-14	V-VI	48	18	6	N-72°-E
図Ⅲ-14	LF	57	L-15	V-VI	105	50	10	N-89.5°-E
図Ⅲ-14	LF	58	L-16	V-VI	96	68	6	N-73°-E
図Ⅲ-14	LF	59	K-14	V-VI	70	50	7	N-81.5°-E
図Ⅲ-14	LF	60	O-4	V	30	20	8	N-10°-E
図Ⅲ-14	LF	61	J-3		120	80		N-61.5°-E
図Ⅲ-14	LF	62	T-5	V	118	65	14	N-34°-W
図Ⅲ-14	LF	63	T-4	V	24	18	3	N-74°-W
図Ⅲ-14	LF	64	T-5	V	18	17	5	N-10°-W
図Ⅲ-14	LF	65	S-5	V	62	42	10	N-84.5°-W
図Ⅲ-14	LF	66	M-4	V	32	22	6	N-59.5°-W
図Ⅲ-14	LF	67	M-4	V	50	38	8	N-71.5°-E
図Ⅲ-15	LF	68	M-4	V	19	16	5	N-74°-W
図Ⅲ-15	LF	69	O-7	V	36	20	4	N-34°-W
図Ⅲ-15	LF	70	N-7	V	28	22	7	N-72.5°-E
図Ⅲ-15	LF	71	M-6	V	30	20	8	N-43°-E
図Ⅲ-15	LF	72	L-5	V	36	28	4	N-37.5°-W
図Ⅲ-15	LF	73	M-4	V	50	40	12	N-17°-W
図Ⅲ-15	LF	74	T-4	V	32	18	5.1	N-74°-W
図Ⅲ-15	LF	75	L-5	V	24	20	4	N-13°-W
図Ⅲ-15	LF	76	L-5	V	50	38	8	N-83°-W
図Ⅲ-15	LF	77	I-3	V	62	16	17.5	N-40°-E
図Ⅲ-15	LF	78	Q-16	V-VI	50	34	5	N-38.5°-W
図Ⅲ-15	LF	79	Q-16	V-VI	30	20	3	N-0.5°-E
図Ⅲ-15	LF	80	Q-16	V-VI	24	12	2	N-76°-E
図Ⅲ-15	LF	81	Q-16	V-VI	26	18	2	N-65°-E
図Ⅲ-15	LF	82	Q-16	V-VI	408	210	5	N-33.5°-E
図Ⅲ-15	LF	83	P-19	V-VI	54	46	3	N-40.5°-E
図Ⅲ-15	LF	84	O-20	V-VI	64	58	4	N-84°-E
図Ⅲ-16	LF	85	L-17	V-VI	16	16	2	N-59°-E
図Ⅲ-16	LF	86	J-17	V-VI	50	32	4	N-41.5°-E
図Ⅲ-16	LF	87	I-14	V-VI	48	30	4	N-46°-E
図Ⅲ-16	LF	88	I-15	V-VI	68	60	4	N-77.5°-E
図Ⅲ-16	LF	89	I-15	V-VI	28	18	3	N-68.5°-W
図Ⅲ-16	LF	90	I-15	V-VI	30	20	2	N-23.5°-E
図Ⅲ-16	LF	91	H-15	V-VI	20	18	3	N-81.5°-E
図Ⅲ-16	LF	92	J-16	V-VI	24	22	3	N-52°-W
図Ⅲ-16	LF	93	J-17	V-VI	46	38	4	N-61°-W
図Ⅲ-16	LF	94	I-17	V-VI	55	30	5	N-54°-E
図Ⅲ-16	LF	95	I-14	V-VI	108	46	3	N-66.5°-E
図Ⅲ-16	LF	96	I-18	V-VI	84	62	7	N-6°-E
図Ⅲ-16	LF	97	H-20	V-VI	40	32	6	N-31.5°-E
図Ⅲ-16	LF	98	O-17	V-VI	74	42	4	N-34.5°-W
図Ⅲ-16	LF	99	H-20	V-VI	54	36	3	N-19°-W
図Ⅲ-16	LF	100	G-20	V-VI	72	70	3	N-6.5°-E
図Ⅲ-16	LF	101	G-20.21	V-VI	128	65		N-86.5°-W
図Ⅲ-16	LF	102	H-15	V-VI	40	34	2	N-18°-E
図Ⅲ-17	LF	103	J-15	V-VI	36	24	3	N-53.5°-E
図Ⅲ-17	LF	104	Q-20	V-VI	20	18	3	N-18.5°-W
図Ⅲ-17	LF	105	P-20	V-VI	40	36	4	N-19.5°-E
図Ⅲ-17	LF	106	P-21	V-VI	32	26	3	N-26.5°-E
図Ⅲ-17	LF	107	Q-21	V-VI	68	46	4	N-7°-E
図Ⅲ-17	LF	108	Q-21	V-VI	76	30	3	N-83°-W
図Ⅲ-17	LF	109	O-21	V-VI	82	32	5	N-45.5°-E
図Ⅲ-17	LF	110	Q-22	V-VI	62	42	4	N-115°-W
図Ⅲ-17	LF	111	Q-22	V-VI	64	48	4	N-30.5°-W
図Ⅲ-17	LF	112	R-21	V-VI	48	36	3	N-24°-W
図Ⅲ-17	LF	113	R-22	V-VI	64	36	-	N-74°-W
図Ⅲ-17	LF	114	N-17	V-VI	60	22	5	N-87°-E
図Ⅲ-17	LF	115	P-22	V-VI	30	24	3	N-85°-E
図Ⅲ-17	LF	116	K-17	V-VI	108	70	5	N-42°-E
図Ⅲ-17	LF	117	M.N-15	VI	54	38	-	N-53.5°-W

Ⅲ 梅川2遺跡

表Ⅲ-10 写真掲載遺物一覧

検出番号	掲載番号	遺構名	遺物番号	番号	層位	器種	石材	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考
図Ⅲ-5	2	US-1	1	1	Ⅲ	礎	砂岩	7.99	4.27	1.97	73	
図Ⅲ-5	1	US-1	1	2	Ⅲ	礎	砂岩	5.79	3.62	2.4	65	
図Ⅲ-5	3	US-1	1	3	Ⅲ	礎	泥岩	8.47	2.65	2.79	65	
図Ⅲ-5	4	US-1	1	4	Ⅲ	礎	泥岩	5.38	3.12	1.21	25	
図Ⅲ-5	5	US-1	1	5	Ⅲ	礎	泥岩	6.42	3.85	1.05	27	
図Ⅲ-5	6	US-1	1	6	Ⅲ	礎	泥岩	5.21	3.79	1.9	40	
図Ⅲ-5	7	US-1	1	7	Ⅲ	礎	泥岩	5.45	2.56	2.84	34	

表Ⅲ-11 掲載土器一覧

図版	層位	分類	接合	点数	未接合	点数	総計
図Ⅲ-18	1 V	Ib-2	P5-3	2	P5-3	5	7
図Ⅲ-18	2 VI	Ⅱa	P16-32, 未注記	23	N15-4, O16-1, P15-4, P16-23, P16-32P16-33P16-34P16-35	19	42
図Ⅲ-18	3 V	Ⅱa	M19-1	2	LR 1-9, J12-2, J19-1, K12-1, K13-4, K17-2, K18-1, L12-1, L15-1, L17-1, L18-1, N14-7, N17-1, O16-1, P16-9	33	35
図Ⅲ-18	4 V	Ⅲb	R21-2	1			1
図Ⅲ-18	5 V	Ⅲb	I16-1	2			2
図Ⅲ-18	6 V	Ⅲa	O11-1	1			1
図Ⅲ-18	7 V	Ⅲa	Q18-2	1			1
図Ⅲ-18	8 VI	Ⅲb	Q17-3	1	Q17-3	2	3
図Ⅲ-18	9 V	Ⅲb	S10-3	1			1
図Ⅲ-18	10 V	Ⅲa	Q18-1	1			1
図Ⅲ-18	11 V	Ⅲa	R6-5	1			1
図Ⅲ-19	12 V	Ⅲc	H15-1, H4-1, H4-2, H5-2,	53	H4-1, H4-2, H4-3, H5-2	561	634
図Ⅲ-19	13 LR-1 覆土1層	Ⅲb	LR 1-11	4	LR 1-11, LR 1-10, LR 1-1	27	31
図Ⅲ-19	14 LR-1 覆土1層	Ⅲc	LR 1-14	1			1
図Ⅲ-19	15 LR-1 覆土上面	Ⅲc	LR 1-26	1	R 1-26	1	2
図Ⅲ-19	16 LR-1 V	Ⅲc	LR 1-2, LR 1-13, LR 1-14, H16-2, 未注記	34	LR 1-2, H6-2, 未注記	3	37
図Ⅲ-19	17 V	Ⅲc	O19-2	36	O19-2	1	37
図Ⅲ-20	18 V	Vc	Q10-2, 未注記	102	Q10-2, 未注記	231	333
図Ⅲ-20	19 V	Vc	R28-1	14	R28-1	3	17
図Ⅲ-20	20 V	Vc	J16-1	4	J16-1	18	22
図Ⅲ-20	21 Ⅲ	Vc	S-5	10	土器集中1-1	185	195
図Ⅲ-20	22 V	Vc	P17-10	1	P17-10	4	5
図Ⅲ-20	23 V	Vc	H20-1	13	H20-1	8	21
図Ⅲ-20	24 UF-1	Vc	UF 1-9	2			2
図Ⅲ-20	25 UF-1 V	Vc	L18-2, M17-2, M17-3, M18-2, N17-2, P19-1, 未注記	24	M17-2, 未注記	7	31
図Ⅲ-20	26 Ⅲ	VI	UF 1-2, T6-1	4			4
図Ⅲ-20	27 Ⅲ	VI	P5-1	1	P5-1	1	2
図Ⅲ-21	28 Ⅲ	Vc	S-5	46	土器集中1-1	46	92
図Ⅲ-21	29 Ⅲ	Ⅳ	P5-1	4			4
図Ⅲ-21	30 Ⅲ	Ⅳ	P5-1	1	P5-1	1	2

表Ⅲ-12 Ⅲ層遺構出土石器掲載一覧

挿入番号	掲載番号	写真図版	遺構名	層位	遺物番号	分類	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
図Ⅲ-22	1	図版Ⅲ-11	UF-1	Ⅲ	7	鏃	凝灰岩	4.90	3.50	1.40	25.28	被熱
図Ⅲ-22	2	図版Ⅲ-11	UF-1	Ⅲ	5	スクレイパー	黒曜石	(3.30)	2.90	1.00	(8.21)	
図Ⅲ-22	3	図版Ⅲ-11	UF-1	Ⅲ	3	すり石	砂岩	8.10	12.05	4.95	435.00	

表Ⅲ-13V 層遺構出土石器掲載一覧

挿入番号	掲載番号	写真図版	遺構名	層位	遺物番号	分類	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
図Ⅲ-22	4	図版Ⅲ-11	LFC-2	V	1	石槍	黒曜石	(4.95)	(1.50)	0.55	(2.48)	
図Ⅲ-22	5	図版Ⅲ-11	LFC-2	V	2	スクレイパー	黒曜石	2.30	2.55	0.80	4.38	
図Ⅲ-22	6	図版Ⅲ-11	LFC-2	V	3	石槍	黒曜石	(1.90)	1.80	0.70	(2.12)	
図Ⅲ-22	7	図版Ⅲ-11	LFC-2	V	4・7	ピュエスエスキュー	黒曜石	2.90	3.20	0.55	7.02	
図Ⅲ-22	8	図版Ⅲ-11	LFC-2	V	5	石槍	黒曜石	(2.30)	2.80	0.90	(6.32)	
図Ⅲ-22	9	図版Ⅲ-11	LFC-2	V	8	R フレイク	黒曜石	(2.20)	2.10	0.90	(2.06)	
図Ⅲ-22	10	図版Ⅲ-11	LFC-2	V	9	石槍	黒曜石	(1.65)	2.20	1.35	(2.82)	
図Ⅲ-22	11	図版Ⅲ-11	LFC-2	V	10	石槍	黒曜石	(2.90)	1.50	0.70	(3.06)	
図Ⅲ-22	12	図版Ⅲ-11	LFC-2	V	12	石槍	黒曜石	(1.45)	1.70	0.35	(0.76)	
図Ⅲ-22	13	図版Ⅲ-11	LFC-3	V	1	石槍	黒曜石	(2.30)	1.75	0.50	(1.84)	
図Ⅲ-22	14	図版Ⅲ-11	LFC-3	V	2	石槍	黒曜石	(2.30)	2.25	0.50	(2.26)	
図Ⅲ-22	15	図版Ⅲ-11	LFC-3	V	3	石槍	黒曜石	(2.75)	2.60	0.60	(3.76)	
図Ⅲ-22	16	図版Ⅲ-11	LFC-6	V	2	磨製石斧	緑色泥岩	0.80	1.30	0.40	0.41	
図Ⅲ-22	17	図版Ⅲ-11	LR-1	覆土1	15	石鏃	黒曜石	2.00	1.30	0.30	0.59	
図Ⅲ-22	18	図版Ⅲ-11	TP-2	覆土9	1	たたき石	砂岩	4.60	3.40	2.65	53.34	

表Ⅲ-14 Ⅲ層包含層出土石器掲載一覧

挿入番号	掲載番号	写真図版	発掘区	層位	遺物番号	分類	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
図Ⅲ-22	19	図版Ⅲ-11	N-26	Ⅲ	1	スクレイパー	黒曜石	4.75	4.40	1.20	23.40	
図Ⅲ-22	20	図版Ⅲ-11	P-6	Ⅲ	3	磨製石斧	片岩	206.80	13.00	2.10	207.00	
図Ⅲ-22	21	図版Ⅲ-11	M-2	Ⅲ	1	たたき石	花崗岩	5.90	5.70	4.60	236.00	

表Ⅲ-15 V・VI層包含層出土石器掲載一覧

検出番号	掲載番号	写真図版	発掘区	層位	遺物番号	分類	石材	長 (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重量 (g)	備考
図Ⅲ-23	22	図版Ⅲ-11	J-12	V	1	石鏃	黒曜石	1.93	1.31	0.19	0.40	
図Ⅲ-23	23	図版Ⅲ-11	P-16	M	36	石鏃	黒曜石	2.17	1.60	0.23	0.56	
図Ⅲ-23	24	図版Ⅲ-11	L-4	V	1	石鏃	黒曜石	2.35	1.60	0.31	0.67	
図Ⅲ-23	25	図版Ⅲ-11	N-14	M	13	石鏃	黒曜石	3.40	1.90	0.40	1.82	
図Ⅲ-23	26	図版Ⅲ-11	P-15	V	5	石鏃	黒曜石	2.87	1.30	0.45	1.20	
図Ⅲ-23	27	図版Ⅲ-11	O-27	V	1	石鏃	黒曜石	2.54	1.52	0.48	1.56	
図Ⅲ-23	28	図版Ⅲ-11	H-22	V	1	石鏃	頁岩	3.20	1.50	0.50	1.26	
図Ⅲ-23	29	図版Ⅲ-11	J-25	V	1	石鏃	黒曜石	2.34	1.05	0.38	0.62	
図Ⅲ-23	30	図版Ⅲ-11	M-13	V	1	石鏃	黒曜石	2.50	1.40	0.71	0.71	
図Ⅲ-23	31	図版Ⅲ-11	J-16	V	4	石鏃	頁岩	3.00	1.60	0.40	1.57	
図Ⅲ-23	32	図版Ⅲ-11	L-24	V	1	石鏃	黒曜石	5.20	1.65	0.55	3.51	
図Ⅲ-23	33	図版Ⅲ-11	K-3	V	1	石槍	黒曜石	7.00	2.80	0.80	12.98	
図Ⅲ-23	34	図版Ⅲ-11	N-14	M	9-10	石槍	黒曜石	6.60	2.50	0.80	11.94	
図Ⅲ-23	35	図版Ⅲ-11	O-6	V	2	石槍	頁岩	7.00	2.60	0.90	16.97	
図Ⅲ-23	36	図版Ⅲ-11	J-14	M	1	石槍	頁岩	(5.50)	3.00	0.90	(14.84)	
図Ⅲ-23	37	図版Ⅲ-12	M-5	V	1	スクレイパー	黒曜石	(3.10)	3.40	0.65	(4.37)	
図Ⅲ-23	38	図版Ⅲ-12	P-4	V	1	スクレイパー	黒曜石	5.40	3.10	0.95	14.30	
図Ⅲ-23	39	図版Ⅲ-12	Q-17	M	5	スクレイパー	黒曜石	2.31	5.55	0.75	9.38	
図Ⅲ-23	40	図版Ⅲ-12	P-6	V	2	スクレイパー	頁岩	5.73	3.76	1.13	22.39	
図Ⅲ-23	41	図版Ⅲ-12	J-16	V	5	つまみ付ナイフ	頁岩	6.00	4.20	0.80	16.21	
図Ⅲ-23	42	図版Ⅲ-12	O-16	M	3	つまみ付ナイフ	黒曜石	3.70	1.80	0.50	3.61	
図Ⅲ-23	43	図版Ⅲ-12	H-16	V	1	つまみ付ナイフ	頁岩	6.60	1.70	0.70	8.51	
図Ⅲ-23	44	図版Ⅲ-12	R-6	V	6	つまみ付ナイフ	頁岩	6.50	2.20	0.60	11.55	
図Ⅲ-24	45	図版Ⅲ-12	Q-6	V	1	石鏃	黒曜石	3.40	0.70	0.50	1.43	
図Ⅲ-24	46	図版Ⅲ-12	Q-18	V	4	石鏃	黒曜石	(3.50)	3.10	1.75	(5.24)	
図Ⅲ-24	47	図版Ⅲ-12	P-6	V	1	石鏃	頁岩	5.60	2.40	1.00	13.86	
図Ⅲ-24	48	図版Ⅲ-12	P-16	M	38	石鏃	黒曜石	3.00	1.20	0.40	1.85	
図Ⅲ-24	49	図版Ⅲ-12	P-16	M	12	石鏃	黒曜石	(3.20)	1.00	0.50	(0.99)	
図Ⅲ-24	50	図版Ⅲ-12	P-14	M	4	石鏃	黒曜石	3.50	1.80	0.40	2.50	
図Ⅲ-24	51	図版Ⅲ-12	P-14	V	2	磨製石斧	泥岩	8.80	3.90	1.60	81.18	
図Ⅲ-24	52	図版Ⅲ-12	R-5	V	5	磨製石斧	泥岩	9.30	3.20	1.20	55.54	
図Ⅲ-24	53	図版Ⅲ-12	O-6	V	3	磨製石斧	泥岩	8.64	4.12	1.34	72.28	
図Ⅲ-24	54	図版Ⅲ-12	P-16	M	25	磨製石斧	泥岩	13.55	5.79	1.79	151.00	
図Ⅲ-24	55	図版Ⅲ-12	K-15	V	2	石斧原石	泥岩	(8.40)	6.00	2.30	194.00	
図Ⅲ-24	56	図版Ⅲ-12	R-19	V	8	石鏃	砂岩	(2.45)	(2.65)	1.20	(6.49)	
図Ⅲ-24	57	図版Ⅲ-12	N-15	V	3	石鏃	砂岩	(8.30)	(5.70)	2.70	(125.00)	
図Ⅲ-24	58	図版Ⅲ-12	N-19	V	2	石鏃	砂岩	(5.70)	(5.00)	1.80	(76.75)	
図Ⅲ-25	59	図版Ⅲ-12	P-16	M	26	断面三角形のすり石	砂岩	15.45	8.10	7.10	913.00	
図Ⅲ-25	60	図版Ⅲ-12	M-16	V	4	断面三角形のすり石	砂岩	18.35	9.50	5.30	1349.00	
図Ⅲ-25	61	図版Ⅲ-12	Q-17	M	8	たたき石	砂岩	12.50	16.20	7.20	1648.00	

IV 分 析

1 放射性炭素年代測定

パレオ・ラボ AMS 年代測定グループ
小林絏一・丹生越子・伊藤茂・山形秀樹・瀬谷薫
Zaur Lomtadze・Ineza Jorjoliani・中村賢太郎

1. はじめに

千歳市・祝梅川上田遺跡および梅川2遺跡より検出された試料について、加速器質量分析法(AMS法)による放射性炭素年代測定を行った。

試料の調整は山形、瀬谷、Lomtadze、Jorjolianiが、測定は小林、丹生、伊藤が行い、報告文を伊藤、中村が作成した。

2. 試料と方法

測定試料の情報、調整データは表1のとおりである。試料は祝梅川上田遺跡より検出された炭化材11点と炭化植物遺体2点、梅川2遺跡より検出された炭化材1点の合計14点である。14点の試料は、年代測定とあわせて樹種同定を行った。

試料は調整後、加速器質量分析計(パレオ・ラボ、コンパクトAMS:NEC製1.5SDH)を用いて測定した。得られた¹⁴C濃度について同位体分別効果の補正を行った後、¹⁴C年代、暦年代を算出した。

3. 結果

表2に、同位体分別効果の補正に用いる炭素同位体比($\delta^{13}\text{C}$)、同位体分別効果の補正を行った¹⁴C年代、¹⁴C年代を暦年代に較正した年代範囲、暦年較正に用いた年代値を、図1～7に暦年較正結果をそれぞれ示す。暦年較正に用いた年代値は、今後暦年較正曲線が更新された際にこの年代値を用いて暦年較正を行うために記載した。

¹⁴C年代はAD1950年を基点にして何年前かを示した年代である。¹⁴C年代(yrBP)の算出には、¹⁴Cの半減期としてLibbyの半減期5568年を使用した。また、付記した¹⁴C年代誤差($\pm 1\sigma$)は、測定の統計誤差、標準偏差等に基づいて算出され、試料の¹⁴C年代がその¹⁴C年代誤差内に入る確率が68.2%であることを示すものである。

なお、暦年較正の詳細は以下の通りである。

暦年較正

暦年較正とは、大気中の¹⁴C濃度が一定で半減期が5568年として算出された¹⁴C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の¹⁴C濃度の変動、及び半減期の違い(¹⁴Cの半減期5730 \pm 40年)を較正することで、より実際の年代値に近いものを算出することである。

¹⁴C年代の暦年較正にはOxCal3.10(較正曲線データ:INTCAL04)を使用した。なお、 1σ 暦年較正範囲は、OxCalの確率法を使用して算出された¹⁴C年代誤差に相当する68.2%信頼限界の暦年較正範囲であり、同様に 2σ 暦年較正範囲は95.4%信頼限界の暦年較正範囲である。カッコ内の百分率の値は、その範囲内に暦年代が入る確率を意味する。グラフ中の縦軸上の曲線は¹⁴C年代の確率分布を示し、二重曲線は暦年較正曲線を示す。それぞれの暦年較正範囲のうち、その確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示してある。

4. 考察

試料について、同位体分別効果の補正及び暦年校正を行った。得られた暦年代範囲のうち、その確率の最も高い年代範囲に着目すると、それぞれより確かな年代値の範囲が示された。

PLD-6849は15～17世紀（アイヌ期）の年代範囲に相当する。試料は炭化材である。材は部位により組織の形成時期が異なり、年輪では最外年輪の年代が枯死・伐採年を示し、内側の年輪になれば古い年代を示す。PLD-6849の試料は樹皮に近い部位であるため、年代は枯死・伐採年に近い年を示すと考えられる。PLD-6850は15世紀（アイヌ期）の年代範囲に相当する。PLD-6850の試料は部位不明の炭化材であり、枯死・伐採年よりも古い年代を示している可能性がある。PLD-6851は15～16世紀および17世紀初頭（アイヌ期）の年代範囲に相当する。PLD-6851の試料は部位不明の炭化材であり、枯死・伐採年よりも古い年代を示している可能性がある。PLD-6852は15～17世紀（アイヌ期）の年代範囲に相当する。PLD-6852の試料である単子葉類は一年生だと考えられ、年代は枯死・伐採年を示すと考えられる。PLD-6853は13～14世紀（アイヌ期）の年代範囲に相当する。PLD-6853の試料であるタケ亜科は一年生だと考えられ、年代は枯死・伐採年を示すと考えられる。PLD-6854は11～13世紀（掇文期末～アイヌ期初）の年代範囲に相当する。PLD-6854の試料は部位不明の炭化材であり、枯死・伐採年よりも古い年代を示している可能性がある。PLD-6855は17～18世紀および19～20世紀（アイヌ期およびアイヌ期～近代）の年代範囲に相当する。calAD1700～1950の範囲は較正曲線が比較的平坦であるため、暦年代範囲が絞り込めない。PLD-6855の試料が検出されたUSP-458の年代を明らかにするためには、噴出年代が明らかなテフラとの上下関係なども検討することが必要である。PLD-6855の試料は炭化材の樹皮である。樹皮は外側ほど古い時期に形成された組織であり内側ほど新しい時期に形成された組織である。今回の試料採取にあたっては樹皮の内側と外側を区別していないため、PLD-6855の年代は枯死・伐採の年よりも古い年代を示している可能性がある。PLD-6856は12～13世紀（掇文期末～アイヌ期初）の年代範囲に相当する。PLD-6856の試料は炭化材であり、部位は樹皮に近いため、年代は枯死・伐採年に近い年を示すと考えられる。

PLD-6857、6858、6859、6860、6861は後期旧石器時代の年代範囲に相当する。試料は5点とも部位不明の炭化材であり、枯死・伐採年よりも古い年代を示している可能性がある。

PLD-6862は12～13世紀（掇文期末～アイヌ期初）の年代範囲に相当する。試料は部位不明の炭化材であり、枯死・伐採年よりも古い年代を示している可能性がある。

参考文献

- Bronk Ramsey C. (1995) Radiocarbon Calibration and Analysis of Stratigraphy: The OxCal Program, *Radiocarbon*, 37, 425-430.
- Bronk Ramsey C. (2001) Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon*, 43, 355-363.
- 中村俊夫 (2000) 放射性炭素年代測定法の基礎。日本先史時代の¹⁴C年代, 3-20.
- Reimer PJ, MGL Baillie, E Bard, A Bayliss, JW Beck, C Bertrand, PG Blackwell, CE Buck, G Burr, KB Cutler, PE Damon, RL Edwards, RG Fairbanks, M Friedrich, TP Guilderson, KA Hughen, B Kromer, FG McCormac, S Manning, C Bronk Ramsey, RW Reimer, S Remmele, JR Southon, M Stuiver, S Talamo, FW Taylor, J van der Plicht, and CE Weyhenmeyer. (2004) IntCal 04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon*, 46, 1029-1058.

表Ⅳ-1 測定試料及び処理

測定番号	遺跡データ	試料データ	前処理	測定
PLD-6849	祝梅川上田遺跡 遺構：UH-10 層位：覆土中 樹種同定 No.1	HSP-3 試料の種類：炭化物・材 (ブドウ属) 試料の性状：最外以外樹皮に 近い部分を採取 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6850	祝梅川上田遺跡 遺構：UH-10 層位：覆土 樹種同定 No.2	HSP-15 試料の種類：炭化物・材 (コ ナナ節) 試料の性状：不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6851	祝梅川上田遺跡 遺構：UH-11 層位：覆土 樹種同定 No.3	HSP-3 試料の種類：炭化物・材 (コナナ節) 試料の性状：不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6852	祝梅川上田遺跡 遺構：USP-399 層位：覆土 樹種同定 No.4	試料の種類：炭化物・植物遺 体 (根子葉類) 試料の性状：最外部 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6853	祝梅川上田遺跡 遺構：USP-407 層位：覆土 樹種同定 No.5-1	試料の種類：炭化物・植物遺 体 (タケ亜科, 稈) 試料の性状：最外部 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6854	祝梅川上田遺跡 遺構：USP-456 層位：覆土 樹種同定 No.6	試料の種類：炭化物・材 (ク リ) 試料の性状：不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6855	祝梅川上田遺跡 遺構：USP-458 層位：覆土 樹種同定 No.7	試料の種類：炭化物・材 (針 葉樹) 試料の性状：樹皮 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6856	祝梅川上田遺跡 遺構：USP-468 層位：覆土 樹種同定 No.8	試料の種類：炭化物・材 (コ ナナ節) 試料の性状：最外以外樹皮に 近い部分を採取 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6857	祝梅川上田遺跡 遺構：ブロック1 層位：Ⅱ層 樹種同定 No.9-1	試料の種類：炭化物・材 (針葉樹) 試料の性状：不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6858	祝梅川上田遺跡 遺構：ブロック2 層位：Ⅱ層 樹種同定 No.10	試料の種類：炭化物・材 (針葉樹) 試料の性状：不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6859	祝梅川上田遺跡 遺構：ブロック2 層位：Ⅱ層 樹種同定 No.11	試料の種類：炭化物・材 (針 葉樹) 試料の性状：不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6860	祝梅川上田遺跡 遺構：ブロック2 層位：Ⅱ層 樹種同定 No.12	試料の種類：炭化物・材 (針葉樹) 試料の性状：不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6861	祝梅川上田遺跡 遺構：ブロック2 層位：Ⅱ層 樹種同定 No.13	試料の種類：炭化物・材 (針葉樹) 試料の性状：不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH
PLD-6862	梅川2遺跡 遺構：UH-1 層位：覆土 樹種同定 No.14	HSP-1 試料の種類：炭化物・材 (ハンノキ亜属) 試料の性状：不明 状態：dry カビ：無	超音波煮沸洗浄 酸・アルカリ・酸洗浄 (塩酸1.2N, 水酸化ナトリウム 1N, 塩酸1.2N)	PaleoLabo: NEC 製 コンパクト AMS・1.5SDH

IV 分析

表Ⅳ-2 放射性炭素年代測定及び暦年較正の結果

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ (‰)	^{14}C 年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)	^{14}C 年代を暦年代に較正した年代範囲		暦年較正用年代 (yrBP $\pm 1\sigma$)
			1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲	
PLD-6849	-29.6 \pm 0.24	310 \pm 20	<u>1520A D (53.7%)1590A D</u> <u>1620A D (14.5%)1650A D</u>	<u>1490A D (95.4%)1650A D</u>	311 \pm 21
PLD-6850	-25.93 \pm 0.24	425 \pm 20	<u>1435A D (68.2%)1460A D</u>	<u>1430A D (95.4%)1485A D</u>	427 \pm 20
PLD-6851	-26.43 \pm 0.24	405 \pm 20	<u>1445A D (68.2%)1485A D</u>	<u>1440A D (88.2%)1520A D</u> <u>1600A D (7.2%)1620A D</u>	404 \pm 21
PLD-6852	-10.11 \pm 0.24	315 \pm 20	<u>1520A D (54.5%)1590A D</u> <u>1620A D (13.7%)1650A D</u>	<u>1490A D (95.4%)1650A D</u>	314 \pm 20
PLD-6853	-26.47 \pm 0.24	660 \pm 20	<u>1285A D (32.9%)1305A D</u> <u>1360A D (35.3%)1385A D</u>	<u>1280A D (47.0%)1320A D</u> <u>1350A D (48.4%)1390A D</u>	660 \pm 21
PLD-6854	-25.46 \pm 0.24	900 \pm 20	<u>1040A D (36.7%)1090A D</u> <u>1120A D (31.5%)1180A D</u>	<u>1040A D (95.4%)11210A D</u>	901 \pm 22
PLD-6855	-28.93 \pm 0.25	60 \pm 20	<u>1700A D (12.6%)1720A D</u> <u>1810A D (7.0%)1840A D</u> <u>1880A D (48.6%)1920A D</u>	<u>1690A D (20.9%)1730A D</u> <u>1810A D (74.5%)1920A D</u>	61 \pm 21
PLD-6856	-25.36 \pm 0.25	815 \pm 20	<u>1215A D (68.2%)1255A D</u>	<u>1175A D (95.4%)1265A D</u>	816 \pm 21
PLD-6857	-24.76 \pm 0.24	14700 \pm 45	<u>16040BC (68.2%)15770BC</u>	<u>16100BC (95.4%)15450BC</u>	14698 \pm 45
PLD-6858	-24.68 \pm 0.24	14725 \pm 45	<u>16060BC (68.2%)15820BC</u>	<u>16150BC (95.4%)15500BC</u>	14727 \pm 46
PLD-6859	-24.71 \pm 0.24	14750 \pm 45	<u>16080BC (68.2%)15860BC</u>	<u>16150BC (95.4%)15550BC</u>	14751 \pm 46
PLD-6860	-24.95 \pm 0.24	14120 \pm 45	<u>15090BC (68.2%)14690BC</u>	<u>15250BC (95.4%)14450BC</u>	14120 \pm 44
PLD-6861	-24.82 \pm 0.24	12330 \pm 40	<u>12400BC (68.2%)12150BC</u>	<u>12700BC (95.4%)12100BC</u>	12332 \pm 40
PLD-6862	-24.57 \pm 0.24	820 \pm 20	<u>1210A D (68.2%)1255A D</u>	<u>1175A D (95.4%)1265A D</u>	818 \pm 21

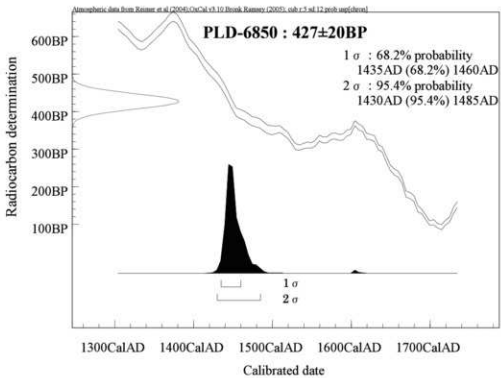
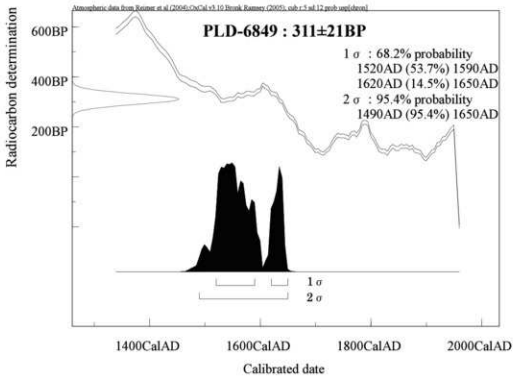


図1 暦年較正結果 (1)

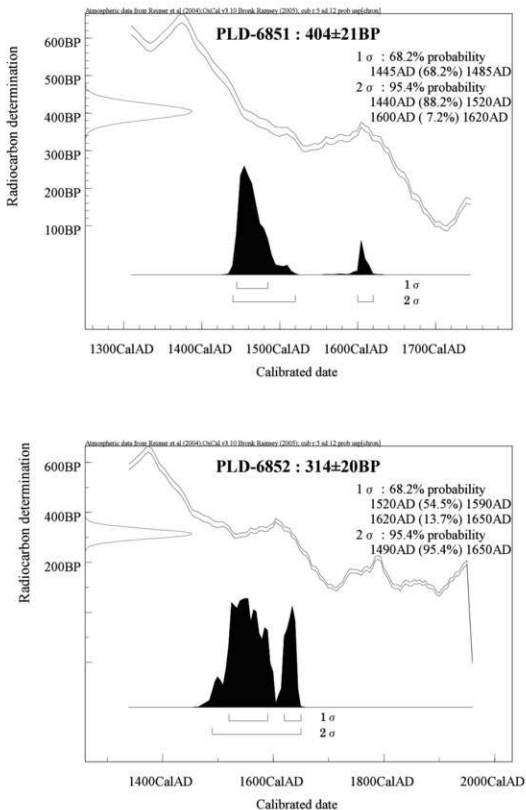


図2 暦年較正結果 (2)

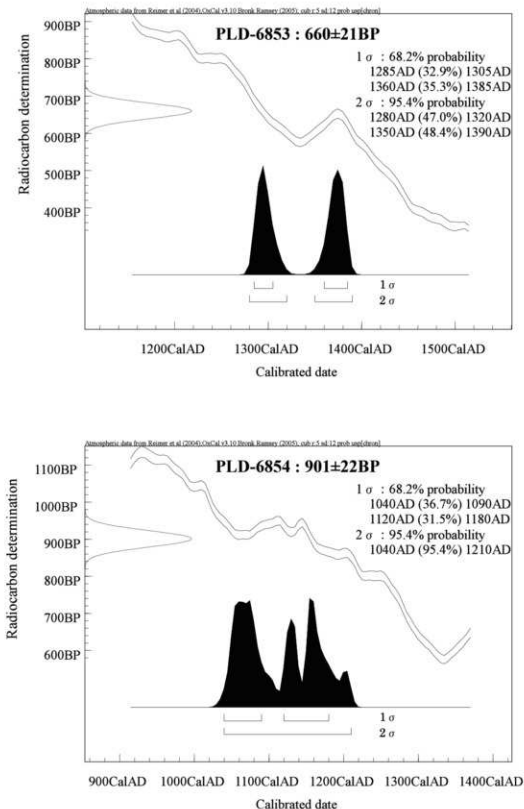


図3 暦年較正結果 (3)

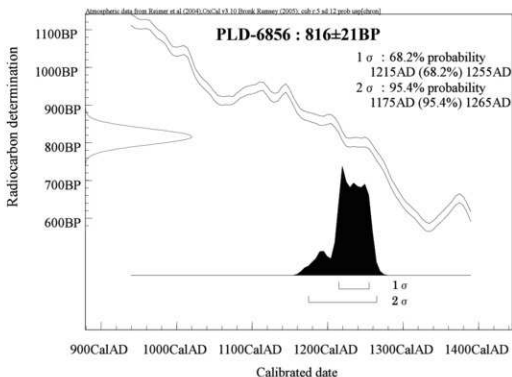
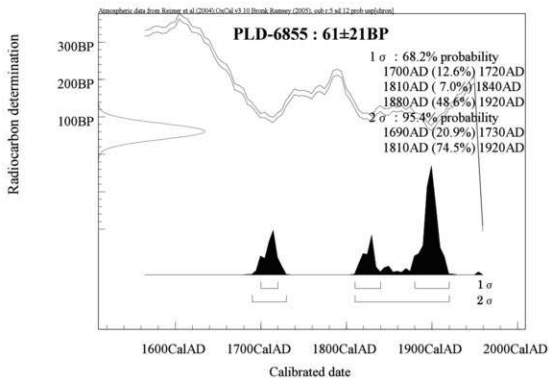


図4 暦年較正結果 (4)

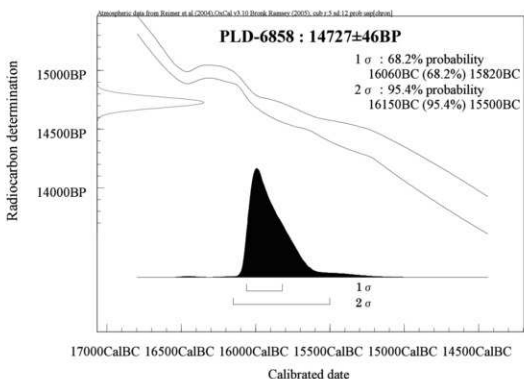
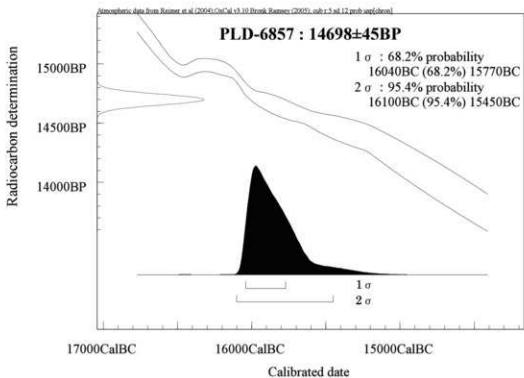


図5 曆年較正結果 (5)

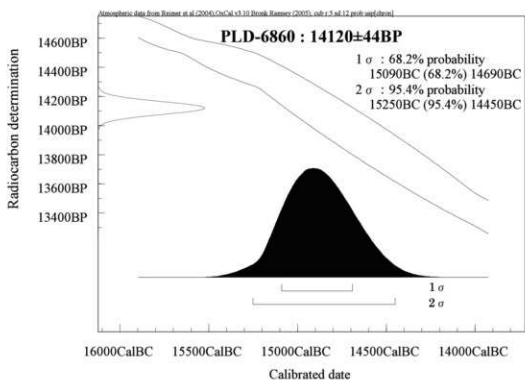
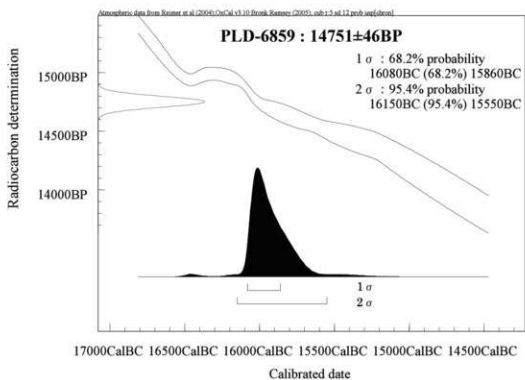


図6 曆年較正結果 (6)

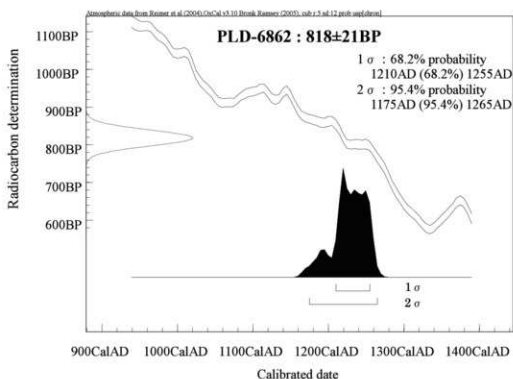
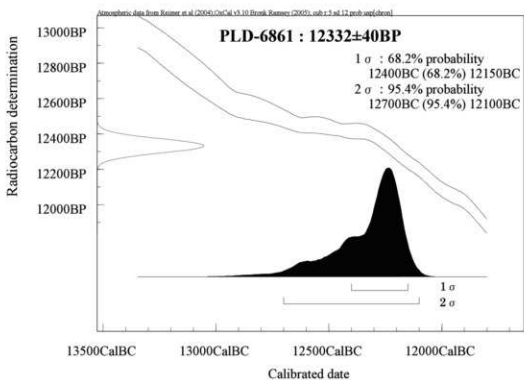


図7 暦年較正結果 (7)

2 祝梅川上田・梅川2遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生 (パレオ・ラボ)

1. はじめに

千歳市に所在する当遺跡から出土した炭化材14試料の樹種同定結果を報告する。

炭化材試料は、Ⅲ層（アイヌ文化期）の9試料、Ⅶ層（旧石器）の5試料である。異なる2時期の樹種を明らかにする事は、各時期の樹種利用または周辺古植生に関する基礎的資料となる。

2. 試料と方法

同定は、炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の3方向（横断面・接線断面・放射断面）の断面を作成し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5mm角以下の大きさに整え、直径1cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子(株)製 JSM-5900LV型）で観察と写真撮影を行った。

同定した炭化材の残り破片は、(財)北海道埋蔵文化財センターに保管されている。

3. 結果

同定結果の一覧を表1に示した。

Ⅲ層アイヌ文化期の9試料からは、ハンノキ属・コナラ節・クリ・アジサイ属・ブドウ科・トネリコ属・タケ亜科・単子葉類の8分類群が検出された。No5の5破片からは、コナラ節・クリ・アジサイ属・トネリコ属・タケ亜科・単子葉類の複数種類が検出された。コナラ節が4試料から検出され最も多い。

Ⅶ層旧石器の5試料すべてから、針葉樹が検出された。No11は水平と垂直な樹脂道が確認され、分野壁孔は小型で多数が雑整と配置していた。このような特徴から、カラマツ属やトウヒ属の針葉樹材である可能性が高い。しかしそのほかの試料は、微小で保存も悪い事から、針葉樹であることまで判らなかった。なおNo9の3破片からは、針葉樹2点と散孔材（ナシ亜科?）1点が検出された。

樹種記載

(1) 針葉樹 conifer 図版1 1a-1c (No11) 2a-2c (No12)

仮道管がおもな構成要素の針葉樹である。細胞壁は溶融したような状態で保存が悪く、樹脂道の有無や分野壁孔の型や数などは不明である。ただし、No11の破片には、水平と垂直な樹脂道が見られ、分野壁孔は小型で多数が雑整と配置していたことから、カラマツ属やトウヒ属の可能性がある。

(2) ハンノキ属 *Alnus* カバノキ科 図版1 3a-3c (No14)

小型の管孔が放射方向に2~数個が複合し分布し、短接線状柔組織が顕著な散孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は横棒数が10~20本の階段穿孔である。放射組織は単列同性、道管との壁孔は小さく交互状に密在する。

ハンノキ属は暖帯から亜寒帯の陽光地や湿地に生育する落葉樹広葉樹である。

- (3) コナラ属コナラ亜属コナラ節 *Quercus subgen. Quercus sect. Prinus* ブナ科 図版2 4a-4c (No 8)

年輪の始めに大型の管孔が1層配列し、晩材部は薄壁で角形の非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単穿孔、内腔にチロースが発達している。放射組織は単列のものと細胞幅の広い広放射組織がある。

コナラ節は暖帯から温帯に生育する落葉高木でカシワ・ミズナラ・コナラ・ナラガシワがある。

- (4) クリ *Castanea crenata* Sieb. et Zucc. ブナ科 図版2 5a-5c (No 6)

年輪の始めに大型の管孔が配列し、晩材部では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材である。コナラ節と類似するが、放射組織は単列のものだけである。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。

- (5) アジサイ属 *Hydrangea* ユキノシタ科 図版2 6a-6c (No 5-3)

非常に小型の管孔が単独や2～数個が複合し分布する散孔材である。道管の壁孔は階段状、穿孔は横棒数が非常に多い階段穿孔、内腔には水平のチロースがある。放射組織は異性、非常に背の高い直立細胞からなる単列のものと2細胞幅の部分は平伏細胞からなりその上下端の単列部は直立細胞からなるものがある。放射柔細胞と道管との壁孔は対列状・階段状である。

アジサイ属はおもに落葉性の低木で、暖帯から温帯下部の山中の川岸や山林下や日当たりのよい場所などに生育している。ただしツル性のツルアジサイは、放射組織の高さが非常に高いのでこの試料とは異なる。

- (6) ブドウ科 *Vitaceae* 図版3 7a-7c (No 1)

髓は円形である。年輪の始めに大型の管孔が1層配列し、孔口の大きさが不揃いな小型から非常に小型の管孔が塊状に分布している環孔材である。道管の壁孔は交互状から階段状、穿孔は単穿孔である。放射組織は異性、多くは平伏細胞からなり、約5～10細胞幅、細胞高は極めて高い。放射組織の細胞幅が広く、細胞高も高いことから、ツル性の材である。

暖帯や温帯の山林に普通のヤマブドウ・エビズル・サンカクヅル・ツタなどがある。

- (7) トネリコ属 *Fraxinus* モクセイ科 図版3 8a-8c (No 5-4)

中型～大型の管孔が1～3層配列し、単独または2個複合した小型で厚壁の管孔が散在する環孔材である。周囲状柔組織がある。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単穿孔である。放射組織は同性、1～2細胞幅である。

トネリコ属はおもに温帯に生育する落葉高木でシオジ・ヤチダモ・トネリコ・アオダモなど約9種ある。

- (8) 散孔材(ナシ亜科?) *diffuse-porous wood (Rosaceae subfam. Maloideae?)* 図版3 9a-9c (No 9-2)

非常に小型の管孔が単独や複合して分布している散孔材である。道管は単穿孔である。放射組織は同性のようであり、主に5細胞幅で比較的背が高く大きい。ナシ亜科の材に似るが、道管のらせん肥厚は不明で、放射組織は細胞幅が広く大きい点は一致しない。

- (9) 樹皮 *Bark* 図版4 10a-10c (No 7)

軸方向要素の仮道管や道管は未発達である。しかし、放射組織が単列であることが確認できたことから、針葉樹の樹皮である。

00) タケ亜科 *Gramineae subfam. Bambusoideae* イネ科 図版4 11a (No 5-1)

直径5mmの硬質の稈で、中心部は中空である。維管束鞘に囲まれた多数の維管束が、同心円状に均質に配置している。このような形質からイネ科のタケ類とササ類を含むタケ亜科であるが、分布からササ類の可能性が高い。

01) 単子葉類 *Monocoty ledoneae* 図版4 12a (No 4)

直径6mmの草本性の稈である。スポンジ状の基本組織の中に維管束が散在している。稈の外周には厚い厚壁細胞層にかこまれた大小の維管束が1~2層並んでいる。それより内側に散在する維管束の周囲の厚壁細胞層は薄い。

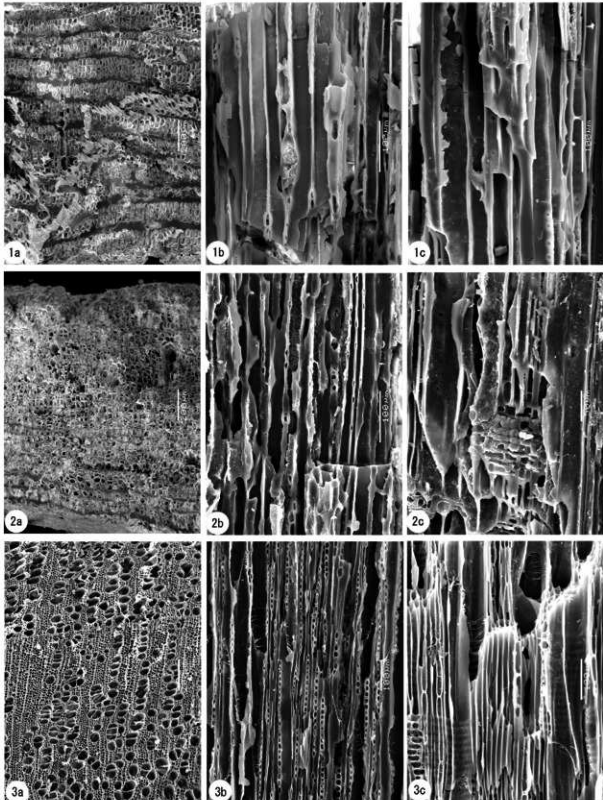
4. 考察

Ⅲ層のアイヌ文化期からは、コナラ節・クリ・トネリコ属・アジサイ属・ハンノキ属・ブドウ科の落葉広葉樹とタケ亜科・単子葉類が検出され、特にコナラ節が多かった。このような樹種構成から、当時はコナラ節の樹種が多く生育する落葉広葉樹林が成立していたと類推される。また、湿地や河畔林に普通のトネリコ属・アジサイ属・ハンノキ属が検出されたことから、遺跡近くにこのような森林があったのかもしれない。

また、Ⅳ層の旧石器から出土した炭化材は針葉樹がほとんどであり、冷温帯に多く分布するカラマツ属やトウヒ属の可能性のある試料No11が含まれていた。従って、旧石器時代には針葉樹林が成立、または多く生育していたと推測され、時代背景とも符号する。

表IV-3 祝梅川上田・梅川2遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

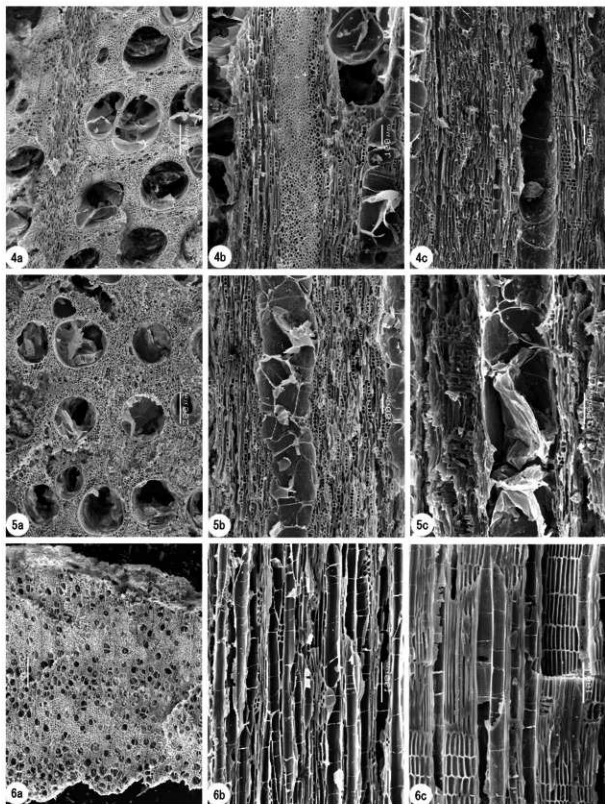
No	遺跡名	遺構名	層位	時期	樹種	備考
1	祝梅川上田	UH-10 HSP-3	Ⅲ層	アイヌ文化期	ブドウ属	直径0.8~1.0cm芯持ち丸木樹皮付
2	祝梅川上田	UH-10 HSP-16	Ⅲ層	アイヌ文化期	コナラ節	放射径7mmで9年輪あり
3	祝梅川上田	UH-11 HSP-3	Ⅲ層	アイヌ文化期	コナラ節	1cm角の破片複数あり
4	祝梅川上田	USP-399	Ⅲ層	アイヌ文化期	単子葉類	直径約0.6cm
5-1	祝梅川上田	USP-407	Ⅲ層	アイヌ文化期	タケ亜科	直径約0.5cm
5-2	祝梅川上田	USP-407	Ⅲ層	アイヌ文化期	コナラ節	約5mm角の小破片
5-3	祝梅川上田	USP-407	Ⅲ層	アイヌ文化期	トネリコ属	約5mm角の小破片
5-4	祝梅川上田	USP-407	Ⅲ層	アイヌ文化期	アジサイ属	約5mm角の小破片
5-5	祝梅川上田	USP-407	Ⅲ層	アイヌ文化期	クリ	微小破片複数のためコナラ節の可能性もあり
6	祝梅川上田	USP-456	Ⅲ層	アイヌ文化期	クリ	放射径7mmで11年輪あり
7	祝梅川上田	USP-458	Ⅲ層	アイヌ文化期	針葉樹	樹皮
8	祝梅川上田	USP-468	Ⅲ層	アイヌ文化期	コナラ節	約1cm角の破片
9-1	祝梅川上田	ブロック-1	Ⅴ層	旧石器	針葉樹	3mm角の小破片 ぬか目材
9-2	祝梅川上田	ブロック-1	Ⅴ層	旧石器	散孔材	4mm角の小破片
9-3	祝梅川上田	ブロック-1	Ⅴ層	旧石器	針葉樹	3mm角の小破片 ぬか目材
10	祝梅川上田	ブロック-2	Ⅴ層	旧石器	針葉樹	3mm角の小破片 ぬか目材
11	祝梅川上田	ブロック-2	Ⅴ層	旧石器	針葉樹	2×8mmの破片垂直と水平の樹脂道あり
12	祝梅川上田	ブロック-2	Ⅴ層	旧石器	針葉樹	2mm角破片
13	祝梅川上田	ブロック-2	Ⅴ層	旧石器	針葉樹	2mm角破片
14	梅川2	UH-1 HSP-1	Ⅲ層	アイヌ文化期	ハンノキ亜属	1cm角の破片



図版1 祝梅川上田・梅川2遺跡出土炭化材組織の走査電子顕微鏡写真(1)

1a-1c: 針葉樹 (No.11) 2a-2c: 針葉樹 (No.12) 3a-3c: ハンノキ属 (No.14)

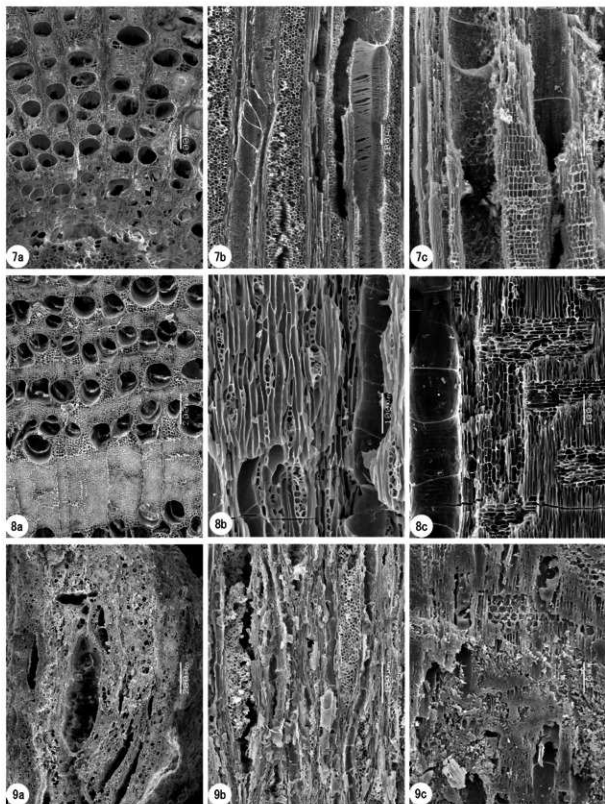
a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面



図版 2 祝梅川上田・梅川 2 遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真 (2)

4 a-4 c: コナラ節 (No.8) 5 a-5 c: クリ (No.6) 6 a-6 c: アジサイ属 (No.5-3)

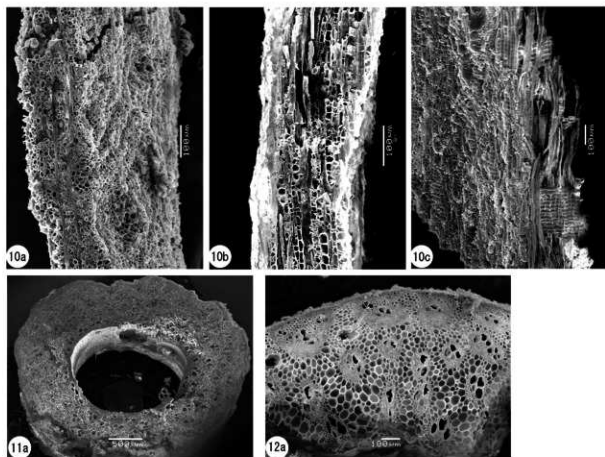
a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面



図版3 祝梅川上田・梅川2遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真(3)

7a-7c: ブドウ科 (No.1) 8a-8c: トネリコ属 (No.5-4) 9a-9c: 散孔材 (ナシ垂科?) (No.9-2)

a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面



図版4 祝梅川上田・梅川2遺跡出土炭化材材組織の走査電子顕微鏡写真(4)
10a-10c: 樹皮 (No.7) 11a: タケ亜科 (No.5-1) 12a: 単子葉類 (No.4)
a: 横断面 b: 接線断面 c: 放射断面

3. 祝梅川上田遺跡の「VI層」上部に産出する礫について

1. はじめに

「VI層」上部に産出する礫（I章6節）の起源を既知の堆積物との比較により推定した。この礫は、Ta-c（樽前山起源の樽前c降下火砕堆積物¹⁾。2500-3000年前²⁾）直下の腐植土のうち、腐植含量の少ない土壌層位（「VI層」）の上部に散在し、層を成してはいない。発掘担当者によれば、この礫は遺構の覆土に含まれたり、この礫を含む土壌層を切って遺構が作られている。したがって、この礫の起源が特定されれば（とくにテフラ起源であれば）地層や遺構の編年に利用できることが期待される。

2. 礫の起源推定方法と試料

本遺跡内では、地層をなす堆積物として、下位からEn-a（恵庭岳起源の恵庭a降下軽石堆積物¹⁾。19000-21000年前²⁾）、ローム、Ta-c、Ta-a（樽前山起源の樽前a降下軽石堆積物¹⁾。AD1739²⁾）が認められる。ロームとTa-cの間、Ta-cとTa-aの間に土壌が良く発達している。「VI層」上部の礫は安山岩質、粒径1-3cmなので、この岩種と粒径の礫を含む可能性のある遺跡内の堆積物として、En-aが挙げられる。また、本遺跡は分布範囲外であるが、En-aとTa-cの間の層準のTa-d（樽前山起源の樽前d降下火砕堆積物のうちの安山岩の降下堆積物¹⁾。8000-9000年前²⁾）も比較試料とした。Ta-dは、本遺跡の南方約7kmの苫小牧市美沢で採取した。ここでは樽前山起源のテフラが模式的に発達している³⁾。

ローム中にも礫を含むが、ローム中にはEn-aの軽石礫が多いので、他の岩種と粒径の礫の多くもEn-aに由来するものと判断し、ロームは比較の対象としなかった。また、Ta-cの構成物の主体は安山岩質の岩片・スコリアであるが、Ta-cの粒径が1cm以下と小さいこととTa-cが土壌を介して層位的に「VI層」の上位にあることから、Ta-cは比較の対象としなかった。

以上から、「VI層」上部の礫、En-a中の石質岩片、Ta-dの石質岩片を採取し相互に比較した。試料は各堆積物から無作為に50-100個採取し、水洗・乾燥後、粒径、円磨度、石基の色調を調べ、比較的粗粒の粒子約20個について実体顕微鏡により斑晶鉱物、内部構造などを調べた。

3. 結果

「VI層」上部の礫 粒径：1-3cm。円磨度⁴⁾：亜角-亜円状、粒径が小さいものは亜円状が多い。安山岩の石基の色調：暗灰色。安山岩の斑晶鉱物：斜長石・輝石。斑晶サイズ：0.5-2mm。斑晶量⁵⁾：25-30%。内部構造：やや発泡質。その他：厚さ1mm以下の風化殻が発達。

En-a中の石質岩片 粒径：0.5-1.5cm。円磨度：角状。安山岩の石基の色調：灰色。安山岩の斑晶鉱物：斜長石・輝石。斑晶サイズ：1mm±。斑晶量：50%。内部構造：なし。その他：風化殻はほとんど発達しない。他の試料よりも硬い。粘板岩、泥岩も多く含む。

Ta-dの石質岩片 粒径：1-3.5cm。円磨度：亜角状。安山岩の石基の色調：暗灰色。安山岩の斑晶鉱物：斜長石・輝石。斑晶サイズ：0.5-2mm。斑晶量：25-30%。内部構造：やや発泡質。その他：厚さ0.5mm以下の風化殻が発達。

円磨度の多少の違いを除くと、「VI層」上部の礫とTa-dの石質岩片は良く一致した特徴を有している。一方、この二者とEn-a中の石質岩片とは全く異なることがわかった。

4. まとめ

今回の調査からは、「VI層」上部の礫は **Ta-d** の石質岩片に対比されると考えられる。**Ta-d** より円磨度が大きいのは、本来の分布域から移動してきたことを示している。その営力は風であろう。風成二次堆積物ではあるが、本礫を確実に **Ta-d** の石質岩片に対比できれば、**Ta-d** 降下以降～**Ta-c** 降下以前の指標物として有効であろう。

引用文献

- 1) 曾屋龍典・佐藤博之 (1980) : 千歳地域の地質。地域地質研究報告 (5 万分の 1 図幅)、地質調査所、92p。
- 2) 町田 洋・新井房夫 (2003) : 「新編火山灰アトラス—日本列島とその周辺」。東京大学出版会、336p。
- 3) 北海道火山灰命名委員会 (1979) : 「北海道の火山灰分布図」。
- 4) Powers, M. C. (1953) : A new roundness scale for sedimentary particles. *Journal of Sedimentary Petrology*, Vol. 23, No. 2, 117-119.
- 5) 「新版標準土色帖」(小山正忠・竹原秀雄編・著 (1996)、日本色研事業株式会社) の面積割合チャートによる。

(花岡正光)

報告書抄録

ふりがな								
書名	千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡							
副書名	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査							
巻次								
シリーズ名	北海道埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第238集							
編著者名	皆川 洋一、山田 和史							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野観685-1 TEL 011-386-3231							
発行年月日	西暦 2007年03月27日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯 ° ' "	東経 ° ' "	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
梅川2遺跡	千歳市祝梅 487、491	01224	A-03-57	42° 50' 08.9"	141° 41' 46.7"	20060401 ～ 20070327	7,625㎡	道路建設に伴う事前調査
祝梅川上田遺跡	千歳市祝梅 617、619	01224	A-03-50	42° 50' 15.1"	141° 41' 49.2"	20060401 ～ 20070327	9,100㎡	道路建設に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
梅川2遺跡	跡地	アイヌ文化期、縄文文化期、縄文中期、縄文早期～晩期	遺構：住居2軒、小柱穴22基、V字溝17基、土溝1基、溝12基、溝16基、フレイク・アーク型貯り6基、遺跡3カ所	(土器) 縄文早期～晩期、縄文、弥生十層 (石器) 石鏃、石錐、石鏃、つまみ竹アイズ、スライパー、釜しんくい、ヒフレイク、フレイクチップ、石鏃、たたまし、新田(両端の半片は、北海道式石鏃、すり石、石鏃、石錐、石瓦、磨石、磨石製品)	遺跡(縄文後期と考えられる)			
祝梅川上田遺跡	跡地	アイヌ文化期、縄文文化期、縄文中期、縄文早期、縄文早期～晩期、弥生	遺構：住居1軒、土溝3基、溝14基、溝、瓦葺中4基所、遺跡14基、中柱穴2基、遺跡1カ所、V字溝1基、土溝2基、溝12カ所、石鏃アーク型貯り2基	(鉄製品等) 鉄鍬、鉋、刀子、アレット、小銭(水鏡型) (土器) 縄文中期～晩期、縄文、弥生十層 (石器) 石鏃、アイズ、石鏃、つまみ竹アイズ、スライパー、釜しんくい、フレイクチップ、フレイク、磨石、石鏃、石錐、つまみ竹アイズ、スライパー、釜しんくい、ヒフレイク、フレイクチップ、石鏃、たたまし、新田(両端の半片は、北海道式石鏃、すり石、石鏃、石錐、石瓦、磨石、磨石製品) (石製品) 玉 (銅製品) 銅石瓦、磨石製品、銅磨石製品、石刀、鉄鏃、磨石、方格高木型刀、磨石、磨石製品、磨石の表面積、銅、銅片、銅釘、銅	集落(アイヌ文化期) 遺跡(縄文・アイヌ文化期) 遺物の出土状況(縄文早期～中期)と考えられる) 石器アーク型貯り(後期) 石器時代後期			
要約	<p>祝梅川上田遺跡と梅川2遺跡は千歳市の市街地から東へ2.5kmほど行った、祝梅川を経て千歳川に流入する梅川右岸の平坦な低段丘上(標高12～16m程)に立地する。</p> <p>祝梅川上田遺跡の特徴は、アイヌ文化期の集落と旧石器の石器ブロックである。前者は多くの鉄製品と古銭(水鏡型)も伴っており、調査例も少なく貴重な資料とされる。後者は2カ所見つかっておりいずれも細石刃石器群である。遺物は縄文早・中期と縄文文化期のもが多く、特に縄文期末葉のものは環状の分布を見ている。また、玉は2点ありどちらも縄文中期のものと考えられる。</p> <p>梅川2遺跡でもアイヌ文化期と考えられる建物跡が2件見つかっているが、いずれの柱穴にも環状の伴う点で祝梅川上田遺跡とは異なる。また、縄文時代後期と考えられる道路跡が見つかっている。遺物は縄文時代前・後期が多い。調査区南端では低湿部が確認されているが木製品などは見つかっていない。</p>							

北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第238集

千歳市 祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡

— 一般国道337号新千歳空港関連工事埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成19(2007)年3月27日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター
〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1
☎011(386)3231 FAX 011(386)3238
[E-mail] mail@domaibun.or.jp [URL] http://www.domaibun.or.jp

印刷 富士プリント株式会社
〒064-0916 札幌市中央区南16条西9丁目
☎011(531)4711 FAX 011(530)2549
